

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	医学概論	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-関口 浩至、-梅村 武寛	2年	授業終了後に教室で受け付けます。リモート講義の場合はE-mailにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国家試験科目というだけでなく、身体や精神に疾病をもちながら日常生活を送らなければならない福祉の対象が抱える問題を理解し、医師をはじめとしたチーム医療の一員として活動するために、人体の構造や疾病に関する医学的基礎知識を身につける必要がある。</p>	<p>資格取得のための国家試験に対応する講義を目指すことは勿論ですが、将来、皆さんが福祉の現場でチーム医療を展開する際に、この医学概論で学ぶ人体の構造と機能及び疾病に関する内容は他の医療職種との共通言語として重要な意味を持つてくると思います。現場での実際のチーム医療の状況も紹介しながら一緒に学んでいきたいと考えています。</p>
到達目標	<p>将来、福祉の現場で社会福祉士や精神保健福祉士として医師をはじめとする医療チームの一員として、福祉の対象となる人間の身体の構造・疾病そして障害等の定義や種類について理解できるようになる。 また、資格取得のための国家試験に対応できる知識を習得できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「医学概論」へのいざない -本科目を学ぶ意義-	テキスト「はじめに」とp1-20
	2	健康および疾病の捉え方	テキスト p22-30
	3	身体構造と心身機能	テキスト p31-56
	4	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程	テキスト p57-68
	5	リハビリテーションの概要と範囲	テキスト p57-68
	6	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その1	テキスト p57-68
	7	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その2	テキスト p91-100
	8	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その3	テキスト p101-121
	9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その4	テキスト p122-137
	10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その5	テキスト p138-150
	11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その6	テキスト p151-156
	12	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その7	テキスト p157-183
	13	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その8	テキスト p184-201
14	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション その9	テキスト p202-218	
15	公衆衛生	テキスト p219-231	
16	期末試験	これまでの復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは、『医学概論』（最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座1、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規出版、定価2,500円（税別））を使用しますので、受講する学生は全員購入してください。その他の参考文献は適宜紹介していきます。</p>		
学びの手立て	<p>医学概論では人体の器官の名称や疾患名など医学用語が出てきます。テキストを事前に読んだり、高等学校までの理科や保健体育の関連する学習内容を振り返るなど各自、準備をしてください。 学びを深めるために、予習をして疑問点を明らかにして講義に臨むとよいでしょう。また受講後は必ず復習して分からない点は、次の授業終了後に質問してください。</p>		
評価	<p>期末試験 50%、平常点 50%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「保険医療サービス」「高齢者に対する支援と介護保険制度」「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」「児童や家族に対する支援と児童・家庭福祉制度」 次のステージ：国家試験合格と将来の現場での活躍</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	医療福祉論	後期	火4	2
	担当者 樋口 美智子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業の最後に受け付けます。 問い合わせは教員のE-mailへしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

「ソーシャルワークの価値・倫理」「医療福祉の概念」や「医療における尊厳と権利」を基盤として、保健医療分野におけるソーシャルワークの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得します。また、地域包括ケアシステムにおける多職種協働について、ミクロ・メゾ・マクロの視点から理解します。

毎回、医療機関でのソーシャルワーク実践を紹介しています。他科目で学習した理論や技術・制度等が、どのように実践の中で活かされているかを学ぶことができます。特に医療ソーシャルワーカーを志望する学生は、実務的にその業務を理解することができます。「保健医療と福祉」の既得が望ましいですが、内容を復習しながら進めますので、未履修者も歓迎します。

①ソーシャルワークの価値・倫理に基づいて、病気や障がいを抱えながら生活する人々を理解し、説明できる。  
②保健医療分野におけるソーシャルワーク実践の過程を、事例を通じて説明できる。  
③相談援助に必要な基本的な知識・技術について説明できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	医療における社会保障政策の動向	社会保障制度改革の学習
	2	医療ソーシャルワークの成立の経過と今後の課題	社会福祉の歴史の復習
	3	医療ソーシャルワークの価値と倫理	社会福祉原論等の復習
	4	医療における「家族」の理解	ライフステージの特徴の学習
	5	生活機能障害とソーシャルワーク	ノーマライゼーションの復習
	6	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識	生活習慣病について予習
	7	医療ソーシャルワーカーの連携とチーム医療	連携・協働概念の予習
8	診療報酬とソーシャルワーク	医療・介護保険制度の復習	
9	面接技術	基本的な理論・アプローチ等の予習	
10	アセスメント（1）	アセスメントの定義について予習	
11	アセスメント（2）	アセスメントの定義について復習	
12	ソーシャルワークの記録	記録の意義について予習	
13	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの機能	スーパービジョンについて予習	
14	医療ソーシャルワーク実践事例検討の方法	事例とは何かについて予習	
15	地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割	地域包括ケアシステムについて予習	
16	まとめと振り返り	課題に取り組む	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>*テキスト：『改訂保健医療ソーシャルワーク実践1・2・3』、日本社会福祉士会・日本医療社会事業協会編、中央法規、『病院におけるソーシャルワークの理論と実践－基礎から学ぶ』、富樫八郎著、川島書店</p> <p>*参考文献：『支援者が成長するための50の原則－あなたの心と力を築く物語－』、川島隆彦著、中央法規、『相談支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック』、日本医療社会福祉協会編、新日本法規</p>		
	学びの手立て		
	<p>①履修の心構え：やむを得ず遅刻・欠席をする場合は、次回までの時間外学習内容や課題提出日等を確認し、欠席届けを次回までに提出すること。受講時は、質問・ディスカッション・グループワークでの協働等、積極的・協調的な参加を評価します。</p> <p>②学びを深めるために：保健医療分野におけるソーシャルワークに関する図書は、制度・政策論的内容と知識・技術論的内容に大別されます。各々をバランスよく学習すると良いでしょう。制度やサービス等については、その根拠法をその都度確認する習慣を身につけましょう。</p>		
	評価		
	<p>・評価は、毎回の出席レポート20%、課題レポート50%、期末試験30%</p> <p>・期末試験が実施できなかった場合は、期末課題レポートによって評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：「保健医療と福祉」</p> <p>(2) 次のステージ：基本的な保健医療分野におけるソーシャルワークを学んだ後に、救急医療・小児医療・在宅医療・緩和医療等のテーマを見つけて専門性を深める学習を継続していきましょう。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 社会福祉学と心理学の知識をもって社会貢献できる力を身につけるため、多様な他者と協働する機会を提供する正課教育科目である。

[ / ]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 学科インターンシップ運営委員 平山 篤史	その他	その他	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える機会にしましょう。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など  
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て  
**【応募資格】** ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）  
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
**【注意事項】** ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価  
**【出席について】** 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】** ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認） 60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認） 20%

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性 社会福祉学と心理学の知識をもって社会貢献できる力を身につけるため、多様な他者と協働する機会を提供する正課教育科目である。

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	学科インターンシップ運営委員 平山 篤史	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。          ②職業観を養い、自らの適性を見定める。          ③組織の構造と機能を理解する。          ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。          ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること） ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者

【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】 ①実習先による学生評価調書20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護概論	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山城 篤志	2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、Ptt1226@okiu.ac.jpまで。	ま

学びの準備	ねらい 講義を通して、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。また、介護従事者としての倫理、介護技術の専門性（尊厳・自立支援・危機管理）についても考察する。	メッセージ 直接、対象者と接触を伴う介護支援は、相互に全人的・人格的ふれ合いをともなうことから、福祉業務における最も重要な援助技術の一つであることを認識し、自身の専門性を高める基本であることを意識して講義に臨むこと。
	到達目標 ①介護の理念・概念・意味・種類・内容について理解する。 ②介護者としての倫理、実践するうえでの原則等について理解する。 ③障害別の介護技術について理解する。 ④介護従事者の資質、倫理、危機管理等について理解する。 ⑤介護の専門性と多職種連携のあり方について理解する。 ⑥認知症に対する支援について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 受講の心得や注意点など	内容を予習復習し講義に備える
	2	介護の成り立ちについて	同上
	3	介護の概念の変遷	同上
	4	介護福祉の基本理念について	同上
	5	人間の理解①	同上
	6	人間の理解②	同上
	7	介護福祉士の倫理	同上
	8	介護福祉の活動の場と役割	同上
9	自立支援の考え方	同上	
10	自立支援とリハビリテーション	同上	
11	日常生活介護（環境整備、ベッドメイク）	同上	
12	日常生活介護（食事、移動、着脱）など	同上	
13	日常生活介護（入浴、排泄、整容）など	同上	
14	ICFから捉える個別支援計画の実践	同上	
15	介護予防と危険予知トレーニング	同上	
16	テスト	本講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に必要な資料（データ）等を配布する。また、参考にすべき文献等についても、必要に応じて提示する。		
	学びの手立て ①身体接触を伴う支援業務（介護）が接触を伴わない支援（相談支援）と並び、福祉業務の重要な専門性であることを理解し、講義に臨むこと。 ②可能な限り身近な人の介護を想定し、支援する側・支援される側、双方の立場から考察の視点をもち受講すること。 ③マスコミで報道される介護現場での事故、事件等に注目し、その発生の要因・発生の過程・相互のあり方などについて常に考察すること。 ④自分を介護従事者と想定し、専門性とは何か、専門性を高めるための学びについて自分事として捉える姿勢をもつこと。		
	評価 評価基準として、①平常点（30%）②レポート（20%）③最終試験（50%）にて総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この科目は「介護技術Ⅰ」と対をなす科目であり、介護支援全体の理解はこれらの講義をもって完結するため、本科目を登録受講する場合は、関連する科目の受講も視野に入れて行うことを望む。
-------	---

※ポリシーとの関連性

介護は社会福祉の重要な援助技術と位置づけ、根拠に基づいた介護技術の実践方法について学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	介護技術 I	集中		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山城 リサ	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護を実践する際の留意点や個別支援の重要性について理解する。	メッセージ 介護について関心を持ち、介護の知識や技術についての情報を収集し理解を深めるよう努めて下さい。
	到達目標 介護に関する基本的な知識と技術を理解すると共に関連する制度、多職種連携の必要性と個別支援の重要性について理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など	介護概論の復習
	2	介護保険制度の理解	内容を予習・復習講義に備える
	3	コミュニケーション技術①（基本）	同上
	4	コミュニケーション技術②（障害別）	同上
	5	生活支援技術①（生活支援技術とは？ICFの理解）	同上
	6	生活支援技術②（起き上がりの介護～立ち上がり介護）	同上
	7	生活支援技術③（移乗の介護 イス～車いす、ベット～車いすなど）	同上
	8	生活支援技術④（移動の介護① 福祉用具の活用）	同上
9	生活支援技術⑤（移動の介護② 福祉用具の活用）	同上	
10	生活支援技術⑥（食事の介護）	同上	
11	生活支援技術⑦（排泄の介護）	同上	
12	リスクマネジメント（危険予知・ヒヤリハット）	同上	
13	介護過程の展開①（事例）	同上	
14	介護過程の展開②（ICFの視点から）	同上	
15	高齢者レクリエーション	同上	
16	テスト	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時に資料を配布します。		
	学びの手立て ・多くの視聴覚教材もあり、学生が主体的に情報収集や資料収集をすることを歓迎します。 ・可能な限り実際の介護現場でのボランティア体験を推奨します。		
	評価 評価は、課題提出（20%）、介護技術の習得状況（40%）、最終試験（40%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 クラスで学んだことを社会福祉等の実習や介護現場でのボランティアを通して現場で確認することを期待します。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にもの  
をみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	家族社会学	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	2年	受付方法はガイダンスで説明します。大学ポータルで授業連絡をします。	

学びの準備	ねらい ①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。	メッセージ 家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。
	到達目標 近代・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、概説	シラバスをよく読んでください
	2	日本の社会変動と家族	講義テキストを熟読すること
	3	統計から家族を考える	講義テキストを熟読すること
	4	家族の構造	講義テキストを熟読すること
	5	贈与交換と家族	講義テキストを熟読すること
	6	近代家族(1)	講義テキストを熟読すること
	7	近代家族(2)	講義テキストを熟読すること
	8	近代家族とアディクション	講義テキストを熟読すること
9	『千と千尋の神隠し』を家族社会学する	講義テキストを熟読すること	
10	アダルトチルドレンとファリックマザー	講義テキストを熟読すること	
11	家族するということ	講義テキストを熟読すること	
12	家族とコトバ	講義テキストを熟読すること	
13	家族と戸籍	講義テキストを熟読すること	
14	位牌と家族	講義テキストを熟読すること	
15	階級社会とこれからの家族	講義テキストを熟読すること	
16	レポート課題	復習してください	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義テキストは指定されたwebサイト (GLEXA) から送信する。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。講義の理論となっている主な参考文献は①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』(1980年、みすず書房) ②グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』(2000年、新思案社)		
	学びの手立て 毎回の受講の積み重ねが力になります。なお、授業計画は学生のコメントの内容から差し替えたり順番が変更する可能性もあります。その場合はポータルの授業連絡でお知らせします。		
	評価 毎回の講義において課題を与える。課題は指定されたwebサイト (GLEXA) から提出すること。そのことが授業参加度になる。授業参加度 (80%) と16回目の課題 (20%) を基本として評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	感情・人格心理学	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮良 尚子	2年	miyara45@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい 臨床心理学の基盤となる感情・人格（パーソナリティ）心理学に関する知識を学び、理解する。	メッセージ “感情”と“人格”に関して、これまで心理学ではどのように考えられ、それらを理解する知見を蓄積してきたかということについて学んでいきましょう。
	到達目標 1) 感情に関する理論及び感情喚起の機序、2) 感情が行動に及ぼす影響、3) 人格の概念及び形成過程、4) 人格の類型・特性等について理解し、説明ができるようになる。	

学びの準備	到達目標 1) 感情に関する理論及び感情喚起の機序、2) 感情が行動に及ぼす影響、3) 人格の概念及び形成過程、4) 人格の類型・特性等について理解し、説明ができるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
	2	動機づけ	授業の復習・用語調べ
	3	感情の定義と理論	授業の復習・用語調べ
	4	感情の生起	授業の復習・用語調べ
	5	感情と行動	授業の復習・用語調べ
	6	感情の失調と制御	授業の復習・用語調べ
	7	感情と精神疾患	授業の復習・用語調べ
	8	パーソナリティの定義と理論①	授業の復習・用語調べ
	9	パーソナリティの定義と理論②	授業の復習・用語調べ
	10	パーソナリティの測定	授業の復習・用語調べ
	11	パーソナリティの形成	授業の復習・用語調べ
	12	パーソナリティと精神疾患	授業の復習・用語調べ
	13	自己と感情	授業の復習・用語調べ
	14	自己とパーソナリティ	授業の復習・用語調べ
15	まとめ	授業の復習・用語調べ	
16	期末テスト	これまでの復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。毎回の授業で資料を配布します。 参考図書：中間玲子（編）（2020） 公認心理師の基本を学ぶテキスト⑨ 感情・人格心理学－「その人らしさ」をかたちづくるもの－ ミネルヴァ書房 杉浦義典（編）（2020） 公認心理師の基礎と実践⑨ 感情・人格心理学 遠見書房
-------	---

学びの実践	学びの手立て 授業中は、他の受講生の迷惑になる行為は控えてください。 授業後に、各自で資料の再読・授業内容の復習を行ってください。 授業の中で疑問に感じたこと、さらに学びを深めたいと思ったことは、参考文献などを基に自分自身で調べるなどして授業内容の理解を深めてください。
-------	--

学びの実践	評価 成績は、平常点（45%）と学期末試験（55%）で評価します。 平常点は、授業参加およびリフレクションシートの提出状況・内容で評価します。提出期限は厳守でお願いします。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会・集団・家族心理学(社会・集団) 司法・犯罪心理学
-------	---



※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習 I (基礎)	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	3年	ptt511アットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語でふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、かなりハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検 2 級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検 2 級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かせる。3. 精神疾患やカウンセリングに関しての理解を深めることができる。	

学びの準備	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かせる。3. 精神疾患やカウンセリングに関しての理解を深めることができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	米国と日本でのカウンセリングの価値観の違い	配布資料を読む。単語テスト
	2	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	The Role and Responsibility of Psychologists	配布資料を読む。単語テスト
	5	Projective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	6	Objective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	7	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	8	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	9	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
	10	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	13	Anorexia Nervosa/ Bulimia Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
	14	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
	15	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
16	期末試験	総復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回の授業で資料を配布します。
-------	-----------------------------------

学びの実践	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。
-------	--------------------------

学びの実践	評価 単語テスト・・・30%      課題・・・20%      期末テスト・・・50%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習 I・II で培った英語文献を読む力と臨床心理学の知識を 3・4 年のゼミで活用してほしい
-------	---

※ポリシーとの関連性 日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅱ（基礎）	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田 正豪	3年	ptt511アットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米からきた心理学は、英語にふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。	メッセージ 英語で心理関係の文献を読むのは、ハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検2級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検2級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。
	到達目標 1. 心理系の英単語・表現を学ぶことができる。 2. 英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かすことができる。 3. 精神疾患やカウンセリングに関する理解を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	子どもに見られる精神障害について。	配布資料を読む。
	2	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	3	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	4	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	5	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	6	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	7	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	8	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	9	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	10	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	11	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	12	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	13	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	14	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	15	Tic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
	16	期末テスト	総復習
	テキスト・参考文献・資料など 資料は毎授業で配布します。		
	学びの手立て 辞書を毎講義、持参すること。		
	評価 単語テスト・・・30%      課題・・・20%      期末テスト・・・50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習Ⅰ・Ⅱで身につけた英語文献を読む力と臨床心理学の知識を、3・4年ゼミで活用してほしい
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラムポリシー④に関連して、英語で書かれた専門科目の文献を読み、より広い知識を習得すること。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅲ（発展）	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	4年	ptt510@okiu.ac.jpに連絡ください。又は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 大学院教育に必要なレベルの心理学英語を学ぶ。 英語で書かれた心理学系の記事が読めるようになる。	メッセージ 現場に出て英語の文献を読む機会があります。また、海外の文献を読むことで多くのリソースに触れることが増えます。 卒業後も英語の勉強を続けてほしいです。
	到達目標 本科目を履修することで、心理学英語に親しみ、英語で書かれた心理学の文献をストレスなく読めるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の確認および事前学習
	2	心理学系英単語の理解と使用について1（文の構成：英文法①）	配布資料の確認および事前学習
	3	心理学系英単語の理解と使用について2（文の構成：英文法②）	配布資料の確認および事前学習
	4	心理学系英単語の理解と使用について3（文の構成：英文法③）	配布資料の確認および事前学習
	5	心理学系の英語のニュースを読む1（短文の理解）（小テスト1：第2回～4回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	6	心理学系の英語のニュースを読む2（短文の理解）	配布資料の確認および事前学習
	7	心理学系の英語のニュースを読む3（短文の理解）	配布資料の確認および事前学習
	8	心理学系の英語の記事を読む1（和訳の練習）（小テスト2：第5回～7回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	9	心理学系の英語の記事を読む2（和訳の練習）	配布資料の確認および事前学習
	10	心理学系の英語の記事を読む3（和訳の練習）	配布資料の確認および事前学習
	11	心理学系の英語の論文を読む4（和訳の練習）	配布資料の確認および事前学習
	12	心理学系の英語の論文を読む1（小テスト3：第8回～11回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	13	心理学系の英語の論文を読む2	配布資料の確認および事前学習
	14	心理学系の英語の論文を読む3（過去の入試問題を例に）	配布資料の確認および事前学習
15	心理学系の英語の論文を読む4（過去の入試問題を例に）	配布資料の確認および事前学習	
16	まとめ（小テスト4：第12回～15回に関して）	配布資料の確認および事前学習	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 【参考文献】 Smith, Nolen-H, Fredickson (2007) 「Cram101 Textbook Outlines -Atkinson and Hilgard's introduction to Psychology」 Academic Internet Publishrs, Inc. 中山 裕木子 (2020) 「技術英語の基本を学ぶ 例文300」 研究社		
	学びの手立て ①履修の心構え 配布資料を熟読すること。 ②学びを深めるために簡単な英文を読んでみること。 英語で書かれた興味のある分野（心理学）を読んでみること。		
	評価 宿題形式小テスト4回（各小テスト20%×4回）＋授業態度20% ※小テストは、学んだものを確認することを目的としたものです。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 外国語演習Ⅳで英語の力を深めてみよう。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシー④に関連して、英語で書かれた専門科目の文献を読み、より広い知識を習得すること。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語演習Ⅳ（発展）	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	4年	ptt510@okiu.ac.jpに連絡ください。又は授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 大学院進学を視野に入れ、英語で書かれた専門科目の文献が読めるようになる。 グローバルな観点で英語圏の文献やサイトが読めるようになる。	メッセージ 現場に出て英語の文献を読む機会があります。また、海外の文献を読むことで多くのリソースに触れることが増えます。 卒業後も英語の勉強を続けてほしいです。
	到達目標 本科目を履修することで、英語の文献および心理学専門機関のサイトを読む力をつける。 心理学の英語長文を和訳する力をつける。	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の確認および事前学習
	2	心理学系の論文の単語等について（APAスタイル）1	配布資料の確認および事前学習
	3	心理学系の論文の単語等について（APAスタイル）2	配布資料の確認および事前学習
	4	心理学系の論文の単語等について（APAスタイル）3	配布資料の確認および事前学習
	5	心理学系英作文1（英作文から文法を学ぶ①）（小テスト1：第2回～4回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	6	心理学系英作文2（英作文から文法を学ぶ②）	配布資料の確認および事前学習
	7	心理学系英作文3（英作文から文法を学ぶ③）	配布資料の確認および事前学習
	8	心理学系の英語の論文を読む1（小テスト2：第5回～7回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	9	心理学系の英語の論文を読む2	配布資料の確認および事前学習
	10	心理学系の英語の論文を読む3	配布資料の確認および事前学習
	11	Abstractの翻訳1	配布資料の確認および事前学習
	12	Abstractの翻訳2（小テスト3：第8回～11回に関して）	配布資料の確認および事前学習
	13	Abstractの翻訳3	配布資料の確認および事前学習
	14	心理学系の英語の論文を和訳する（過去の入試問題を例に）	配布資料の確認および事前学習
	15	心理学系の英語の論文を和訳する（過去の入試問題を例に）	配布資料の確認および事前学習
16	まとめ（小テスト4：第14回～15回に関して）	配布資料の確認および事前学習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 【参考文献】 Smith, Nolen-H, Fredickson (2007) 「Cram101 Textbook Outlines -Atkinson and Hilgard's introduction to Psychology」 Academic Internet Publishrs, Inc. 中山 裕木子 (2020) 「技術英語の基本を学ぶ 例文300」 研究社
-------	---

学びの実践	学びの手立て ①履修の心構え 配布資料を熟読すること。 ②学びを深めるために 英語で書かれた興味のある分野（心理学）を読んでみること。 簡単な英作文から書いてみる。
-------	---

学びの実践	評価 宿題形式小テスト4回（各小テスト20%×4回）＋授業態度20% ※小テストは、学んだものを確認することを目的としたものです。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業後も英語の文献や関連サイトを読み続けましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名 学習・言語心理学	期別 後期	曜日・時限 月 1	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学習心理学と言語心理学に関する基礎知識を学ぶ。授業の学びを踏まえ自分の日常の学習や言語活動を観察し振り返る。学習と言語に関する心理学的知識と日常生活を結びつけ、自分の学習と言語の過程を具体的に理解し、学習心理学、言語心理学から物事を捉え考える視点を持つことを目指す。	メッセージ 授業内・外で、「学ぶ、言葉を理解する」というところの働きについて、文献を読み、対話し、考える機会・経験を増やそう。日頃から自分や人々の学びや、言葉を意識的に観察してみよう。学習、言語という視点からここを理解していこう。
	到達目標 ①学習・言語心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、学習・言語心理学の分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②学習・言語心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③学習・言語心理学の立場からの心理学的視点（人、社会の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を持つことができる。 ④日常の身近な課題や問題について、学習・言語心理学の基礎知識をもちいて考え、対応することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	初回オリエンテーション、学習心理学、言語心理学とは	シラバス理解と授業の予・復習
	2	学習の様々なタイプ	授業内容の予・復習と日常観察
	3	馴化とその応用	授業内容の予・復習と日常観察
	4	古典的条件づけの基本原則	授業内容の予・復習と日常観察
	5	古典的条件づけの日常・臨床への応用	授業内容の予・復習と日常観察
	6	古典的条件づけにおける近年の理論的展開	授業内容の予・復習と日常観察
	7	オペラント条件づけの基本原則	授業内容の予・復習と日常観察
	8	強化スケジュール	授業内容の予・復習と日常観察
	9	回避と罰	授業内容の予・復習と日常観察
	10	オペラント条件づけの日常・臨床への応用	授業内容の予・復習と日常観察
	11	オペラント条件づけにおける近年の理論的展開	授業内容の予・復習と日常観察
	12	模倣理論および認知的発達などに及ぼす観察学習の影響	授業内容の予・復習と日常観察
	13	観察学習の日常・臨床への応用	授業内容の予・復習と日常観察
	14	言語の獲得と発達	授業内容の予・復習と日常観察
	15	言語と思考	授業内容の予・復習と日常観察
16	期末テスト	学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。以下の①～④の参考図書を参照するとよい。 ①「メイザーの学習と行動」ジェームズ・E・メイザー著、磯博行/坂上貴之/川合伸幸訳、二瓶社 ②「学習・言語心理学」楠見孝編、遠見書房 ③日本認知心理学会（編）（2013）. 認知心理学ハンドブック 有斐閣
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の専門書（テキストや参考文献）理解するには、2度読み（下読み、分析読み）と、心理学の専門用語について自分で調べることで、重要です。興味や関心が芽生えたら自分で調べ発展的に学びましょう。</li> <li>授業内容に関連する予習・復習と日常観察を課します。ひとの「知覚と認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組みましょう。</li> <li>心理カウンセリング専攻の学生を優先します。他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。他学科・他専攻の方の受講については初回オリエンテーション時に担当教員に相談してください。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>1) 平常点：授業についての振り返り課題、授業内・外でのワーク課題など50%</p> <p>2) 課題レポート10%</p> <p>3) 振り返りレポート10%</p> <p>4) 期末テスト30%</p> <p>※1)～4)において到達目標の①～④の達成度を評価する</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学概論、神経・生理心理学（生理/神経）、知覚・認知心理学、教育心理学、学校・教育心理学 次へのステージ：学習心理学と言語心理学の観点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。学習心理学・言語心理学で学んだ知識と結びつけながら関連科目を幅広く履修しよう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会福祉に関する基礎を実践的に学習すること。個別での学習のみならず、グループ等での学習成果の発表を行う。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」に続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキーワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。	1年次の後期は、前期で身につけたコミュニケーション技能とグループでの学習・討論の姿勢をいかして、社会福祉に関する基礎的な学習を行います。2年次の専門的な学習や大学生にとっての基本的なスキル（レポートの書き方など）にも関わるので、頑張ってください。
到達目標	学士力（ジェネリックスキル）としての「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）を身につける。聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力を身につけること。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の7つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①課題発見力：大学生がもっとも苦手になっているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツを身につけていく。</li> <li>②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。</li> <li>③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。</li> <li>④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。</li> <li>⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。</li> <li>⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。</li> <li>⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。（発表用のレジメ作成と印刷作業、パワーポイント作成、学務課からPCを借りてプロジェクターのセッティングを行うなどプレゼンの準備等の姿勢も重視する）</li> <li>⑧大学で学ぶ科目の課題提出方法、特にポータルを活用した提出について理解し、提出できるようになる。</li> </ol> <p>また、基礎演習では10月下旬～11月上旬ごろ、2年次の専門演習に向けたオリエンテーションを予定している。</p>
	テキスト・参考文献・資料など
	適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。
学びの手立て	<p>ゼミは前期の「フレッシュマンセミナー」と同じクラスに登録すること。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。</p> <p>個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること。</p> <p>必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。</p> <p>与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。</p>
	評価
評価	<p>以下の構成で総合的に評価する。平常点（受講姿勢等）が20点、グループ学習および発表の内容・精度が20点、グループおよび個人に課せられた課題の提出状況が60点という構成となる。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習a</p> <p>次のステージ：</p> <p>1年次では社会福祉や周辺関連分野の学問について基礎的なことを学ぶ。その中から、自己の関心領域を絞り込み、2年次以降の専門領域を確立する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 基礎演習	期別	曜日・時限	単位
		後期	木1	2
	担当者 知名 孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	知名孝 (takashic@okiu.ac.jp)	
学びの準備	ねらい 人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方(文化)のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。	メッセージ 前期「フレッシュマンセミナー」(知名孝担当)の学生が後期履修することになります。夏期休暇中に障害児通所施設で行ったボランティア実習の振り返りを通して学習を進めていく。		
	到達目標 大学教育の中で必要とされる能力向上を目標とします。具体的には、(1)レポート作成に必要な知識と技術(レポートや論文のための作文能力、ワードプロセッシングプログラムの活用能力)、(2)プレゼンテーションに必要な知識と技術(プレゼンの組み立て、PowerPointの作成能力)、(3)学習を進めて行くに当たって活用する資源(図書館など)へのオリエンテーションを行っていく。加えて後期は、次年度(2年次)以降履修する専門演習の選択に向けての情報集とゼミの選択に向けての取り組みも行っていく。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) 夏期休暇中のボランティア実習をもとにプレゼンテーションの練習、レポート作成の方法、福祉分野での事例の文例、その理解と作成(執筆)の方法などを15回のなかで行っていく。			
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で紹介していく。			
	学びの手立て 次年度(2年次)から開始する専門教育の基礎となる知識や技術の習得を目指していきます。			
	評価 授業内外での課題(80%)、授業中の参加(20%)			
学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度の専門演習a、資格養成課程へとつなげていくように学習をすすめる。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	1年	授業後の教室やメールで受けます。	

学びの準備	ねらい 大学一年生、かつ社会福祉を志す者へ求められつ基礎的な力、すなわち、読む、書く、話す、人の話を聞く、議論する、発表する力、勉強仲間と交流する力を身につける。	メッセージ 社会福祉を志すものとして、自分の内なる声を聞くこと（「自己覚知」）と社会全般について知ることは不可欠です。ジャーナルを書き、友人と話し、新聞を読み、夢を具体的に描いて実現していくことを通して、その力を身につけていきましょう。楽しみながら、一緒にやっていきましょう。
	到達目標 「自分の内なる声」に気が付けるようになる（自己覚知）。 自分の思いが話せるようになる。人の話が聞けるようになる。 新聞が読めるようになる。 個人・グループでのプレゼンテーション、議論が出来るようになる。 将来の理想を設定し、実現のための具体的な課題を見出し、取り組むことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業計画 ・仲間をつくる ・自分の内なる声を聞けるようになる（自己覚知） journaling-morning pages 自分の思いを書き出す習慣をつくる ・沖縄、沖縄の福祉の歴史、沖国大の歴史を知る ・社会的問題意識を育てる ・新聞を読む習慣を身につける ・コラムの写本 ・自分の関心のある問題へ注目する 発表、新聞投稿 ・Dream Mapづくり ・社会全体の夢を描く ・前期つくった個人の夢と合体させる
	テキスト・参考文献・資料など 適宜配布します
	学びの手立て 新聞（スポーツ新聞視く）とjournaling用のnotebookは毎週必ず持参すること。 授業で感じたこと、考えたことを常に書いていくこと。artist date（授業で説明）も行ってください。 他の受講生との交流も積極的に行い、ユンタクしてください。 ゼミ合宿などゼミ生との交流は積極的に参加してください。
評価	主体的積極的な授業参加態度（50%）、発表・提出物の状況（50%）として評価を行う。

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を終えると次は「専門演習 a」につながります。 「専門演習 a」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくこととなります。 1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。
-------	--



※ポリシーとの関連性

社会と自分の関わりを認識し、積極的に社会に働きかける能動的な主体となる基礎的な思考力、実行力を育む場としたい。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	1年	授業の後の教室やメールで受けます。	

学びの準備	ねらい 大学一年生、かつ社会福祉を志す者へ求められつ基礎的な力、すなわち、読む、書く、話す、人の話を聞く、議論する、発表する力、勉強仲間と交流する力を身につける。	メッセージ 社会福祉を志すものとして、自分の内なる声を聞くこと（「自己覚知」と社会全般について知ることは不可欠です。ジャーナルを書き、友人と話し、新聞を読み、夢を具体的に描いて実現していくことを通して、その力を身につけていきましょう。楽しみながら、一緒にやってみましょう。
	到達目標 「自分の内なる声」に気が付けるようになる（自己覚知）。 自分の思いが話せるようになる。人の話が聞けるようになる。 新聞が読めるようになる。 個人・グループでのプレゼンテーション、議論が出来るようになる。 将来の理想を設定し、実現のための具体的な課題を見出し、取り組むことができるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仲間をつくる</li> <li>自分の内なる声を聞けるようになる（自己覚知） journaling-morning pages 自分の思いを書き出す習慣をつくる</li> <li>沖縄、沖縄の福祉の歴史、沖国大の歴史を知る</li> <li>社会的問題意識を育てる             <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を読む習慣を身につける</li> <li>コラムの写本</li> <li>自分の関心のある問題へ注目する 発表、新聞投稿</li> </ul> </li> <li>Dream Mapづくり             <ul style="list-style-type: none"> <li>社会全体の夢を描く</li> <li>前期つくった個人の夢と合体させる</li> </ul> </li> </ul>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜配布します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>新聞（スポーツ新聞視く）とjournaling用のnotebookは毎週必ず持参すること。 授業で感じたこと、考えたことを常々書いていくこと。artist date（授業で説明）も行ってください。 ゼミ合宿などにも積極的に参加し、他の受講生との交流も能動的に楽しみ、ユンタクしてください。</p>
評価	主体的積極的な授業参加態度（50%）、発表・提出物の状況（50%）として評価を行う。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を終えると次は「専門演習 a」につながります。 「専門演習 a」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくこととなります。 1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	木1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	全体オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイドと配布資料を読む
	2	各ゼミのプログラム（オリエンテーション・ゼミメンバーの交流）	ミニレポート
	3	各ゼミのプログラム（ゼミメンバーの交流）	ミニレポート
	4	遠隔授業の受け方	配布資料の復習
	5	図書館オリエンテーション	文献検索課題
	6	ライティングスキル①（事実と考えを分けた記述/要約・段落構成）	ライティング課題
	7	ライティングスキル②（Eメールの使い方と基本マナー）	ライティング課題
	8	ライティングスキル①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
	9	ライティングスキル③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題
	10	ライティングスキル④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題
	11	ライティングスキル③④のフィードバックと解説/レポートの書き方①（テーマの絞り方）	ライティング課題の見直し
	12	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題
	13	レポートの書き方②（文章の構成）	ライティング課題
	14	レポートの書き方③（論の展開と結び）	ライティング課題
15	レポートの書き方フィードバックと図書紹介課題	ライティング課題の見直し	
16	予備日	前期の総復習・図書紹介課題	
	テキスト・参考文献・資料など テキストはとくに指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点（演習参加の態度、提出期限）…30点 ライティング課題…40点 最終レポート内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	1年	研究室：13-616 mail：miyazato.s+ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>

到達目標
<p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	オリエンテーション・ゼミメンバーの交流	ミニレポート
	3	ゼミメンバーの交流	ミニレポート
	4	遠隔授業の受け方	配付資料の復習
	5	図書館オリエンテーション	文献検索課題
	6	ライティングスキル①（事実と考えを分けた記述/要約・段落構成）	ライティング課題
	7	ライティングスキル②（Eメールの基本マナー）	ライティング課題
	8	ライティングスキル課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
	9	ライティングスキル③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題
	10	ライティングスキル④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題
	11	ライティングスキル課題③④のフィードバックと解説/レポートの書き方①	ライティング課題の見直し
	12	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題
	13	レポートの書き方②	ライティング課題
	14	レポートの書き方③	ライティング課題
15	レポートの書き方フィードバックと図書紹介課題	ライティング課題の見直し	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキストはとくに指定しない。 参考図書は適宜紹介する。</p>

学びの手立て
<p>まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。</p>

評価
<p>平常点（演習参加の態度、提出期限）…30点 ライティング課題…40点 最終レポート内容…30点</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習A	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。</p> <p>到達目標</p> <p>①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。</p>	<p>大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドを読む
	2	オリエンテーション・ゼミメンバーの交流	ミニレポート
	3	ゼミメンバーの興隆	ミニレポート
	4	遠隔授業の受講の仕方	配布資料の復習
	5	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述/要約・段落構成）	ライティング課題
	6	図書館オリエンテーション	文献検索課題
	7	ライティング課題②（Eメールの基本マナー）	ライティング課題
	8	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
	9	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題
	10	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題
	11	ライティング課題③④のフィードバックと解説/レポートの書き方①（テーマの絞り方）	ライティング課題の見直し
	12	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題
	13	レポートの書き方②（文章の構成）	ライティング課題
	14	レポートの書き方③（論の展開と結び）	ライティング課題
15	レポートの書き方フィードバックと図書紹介課題	ライティング課題の見直し	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	テキストはとくに指定しない。 参考図書は適宜紹介する。
----------------	--------------------------------

学びの手立て	まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。
--------	---

評価	平常点（演習参加の態度、提出期限）…30点 ライティング課題…40点 最終レポート内容…30点
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	---

科目基本情報	科目名 基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者 宮良 尚子	前期	木 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	miyara45@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作ることができる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイド・配布資料を読む
	2	各ゼミでの顔合わせ・ゼミメンバー交流	ミニレポート
	3	ゼミグループワーク	ミニレポート
	4	遠隔授業の受講の仕方	配布資料の復習
	5	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述/要約・段落構成）	ライティング課題
	6	ライティング課題②（Eメールの使い方とマナー）	ライティング課題
	7	図書館オリエンテーション	文献検索課題
	8	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
9	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題	
10	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題	
11	ライティング課題③④のフィードバックと解説/レポートの書き方①（テーマの絞り方）	ライティング課題の見直し	
12	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題	
13	レポートの書き方②（文章の構成）	ライティング課題	
14	レポートの書き方③（論の展開と結び）	ライティング課題	
15	レポートの書き方フィードバックと図書紹介課題	ライティング課題の見直し	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など “テキストは特に指定しない。 参考図書は適宜紹介する。”		
	学びの手立て “まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。一つ一つのプログラムや課題は大学生活で学ぶ重要なスキルを身につけるものであるため、他の講義や大学生活の様々な場面で、学んだことを応用して活かしてほしい。 困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。”		
	評価 平常点（演習参加の態度、提出期限）…30点 ライティング課題…40点 最終レポート内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名 基礎演習B	期別 後期	曜日・時限 木1	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①後期の進め方/②心理学用語調べPart I：調べ学習（理論から日常）の課題説明/③グループ編成	グループミーティング・資料作成
	2	図書紹介3分プレゼンテーション	ミニレポート
	3	心理学用語調べPart I：調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	4	心理学用語調べPart I：発表会①	ミニレポート
	5	心理学用語調べPart I：発表会②	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II：調べ学習（日常から理論）の課題説明/グループ編成/ミーティング	グループミーティング・資料作成
	7	心理学用語調べPart II：調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	8	心理学用語調べPart II：発表会①	ミニレポート
	9	心理学用語調べPart II：発表会②	ミニレポート
	10	ライティングスキル⑦（図表を読み取る 基礎）	ライティング課題
	11	ライティングスキル⑦の解説・フィードバック	ライティング課題の見直し
	12	ライティングスキル⑧（図表を読み取る 発展）	ライティング課題
	13	ボランティアから考えるキャリア形成②	ミニレポート
	14	メモの取り方/社会人OBOG（心理専門職）に聞きたいこと	ライティング課題見直し
	15	ボランティアから考えるキャリア形成③/社会人OBOG（一般企業職）に聞きたいこと	ミニレポート
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは、特に指定しない。  
 参考文献は、講義時に適宜紹介する。

学びの手立て  
 基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションで互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩)に遠慮なく相談すること。

評価  
 平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点  
 発表…30点  
 ライティング課題内容・ミニレポート内容…30点

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。  
 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

科目基本情報	科目名 基礎演習B	期別 後期	曜日・時限 木1	単位 2
	担当者 宮里 新之介	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-616研究室 E-mail: miyazato.s@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期の授業の進め方/心理学用語調べPart I : 課題の説明 グループ編成 グループワーク	グループミーティング・資料作成
	2	図書紹介3分プレゼンテーション	ミニレポート
	3	心理学用語調べPart I : 調べ学習	グループミーティング・発表準備
	4	心理学用語調べPart I : 発表会①	ミニレポート
	5	心理学用語調べPart I : 発表会②	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	7	心理学用語調べPart II : 調べ学習	グループミーティング・発表準備
	8	心理学用語調べPart II : 発表会①	ミニレポート
	9	心理学用語調べPart II : 発表会②	ミニレポート
	10	ライティングスキル⑦ (図表を読み取る 基礎)	ライティング課題
	11	ライティングスキル⑦の解説・フィードバック/ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展)	ライティング課題
	12	ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展) の解説	ミニレポート
	13	ボランティアから考えるキャリア形成②	ミニレポート
	14	メモの取り方/社会人OBOGに聞きたいこと	ライティング課題の見直し
15	ボランティアから考えるキャリア形成③・社会人OBOGに聞きたいこと	ミニレポート	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、紹介する。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでは、積極的に議論をすること。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー (担当教員) に遠慮なく相談すること。後半は2限の「キャリア心理学入門」と関連するプログラム内容になっている。		
	評価 平常点 (演習参加の態度、課題の提出状況) …40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容 (心理学の各研究法) の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。	メッセージ 大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。
	到達目標 ①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。 ②必要な情報・文献を図書館で入手できる。 ③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。 ④相手に伝わるレジメが作れる。 ⑤相手に伝わる発表ができる。 ⑥他者と協働して課題を進めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I (理論から日常) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	2	図書紹介3分プレゼンテーション	ミニレポート
	3	心理学用語調べPart I : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	4	心理学用語調べPart I : 発表会①	ミニレポート
	5	心理学用語調べPart I : 発表会②	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II (日常から理論) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	7	心理学用語調べPart II : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	8	心理学用語調べPart II : 発表会①	ミニレポート
9	心理学用語調べPart II : 発表会②	ミニレポート	
10	ライティングスキル⑦ (図表を読み取る 基礎)	ライティング課題	
11	ライティングスキル⑦の解説/ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展)	ライティング課題	
12	ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展) の解説	ミニレポート	
13	ボランティアから考えるキャリア形成②	ミニレポート	
14	メモの取り方/社会人OBOGに聞きたいこと (一般企業職)	ライティング課題見直し	
15	ボランティアから考えるキャリア形成③/社会人OBOGに聞きたいこと (一般企業職)	ミニレポート	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、特に指定しない。 参考文献は、講義時に適宜紹介する。		
	学びの手立て 基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションで互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー (担当教員) /SA (教育支援者の先輩) に遠慮なく相談すること。		
	評価 平常点 (演習参加の態度、課題の提出状況) …40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容 (心理学の各研究法) の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習B	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮良 尚子	1年	miyara45@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい "大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。"	メッセージ "大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。"
	到達目標 "①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。"	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学用語調べPart I (理論から日常) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	2	図書紹介3分プレゼンテーション	ミニレポート
	3	心理学用語調べPart I : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	4	心理学用語調べPart I : 発表会①	ミニレポート
	5	心理学用語調べPart I : 発表会②	ミニレポート
	6	心理学用語調べPart II (日常から理論) : 課題の説明など	グループミーティング・資料作成
	7	心理学用語調べPart II : 調べ学習・ミーティング	グループミーティング・発表準備
	8	心理学用語調べPart II : 発表会①	ミニレポート
9	心理学用語調べPart II : 発表会②	ミニレポート	
10	ライティングスキル⑦ (図表を読み取る 基礎)	ライティング課題	
11	ライティングスキル⑦の解説/ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展)	ライティング課題	
12	ライティングスキル⑧ (図表を読み取る 発展) の解説	ミニレポート	
13	ボランティア報告会①	ミニレポート	
14	グループワーク/社会人OBOGへの質問 (一般企業職)	ライティング課題の見直し	
15	ボランティア報告会②/社会人OBOGへの質問 (一般企業職) /まとめ	ミニレポート	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、紹介する。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでは、積極的に議論をすること。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切に。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。		
	評価 平常点 (演習参加の態度、課題の提出状況) …40点 発表…30点 ミニレポート内容・課題内容…30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習A・Bで学んだことを、「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容 (心理学の各研究法) の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。 共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア心理学応用 (リテラシー)	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鮫島 智行	3年	ptt1175@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスの現場で求められるスキルを知ることによって今後の学業に役立つ基礎力を習得するとともに、企業における採用活動の実情や就職を取り巻く状況の動向を理解し、具体的な就職活動の準備を進められるようになること。</p> <p>到達目標</p> <p>①大学での学びを自らのキャリア形成に意味づけることができる ②社会で求められる基礎能力について理解し、それを向上させる手立てがわかる ③キャリア計画を立て、就職活動の方針を検討できる</p>	<p>心理学での学び、大学生活での様々な経験は、心理の専門職だけでなく、どのような進路に進んでも活かれます。この講義では、学びとキャリアのビジョンを描き、それらをあなたの「生き方」と仕事へ結びつけます。</p> <p>※全15回を対面授業で行う予定。ただし、コロナの状況などにより、遠隔授業に変更する可能性もあります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	組み立てる力① (ビジネスの現場におけるロジック、様々なロジック)	演習の復習
	2	組み立てる力② (ロジックの構成法、実務に役立つロジック)	演習の復習
	3	伝える力① (仕事におけるプレゼンの機会、プレゼンの構成)	演習の復習
	4	伝える力② (図解のノウハウ、トークのポイント)	演習の復習
	5	社会と経済 (社会と経済の成り立ち、社会と経済の大変化・小変化)	リフレクションシート
	6	生活と人生と仕事とお金 (生活に必要なお金、将来への備え、必要な収入を得る方策)	リフレクションシート
	7	キャリアパスの検討 (各業界・職種の動向、どんな将来とキャリアを望むか?)	リフレクションシート
	8	志向性と仕事選び (自分のタイプと志向性、業界や職種との相性)	リフレクションシート
	9	情報の収集と活用 (就活メディア、その他有効な情報源、情報の読み取り方、注意点)	リフレクションシート
	10	ドメインの設定 (狙うべきドメイン「領域」の検討、優先順位の考え方)	リフレクションシート
	11	採用の実際 (採用の計画と過程、評価と合否判定、企業はどこを見ているのか?)	リフレクションシート
	12	説明会と応募 (企業にとっての説明会、エントリーシートと履歴書のポイント)	リフレクションシート
	13	筆記試験 (筆記試験の意義、一般教養と基礎学力、その他の試験)	リフレクションシート
14	面接と実技 (面接の目的と構成、評価のポイント、身だしなみと立ち居振る舞い)	リフレクションシート	
15	就職活動のポイント (活動計画、様々な状況に対応する戦略、全般に関する注意点)	リフレクションシート	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。毎回の配布資料をファイリングすること。		
	学びの手立て		
	就職活動が近付いた3年次は、キャリアや就職に関する実践力を身に付ける時期です。この講義から就職活動が始まると捉え、積極的な質問や発言を求めます。それにより講義はより充実し、大きな成果をもたらすはず。毎回、心理学とビジネスやさまざまな仕事との関連、具体的な企業や職種などに関する話題を取り上げます。興味を持った話題について各自で調べたり、実際に出かける、人に会う、やってみるといった体験を機会をつくることで、学習内容をさらに深めることができるでしょう。		
	評価		
	平常点 (演習参加の態度、リフレクションシート) …50点 最終レポート…50点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理学特論C、インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目</p> <p>次のステージ：それぞれのキャリア計画に基づき、今後の大学での学びや活動と、就職活動につなげていく。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア心理学基礎 (コンピテンシー)	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・-鮫島 智行	2年	平山篤史 研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	職業についての理解を深め、ビジネスの現場で求められるスキルを知ることで、キャリアデザインの明確化、就職活動の準備、および、今後の学業に役立つ基礎力を習得する。	心理学での学び、大学生活での様々な経験は、どのような進路に進んでも活かすことができます。そのためには主体的な努力や意味付けが大事になってきます。この講義は心理カウンセリング専攻のカリキュラムや大学のサービスを利用してキャリアデザインを明確にするための情報を提供します。大学での学びとあなたの「生き方」を結びつけてください。この講義は心理専攻限定の講義です。
到達目標	①キャリア計画を立てる ②心理専攻や大学での学びを自らのキャリア形成に意味づけることができる ③社会で求められる基礎能力について理解し、それを向上させる手立てがわかる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 心理カウンセリング専攻カリキュラムのキャリア形成での活かし方	
	2	インターンシップで高める社会人基礎能力	リフレクションシート
	3	キャリア支援課の紹介	リフレクションシート
	4	ボランティア活動で高める社会人基礎能力①	リフレクションシート
	5	会社のタイプ (法人の種類などによる違い/規模や歴史による違い/県内企業と県外企業の違い)	リフレクションシート
	6	会社と職種 (主な業界の会社/主な業界の職種/新しい業界や職種)	リフレクションシート
	7	会社と仕事の選び方 (会社や仕事に何を求めるか?/キャリア形成の戦略/仕事と適正の見極め)	リフレクションシート
	8	読む力①・仕事における文書の色々・言葉の意味と使い分け・ミニ演習	演習の復習
	9	読む力②・キーワードの抽出・文章の読解・ミニ演習	演習の復習
	10	書く力①・ビジネス文書のポイント・簡潔な表現・ミニ演習	演習の復習
	11	書く力②・正確な文章のポイント・要約文の作成法・ミニ演習	演習の復習
	12	数理的な思考力①・ビジネスと仕事と数字・基本的な計算法・ミニ演習	演習の復習
	13	数理的な思考力②・データの扱い方・確率と期待値・ミニ演習	演習の復習
14	心理専門職 (公認心理師・臨床心理士) になるために	リフレクションシート	
15	公認心理師・臨床心理士の仕事の実際と専門性	リフレクションシート	
16	ボランティア活動で高める社会人基礎能力②	最終レポート作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。毎回の配布資料をファイリングすること。		
	学びの手立て		
	キャリアデザインを明確化し、社会人基礎力を身につけるために、様々な情報を得ることはもちろん大事であるが、様々な人との出会い、経験を通して多くの刺激を受けることも大切である。積極的に様々な活動にチャレンジし、動きながら考えると得られるものは多い。関心のある活動を精力的に取り組み、その活動のキャリアにつながる意味付けを考えてみよう。		
	評価		
	平常点 (演習参加の態度、リフレクションシート) …75点 最終レポート…25点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：キャリア心理学応用、インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目 次のステージ：それぞれのキャリア計画に基づき、今後の大学での学び、活動につなげていく。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリア心理学入門	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史・-鮫島 智行	1年	平山篤史 研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい キャリア計画を立て、大学での学び・課外活動を効果的に自らのキャリア形成に役立てることを目的とする。	メッセージ 心理学での学び、大学生活での様々な経験は、どのような進路に進んでも活かすことができます。そのためには主体的な努力や意味付けが大事になってきます。この講義は心理カウンセリング専攻のカリキュラムや大学のサービスを利用してキャリアデザインを明確にするための情報を提供します。大学での学びとあなたの「生き方」を結びつけてください。この講義は心理専攻限定の講義です。
	到達目標 ①キャリア計画を立てる ②心理専攻や大学での学びを自らのキャリア形成に意味づけることができる ③今後の履修計画のイメージを明確にする	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/キャリア形成とは	キャリア計画を作成
	2	専攻のカリキュラム特徴とキャリア形成～3コースと履修計画の説明	キャリア計画と履修計画の関連付け
	3	大学の機能と大学時代を使ったキャリア形成	リフレクションシート
	4	仕事を知る①（仕事と会社）	リフレクションシート
	5	仕事を知る②（働き方と業界）	リフレクションシート
	6	仕事を知る③（色々な職種）	リフレクションシート
	7	仕事を知る④（専門性の活かし方）	リフレクションシート
	8	ボランティアから考えるキャリア形成	リフレクションシート
	9	心理学と職業調べ学習オリエンテーション（心理の専門職）	調べ学習・グループミーティング
	10	調べ学習グループミーティング	調べ学習・グループミーティング
	11	調べ学習事前指導	調べ学習・グループミーティング
	12	発表会①（医療保健・教育・司法矯正）	リフレクションシート
	13	発表会②（福祉・産業労働） / ディスカッション「心理専門職の専門性とやりがいとは」	リフレクションシート
	14	卒業生講話①一般企業	リフレクションシート
	15	卒業生講話②心理専門職	リフレクションシート
	16	予備日	最終レポート
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。毎回の配布資料をファイリングすること。		
	学びの手立て キャリア計画を立てるために、様々な情報を得ることはもちろん大事であるが、様々な人との出会い、経験を通して多くの刺激を受けることが大切である。積極的に様々な活動にチャレンジし、動きながら考えると得られることが多い。		
	評価 平常点（演習参加の態度、発表、リフレクションシート）…75点 最終レポート…25点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：キャリア心理学基礎、キャリア心理学応用、インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目 次のステージ：それぞれのキャリア計画に基づき、今後の大学での学び、活動につなげていく。
-------	--

※ポリシーとの関連性

教育を中心とした日常に近い心理学を学ぶことで、自己・他者を含む人間理解や社会への心理学の応用を目指します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育心理学概論	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宜保 英理	2年	授業後またはメールで対応しますが、普段は学外勤務の為返信は遅くなります。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「教わる」「学ぶ」という過程は学校のみならず、社会に出てからも多くの人が経験するものです。教育心理学的な観点から個人、集団、社会の理解を深めることで、「教える」「学ぶ」機会に際した時に理論に基づいて分析・実践ができようになることを目指します。	教育を中心としながらも、生活の中の様々なテーマを心理学的な視点から取りあげ、学びの機会を提供できたらと思います。講義の中でグループあるいは全体での意見・感想のシェアを行い、学生自身が積極的な参加できる講義を目指したいです。
到達目標	①個人の発達、成長の知識を身につけること ②教育心理学的な視点から個人、集団、社会について理解する ③教育現場だけでなく、生活の中で使える心理学について理解する	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、教育心理学について	シラバスについて確認
	2	発達① 乳幼児期～青年期	発達についての予習
	3	発達② 成人期～老年期	発達についての予習
	4	学習	学習についての予習
	5	記憶	記憶についての復習
	6	個人の特性	パーソナリティについて復習
	7	動機付け	動機付け等に関する課題
	8	向社会的行動	社会的行動についての復習
	9	集団	集団についての復習
	10	集団をとりまく諸問題	問題行動の復習
	11	発達障害（知的障害、LD、ADHD、ASD等）	個人理解としての障害を考える
	12	行動分析	問題への対処を考える
	13	評価	評価などの復習
	14	メンタルヘルス	健康についての視点で考える
15	相談	相談の心構えについて考える	
16	試験		

テキスト・参考文献・資料など	講義の中で資料を配布します。また、適宜、文献なども紹介します。
----------------	---------------------------------

学びの手立て	<p>教育の視点から心理学の理解を深めることを目的としています。そのため、心理学の基礎となる概論について復習しておくこと、また学校教育や隣接する学校心理学についての知識も役立つと思われます。学校に係るのは児童・生徒だけでなく、保護者や教員等の成人も含まれます。この講義では社会に出てからも心理学を役立ててもらうために成人にも焦点を当てた内容を紹介する予定です。そのため、発達心理学や精神医学的な知識も役立つと思われます。</p>
--------	--

評価	<p>評価は、出席した際の各回の感想シート（70%）、課題レポートまたは期末試験（30%）で行います。欠席の取り扱い、試験受験要件については大学のガイドラインを基準に行いますが、評価は感想シート、課題レポートまたは期末試験の2つが揃った時に総合評価となるので、全てに取り組んでください。提出期限は厳守でお願いします。課題については講義の中で適宜お伝えします。講義の前半には前回の感想を元にした振り返りを行いますので、遅れないように出席してください。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【関連科目】学習・言語心理学、発達心理学、教育・学校心理学</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育・学校心理学	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山本 雅子	2年	授業終了後に教室にて受け付けます	

学びの準備	ねらい 学校教育場面での支援に必要な基礎的な知識および現在の課題に係る知見を得ること。	メッセージ 教育・学校現場で役立つ心理学的知識や、現場におけるさまざまなテーマを取り上げ、学びを共に深めたいと思います。
	到達目標 学校教育場面で支援を行うにあたり必要な基礎的な知識としての関係法令、行政の理解、心理社会的課題、学校コミュニティの緊急支援などについて学ぶ。	

学びの準備	到達目標 学校教育場面で支援を行うにあたり必要な基礎的な知識としての関係法令、行政の理解、心理社会的課題、学校コミュニティの緊急支援などについて学ぶ。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスの確認
	2	教育・学校心理学と教育分野における公認心理師について	配布資料の確認
	3	教育における支援の枠組み①	配布資料の確認
	4	教育における支援の枠組み②	配布資料の確認
	5	教育分野における心理的課題①	配布資料の確認
	6	教育分野における心理的課題②	配布資料の確認
	7	教育分野での心理支援①	配布資料の確認
	8	教育分野での心理支援②	配布資料の確認
	9	教育分野での心理支援③	配布資料の確認
	10	教育分野での心理支援④	配布資料の確認
	11	学校コミュニティでの緊急支援について①	配布資料の確認
	12	学校コミュニティでの緊急支援について②	配布資料の確認
	13	昨今の学校現場での課題①	配布資料の確認
	14	昨今の学校現場での課題②	配布資料の確認
	15	昨今の学校現場での課題③	配布資料の確認
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜資料を配布します。 参考文献については適宜紹介します。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 心理学の基礎的な知識は本講義において役立ちますので復習しておいてください。また、講義の中で出てきた疑問や興味を活用し、ぜひ積極的にご自身でも学びを深める試みをしてください。
-------	--

学びの実践	評価 平常点（授業参加、リアクションペーパー）…30% 期末試験…70%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 特に公認心理師を目指す人は、「教育心理学概論」や「発達心理学」の履修を推奨します（本講に含まれない内容があるため）。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシー1. および、3. 4. に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 グループアプローチ	期別 後期	曜日・時限 金1	単位 2
	担当者 平山 篤史	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい グループアプローチとは個人の心理的治療・教育・成長・個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として、グループの機能・過程・ダイナミクス・特性などを用いる各種技法の総称とされている。この講義では、主に対人親密化過程の促進、シャイネスや対人緊張の改善など、コミュニケーションの問題に焦点を当て、実技を通して体験的に学ぶ	メッセージ 様々なグループ活動を実際に体験しながら学ぶ講義です。参加者それぞれにとって学びのある講義です。初対面の人とかかわりが苦手な人、人見知りを改善したい人はもちろんのこと、自分らしさとは何か考えたい人、グループを動かす工夫や技法を学びたい人も大歓迎です。
	到達目標 ①集団中での‘自分らしい自分’について考える。②自分の‘新しい引き出し’を見つける。 ③コミュニケーション能力が高まる。④人見知り、シャイ、対人緊張が和らぐ。 ⑤参加メンバーとの交流が深まる。⑥集団に関わる支援の技法を身につける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション/グループアプローチとは</td><td>配布資料の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>対人交流の促進を目的としたグループワーク①</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>3</td><td>対人交流の促進を目的としたグループワーク②</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>4</td><td>対人交流の促進を目的としたグループワーク③</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>5</td><td>対人交流の促進を目的としたグループワーク④</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>6</td><td>自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>7</td><td>自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>8</td><td>自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>9</td><td>自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>10</td><td>ロールプレイングを用いた技法①</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>11</td><td>ロールプレイングを用いた技法②</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>12</td><td>ロールプレイングを用いた技法③</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>13</td><td>心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>14</td><td>心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>15</td><td>心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③</td><td>リフレクションシートの作成</td></tr> <tr><td>16</td><td>まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）</td><td>最終レポートの作成</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション/グループアプローチとは	配布資料の復習	2	対人交流の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成	3	対人交流の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成	4	対人交流の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成	5	対人交流の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成	6	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成	7	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成	8	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成	9	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成	10	ロールプレイングを用いた技法①	リフレクションシートの作成	11	ロールプレイングを用いた技法②	リフレクションシートの作成	12	ロールプレイングを用いた技法③	リフレクションシートの作成	13	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①	リフレクションシートの作成	14	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②	リフレクションシートの作成	15	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③	リフレクションシートの作成	16	まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）	最終レポートの作成	
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	オリエンテーション/グループアプローチとは	配布資料の復習																																																			
2	対人交流の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成																																																			
3	対人交流の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成																																																			
4	対人交流の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成																																																			
5	対人交流の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成																																																			
6	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成																																																			
7	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成																																																			
8	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成																																																			
9	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成																																																			
10	ロールプレイングを用いた技法①	リフレクションシートの作成																																																			
11	ロールプレイングを用いた技法②	リフレクションシートの作成																																																			
12	ロールプレイングを用いた技法③	リフレクションシートの作成																																																			
13	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①	リフレクションシートの作成																																																			
14	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②	リフレクションシートの作成																																																			
15	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③	リフレクションシートの作成																																																			
16	まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）	最終レポートの作成																																																			
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜、プリント資料を配布する。 参考文献；サイコドラマの技法 高良聖 岩崎学術出版 グループサイコセラピー アーヴィン・D・ヤーロム ソフィア・ヴィノグラードフ（著）金剛出版</p>																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>実習が中心となるため、毎回出席することが受講の条件です。急激に自分を変化させる必要はありません。常に明るく、元気に、活動的にふるまう必要もありません。自分のペースで人とかかわりながら、自分自身を見つめながら参加することが大切です。自分の気持ちに湧き上がったことに対し、良い悪いで評価せず、それはそれとして受け入れることが大事です。</p>																																																				
	<p>評価</p> <p>体験型の講義であるため、まずは実習で行うプログラムに参加することが重要となる。プログラムにおける他者の関わりのある方については、評価の対象としない。どのようにかかわったのかという目に見える結果より、プログラムを通して何を感じ、何を考えたのかを重視する。毎回のプログラムでの体験の振り返りシート（75%）および、講義終了後の感想レポート（25%）を総合して評価する。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>それぞれのゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動、オープンキャンパスや、専攻の一日研修会などグループ活動を企画・運営に参加し、学んだことを実践に生かせる。自己理解を深めるため就活に活かせる。「心理プロジェクト演習AB」（平山クラス）では、グループアプローチを用いた実践的活動を行うこともできる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ケアの理論と実践	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田中 美也子	2年	teamsチャット及び musik0809@icloud.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、ミルトン・メイヤロフ著「ケアの本質」をテキストとして、障害児支援の一形態である「療育」を「ケア」の視点から概観し、子どもの成長と自己実現について理論と実践の両面から考察するとともに、あらゆる現場に応用可能なケアの実践力を身に付けることを目標とする。</p>	<p>メイヤロフのケア論「一人の人格をケアすることは、最も深い意味で、その人が成長すること、自己実現することをたすけることである」を、障害児支援の現場で実践されている「療育」を通して、頭で理解するだけでなく、心と身体が実感をもって感じられることを目指す。</p>
到達目標	<p>障害児支援の一形態である「療育」を、ケアの視点からコンパクトに説明できる。 ケアの本質である「成長と自己実現」を、理論と実践の両面で支えることができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>他者の成長をたすけることとしてのケア</td> <td>教科書の通読 (予習)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ケアの主要要素</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ケアの主要な特質</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人をケアすることの特殊な側面</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ケアはいかに価値を決定し、人生に意味を与えるか</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ケアによって規定される生の重要な特徴</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ケアすること</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>「障害」と支援/ケア</td> <td>自身の「障害」観の整理 (予習)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ケアの視点から「障害児支援」を考える</td> <td>自身の「子ども」観の整理 (予習)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ケアの視点から「療育」を考える</td> <td>自身の「療育」観の整理 (予習)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>発達のマイルストーン(1)</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>発達のマイルストーン(2)</td> <td>講義内容の整理 (復習)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>療育ワークショップ(1)</td> <td>ワークショップの予行</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>療育ワークショップ(2)</td> <td>ワークショップの予行</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>療育ワークショップ(3)</td> <td>ワークショップの予行</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>ケアの視点から「療育」の展望</td> <td>展望を考察する (復習)</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	他者の成長をたすけることとしてのケア	教科書の通読 (予習)	2	ケアの主要要素	講義内容の整理 (復習)	3	ケアの主要な特質	講義内容の整理 (復習)	4	人をケアすることの特殊な側面	講義内容の整理 (復習)	5	ケアはいかに価値を決定し、人生に意味を与えるか	講義内容の整理 (復習)	6	ケアによって規定される生の重要な特徴	講義内容の整理 (復習)	7	ケアすること	講義内容の整理 (復習)	8	「障害」と支援/ケア	自身の「障害」観の整理 (予習)	9	ケアの視点から「障害児支援」を考える	自身の「子ども」観の整理 (予習)	10	ケアの視点から「療育」を考える	自身の「療育」観の整理 (予習)	11	発達のマイルストーン(1)	講義内容の整理 (復習)	12	発達のマイルストーン(2)	講義内容の整理 (復習)	13	療育ワークショップ(1)	ワークショップの予行	14	療育ワークショップ(2)	ワークショップの予行	15	療育ワークショップ(3)	ワークショップの予行	16	ケアの視点から「療育」の展望	展望を考察する (復習)
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	他者の成長をたすけることとしてのケア	教科書の通読 (予習)																																																	
	2	ケアの主要要素	講義内容の整理 (復習)																																																	
3	ケアの主要な特質	講義内容の整理 (復習)																																																		
4	人をケアすることの特殊な側面	講義内容の整理 (復習)																																																		
5	ケアはいかに価値を決定し、人生に意味を与えるか	講義内容の整理 (復習)																																																		
6	ケアによって規定される生の重要な特徴	講義内容の整理 (復習)																																																		
7	ケアすること	講義内容の整理 (復習)																																																		
8	「障害」と支援/ケア	自身の「障害」観の整理 (予習)																																																		
9	ケアの視点から「障害児支援」を考える	自身の「子ども」観の整理 (予習)																																																		
10	ケアの視点から「療育」を考える	自身の「療育」観の整理 (予習)																																																		
11	発達のマイルストーン(1)	講義内容の整理 (復習)																																																		
12	発達のマイルストーン(2)	講義内容の整理 (復習)																																																		
13	療育ワークショップ(1)	ワークショップの予行																																																		
14	療育ワークショップ(2)	ワークショップの予行																																																		
15	療育ワークショップ(3)	ワークショップの予行																																																		
16	ケアの視点から「療育」の展望	展望を考察する (復習)																																																		
テキスト・参考文献・資料など	「ケアの本質」生きることの意味 ミルトン・メイヤロフ ゆみる出版																																																			
学びの手立て	<p>児童福祉及び障害者 (児) に関する基本法に精通する。 ヴォランティアなどを通して、障害児を実際に支援する。</p>																																																			
評価	ケアに関する理論的理解と実践力を、50 : 50で評価する。																																																			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期 障害者支援実践演習A</p>
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	刑事司法と福祉	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	2年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、刑事司法と更生保護の概要について理解し、相談援助場面における課題について対応できるための基礎となる能力を涵養することを目的とします。	メッセージ 犯罪や非行は、報道等によってよく目にする一方で、その処分確定後のことはほとんど耳にすることがありません。福祉専門職としてぜひ想像力を働かせ、更生保護の対象となる人がどのような困難を抱えて生活を送らなければならないのか考えてみてください。
	到達目標 ① 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 ② 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。 ③ 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	昨今の刑事事件を調べておくこと
	2	社会と犯罪	配布資料を読む
	3	犯罪原因論と対策	配布資料を読む
	4	刑罰とは何か	配布資料を読む
	5	刑事司法	配布資料を読む
	6	少年司法	配布資料を読む
	7	施設内処遇①成人	配布資料を読む
	8	施設内処遇②少年	配布資料を読む
9	社会内処遇①更生保護の理念と概要	配布資料を読む	
10	社会内処遇②更生保護の実際	配布資料を読む	
11	多様なニーズを有する犯罪行為者①精神障害者を対象とした医療観察制度	配布資料を読む	
12	多様なニーズを有する犯罪行為者②高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉	配布資料を読む	
13	多様なニーズを有する犯罪行為者③アディクションを抱える人と刑事司法	配布資料を読む	
14	犯罪被害者等支援	配布資料を読む	
15	コミュニティと刑事司法	配布資料を読む	
16	テスト 振り返り	振り返りを行うこと	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 掛川直之『犯罪からの社会復帰を問いなおす——地域共生社会におけるソーシャルワークのかたち』(旬報社、2020年)		
	学びの手立て ①履修の心構え： 基本的に講義内での私語、携帯電話の利用は認めません。積極的な受講を求めます。 ②学びを深めるために： 受講にあたっては、講義終了後に復習をしてください。また、新聞などで日ごろから犯罪や非行に対する社会背景についての理解を深めてください。		
	評価 期末試験100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 権利擁護を支える法制度、社会保障Ⅰ、Ⅱ (2) 次のステージ ぜひ国際的な視点から、日本の刑事司法制度を相対化する取り組みを行いましょう。海外の映画やドキュメンタリーも参考になります。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「課題解決に役立つ傾聴力、共感性、対人援助力を身につけるための実践的な知識と技術を学ぶ専門科目」に相当する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	傾聴トレーニング	前期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村 弘子	3年	メール等の連絡方法については、初回授業で提示・説明する。	

学びの準備	ねらい この講義では、傾聴に関する基礎的な心理学理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークを通して、傾聴技法を体験的に学習することを目的とする。	メッセージ キャリア実践心理学コースと心理学専門コースの学生を対象とし、傾聴技法を身につけるためのワークを中心とした講義科目である。毎回少しずつステップアップしながら、実践的なスキルの習得を目指していく。
	到達目標 傾聴についての心理学的理論を学ぶ。 実践的な傾聴技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義のオリエンテーション	シラバスの理解
	2	援助的なかかわりと応答	資料の理解・復習と課題提出
	3	相手の話	資料の理解・復習と課題提出
	4	感情の反射（1）	資料の理解・復習と課題提出
	5	感情の反射（2）	資料の理解・復習と課題提出
	6	話し手の質問の意味	資料の理解・復習と課題提出
	7	聞き手の質問（1）	資料の理解・復習と課題提出
	8	聞き手の質問（2）	資料の理解・復習と課題提出
	9	ケース理解（1）	資料の理解・復習と課題提出
	10	ケース理解（2）	配布資料の復習と課題提出
	11	援助的傾聴と応答（1）	資料の理解・復習と課題提出
	12	話し手への応答と対話分析	資料の理解・復習と課題提出
	13	聞き手の質問（3）	資料の理解・復習と課題提出
	14	聞き手の質問（4）	資料の理解・復習と課題提出
	15	援助的傾聴と応答（2）	総復習・課題提出
	16	学期末試験	試験準備
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、資料とワークシートを配布する。 資料配布の都合で、プログラムの順番を変更することもある。		
	学びの手立て 傾聴技法を身につけるため、段階的に講義を積み上げていくので、欠席せずに受講すること。 欠席した場合は、配布資料を基に自習をして次の講義に臨むこと		
	評価 授業参加状況と毎回の課題提出状況（60%）、学期末試験（40%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理学概論」を履修済みであることが望ましい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー3をふまえ、医療、保健、福祉領域で期待される心理職の役割と求められる知識と技能を理解する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	健康・医療心理学	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 貞則	3年	講義終了後に教室で受けつけます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>保健医療領域における心理職は、チーム医療の一員として、多職種とともに活動する役割をもつ。多職種協働で患者などの支援を必要とする人を多角的視点から支援していく中で、心理職は医学・心理学の知識をベースとしたアセスメントと心理支援が求められる。本講義では、保健医療分野で必要となる保健医療制度、医学・心理学的知識及びそれに基づく予防、支援とリハビリテーションを学ぶ。</p>	<p>公認心理師法が施行され、保健医療分野における心理職に対する期待も大きい。保健医療分野で活躍するためには、心理学的知識はもとより医学的知識とその分野で活躍する多職種の理解が必須である。本講義では保健医療分野で求められる知識と心理職の役割を学んでいく。</p>
到達目標	到達目標	
	<p>①保健、医療とは何か、またそこに関わる職種を理解する ②保険医療分野で必要となる医学、心理学の知識を理解する ③保健医療分野での心理職に求められる役割を理解する</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	健康心理学オリエンテーション	講義概要の確認と講義内容の復習
	2	保健・医療における法律・制度・倫理	講義内容の復習
	3	保健医療分野に関わる職種及びその役割と多職種協働	同上
	4	予防医学と健康支援①	同上
	5	予防医学と健康支援②	同上
	6	ストレスと心身の疾病とマネジメント①	同上
	7	ストレスと心身の疾病とマネジメント②	同上
	8	ストレスと心身の疾病とマネジメント③	同上
	9	ストレスチェック制度と健康支援	同上
	10	心療内科医療と内科医療における心理社会的支援	同上
	11	精神科領域の心理的支援①	同上
	12	精神科領域の心理的支援②	同上
	13	精神科領域の心理的支援③	同上
	14	周産期医療と心理社会的支援	同上
15	緩和医療と心理的支援及び災害心理と心理的支援	同上	
16	期末試験	同上	

テキスト・参考文献・資料など  
 講義ごとに資料を配布する。学びを深めるために以下の参考図書を参照すること。  
**【参考図書】**  
 健康・医療心理学 宮脇 稔 編他 医歯薬出版株式会社  
 公認心理師分野別テキスト 保健医療分野 理論と支援の展開 津川律子編著他 創元社  
 今日から実践 日常診療に役立つ行動医学・心身医学アプローチ 吉内一浩 編 医歯薬出版株式会社  
 毎回、講義前後にMicrosoft Teamsを利用して小テストを行いますのでTeamsを利用できる環境を整えて下さい。

学びの手立て  
 「学びを深めるために」  
 ①配布資料をもとに講義を行うため講義後は、資料をもとにポイントを復習する。  
 ②毎回、講義前または講義後に小テストを行い理解度を確認する。  
 ③小テストにおいて理解が不足している部分は、再度復習を行い確認する。

評価  
 成績は、講義前または講義後の小テスト(30%)及び期末試験(70%)の結果にて評価

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 関連科目：社会・集団・家族心理学、心理学理論と心理的支援、心理検査、ストレスマネジメント、行動療法、精神医学など  
 次のステージ：本講義で学んだ各分野での心理職の役割を念頭に実践的な知識と技法を学び課題解決に役立つ対人援助力を身につけることを期待する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	権利擁護を支える法制度	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	2年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、権利擁護制度の概要について理解し、ソーシャルワークにおける課題について対応できるための基礎力の涵養を目的とします。	メッセージ 成年後見制度をはじめとする権利擁護の諸制度は、ソーシャルワーカーとしてクライアントの生活と権利を守るための非常に役に立つツールです。適宜事例を示しながら講義を進めたいと思いますが、皆さんも「私であればこう考える」という想像力を働かせて講義に臨んでください。
	到達目標 ①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。	

学びの準備	到達目標 ①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	テキスト序章を事前に読む
	2	権利擁護とは	テキスト1章を事前に読む
	3	ソーシャルワーカーと法	テキスト2章を事前に読む
	4	日本国憲法の理解1 基本原理	テキスト3章を事前に読む
	5	日本国憲法の理解2 基本的人権	テキスト3章を事前に読む
	6	日本国憲法の理解3 統治機構、地方自治	テキスト3章を事前に読む
	7	民法の理解1 総則 不法行為	テキスト4章を事前に読む
	8	民法の理解2 親族	テキスト4章を事前に読む
	9	民法の理解3 相続	テキスト4章を事前に読む
	10	行政法の理解	テキスト5章を事前に読む
	11	権利擁護を支える仕組みと法的諸問題、	テキスト6、7章を事前に読む
	12	成年後見制度1 制度の概要	テキスト8章を事前に読む
	13	成年後見制度2 制度の実際	テキスト9章を事前に読む
	14	日常生活自立支援事業、権利擁護に係る組織・団体の役割・活動	テキスト10、11章を事前に読む
	15	権利擁護活動の実際	テキスト12章を事前に読む
16	テスト ふりかえり	講義のふりかえりをする	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 権利擁護を支える法制度、山口 光治 編、株式会社みらい、2021年、2,750円（本体2,500円+税）
-------	--

学びの実践	学びの手立て ①「履修の心構え」：基本的に講義内での私語、携帯電話の利用は認めません。積極的な受講を求めます。 ②「学びを深めるために」：受講にあたっては、講義終了後に復習をしてください。また、新聞などで日ごろから成年後見制度、権利擁護をめぐる問題について理解を深めてください。
-------	---

学びの実践	評価 期末試験100%
-------	----------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：ソーシャルワークの基盤と専門職、高齢者福祉、地域福祉と包括的支援体制 次のステージ：他の科目との横断的学習を勧めます。成年後見制度と介護保険制度は車の両輪の関係にあります。
-------	---

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術療法	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jpまで（返信に数日かかります）	

学 び の 準 備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
	9	コラージュ療法	復習
	10	コラージュ療法	復習
	11	コラージュ療法	復習
	12	詩歌療法	復習
	13	詩歌療法	復習
	14	詩歌療法	復習
15	まとめ	復習	
16	学期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。レジユメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。お互いの作品や意見を大切に受け止めあう態度を望みます。 ・その日の授業内容によっては途中参加が難しい場合があります。出来るだけ遅刻はしないでください。 ・実習で作られる作品から自分や他学生の心理状態を決めつけることは不適切だということを理解しておいてください。 ・感染防止策にご協力ください。また授業連絡がないか確認するようにしてください。		
	評価 授業への参加姿勢・実習ミニレポート（65%）、期末テスト（35%）		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理学の各分野を広く履修し、関連づけながら学びを深めてください。
-----------------------	---

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術療法	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山 さおり	2年	ptt654@okiu.ac.jp (返信に数日かかります)	

学 び の 準 備	ねらい 芸術療法とは、様々な表現活動をおとして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。	メッセージ 「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。
	到達目標 芸術療法についての基本的な知識を身につけます。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
	2	芸術療法概説	復習
	3	絵画療法	復習
	4	絵画療法	復習
	5	絵画療法	復習
	6	絵画療法	復習
	7	絵画療法	復習
	8	コラージュ療法	復習
9	コラージュ療法	復習	
10	コラージュ療法	復習	
11	コラージュ療法	復習	
12	詩歌療法	復習	
13	詩歌療法	復習	
14	詩歌療法	復習	
15	まとめ	復習	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定なし。適宜レジユメを配布します。		
	学びの手立て 履修の心構えとして以下のことをお願いします。 ・共同作業や話し合いを多く行います。お互いの作品や意見を大切に受け止め合う態度を望みます。 ・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。 ・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。 ・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けることはできないと理解しておいてください。 ・感染防止策にご協力ください。また授業連絡がないか確認するようにしてください。		
	評価 授業への参加姿勢・毎回の課題 (65%) 学期末テスト (35%)		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 心理学の各分野をひろく履修し、関連づけて学びを深めてください。
-----------------------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代の市民社会	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮道 喜一	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これからの地域社会においては、様々な分野で一つの組織、団体では対応できない、複雑化した課題が益々増えてきます。一方、行政においては、限られた財源、資源によって行政サービスや制度による課題解決に限界があります。そのような中、地域社会にある課題に対して、市民がどのように向き合い、行動していくのか、について理解を深めることを目的とします。</p>	<p>地域づくりに必要な地域資源を知り、多様な人や力、資源をつなぎ合わせて、「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、解決の動きをつくり出す「協働による地域づくり」のプロセスについて学びます。</p>
到達目標	<p>地域社会を取り巻く現状と現代社会における市民の役割と力、「協働による地域づくり」のプロセスについて理解することができます。チームでの地域の困りごとについてのリサーチと発表を通じて、①地域の現状を捉え、問題設定とその背景を理解し、②チームの意見や力を引き出しながら、話し合い、③問題解決のための多様な主体や資源を把握する、ことについて学びを深め、理解することができます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・講義予定・受講上の注意	講義の中で提示する
	2	市民社会とは何か・地域課題とは・チーム分け	同上
	3	協働による地域づくりとは	同上
	4	地域づくりのステークホルダー「市民活動・NPO」	同上
	5	地域づくりのステークホルダー「社会福祉協議会」	同上
	6	地域づくりのステークホルダー「地域支え合い・見守り活動」	同上
	7	地域づくりのステークホルダー「民生委員・児童委員」	同上
8	地域課題を調べる（社会調査）	同上	
9	チームディスカッション	同上	
10	ファシリテーション①（話し合いの場のつくり方）	同上	
11	ファシリテーション②（話し合いの場の進め方）	同上	
12	「地域円卓会議」概論	同上	
13	「地域円卓会議」への参加	同上	
14	「地域円卓会議」ふりかえり	同上	
15	チーム発表（地域課題）	同上	
16	まとめ	同上	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>受講にあたり、遅刻をしない、私語を慎む、課題提出の締め切りを守る。「地域の困りごと」を「社会課題」として共有する「地域円卓会議」への参加を講義に位置付ける（予定）。地域社会の課題に目を向けることや、チームを組んでのディスカッション・発表の機会における積極的な意思表示や参加を期待する。提出されたレポートの内容は次の講義にてフィードバックする。チームでの発表については、発表時に内容についてコメント・フィードバックする。</p>		
評価	<p>各講義でのレポート（40%）、チーム発表（40%）、授業態度及び参加状況（20%）</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 講義の中で提示します。</p>
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	高齢者福祉	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-荻野 佳代	2年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「若い」は誰もが経験するライフサイクルの一部です。高齢者福祉を「他人事」ではなく、家族も含めた「自分事」として捉えた上で、高齢者の特性や高齢者を取り巻く社会的状況等について理解し、高齢社会について考察する力を養うことを目的とします。	講師は児童養護施設指導員、療養型病院・ホスピスでのMSW、居宅支援事業所と地域包括での介護支援専門員・社会福祉士の経験があります。現場での経験も伝えつつ、回によってゲストスピーカーを招くことで、高齢者福祉を理論だけでなくリアルなものとして捉える力を養えるよう授業内容を構成します。共に楽しく学んでいきましょう。
到達目標	①高齢者を取り巻く社会的状況や課題について説明することができる。 ②高齢者の心身面の特性について説明することができる。 ③高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割について説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義概要、評価方法の説明	講義概要の理解
	2	高齢者とは？：各々が思い描く高齢者像について意見交換する	高齢者の存在を自分事として考える
	3	高齢者の定義と特性＋日本の高齢化の現状について	高齢者と高齢社会の現状を把握する
	4	高齢者の生活実態と社会環境について	高齢者を取り巻く環境を理解する
	5	高齢者観の変遷と高齢者福祉の発達過程・理念について	高齢者福祉の歴史と理念を理解する
	6	認知症について	認知症について理解する
	7	高齢者虐待について	高齢者虐待の実態について理解する
	8	高齢者支援における関係機関・専門職等の役割について	多職種連携について理解する
	9	高齢者領域におけるソーシャルワーク技法について	SW技法について理解する
	10	高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割について（地域包括）	地域包括のSWの役割を理解する
	11	高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割について（認知症）	認知症対応の役割を理解する
	12	高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割について（MSW）	医療福祉分野の役割を理解する
	13	高齢者と家族に対する支援の実際	高齢者と家族に対する支援の実際
14	高齢者支援の醍醐味について（ゲストスピーカー予定）	高齢者支援の実際を理解する	
15	まとめ：今後の高齢社会に求められるものとは？	今後の高齢社会をイメージする	
16	期末試験（新型コロナの感染状況によりレポートに替える可能性あり）	学んだ内容を振り返りまとめる	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など		
	・「最新社会福祉士養成講座2 高齢者福祉」中央法規を学内の朝野書房で購入して下さい。Amazonでも購入可能です。		
	・参考文献等については講義内でその都度紹介します。		
学びの手立て	・指定テキストを授業前に読み込み、概要を把握した上で授業に臨みましょう。		
	・高齢者福祉に関する情報に積極的に関心を持ち、テレビ・新聞・SNSからのメディアから情報を得よう心掛きましょう。		
評価	①3分の2以上の出席をもって単位認定の条件とします。		
	②中間レポート（50%）期末レポート（50%）の提出と内容で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	本講義を受講する際、高齢期に関するものだけに注目するのではなく、出生から高齢期に至るまでのライフサイクルを含めて広い視野で考察することが必要です。児童、障害、医療福祉分野や社会保障等の科目も高齢者福祉に関わってくることを意識しながら学びを深めて下さい。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキル	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島袋 有子	3年	ptt1222@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	コミュニケーションのスキルを学ぶことは、1対1のカウンセリング等、個別へのアプローチはもとより集団へのアプローチに際しても重要です。本授業では、集団でのコミュニケーションスキルのトレーニングを体験し、コミュニケーションのスキルを学ぶと同時に、コミュニケーションスキルのトレーニングの手法を学習します。	この授業では、自身が捉えたことや感じたこと等を表出することが他の学生の学びとなります。正に『参加することに意義がある』授業です。

到達目標	①コミュニケーションのスキルを学習し、獲得する。 ②コミュニケーションスキルのトレーニングを行う手法を体験し、トレーニング場面をファシリテートする力をつける。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	印象	レポート作成
	3	なんでもバスケット	レポート作成
	4	他己紹介	レポート作成
	5	表情伝言	レポート作成
	6	この人を捜せ!	レポート作成
	7	どんな場面?	レポート作成
	8	共通点探し	レポート作成
	9	どれが好き?	レポート作成
	10	ゴーサイン・ノーゴーサイン	レポート作成
	11	若い女性と水夫	レポート作成
	12	アサーション・トレーニング	レポート作成
	13	仮説	レポート作成
	14	いいところ探し	レポート作成
15	贈りもの	レポート作成	
16	全体を通して	レポート作成	

テキスト・参考文献・資料など	テキストは特にありません。初回で配布するオリエンテーション資料は、授業を受ける前提となる重要な内容を含みますのでしっかり確認してください。
----------------	---

学びの手立て	グループワークへの参加後、レポートの提出を求めます。遅刻は課題の理解が不十分なままの参加となったり、参加者の話し合いを中断させることになったりするため、出席と認めない場合があります。
--------	---

評価	グループワークへの参加 56% レポートの作成・提出 44%
----	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学の基礎的な分野をはじめ諸分野の知識を持って考え合わせることで、コミュニケーションスキルに対しての理解を深められると考えます。実践を重ね、学びを深めることを期待します。 [関連科目]グループアプローチ、傾聴トレーニング
-------	---

※ポリシーとの関連性

公認心理師の必修科目となる産業・組織心理学を学び、産業界で心理学がどのように応用されているかを学ぶ専門科目である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業・組織心理学	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼 千津子	2年	ptt510@okiu.ac.jpまたは授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この講義では、産業・組織心理学の基本事項を学び、キャリア理論およびキャリア教育について学びます。講義の中では、産業・労働分野における心理的支援について学び、キャリア・カウンセリングの基礎知識も学びます。	メッセージ 現代は物質的に豊かな生活が実現し、人々が心の豊かさを求める時代となり、産業界では心理学がさらに重要視されるようになりました。産業・組織心理学およびキャリア理論を学ぶことにより、働く人の支援について知見を深めることができるでしょう。
	到達目標 理論や実践を学ぶだけでなく、自己理解にもつながります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録・オリエンテーション、産業・組織心理学とキャリア理論について	配布資料の再読
	2	産業・組織心理学の始まりと展開	配布資料の再読
	3	モチベーション（職務満足、認知、目標、関係性）	配布資料の再読
	4	交渉と説得的コミュニケーション、消費者行動とマーケティング、広告の心理	配布資料の再読
	5	リーダーシップと組織のコミュニケーション、組織風土と組織の意思決定	配布資料の再読
	6	キャリア教育	配布資料の再読
	7	適性とキャリア形成	配布資料の再読
	8	現代のキャリア理論①	配布資料の再読
	9	現代のキャリア理論②、ワークライフバランス	配布資料の再読
	10	ストレスと心身の関係、職業性ストレスモデル、レポート①の提出	レポート①の提出
	11	産業・労働分野に関する法律、制度	配布資料の再読
	12	職場のメンタルヘルス、ハラスメント	配布資料の再読
	13	働く人への支援、従業員支援プログラム	配布資料の再読
	14	組織へのコンサルテーション、復職支援	配布資料の再読
15	ストレスチェック、心理教育	配布資料の再読	
16	まとめ、レポート②の提出	レポート②の提出	
テキスト・参考文献・資料など 【参考文献】※授業では、講師が資料を配布します。 榎本博明（2019）はじめてふれる産業・組織心理学 サイエンス社 新田泰生編 野島一彦、繁樹算男 監修（2019）公認心理師の基礎と実践20 産業・組織心理学 遠見書房 森田美弥子、松本真理子、金井篤子（2016）心の専門家養成講座 産業心理臨床実践 ナカニシヤ出版 渡辺 三枝子（2009）「新版 キャリアの心理学—キャリア支援への発達のアプローチ」ナカニシヤ出版 宮城まり子（2016）「キャリアカウンセリング」駿河台出版社			
学びの手立て 遅刻や欠席をしないこと。意欲的な授業参加を求める。 配布資料を復習すること。 現代社会の問題に関心を持ち、経済・産業の動向や個人と組織の関係にも興味を持つこと。			
評価 レポート①（35%）、レポート②（35%）、授業態度15%、リアクションペーパー（毎回）15%。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：社会心理学、集団心理学
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	司法・犯罪心理学	後期	木 4	2
	担当者 -松田 盛雄	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	matsudamo@okigei.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>非行や犯罪という心理・社会的な行動を理解するための基本的な諸理論・モデル・知見等について学ぶ。主にわが国の公的統計資料から非行・犯罪の情勢や動向を正確に理解し、また、重大な非行や犯罪事例に触れながら、その発生メカニズムを考察する。さらに、非行・犯罪をおかした人の処遇に関する司法・矯正システムを学び、刑罰や更生などについて理解と見識を深める。</p>	<p>非行・犯罪という複雑な要因が絡む社会的行動や事象について、多角的な視座から科学的に読み解く目を養うことを目標にします。事象や事件の表面に見える特異性だけに注目するのではなく、そこに至る文脈や背景要因についても注意深く考察しながら学んでいきましょう。</p>
到達目標	<p>①司法統計・犯罪統計などの公的資料やデータに基づき、非行や犯罪、犯罪被害及び家事事件等の現状や動向に関する基本的知識について正確に理解できるようになる。②社会で発生している様々な非行・犯罪事象について学びながら、その発生メカニズムについて個人的・社会的・状況的要因など多角的視座から考え、討議し、理解を深めることができる。③非行少年や犯罪をおかした成人がどのように処遇されるかについて、司法・矯正の基本システムを把握し、そこでの諸施策や活動を知り、あわせて課題や問題点等について理解を深める。④司法・犯罪分野における諸問題及び必要な心理的支援・矯正プログラムなどに関して理解を深め、課題や問題点、展望について考察を深める。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：講義概要・諸注意の説明	シラバス・授業契約の理解等
	2	犯罪情勢の現状と動向～わが国の公的統計を中心に～	わが国の犯罪情勢・動向の復習等
	3	非行・犯罪の諸理論（1）～生物学的・心理学的アプローチ～	犯罪の生物・心理学的理論の復習等
	4	非行・犯罪の諸理論（2）～社会学的・機会論的アプローチ～	身近な犯罪不安喚起場所の探索課題
	5	防犯心理学～犯罪不安感と犯罪リスク認知～	重大少年事件についての予習等
	6	重大少年犯罪事件についての検討	沖縄県の少年非行についての予習等
	7	沖縄県における少年非行の現状と課題（担当：那覇少年鑑別所所長）	殺人・攻撃・暴力の基礎理論の予習
	8	殺人・暴力犯罪～性・支配・攻撃を背景として～	凶悪犯罪事件についての予習等
	9	凶悪犯罪事件～大量殺傷事件を例として～	窃盗事件についての演習課題等
	10	窃盗事件～犯罪手口と狙われやすい場所～	捜査心理学の基本用語調べ等
	11	捜査心理学（1）～目撃証言・ポリグラフ検査・脳指紋検査～	捜査心理学に関係する演習課題等
	12	捜査心理学（2）～放火事犯と地理的プロファイリング～	プロファイリングの演習課題等
	13	日本の司法・矯正システム（1）～非行少年・犯罪者の処遇～	日本の司法矯正システムの予習等
	14	日本の司法・矯正システム（2）～更生・立ち直り・刑罰と心理支援～	更生・保護・刑罰・支援等の復習等
15	非行・犯罪心理学の動向と司法・矯正の課題：講義のまとめ・学期末課題の案内	総復習と学期末課題への取組み等	
16	予備日（学期末課題として試験を実施する場合は試験日）	非行・犯罪心理学の総復習・まとめ	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定せず、毎回の配布資料を中心に講義を進めていく。参考文献は以下のとおりである。</p> <p>(1) 浜井紘一 編著 2013 犯罪統計入門【第2版】：犯罪を科学する方法 日本評論社</p> <p>(2) 桐生正幸 編著 2012 基礎から学ぶ犯罪心理学研究法 福村出版</p> <p>(3) 黒沢香・村松励 2012 非行・犯罪・裁判（キーワード心理学シリーズ9） 新曜社</p> <p>(4) 小林寿一 編著 2008 非行少年の行動科学：学際的アプローチと実践への応用 北王路書房</p> <p>(5) 越智啓太 2012 Progress &amp; Application 犯罪心理学 サイエンス社</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の中で紹介された知見については、そのテーマや研究方法についてさらに詳しく調べたり、自分が研究するとしたらどのような発想や工夫で取り組んでみたいかなど、研究のアイデアを膨らませながら受講してもらいたい。</li> <li>・図書館に所蔵されている図書や非行・犯罪心理学系の学術論文（学会誌・大学紀要等）を積極的に検索し、どのような研究がなされているのか調べ、実際に読んでみるなどして講義内容の理解を深めてもらいたい。</li> <li>・科目の内容と性質上3年次からの受講を推奨します。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は、平常点50%（授業への参加態度：諸々のワーク、リアクションペーパー、課題等で評価）、学期末課題50%の内訳で、これらを総合的に評価して行う。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となる。</li> <li>・学期末課題については、試験を実施する場合は「参考書や資料等の持ち込み不可」として行う予定である。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示する。</li> </ul>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「社会・集団・家族心理学（社会・集団）」を合わせて履修すると、非行・犯罪心理学の分野で活かされている理論や方法についての理解が深められると思われる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会科学研究法	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平安名 萌恵	1年	講義後に時間が許す限り受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義では、研究するうえで必要とされる基本的な批判的思考・情報収集・整理・分析・記述の方法を身に付けることを目標としています。	メッセージ 本講義を通して、研究の基礎基本を学び、課題レポート、卒業論文、調査報告書作成に活かしましょう！授業内で講評やグループワーク等とおして、相互に能力を高め合えるようにします。
	到達目標 本講義では、①客観的な情報収集能力②批判的思考力③問題設定能力④調査結果の整理・記述能力を身に付けることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業の概要）	予習：テキストの目次、第1章
	2	情報を正しく知る	授業中に指示
	3	自分の情報環境を知る1	授業中に指示
	4	自分の情報環境を知る2	授業中に指示
	5	論文を探す	授業中に指示
	6	本、公文書、新聞を探す	授業中に指示
	7	統計を探す、読む	授業中に指示
	8	フィールドワーク：インタビュー、参与観察、アンケート	授業中に指示
	9	前半まとめ、レポート作成の進め方	授業中に指示
	10	レポート作成①問題背景・問題設定の記述、引用方法	授業中に指示
	11	レポート作成②ドラフトの講評、修正方法	授業中に指示
	12	レポート作成③ドラフトの講評、修正方法	授業中に指示
	13	レポート作成④期末レポートに向けた授業まとめ	授業中に指示
	14	レポート作成⑤期末レポートに向けた中間講評	授業中に指示
	15	レポート作成⑥期末レポートに向けた中間講評	授業中に指示
	16	まとめ、期末レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：戸田山和久『新版 論文の教室 レポート作成から卒論まで』NHKブックス、2022。		
	学びの手立て ・コロナ対策のため対面授業が不可能になった際には、オンライン授業に切り替えます。そのため、学外で利用できるインターネット環境・PCの利用可能な場所を確認しておいてください。 ・日常的に新聞や本などを通して社会情勢に関心をもつことで授業の理解度も高まります。		
	評価 ①課題（学期途中での提出物・講評の際の報告内容）20% ②期末レポートによる評価80%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、社会科学系の専門科目を学ぶための基礎基本となります。また、他の人に対して自らの意見を論理的に伝える、というスキルに活かすことができます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	Teams上でのチャット、あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「社会学」は、自己が生きる日常とそれを取り巻く社会（他者）との関係を、科学的な視点で説明する学問である。「わたしはこの世の中でどう生き／どう生かされているのか」、また、自己と他者との間にどのような権力関係が作用しているのかという問いを、「行為」と「構造」という視点から考えるための知識や方法を身につける学問である。</p>	<p>「社会学は難しい」「でも社会学は面白い」という言葉をよく聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。※この講義はTeamsというアプリを使用します。Teamsへの参加方法は、第1回目の講義（4月7日）までにポータル授業連絡でお知らせします。</p>
到達目標	社会的な「行為」、社会の「構造」とは何かを理解する。また、その「行為」と「構造」における権力関係を理解すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学概論 I への招待 ～基本概念としての「行為」と「構造」	基本概念の具体例を考える
	2	社会学の歴史 ～ジンメル、デュルケム、ヴェーバーを中心に	社会学的視点の具体例を考える
	3	自我とアイデンティティの社会学① ～欲望の社会理論	「欲望の模倣」の具体例を考える
	4	自我とアイデンティティの社会学② ～フロイトの自我論とミードの自我／客我論	身近な社会的抑圧を考える
	5	自我とアイデンティティの社会学③ ～社会学における「アイデンティティ」概念の系譜	「自分らしさ」とは何かを考える
	6	行為と相互作用の基本概念① ～ヴェーバーからハーバーマスまで	コミュニケーションの意味を考える
	7	行為と相互作用の基本概念② ～ゴフマンの演技論	日常における演技の具体例を考える
8	行為と相互作用の基本概念③ ～公共性と親密性	無関心と「なれなれしさ」を考える	
9	現代社会を考えるミニ課題について ～自我と演技に関する課題	前半のふりかえりと資料収集	
10	行為と構造の密やかな関係① ～語彙（ボキャブラリー）と文化資本	「しゃべらされる」自己を考える	
11	行為と構造の密やかな関係② ～記号とシンボルの社会的な意味	考えない気楽さとしての日常の探索	
12	行為と構造の密やかな関係③ ～「脱構築」の視点	排除されるものを見る作法を考える	
13	「権力」から読み解く現代社会① ～ヴェーバーの権力論	支配と権力の具体例を考える	
14	「権力」から読み解く現代社会② ～フーコーの権力論	主体化＝服従化の具体例を考える	
15	社会学のまとめと期末課題について	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストの指定はとくにないが、参考文献・資料などを適宜紹介していく。	
学びの手立て	<p>リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際はインターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。</p>		
評価	平常点（リアクション・ペーパーへの書き込み内容など）が20点、「中間ミニ課題」が30点、期末レポート課題の内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：社会学概論 II 次のステージ：社会学概論 I で身につけた社会学の基本的な視点を用いて、具体的な社会現象を解説する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学概論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	Teams上でのチャット、あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 概論Ⅰで身につけた社会学の基本的な視点、概念、理論を分析道具として、現代社会の諸相を解説する内容となる。とくに日常に見受けられる具体的な問題を提起していく。	メッセージ 「社会学は難しい」「でも社会学は面白い」という言葉をよく聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。※この講義はTeamsというアプリを使用します。Teamsへの参加方法は、第1回目の講義（9月29日）までにポータルの授業連絡でお知らせします。
	到達目標 概論Ⅰで身につけた「行為」と「構造」および「権力関係」などの基本概念に基づいて、現代社会の具体的な事柄を分析・解説する知識と技能を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会学概論Ⅱへの招待 ～社会学概論Ⅰのおさらいを中心に	基本的な視点、概念をふりかえる
	2	現代社会とメディア① ～ステレオタイプ、アジェンダ・セッティング、沈黙の螺旋	身近なメディア情報の探索
3	現代社会とメディア② ～エンコーディング/デコーディングと公共圏の形成	情報を送受信する自己を考える	
4	モノと消費をめぐる社会的探求① ～「消費」の基本概念	身近な「記号的」消費を考える	
5	モノと消費をめぐる社会的探求② ～ボードリヤールの概念と「ミニマムセルフ」	消費から自己と他者の関係を考える	
6	ジェンダーとセクシュアリティ① ～「ジェンダー」をめぐる日本社会の現状	既存の実態調査データの収集	
7	ジェンダーとセクシュアリティ② ～家父長制イデオロギーと性別役割分業の系譜	身近な「性別役割分業」を考える	
8	ジェンダーとセクシュアリティ③ ～三歳児神話、TVドラマ、CMから考えるジェンダー規範	具体的な作品の収集と分析	
9	中間ミニ課題について ～メディア論、消費概念、ジェンダー規範から	前半のふりかえりと資料収集	
10	ジェンダーとセクシュアリティ④ ～「ジェンダー」「セクシュアリティ」をめぐる知の変遷	社会的カテゴリーをめぐる知の探索	
11	ジェンダーとセクシュアリティ⑤ ～「行為遂行性」と「エイジェンシー」	「性」をめぐる権力の探索	
12	現代社会と差別① ～差別をめぐる社会学の基本的な視点	身近な「感動ポルノ」の考察	
13	現代社会と差別② ～ヘイトスピーチから考える差別構造	メディア論を応用して考える	
14	現代社会と差別③ ～「自己責任論」の問題、モデル・マイノリティ、ポジションナリティ	差別が再生産される 行為を考える	
15	概論Ⅱのまとめと期末課題	講義プリントのふりかえり	
16	予備日	期末課題の作成	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないが、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
	学びの手立て リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価 平常点（リアクション・ペーパーへの書き込み内容など）が20点、中間ミニ課題レポートが30点、期末レポート課題の内容評価が50点という構成で総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：都市社会学、家族社会学、臨床社会学 次のステージ：社会学概論で学んだ基本的な概念、理論、視点を身につけて、社会学の諸領域に視野を広げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学と社会システム	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平安名 萌恵	1年	メール（授業初回にお伝えします）、授業前後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会福祉に取り組む上で不可欠な、現代社会に関するマクロな知識・視点の習得を目指す。社会システム全体における「福祉」という分野の位置づけを理解する。	メッセージ 本授業で学ぶ社会理論、システムとして社会を捉える視点は、日常生活の中で課題を発見し、解決に向けた糸口を考える上で、必ず役に立ちます。「家族」や「地域」といった、日頃無意識に接してきた事柄を社会学の視点から捉え直すことで、「当たり前」だと思っていたこと、「変わらない」と諦めていたことに向き合うきっかけになればと思います。
	到達目標 本講義では、テキストに沿って現代社会が抱える課題を体系的に学ぶ。それ通じて、社会福祉としての業務を遂行する上で不可欠な、①身の回りの人間関係や生活世界の中から、課題を発見し、批判的に分析する能力、②身近な課題を社会の仕組みと関連づけて理解する視点の涵養を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション——社会福祉と本授業の関わり	テキストの目次に目を通しておく
	2	現代社会を理解する——社会システムと法、経済	予習：テキスト第1章1～3節
	3	社会変動とグローバル化	予習：テキスト第1章4節
	4	人口からみた社会変動	予習：テキスト第1章5節
	5	生活のとらえ方（1）家族	予習：テキスト第2章1～2節
	6	生活のとらえ方（2）地域	予習：テキスト第2章3節
	7	社会的行為	予習：テキスト第3章1節
	8	社会的役割	予習：テキスト第3章2節
	9	社会集団と組織	予習：テキスト第3章3節
	10	社会的ジレンマ	予習：テキスト第3章4節
	11	社会関係資本と社会的連帯	予習：テキスト第3章5節
	12	社会問題のとらえ方	予習：テキスト第4章1～2節
	13	共生社会と権利	予習：テキスト第4章3節
	14	現代沖縄社会の課題	授業の中で指示します
	15	まとめ・補足	授業の中で指示します
	16	期末テスト	授業の中で指示します
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト 社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム(新・社会福祉士養成講座) 第3版』中央法規出版、2014年。		
	学びの手立て		
	①履修の心構え 履修に当たっては、テキストの目次に目を通し、興味関心の湧いたチャプターから読み進めておくこと。 ②学びを深めるために 授業中に紹介する文献・映像に可能な限り当たってみる。		
	評価		
	①期末テスト（80%～90%）の結果を評価する。 ②積極的に授業へ参加する態度を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①関連科目：他の社会福祉士関連科目、とくに「社会調査の基礎」 ②次のステージ：授業で会得した洞察力を日常生活の中で応用するスキルを磨くこと
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査の企画と設計	後期	金 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮平 隆央	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では質的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。</p>	<p>社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、本講義ではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点を置いて講義を行う。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を論文にまとめてもらう。</p>
到達目標	<p>本講義の到達目標は以下の通りである。</p> <p>①質的調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。</p> <p>②自らの関心を質的調査によって明らかにする手法を身につけること。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「社会調査の企画と設計」への招待	授業内で指示：語句確認等、小課題
	2	標本抽出（サンプリング）の理論	授業内で指示：語句確認等、小課題
	3	サンプリングの種類	授業内で指示：語句確認等、小課題
	4	サンプリングの実際	授業内で指示：語句確認等、小課題
	5	質的調査の考え方	授業内で指示：語句確認等、小課題
	6	質的調査の種類	授業内で指示：語句確認等、小課題
	7	質的調査の諸注意	授業内で指示：語句確認等、小課題
8	ドキュメント分析と観察法	授業内で指示：語句確認等、小課題	
9	生活史法とライフコース分析	授業内で指示：語句確認等、小課題	
10	面接とインタビューの技法	授業内で指示：語句確認等、小課題	
11	調査実施の際の諸注意	授業内で指示：語句確認等、小課題	
12	個別研究テーマの提出	授業内で指示：語句確認等、小課題	
13	調査の企画と設計の発表・提出	授業内で指示：語句確認等、小課題	
14	調査実施の効果とふりかえり	授業内で指示：語句確認等、小課題	
15	本講義のまとめと課題提出	授業内で指示：語句確認等、小課題	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房</p>		
学びの手立て	<p>原則的に講義形式で進めるが、調査票作成および調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、および活動には積極的に参加すること。</p>		
評価	<p>レポート（40%）、試験（40%）、グループ参加状況（20%）などを総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 本講義で身につけた調査法の技能を、ぜひ各自の課題研究に生かしてほしい。</p> <p>(2) 次のステージ 各自の関心に即して収集したデータに基づいた考察を行い、具体的な支援や行動につなげられるようになることである。</p>
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学 I	前期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。	統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PCを利用して、簡易な統計データを作成することができる。</li> <li>2. 統計データを加工して、簡易な分析ができる。</li> <li>3. 統計データの分析を通じて、社会現象について考察できる。</li> <li>4. インターネット・図書館等を利用して、目的に応じた統計データを収集することができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？ 統計学的な考え方）	①+②講義使用データの復習
	3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	①+②講義使用データの復習
	4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	①+②講義使用データの復習
	5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	①+②講義使用データの復習
	6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	①+②講義使用データの復習
	7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	①+②講義使用データの復習
	8	収集したデータ間に関連性はあるか？ ～量的変数1～（相関係数）	①+②講義使用データの復習
	9	収集したデータから予測はできるか？ ～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	①+②講義使用データの復習
	10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	①+②講義使用データの復習
	11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（変数のコントロール、偏相関係数）	①+②講義使用データの復習
	12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定）	①+②講義使用データの復習
	13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～	①+②講義使用データの復習
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション）	①+②講義使用データの復習	
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラボレーション2）	①+②講義使用データの復習	
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する 廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年		
学びの手立て	①「履修の心構え」 原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。 ②学びを深めるために 本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。		
評価	平常点：70%、期末課題：30% 平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。なお、遠隔講義の場合は、毎回課題（5点×14回）を配布し、提出してもらう。 期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「社会統計学Ⅱ」 社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会統計学Ⅱ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細川 妃奈子	2年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、「社会統計学Ⅰ」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基礎的な考え方と方法を学びます。講義ではPCで実際にデータを加工します。到達目標として、基礎的統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し生活な情報を作る力など統計を活用する力）を高めることを目指します。	社会で起きている現象の多くは、一つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係によることもあります。逆に、一つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数学で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介し、多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話したいと思います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている</li> <li>2. 多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる</li> <li>3. 統計解析など、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリットと等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
	2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Ⅰの復習）	①+②講義使用データの復習
	3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	①+②講義使用データの復習
	4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	①+②講義使用データの復習
	5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	①+②講義使用データの復習
	6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	①+②講義使用データの復習
	7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	①+②講義使用データの復習
	8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	①+②講義使用データの復習
	9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	①+②講義使用データの復習
	10	複数の変数を合成する「主成分分析」3	①+②講義使用データの復習
	11	複数の変数を合成する「主成分分析」4	①+②講義使用データの復習
	12	データの背後を分析する「因子分析」1	①+②講義使用データの復習
	13	データの背後を分析する「因子分析」2	①+②講義使用データの復習
	14	データの背後を分析する「因子分析」3	①+②講義使用データの復習
15	データの背後を分析する「因子分析」4	①+②講義使用データの復習	
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	①+②講義使用データの復習	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。</p> <p>ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。</p> <p>○主テキスト                  浦井良幸、浦井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社 2011</p>
----	---

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」                  原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。</p> <p>②学びを深めるために                  本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。</p>
--------	---

評価	<p>平常点：70%、期末課題：30%</p> <p>平常点：毎講義で、課題を配布するので、その課題を加工して提出してください（課題の取り組み方、授業態度等）。なお、遠隔講義の場合は、毎回課題（5点×14回）を配布し、提出してもらう。</p> <p>期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目                  「社会統計学Ⅰ」 社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。                  ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉学特講B	集中講義	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石塚 伸一	2年	世話役教員 荻野太司 ogino@okiu.ac.jp (研究室9号館400室)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>刑事政策は刑事法学の一分野とされてきました。しかし、犯罪が原因で「犯罪者」というレッテルを貼られた人たちが、再び社会に参加するためには、単に再犯や再非行をせずに生活しているだけでは実現できません。人にはみな、失敗から立ち上がる力があり、それを妨げている諸要因を排除していくことが社会の役割だと考える立場です。このような観点から刑事政策についてお話しします。</p>	<p>この15年くらい、犯罪統計上は犯罪や非行は減少しています。少年院はガラナラ、統廃合が進んでいます。刑務所は高齢化が進み、介護施設のような施設もあります。たしかに、「ストリート・クرائم（街の犯罪）」は減少しました。しかし、人びとの犯罪に対する不安は昂まり、より多くの「安全・安心」を求める声が聞こえます。是非、身の回りにある犯罪や非行に目を配ってみてください。</p>
到達目標	<p>まず、日本の刑事司法システムに関する基本的知識を習得し、現実の犯罪や非行がどのような状況にあるかを認識することにします。つぎに、社会福祉の視点から、日本の刑事司法や犯罪と非行を見直してみよう。どのような問題があるかを一緒に考えてみましょう。最後に、犯罪や非行からの回復は、福祉にとっての課題とどのように関わっているかを考えてみます。刑事政策の中に現れる福祉の問題が、福祉政策全体の中でどのような問題なのかを理解することが到達目標です。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回 刑事政策のススメ～刑事学・犯罪学・刑事政策～	下記指定のサイトを読んでおくこと
	2	第2回 刑事政策のパラダイム転換（1）～誰のための刑事政策か？～	講義のふりかえりしておくこと
	3	第3回 刑事政策のパラダイム転換（2）～市民の、市民による、市民のための～	講義のふりかえりしておくこと
	4	第4回 システムとしての刑事司法～犯罪は増えてる？それとも、減ってる？～	講義のふりかえりしておくこと
	5	第5回 犯罪白書を読む（1）～暗数だらけの犯罪統計～	講義のふりかえりしておくこと
	6	第6回 犯罪白書を読む（2）～もしも逮捕されたなら？～	講義のふりかえりしておくこと
	7	第7回 犯罪学の歴史と現在（1）～犯罪人とはどんな人？（先祖返りと類型論）～	講義のふりかえりしておくこと
	8	第8回 犯罪学の歴史と現在（2）～犯罪人とはどんな人？（3つのキーワード）～	講義のふりかえりしておくこと
	9	第9回 犯罪学の歴史と現在（3）～犯罪者というラベル（ラベリングと相互作用）～	講義のふりかえりしておくこと
	10	第10回 処罰と処遇（1）～処罰するという意味～	講義のふりかえりしておくこと
	11	第11回 処罰と処遇（2）～処遇するという意味～	講義のふりかえりしておくこと
	12	第12回 処罰と処遇（3）～処罰も、処遇もしないということの意味～	講義のふりかえりしておくこと
	13	第13回 精神障がいと犯罪～触法精神障害者と心神喪失者等医療観察法～	講義のふりかえりしておくこと
	14	第14回 薬物依存症と犯罪～大麻使用は犯罪か？	講義のふりかえりしておくこと
15	第15回 刑事政策学革命の未来予想図～これまで、そして、これから～	講義のふりかえりしておくこと	
16	テスト	これまでの資料の確認をしておくこと	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>授業の中で紹介します。差し当たり、下記のサイトを参照してください。京都府「再犯防止のための支援ハンドブック＝”つまずき”からの”立ち直り”～」<a href="https://www.pref.kyoto.jp/anshin/saihanboushi/saihanboushi-suishinhandbook.html">https://www.pref.kyoto.jp/anshin/saihanboushi/saihanboushi-suishinhandbook.html</a> /読売新聞 [密着取材 Document] 塀の中のおばあさん <a href="https://www.yomiuri.co.jp/s/ims/heinonakaoba/">https://www.yomiuri.co.jp/s/ims/heinonakaoba/</a> /法務省『犯罪白書』<a href="https://www.moj.go.jp/housouken/housou_hakusho2.html">https://www.moj.go.jp/housouken/housou_hakusho2.html</a></p>
-------	---

学びの手立て	<p>1) 授業授業に出席して、一緒に考えてください。 2) 事前に上記の京都府「再犯防止のためのハンドブック」に目を通しておいてください。「刑事司法システムの流れ」や「成人と少年の扱われ方の違い」などについての基本的知識が分かりやすく紹介されています。”つまずき”からの”立ち直り”という考え方を理解するために4つのケースが提示されています。それぞれの事案であなたならどのように対応するか、を考えてみてください。</p>
--------	---

評価	<p>成績評価は、最終テスト70%、平常点30%で総合評価します。テストは、刑事司法システムの流れ図の穴埋め40%、専門用語の説明30%、記述問題30%とします。平常点については、授業の最後に授業の印象や感想のステイトメント・ペーパーを提出してもらいます。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>龍谷大学犯罪学研究センターでは、さまざまなイベントを企画しています。サイトを見て、リモートで参加してください。面白いですよ。”つまずき”からの”立ち直り”を支援する仲間ができるきっかけになるかもしれません。<a href="https://crimrc.ryukoku.ac.jp">https://crimrc.ryukoku.ac.jp</a></p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉調査の基礎	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平安名 萌恵	1年	講義修了後、時間の許す限り受けつけます。	

学びの準備	ねらい 本講義では、社会調査実践に向けて基本的な知識（目的・意義、倫理、方法など）を学びます。今後、福祉専門職として調査が必要な際に、自らの力で調査設計ができるようになることを目指します。	メッセージ 講義を通して社会調査の基本的スキルを獲得し、実践に活かしましょう！
	到達目標 ①社会調査の目的・意義、調査倫理について理解できる。②基本的な量的・質的調査データを読み解くことができ、調査計画をたてることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業の概要）	
	2	社会調査の歴史と役割	テキスト（第1章）を読む
	3	福祉の現場における社会調査の活用	テキスト（第1章）を読む
	4	調査倫理と個人情報保護	テキスト（第5章）を読む
	5	調査実施にあたってのIT活用方法	テキスト（第6章）を読む
	6	量的調査の方法	テキスト（第3章）を読む
	7	量的調査計画1（調査票の作成）	テキスト（第3章）を読む
	8	量的調査計画2（配布と回収）	テキスト（第3章）を読む
	9	量的調査データ解析	テキスト（第3章）を読む
	10	質的調査の方法	テキスト（第4章）を読む
	11	質的調査計画1（質問設定）	テキスト（第4章）を読む
	12	質的調査計画2（調査対象へのアプローチ方法）	テキスト（第4章）を読む
	13	質的調査の分析	テキスト（第4章）を読む
	14	調査計画の発表	レポート文章化
15	本講義のまとめ	レポート文章化	
16	レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など テキスト：社会福祉養成講座編集委員会『新・社会福祉養成講座 社会調査の基礎』中央法規 時間外学習の際は上記テキストを参照してください。			
学びの手立て 新型コロナ対策のため対面授業が不可能になった際には、オンライン授業に切り替えて行います。そのため、学内外で活用できるインターネット環境やPC利用が可能な場所を事前に確認しておいてください。			
評価 ①期末テストによる評価（80%～90%） ②積極的に授業へ参加する姿勢を評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・社会福祉士資格獲得・社会調査士資格獲得のための科目
-------	---

科目基本情報	科目名 社会福祉の基礎	期別	曜日・時限	単位
		前期	水 4	2
	担当者 岩田、荻野、小柳、知名、桃原、比嘉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	本講義は福祉専攻7名の教員で担当する。問い合わせは専攻主任知名まで連絡すること。	
学びの準備	ねらい 社会福祉学の基礎を様々な専門領域から学ぶ。	メッセージ 本科目は1年次の必修科目である。つまり、絶対に履修しなければならない科目である。講義は、社会福祉専攻教員が2～3コマずつ担当し、社会福祉についてそれぞれの研究領域から教示する。将来、自分がどういった領域に進むべきか、また2年次でどの専門演習ゼミを希望するか等の参考にして下さい。		
	到達目標 社会福祉学の基礎および各専門領域の特色を理解し、2年～4年次で履修する専門演習ゼミの選択の参考にする。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回目の講義・オリエンテーション時に詳細を提示する。なお、第1回目の講義は必ず出席するようにしてください。対面授業を基本としますが、コロナウイルス感染の状況に応じてOnline授業となる可能性もある。			
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しません。 各担当教員が講義の中で必要に応じ紹介する。			
	学びの手立て 7名の教員が担当するそれぞれの講義内容によって異なる。その注意事項等を必ず聞き漏らさないように気をつけてください。			
	評価 講義を担当する7名の専攻専任教員がそれぞれ100点満点で評価を行い、その評価点を総合して最終評価を行う。この講義に関しては、1名の講師で2～3コマを担当するので、1回でも欠席をすると60点以下（不可に相当する）評価が出されることがあるので注意すること。評価はそれぞれの講師の担当回で出される課題をもって評価を行う。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習aや他の専門演習および社会福祉士資格、精神保健福祉士資格関連科目。			

※ポリシーとの関連性

社会福祉専門者に必要な知識(社会福祉の価値/理念、社会福祉の歴史、福祉政策の変遷、現代社会の特徴等)の理解を目指します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉の原理と政策 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	講義の後に受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>そもそも社会福祉はどのように生まれどのように発展したのか、福祉国家の仕組みの中および地域社会の中で社会福祉はどのような役割を担ってきたのか等々、社会福祉の歴史を包括的に掘り下げていきます。その上で、現在の社会福祉の到達点を学びます。</p>	<p>本科目は現代社会について社会福祉学の視点から学術的に学びます。受講生は、国家試験受験予定学生、教職課程学生、選択必修科目として履修する学生、他学科の学生等など、幅広い関心を持つ学生が集まりますので、それぞれの学生に有益な内容となることを目指します。</p>
到達目標	人・社会・生活および社会福祉の理解に関する知識を総合的に理解することができるようになる。具体的には、福祉制度・政策の理念、福祉国家の歴史的展開、社会福祉の原理をめぐる理論・哲学について理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、講義のキーワードについてグループワーク	グループワークのふりかえり
	2	福祉制度の発展過程① 欧米諸国における近代社会と福祉	参考文献を読んで理解を深める
	3	福祉制度の発展過程② 欧米諸国における現代社会と福祉	参考文献を読んで理解を深める
	4	福祉制度の発展過程③ 日本における前近代社会と福祉	参考文献を読んで理解を深める
	5	福祉制度の発展過程④ 日本における近代社会と福祉	次週に向けて課題に取り組む
	6	現代の福祉制度の発展過程① 戦後日本の動向	次週に向けて課題に取り組む
	7	現代の福祉制度の発展過程② 社会福祉基礎構造改革以降の動向	中間試験に向けて準備する
	8	現代の福祉制度の発展過程③ 地域共生社会時代の動向。中間試験	中間試験の回答を復習する
	9	福祉国家の展開① 福祉国家の国際比較	次週に向けて課題に取り組む
	10	福祉国家の展開② 少子高齢社会、人口減少社会における社会福祉の課題	次週に向けて課題に取り組む
	11	福祉政策におけるニーズと資源	参考文献を読んで理解を深める
	12	福祉の原理をめぐる哲学	参考文献を読んで理解を深める
	13	福祉専門職の役割① 利用者主体と支援者の役割	次週に向けて課題に取り組む
	14	福祉専門職の役割② 社会資源の開発と活用	次週に向けて課題に取り組む
15	福祉専門職の役割③ アドボカシーとエンパワメント	前期末試験の準備をする	
16	まとめ。前期末試験	模範解答を確認する	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『社会福祉の原理と政策(最新・社会福祉士養成講座/精神保健福祉士養成講座) 中央法規出版社』</p> <p>参考文献：          坏洋一、金子充、室田信一（2016）『問いからはじめる社会福祉学：不安・不利・不信に挑む』有斐閣          ミネルヴァ書房編集部編(2022)『社会福祉小六法2022[令和4年版]』ミネルヴァ書房</p>
----	---

学びの手立て	<p>社会福祉学の基礎知識を理解することを目標としています。講義中に参考文献を紹介していくので、積極的に図書館に行き文献を読みましょう。          本科目は社会を構造的に理解し分析することを重視します。そのためにも日ごろからニュースをみたり新聞を読んだりしましょう。</p>
--------	---

評価	<p>毎講義のリアクションペーパーの内容30%</p> <p>中間試験 35%</p> <p>期末試験 35%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉関連科目、教職課程関連科目、その他社会科学関連科目の基盤となる科目なので、しっかり学んで応用していきましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 社会福祉専門職者に必要な知識（社会福祉政策の変遷、現代社会の特徴等）の理解を目指します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	質問は講義の後に受付けます。遠隔授業の際はポータルメールをお願いします。	

学びの準備	ねらい 社会福祉の原理と政策Ⅰで学んだことをベースにして、広く社会福祉政策および社会福祉関連政策を学びます。また、国際比較を通してグローバルな視点から日本や沖縄の社会福祉が目指す方向を探っていきます。	メッセージ 今日の社会問題の背景を理解し、福祉的アプローチの可能性を考えていきましょう。 社会福祉士・精神保健福祉士受験資格科目ですが、広く社会福祉の視点を学ぶことができる科目です。
	到達目標 人・社会・生活および社会福祉の理解に関する知識を総合的に理解することができます。具体的には、社会福祉政策や関連政策を理解したり、利用者本位の総合的・包括的サービス提供に求められる専門知識や地域社会資源とのネットワーク形成技術等について理解したりすることができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション。社会福祉の原理と政策Ⅰ（前期）のふりかえり	
	2	持続可能な社会づくりと社会福祉課題～SDGs時代における社会福祉学～	
		時間外学習の内容	
	3	社会福祉政策遂行における政府、市場、市民の役割	参考文献を読む
	4	社会福祉計画の意義と課題、政策決定過程および政策評価	提示した課題に取り組む
	5	福祉サービス供給の特徴①～福祉多元化と地域包括ケア～	提示した課題に取り組む
	6	福祉サービス供給の特徴②～格差、分断、差別、権利侵害の解消に向けて～	中間試験の準備をする
	7	福祉サービス供給の特徴③～国際社会との連携～。中間試験	中間試験のふりかえりをする
	8	福祉政策と社会問題① 保健医療政策	提示した課題に取り組む
	9	福祉政策と社会問題② ジェンダー政策	提示した課題に取り組む
	10	福祉政策と社会問題③ 災害政策	提示した課題に取り組む
	11	福祉政策と関連政策④ 住宅政策	提示した課題に取り組む
	12	福祉政策と関連政策⑤ 労働政策	関連文献読書感想文作成
	13	福祉政策と関連政策⑥ 教育政策	関連文献読書感想文作成
	14	沖縄社会の生活課題と社会福祉の役割	提示した課題に取り組む
	15	途上国の生活課題と社会福祉の役割～国際社会福祉の視点から	期末試験の準備をする
	16	まとめ。期末試験	講義をふりかえる
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉の原理と政策（最新 社会福祉士/精神保健福祉士養成講座）』中央法規出版 参考書・参考資料等：厚生労働白書ほか白書、社会福祉小六法。その他毎講義時に文献を紹介します。		
	学びの手立て 講義時に文献を紹介しますのでしっかり読みましょう。加えて積極的にボランティア活動を行い、福祉実践を客観的に分析しましょう。分析したことを言葉にして自身の意見を多くの人に伝えられるようにしましょう。		
	評価 中間試験30%、期末試験30%、感想文10% 各回のリアクションペーパー30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目で社会を分析する視点を獲得し、社会福祉専門科目や教職科目、その他社会科学関連科目につなげて下さい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障Ⅰ	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小林 学美	2年	kobayashi.det.oki.jp@gmail.com 授業・出席に関する問い合わせ、各提出先	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今日、社会保障の問題は日本社会におけるもっとも大きな課題と言えます。当然福祉専門職にとってもその学びは必須のものとなります。本講義では、日本の社会保障の基本的な考え方、しくみ、概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解する学習とします。</p>	<p>本講義では、社会保障制度の基本的な考え方、しくみについて学習するとともに、今日の社会の問題を、社会保障の観点から捉えることができるように、さらにソーシャルワーカーとして相談援助場面における課題について対応できるように、なるべく事例を挙げつつ解説を行います。</p>
到達目標	<p>①社会保障の基本的な考え方について、また社会保障制度の展開過程も含めて理解することができる。 ②相談援助活動において必要となる社会保障制度について理解する。 ③現代社会における社会保障制度の役割と意義、財政の問題を始めとする課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解することができる。 ④年金・保健制度、労働に関する現状と社会保障を理解することができる。 ⑤高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護に関する制度、諸外国の社会保障や歴史を理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 現在社会の社会保障を取り巻く課題に関心を持つ	関心のある社会保障課題は何か
	2	現代社会における社会保障制度の現状 1) 少子高齢社会・人口減少	少子高齢化による課題を調べておく
	3	現代社会における社会保障制度の現状 2) 高齢社会の現状と課題	高齢社会の課題について調べておく
	4	国民医療費増大の課題について	財源問題について調べておく
	5	介護保険の現状と課題について	長寿社会の課題について調べておく
	6	社会保障の概念と対象について	社会保障とは何か調べておく
	7	欧米の社会保障の歴史について	諸外国の社会保障を知る
	8	日本の社会保障の歴史について	日本の社会保障の歴史を知る
	9	社会扶助について	社会扶助について調べておく
	10	社会保険の概念と範囲について	社会保険の体系を調べておくこと
	11	社会保険の財源について	財源について調べておく
	12	諸外国の社会保障と日本の比較 1) ヨーロッパ・北欧	諸外国の社会保険制度を知る
	13	諸外国の社会保障と日本の比較 2) アメリカ・アジア	諸外国の社会保険制度を知る
	14	ライフステージと社会保障について考える	ライフステージの社会保障を考える
15	ワークライフバランスと社会保障について考える	ワークライフバランスを考える	
16	テスト	講義のふりかえりをする	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書「よくわかる社会保障（第5版）」坂口正之（他）著、ミネルヴァ書房（2020）、「よくわかる社会福祉（第11版）山縣文治（他）著、ミネルヴァ書房（20216） *社会保障Ⅱでも同様の教科書を活用</p>
-------	--

学びの手立て	<p>①「履修の心構え」： 基本的に講義内での私語、携帯電話の利用は認めません。積極的な受講・発言を求めます。</p> <p>②「学びを深めるために」：受講にあたっては、講義終了後に復習をしてください。また、新聞などで日ごろから社会保障をめぐる問題について理解を深めてください。</p>
--------	---

評価	<p>授業で課す課題40%</p> <p>科目終了試験（レポート）40%</p> <p>授業態度（能動的な授業への参加、自主性・協調性を持った演習への参加等）20%</p> <p>2/3の出席を単位認定の条件とします。（6日以上、欠席がある場合は単位を認めません。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：社会保障Ⅱ、貧困に対する支援、社会福祉、ソーシャルワーク、各演習科目等</p>
-------	--



※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1の「社会福祉専門職を養成する教育」と2の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小林 学美	2年	kobayashi.det.oki.jp@gmail.com 授業・出席に関する問い合わせ、提出物の送信	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会保障Ⅰ及び社会福祉士・精神保健福祉士等の養成カリキュラムを踏まえて身近な社会問題を理解し、社会保障の基礎知識や社会福祉分野等での応用力の基礎を身につける。社会の構造と現状を理解することは、個別の支援や支援体制の構築の背景理解のために必須である。課題解決力の基礎となるものとして広い視野と視点を身につける。</p> <p>到達目標</p> <p>社会保障及び社会福祉の概念、制度等についての基礎的な理解を深め、現在社会における課題の発見や課題解決のための専門的な視点を身につけ、方法を理解する。</p> <p>日常生活を送る社会で起こる問題やその課題、TVや新聞等で社会的な課題として取り上げられるニュースなどにも積極的に関心を持ち事実を冷静に見極めて検証する意識を高め、解消・解決に取り組む基礎知識を身につける。</p>	<p>個人、家族、支援の専門職等、それぞれの立場に立って社会で起きている問題・課題に具体的、自主的に向き合う意識を育みながら、社会貢献できる一員として社会の構造と解消の方法を理解していきましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（授業の進め方について）	自身が関心ある分野について考える
	2	社会保障とは	社会保障と社会福祉の理解
	3	社会保障との現状と課題について	現代社会の課題について考える
	4	個人と家族の社会保障（グループワーク）	家族の形態を考える
	5	社会構造が作り出す排除と権利についての理解①（グループワーク）	社会が生み出す障壁を考える
	6	社会構造が作り出す排除と権利についての理解②（グループワーク）	障壁の解消について考える
	7	子どもの権利と児童福祉	児童に関する保障と福祉を考える
8	医療保険と介護保険	保険制度を理解する	
9	障害者の貧困の現状と課題	障害者の置かれている現状を考える	
10	高齢者の課題と福祉サービス	高齢社会の現状と課題を考える	
11	雇用及び働く女性の保障	雇用環境と保障について考える	
12	労働問題と移民・外国人労働者の課題	人口減少と労働問題を考える	
13	多様性ある社会づくりに向けた現状と課題	多様性ある社会について考える	
14	社会保障・社会福祉の視点における専門性とその応用（グループワーク）	課題発見の視点を確認する	
15	社会保障まとめ 事例検討（グループワーク）	課題と社会保障の関連を考える	
16	テスト	社会保障全般の振り返りをする	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書「よくわかる社会保障（第5版）」坂口正之（他）著、ミネルヴァ書房（2020）、「よくわかる社会福祉（第11版）」山縣文治（他）著、ミネルヴァ書房（2016）</p> <p>参考書「福祉の心理学～人間としての幸せの実現～」井上知義、サイエンス社（2004）、「生まれ、育つ基盤～子どもの貧困と家族・社会～」松本伊知朗、明石書店（2019）、「どうする？～What do we do?」小林学美、世界書院（2018）、「年金・医療保険・介護保険のしくみがわかる本 第3版」三宅明彦（他）著、法学書店（2018）、「精神障害者の経済的支援ガイドブック」青木智之 編著、中央法規（2015）</p>	
	学びの手立て	<p>事前学習として、事前に提示する教科書の該当章を読み自身が気になる点をチェックしておく。日頃から新聞やニュースに関心を向け社会で起きている出来事や背景と解決策を自分なりに考え、授業で取り上げたい話題に関しては積極的に問題提起する。授業終了後に教科書等の該当章を読み返すことで、理解を深める。</p> <p>グループワークに能動的に参加し、課題への取り組み及びグループ内で役割と協働を学ぶ。</p>	
	評価	<p>授業で課す課題40%</p> <p>科目修了試験（レポート）40%</p> <p>授業態度（能動的な授業への参加、自主性・協調性を持った演習への参加等）20%</p> <p>2/3の出席を単位認定の条件とします。（6回欠席した場合、単位は認めません）</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	社会保障Ⅰ、社会福祉、ソーシャルワーク、各演習科目等

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会・集団・家族心理学(社会・集団)	前期	火5	2
	担当者 -泊 真児	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	初回講義時に連絡先を周知します。また、毎回の講義時にメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会・集団・家族心理学領域における著名な研究知見・研究者、理論、研究方法などについて概説すると共に、ワークやクイズ、小実験を通して理解を深める。公認心理師資格試験に対応する当該領域のトピックを網羅しつつ、なるべく日常的な心理現象を取りあげて講義を進める。それらを社会心理学的視座から読み解くことを通じて、科学的・客観的なものの見方を身につけることを目指す。</p>	<p>本講義は原則、対面授業形式で行います。ただし、新型コロナウイルスの状況次第では、大学の方針に従い特例授業(オンライン)への変更もあり得ます。対面・遠隔どちらの授業形態にも対応できるよう受講環境を整えておいて下さい。履修仮登録者は、必ず1回目講義に出席して下さい。1回目講義に欠席した場合、仮登録者でも原則的に登録を取り消します。重要事項の説明と同意を行うためです。</p>
	到達目標	
	<p>1. 社会・集団心理学分野の古典的・代表的な研究知見について理解し、専門用語や理論を用いて内容を簡潔に要約し、人に説明することができる。2. 家族や友人等の親密な人間関係ならびに集団における人の意識や行動の基本的メカニズムと、その働き・意味について、特に「状況要因」が持つ影響力を考慮に入れた社会心理学的な見方ができる。3. 他者や集団、文化が人の心を形成・維持・変容し、また相互に影響し合っていることについて、理論的・実証的立場から理解できる。4. 社会・集団心理学分野で用いられる様々な科学的研究手法やデータ解析法の意味・適用範囲について、基礎的理解ができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業契約・オリエンテーション：社会・集団・家族心理学とは何か？	シラバスの確認・授業契約書の理解
	2	社会の中にある自己～自己過程の社会心理学～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	3	他者を知る仕組みとは？～対人認知の社会心理学～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	4	対人関係の形成と発展～対人魅力の社会心理学～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	5	対人間の言語・非言語コミュニケーション	振り返り・ホームワーク課題の回答
	6	寂しい人は早く死ぬ？～家族・対人関係とストレス及びソーシャルサポート～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	7	向社会的行動と反社会的行動～援助と攻撃の社会心理学～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	8	態度と行動の関係(1)～態度概念・測定法を中心に～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	9	態度と行動の関係(2)～依頼・勧誘・説得の社会心理学～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	10	社会的影響過程(1)～社会的促進・抑制とリーダーシップ～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	11	社会的影響過程(2)～集団圧力・集団意思決定の社会心理学～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	12	社会的影響過程(3)～状況要因の影響(同調と服従の心理)～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	13	社会的影響過程(4)～集団間の差別と偏見・少数派の影響過程～	振り返り・ホームワーク課題の回答
	14	文化と心理・行動の関係～文化の社会心理学～	振り返り・ホームワーク課題の回答
15	集合行動とマスコミュニケーション・振り返りと学期末試験の案内	学習内容のまとめと総復習	
16	学期末試験：論述試験(持ち込み不可)を実施する予定	学習内容全体の振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは使用せず、講義は毎回の配付資料を中心に進める。参考書籍は下記の他、講義内で毎回紹介する。</p> <p>(1)池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子(2010). 社会心理学 有斐閣</p> <p>(2)岡本浩一(1986). 社会心理学ショート・ショート 新曜社</p> <p>(3)遠藤由美 編著(2010). いちばんはじめに読む心理学の本②:社会心理学-社会で生きる人のいとなみを探る- ミネルヴァ書房</p> <p>※データベースや図書館で、学会誌「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」等も参照してください。</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>1. 講義の中で紹介された知見について、そのテーマや研究方法をさらに詳しく調べたり、研究のアイデアを膨らませてみて下さい。自分が研究するとしたらどのような発想や改善・工夫で取り組みたいか等です。</p> <p>2. 図書館に所蔵されている文献や社会・集団心理学系の学術論文(学会誌、紀要など)を積極的に検索し、どのような研究が行われているか調べ、実際に読んでみることを通じて講義内容の理解をさらに深めて下さい。</p> <p>3. 学期末試験は、論述式で行う予定です。ただし、受講者数や講義形態等によってレポート等に変更するか、実施方法を変更する可能性があります。詳細については、前もって講義内で説明します。</p>

学びの実践	評価
	<p>・成績評価は、平常点が50%、学期末課題が50%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。</p> <p>・平常点は、講義内外での各種ワークへの取組、意見表明や質問、ホームワーク課題等の提出物で評価します。</p> <p>・学期末試験については、「参考書や資料等の持ち込みを全て不可」として論述試験を実施する予定です。学期末レポート課題に変更する場合は、講義内で詳細を指示します。評価基準は、講義内で説明します。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：「社会・集団・家族心理学(家族)」や「司法・犯罪心理学」を合わせて履修すると、社会・集団心理学分野の理論や概念、方法論との繋がりを意識しながら、さらに学びを深めることができると思います。</p>

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得するための専門的な知識を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害学	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	講義終了後に受付ます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	障害学が誕生した背景、障害学が目指していること学びます。また、国内外の障害学研究の動向について学びます。その上で、広く障害学の視点から社会の諸現象を問い直します。	本講義は、障害学という学問の入門的内容を提供します。障害者運動から生まれた学問は社会にどのようなことを問いかけているのか共に学びましょう。 (3, 4年次に適した科目です)

到達目標	障害学について基本的な理解ができる。また、障害学関連の文献や論文を読み分析することができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	課題に取り組む
	2	障害学誕生の背景	配布資料を読む
	3	自立生活運動の歴史	関連文献を読みまとめる
	4	優生思想を考える～津久井やまゆり園殺害事件に対する議論を中心に～	配布資料を読む
	5	青い芝の会～健全者文明への問いかけ～	関連文献を読みまとめる
	6	経済学からみる障害	配布資料を読む
	7	ろう文化運動と手話	配布資料を読む
8	知的障害者のセルフアドボカシーとピープルファースト運動	レポートを作成する	
9	精神科医療の歴史と障害観	配布資料を読む	
10	見えない人が見えるもの	配布資料を読む	
11	障害女性と複合差別	関連文献を読みまとめる	
12	障害と開発～途上国の障害者の暮らし～	配布資料を読む	
13	メディアが描く障害者	配布資料を読む	
14	ディアビリティーアート	関連文献を読みまとめる	
15	介助者/支援者とは	配布資料を読む	
16	まとめ	レポートを作成する	
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。		
	学びの手立て 障害学に関する文献、論文、映画等々を紹介します。積極的に読んだり観たりしてください。		
	評価 各回のリアクションペーパー30%、レポート(2回)各35%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 課題研究や卒業論文の参考になれば幸いです。
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者支援実践演習A	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田中 美也子	2年	E-mailで受け付けます。 ichuni0809miya@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、障害児支援を概観し、平成24年の改正児童福祉法に創設された「保育所等訪問事業」について、実践的に学びます。SDGs「持続可能な開発目標」を統合する一つのキーワードである「ダイバーシティ&インクルージョン」が根底に流れている「保育所等訪問事業」について学ぶことにより、現場に应用可能な障害児(者)支援の実践力を身につけることを目指す。	大学や実施施設の許可が得られた場合は、保育所や学校など現場に同行し実践的に学ぶことができます。
到達目標	障害児(者)支援の一形態としての「保育所等訪問事業」をコンパクトに説明することができる。 「保育所等訪問事業」について理論と実践の側面から説明ができる。 障害児(者)支援の実践的なスキルを身につけ、現場に応じて応用ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回：「障害」と支援／ケア	自身の「障害」観の整理（予習）
	2	第2回：障害と「子ども」	自身の「子ども」観の整理（予習）
	3	第3回：障害児支援としての「療育」	講義の内容の整理（復習）
	4	第4回：発達過程と「療育」	講義の内容の整理（復習）
	5	第5回：社会福祉における「療育」	講義の内容の整理（復習）
	6	第6回：「保育所等訪問事業」（理論）	講義の内容の整理（復習）
	7	第7回：「保育所等訪問事業」（理論）	講義の内容の整理（復習）
	8	第8回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	9	第9回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	10	第10回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	11	第11回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
	12	第12回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践
13	第13回：「保育所等訪問事業」（実践と理論）	「保育所等訪問事業」実践	
14	第14回：「保育所等訪問事業」（理論と実践）	「保育所等訪問事業」実践	
15	第15回：「保育所等訪問事業」の展望	展望を考察する（復習）	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
レジュメ・資料を配布する。 テキスト ミルトン・メイヤロフ著「ケアの本質」			
学びの手立て			
①「履修の心構え」 テキストととして、ミルトン・メイヤロフの「ケアの本質」を使用します。授業計画に沿って熟読すること。 ②「学びを深めるために」 この授業は、実践的演習として重要である。大学や実施施設の許可が得られた場合は、現場に同行し実践的に学ぶこと。			
評価			
保育所等訪問事業に関する理論的な理解と施設訪問における実践とを50：50で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 ケアの理論と実践 (2) 次のステージ 障害児通所支援事業所等にボランティア実践の機会を求めてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

聴覚障害者（難聴者・中途失聴者）に対する対人援助力を実践的、体験的に身に付けます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者支援実践演習B	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-酒井 ひろ子	2年	授業終了後に今日のまとめ内の質問コーナーで受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①聞こえの仕組みを理解したうえで、難聴者、中途失聴者の補聴器の役割と限界、コミュニケーションを講義や演習で学びます。</p> <p>②伝達の学習でコミュニケーションの成立と意味の伝達を学びます。</p> <p>③対人援助の立場で合理的配慮を考える力を実践的、体験的に身につけます。</p>	<p>難聴や中途失聴は外見から見えにくい障害なので、何に困っているのか他人からは見えにくい状況です。なぜ聞こえないのか本人も周りもわからないまま支援につながりにくい現状があります。コミュニケーションの成立のために音声代替方法を使った合理的配慮を考えます。講義はスライドと資料、演習、今日のまとめで理解を深めます。</p>
到達目標	<p>①聴覚障害者の医学的・機能的障害と社会的課題を知り、コミュニケーション支援の現状を運動の歴史、要約筆記者の役割を障害者福祉の理念から理解できます。</p> <p>②コミュニケーションにおける伝達の意味を確認することができます。難聴者、中途失聴者の心理的な課題を知ることができます。</p> <p>③様々な場面の合理的配慮を考え、実践できるようになります。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 聴覚障害の基礎知識 聞こえの仕組み	講義の資料を読む。
	2	聴覚障害の基礎知識 聴覚障害 聴覚補償	講義の資料を読む。
	3	聴覚障害の基礎知識 聴覚障害者のコミュニケーション（聴覚活用）	講義の資料を読む。
	4	聴覚障害の基礎知識 聴覚障害者のコミュニケーション（視覚活用）	講義の資料を読む。
	5	聴覚障害の基礎知識 中途失聴・難聴者の現状と課題	講義の資料を読む。
	6	要約筆記の基礎知識 全国と沖縄の難聴者運動と要約筆記の歴史 耳マーク	講義の資料を読む。
	7	要約筆記の基礎知識 要約筆記事業の位置づけ 障害者権利条約	講義の資料を読む。
	8	伝達の学習 コミュニケーションの基礎理論	講義の資料を読む。
	9	伝達の学習 情報補償の基礎理論	講義の資料を読む。
	10	伝達の学習 伝達実践技術実習	講義の資料を読む。
	11	対人援助 中途失聴・難聴者の臨床心理	講義の資料を読む。
	12	合理的配慮 音声バリアフリー 補聴器と会話 筆談 会話支援器 アプリ	講義の資料を読む。レポート
	13	合理的配慮 音声バリアフリー 職場 教育	講義の資料を読む。レポート
	14	合理的配慮 音声バリアフリー 病院 介護現場	講義の資料を読む。レポート
15	合理的配慮 音声バリアフリー 災害時 新型コロナ	講義の資料を読む。レポート	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキストは使用しません。毎回プリントで資料を配付します。</p> <p>参考資料 厚生労働省カリキュラム準拠 要約筆記者養成テキスト 全国要約筆記問題研究会ホームページオンラインショップで購入。 上下セット3,760円（送料別途）</p>

学びの手立て
<p>①履修の心構え：出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象とはしません。受講時の遅刻早退は控えてください。</p> <p>②学びを深めるために：毎回の講義資料を読み、基礎的知識を身につけたうえでレポートを作成してください。</p>

評価
<p>期末試験 到達目標①～③の評価 (50%) 聴覚障害の基礎的知識、技能の上で合理的配慮を考えられる。</p> <p>レポートの内容 到達目標①～③の評価 (40%) 社会の中の課題を考えることが出来る。</p> <p>今日のまとめの提出 授業態度 (10%) 毎回今日のまとめや質問が出来る。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>共生社会の実現に結びついた実践的な問題解決ができる。</p>

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。  
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者福祉	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-溝口 哲哉、-松田 建一	2年	溝口哲哉 (temariyukomi@yahoo.co.jp)	

学びの準備	ねらい 本科目では障がい者とは何か、どうとらえるかからはじまり、障がい者観として支援の歴史、現在の障がい者を取りまく現状と課題を考える授業である。また支援者としてのあり方についてもふれていきたい。	メッセージ この講義は、社会福祉士として社会福祉現場での実践経験にもとづいた講義である。
	到達目標 ①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入・障害概念と特性①	教科書該当箇所を読む
	2	障害概念と特性②	教科書該当箇所を読む
	3	障がい者の生活実態と取り巻く社会環境	教科書該当箇所を読む
	4	障害者福祉の歴史（障害者福祉の理念・障害観の変遷）	教科書該当箇所を読む
	5	障害者福祉の歴史（障がい者処遇の変遷・権利条約・基本法）	教科書該当箇所を読む
	6	障害者福祉の歴史（障害者福祉制度の発展）	教科書該当箇所を読む
	7	障害者総合支援法	教科書該当箇所を読む
	8	身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健福祉法	教科書該当箇所を読む
	9	児童福祉法・発達障害者支援法	教科書該当箇所を読む
	10	障害者差別解消法・バリアフリー法	教科書該当箇所を読む
	11	障害者雇用促進法・障害者優先調達推進法	教科書該当箇所を読む
	12	障害者とその家族支援における関係機関の役割	教科書該当箇所を読む
	13	関連専門職の役割	教科書該当箇所を読む
	14	社会福祉士および精神保健福祉士の役割	教科書該当箇所を読む
15	支援の実際（事例を含めて）・講義のまとめ	教科書該当箇所を読む	
16	期末試験	試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 中央法規 最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座「障害者福祉」を参考に資料を作成して講義を進めます。 ※教科書の購入は必須ではありません。		
	学びの手立て 本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。		
	評価 1) 出席時間数が13回満たないものは「不可」、2) 講義初日に配布する資料に授業外課題の内容と提出日時が提示されるのでその提(50%)、3) 講義の中で行う課題・ワークなどの提出(50%)。4) 学期末テスト・課題で評価する。学期末テスト・課題は課されないこともある。 ※ 2)と3)に関しては、課題ごとのポイントを設定し、4)と合わせての合計が100点となるように設定する。60点以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 その他社会福祉士指定科目へと展開する。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	障害者・障害児心理学	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	2年	研究室 13-616研究室 E-mail : miyazato.s@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 障害とは何かということについて理解し、身体障害、知的障害、発達障害、精神障害における代表的な障害や疾患の特徴、支援のポイントについて理解する。	メッセージ 人には個人差があり、人のあり方は多様である。社会に出て人と関わる際、「障害」を抱えながら生きている人もいる。そういった方々についてその特徴を理解し、対応や支援の際のポイントについて知っておくことは色々な仕事や活動などの社会生活を営む上で役に立つことと思われる。授業担当者が公認心理師、臨床心理士として活動した経験を踏まえつつ、障害や疾患について解説する。
	到達目標 ①生活者としての障害者・障害児という視点で「障害」を理解することができる。②各障害における特徴とそれを踏まえた支援について理解し、他者に概要を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	リフレクションシートの作成
	2	「障害」とは何か（国際障害分類と国際生活機能分類の考え方の違いについて）	リフレクションシートの作成
	3	身体障害の概要と心理的特徴について	リフレクションシートの作成
	4	身体障害への支援について	リフレクションシートの作成
	5	知的障害の概要と心理的特徴について	リフレクションシートの作成
	6	知的障害への支援について	リフレクションシートの作成
	7	発達障害（自閉症スペクトラム障害、ADHD、限局性学習障害）の概要について	リフレクションシートの作成
	8	自閉症スペクトラム障害の障害特性と支援について	リフレクションシートの作成
	9	ADHDの障害特性と支援について	リフレクションシートの作成
	10	限局性学習障害の障害特性と支援について	リフレクションシートの作成
	11	統合失調症の概要と心理的特徴および支援について	リフレクションシートの作成
	12	気分障害（うつ病・躁うつ病）の概要と心理的特徴および支援について	リフレクションシートの作成
	13	認知症の概要と心理的特徴および支援について	リフレクションシートの作成
	14	障害者（児）家族の心理と支援の基本について	リフレクションシートの作成
15	まとめ	リフレクションシートの作成	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しない。 参考文献：『公認心理師の基礎と実践13「障害者・障害児心理学」,野島一彦・繁柁算男（監修）柘植雅義・石倉健二・野口和人・本田秀夫（編）,遠見書房,2020年,2600円（税別）』		
	学びの手立て 「臨床心理学概論」「発達心理学」を履修していることが望ましい。毎回の授業において、授業の振り返りのためのリフレクションシートを作成し、次回の授業時に提出してもらうことで学習の定着を図る。		
	評価 「リフレクションシートの作成・提出（45%）、期末試験（55%）」		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「精神疾患とその治療」でより詳細な医学的立場からの見解を学ぶ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	神経・生理心理学（神経）	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃・上田 幸彦	2年	前堂：5-431/mshino@okiu.ac.jp 上田：13-213/y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>神経・生理心理学は、脳・行動・心の間を正常・異常の両面から明らかにする学問領域である。心の動きは体や感覚器・神経系の活動と密接に関係している。従って、それらを知ることにより複雑な心の理解が容易になる。本講義では、神経・生理心理学の領域の中でも神経分野、特に脳神経系の構造及び機能、記憶と生理学的反応のしくみ、高次脳機能障害について学ぶ。</p>	<p>今、心は脳機能の現れと理解されている。しかし、脳と心との関係の理解は容易ではない。脳は観察可能な「実体」だが心は「目に見えない存在」だからである。ここでは表情や行動、ことばに表現されて、読み取られ、理解される。表情や行動やことばを表現することを表現させている、脳のしくみや働きを理解することで心と脳を理解しよう。</p>
到達目標	<p>①神経・生理心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、神経・生理心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②神経・生理心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、神経・生理心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																				
	授業計画		時間外学習の内容																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>初回オリエンテーション、神経心理学とは</td></tr> <tr><td>2</td><td>神経系の分類、神経系を守る構造と機能、末梢神経系の構造と機能</td></tr> <tr><td>3</td><td>中枢神経系の構造と機能：ニューロン、脳幹、小脳</td></tr> <tr><td>4</td><td>中枢神経系の構造と機能：大脳辺縁系、大脳</td></tr> <tr><td>5</td><td>脳と心の働き：意識、感覚・知覚、注意、メタ認知</td></tr> <tr><td>6</td><td>脳と心の働き：運動、記憶、言語、学習、遂行機能</td></tr> <tr><td>7</td><td>脳の発生・発達、遺伝・進化・経験と脳</td></tr> <tr><td>8</td><td>脳、大脳辺縁系とホメオスタシス</td></tr> <tr><td>9</td><td>高次脳機能障害①失語</td></tr> <tr><td>10</td><td>高次脳機能障害②失認③失行</td></tr> <tr><td>11</td><td>高次脳機能障害④注意障害⑤記憶障害</td></tr> <tr><td>12</td><td>高次脳機能障害⑥遂行機能障害⑦社会的行動障害</td></tr> <tr><td>13</td><td>認知症・脳血管障害・外傷性脳損傷</td></tr> <tr><td>14</td><td>認知リハビリテーション・子どもの発達障害</td></tr> <tr><td>15</td><td>ストレスと健康</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	1	初回オリエンテーション、神経心理学とは	2	神経系の分類、神経系を守る構造と機能、末梢神経系の構造と機能	3	中枢神経系の構造と機能：ニューロン、脳幹、小脳	4	中枢神経系の構造と機能：大脳辺縁系、大脳	5	脳と心の働き：意識、感覚・知覚、注意、メタ認知	6	脳と心の働き：運動、記憶、言語、学習、遂行機能	7	脳の発生・発達、遺伝・進化・経験と脳	8	脳、大脳辺縁系とホメオスタシス	9	高次脳機能障害①失語	10	高次脳機能障害②失認③失行	11	高次脳機能障害④注意障害⑤記憶障害	12	高次脳機能障害⑥遂行機能障害⑦社会的行動障害	13	認知症・脳血管障害・外傷性脳損傷	14	認知リハビリテーション・子どもの発達障害	15	ストレスと健康	16	期末試験		<p>シラバスの理解と講義内容の復習</p> <p>講義内容の復習と日常観察</p> <p>講義内容の復習と日常観察</p> <p>講義内容の復習と日常観察</p> <p>講義内容の復習と日常観察</p> <p>講義内容の復習と日常観察</p> <p>講義内容の復習と日常観察</p> <p>講義ノートの復習</p> <p>講義ノートの復習</p> <p>講義ノートの復習</p> <p>講義ノートの復習</p> <p>講義ノートの復習</p> <p>講義ノートの復習</p> <p>期末試験の準備と全体の総復習</p>
	回	テーマ																																			
1	初回オリエンテーション、神経心理学とは																																				
2	神経系の分類、神経系を守る構造と機能、末梢神経系の構造と機能																																				
3	中枢神経系の構造と機能：ニューロン、脳幹、小脳																																				
4	中枢神経系の構造と機能：大脳辺縁系、大脳																																				
5	脳と心の働き：意識、感覚・知覚、注意、メタ認知																																				
6	脳と心の働き：運動、記憶、言語、学習、遂行機能																																				
7	脳の発生・発達、遺伝・進化・経験と脳																																				
8	脳、大脳辺縁系とホメオスタシス																																				
9	高次脳機能障害①失語																																				
10	高次脳機能障害②失認③失行																																				
11	高次脳機能障害④注意障害⑤記憶障害																																				
12	高次脳機能障害⑥遂行機能障害⑦社会的行動障害																																				
13	認知症・脳血管障害・外傷性脳損傷																																				
14	認知リハビリテーション・子どもの発達障害																																				
15	ストレスと健康																																				
16	期末試験																																				
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しない。必要な資料などは適宜配布する。以下に示す文献を参考図書とする。</p> <p>①理化学研究所脳科学総合研究センター（2011）. 脳科学の教科書 神経編（岩波ジュニア新書） 岩波書店                  ②理化学研究所脳科学総合研究センター（2013）. 脳科学の教科書 心編（岩波ジュニア新書） 岩波書店                  ③緑川晶・山口加代子・三村将編（2018）. 臨床神経心理学 医歯薬出版                  ④森岡周（2014）. 脳を学ぶ―「ひと」とその社会がわかる生物学 協同医書出版社                  ④池谷裕二（2015）. 大人のための図鑑―脳と心のしくみ 新星出版社</p>																																				
学びの手立て	<p>・授業の配布資料や参考文献などで示す心理学の専門知識に関する文章を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすること、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。</p> <p>・予習、復習において、授業で学んだことを踏まえた日常観察を課します。日頃から脳と心について「よく読み、よく観察し、よく考える」ことに積極的に取り組んでください。</p> <p>・心理カウンセリング専攻学生を優先します。他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。できれば受講前に相談してください。</p>																																				
評価	<p>成績は、平常点（授業への参加態度や内容理解を振り返り課題などで評価）…30%、期末試験…70%によって評価する。</p>																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学概論、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（生理）、学習・言語心理学</p> <p>次のステージ：神経心理学と生理心理学の観点から自分の心の動きや行動、身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、神経・生理心理学（神経）で学んだ知識と結びつけながらその他の心理学の専門科目を幅広く履修しよう。</p>
-------	---



科目基本情報	科目名 神経・生理心理学（生理）	期別 後期	曜日・時限 月5	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 神経・生理心理学は、脳・行動・心の関係性を正常・異常の両面から明らかにする学問領域である。心の動きは体や感覚器・神経系の活動と密接に関係している。従って、それらを知ることにより複雑な心の理解が容易になる。本講義では、神経・生理心理学の領域の中でも神経分野、神経系と内分泌系の生理的機能のしくみについて学ぶ。	メッセージ 今、心は脳機能の現れと理解されているが、脳と心との関係の理解は容易ではない。脳は観察可能な「実体」で心は「目に見えない存在」だからです。そして、脳と心との間は、脳神経と内分泌系の生理的機能が橋渡しをしている。ここでは表情や行動、ことばに表現され、読み取られ、理解される。表情や行動やことばを生み出す脳と生理的機能のしくみや働きを理解し、心と脳を理解しよう。
	到達目標 ①神経・生理心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、神経・生理心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②神経・生理心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、神経・生理心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	初回オリエンテーション、神経心理学、生理心理学とは	シラバスの理解と講義内容の復習
	2	脳・神経系の基礎：脳の構造と機能	講義内容の復習と日常観察
	3	脳・神経系の基礎：ニューロンとシナプス	講義内容の復習と日常観察
	4	脳・神経系の基礎：自律神経系と内分泌系	講義内容の復習と日常観察
	5	感情の心理学：感情の理論と測定法	講義内容の復習と日常観察
	6	感情の心理学：ネガティブ・ポジティブ感情と自律機能	講義内容の復習と日常観察
	7	感情の心理学：ネガティブ・ポジティブ感情と表情筋活動	講義内容の復習と日常観察
	8	感情の心理学：感情の制御と感情に関わる脳部位	講義内容の復習と日常観察
	9	睡眠・覚醒の心理学：脳波の基礎と分類	講義内容の復習と日常観察
	10	睡眠・覚醒の心理学：脳波と覚醒レベル・睡眠段階	講義内容の復習と日常観察
	11	睡眠・覚醒の心理学：睡眠と健康	講義内容の復習と日常観察
	12	薬物使用と依存の心理学：薬物のタイプと依存	講義内容の復習と日常観察
	13	薬物使用と依存の心理学：オピオイド、覚醒剤	講義内容の復習と日常観察
	14	薬物使用と依存の心理学：アルコール	講義内容の復習と日常観察
	15	まとめ	講義内容の復習と日常観察
16	期末テスト	期末テストの準備と全体の総復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要な資料などは適宜配布する。以下に示す文献を参考図書とする。 ①「脳と心との不思議な関係 生理心理学入門」古川聡他 川嶋書店 ②「バイオサイコロジー」ピネル 西村書店 ③「生理心理学と精神生理学」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ巻、堀忠雄・尾崎久記監修 北大路書房 ④森岡周(2014). 脳を学ぶ―「ひと」とその社会がわかる生物学 協同医書出版社 ④池谷裕二 (2015). 大人のための図鑑―脳と心のしくみ 新星出版社
-------	---

学びの実践	学びの手立て ・心理学の専門書（テキストや参考文献）理解するには、2度読み（下読み、分析読み）と、心理学の専門用語について自分で調べることが、重要です。興味や関心が芽生えたら自分で調べ発展的に学びましょう。 ・授業内容に関連する予習・復習と日常観察を課します。ひとの「知覚と認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組みましょう。 ・心理カウンセリング専攻の学生を優先します。他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。他学科、他専攻学生の方は初回オリエンテーションの時に担当教員に相談してください。
-------	--

学びの実践	評価 1) 平常点：授業についての振り返り課題、授業内・外でのワーク課題など50% 2) 課題レポート10% 3) 振り返りレポート10% 4) 期末テスト30% ※1)～4)において到達目標の①～④の達成度を評価する
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学概論、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経）、学習・言語心理学 次のステージ：神経心理学と生理心理学の観点から自分の心の動きや行動、身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、神経・生理心理学（神経）で学んだ知識と結びつけながらその他の心理学の専門科目を幅広く履修しよう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学概論	通年	水 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮良 尚子・赤嶺 遼太郎	1年	前期：miyara45@okiu.ac.jp 後期：ptt1003@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>心理学の歴史、生物-心理-社会（統合）モデル、研究法、各分野の重要研究、理論を学び心理学の全体像をつかむ。前期は「歴史、研究法、感覚・知覚、記憶、学習、思考、知能、動機づけ、情動、心と脳」、後期は「発達、パーソナリティ、社会、臨床」の基礎知識を学ぶ。心理学の基礎知識をもち人間心の諸問題を心理学的に捉える視点（心と行動を科学的に理解する）を獲得する。</p>	<p>心理学的視点で人や社会、自分自身について考える面白さをお伝え出来るよう、古典的な心理学から最近のトピックまで幅広く紹介しながら学習を進めていきます。関心のある分野を見つけて、自分で調べたり、周りの人に説明したり、知識や技術を積極的に使うことでより深く学ぶことができます。</p>
	到達目標	
	<p>①心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、心理学の各分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる ②心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③日常の身近な課題や問題について、心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。 ④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
	2	心理学の歴史	授業の復習・用語調べ
	3	心理学の研究法	授業の復習・用語調べ
	4	感覚・知覚1	授業の復習・用語調べ
	5	感覚・知覚2	授業の復習・用語調べ
	6	記憶1	授業の復習・用語調べ
	7	記憶2	授業の復習・用語調べ
	8	学習1	授業の復習・用語調べ
	9	学習2	授業の復習・用語調べ
	10	思考と創造性1	授業の復習・用語調べ
	11	思考と創造性2	授業の復習・用語調べ
	12	動機づけ・情動1	授業の復習・用語調べ
	13	動機づけ・情動2	授業の復習・用語調べ
	14	こころと脳1	授業の復習・用語調べ
	15	こころと脳2 / 前期16回目に期末テスト	これまでの復習
	16	後期オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
	17	発達心理学1：乳幼児期まで	用語調べ
	18	発達心理学2：児童期・青年前期まで	用語調べ
	19	発達心理学3：青年中期・後期～老年期まで	用語調べ
	20	パーソナリティ心理学1：パーソナリティ理論	用語調べ
	21	パーソナリティ心理学2：パーソナリティ検査	用語調べ
	22	パーソナリティ心理学3：パーソナリティ心理学の課題	用語調べ
	23	社会心理学1：対人認知・対人関係	用語調べ
	24	社会心理学2：集団・組織心理	用語調べ
	25	社会心理学3：家族心理	用語調べ
	26	臨床心理学1：臨床心理学の主要な理論	用語調べ
	27	臨床心理学2：教育・学校・司法・犯罪との関連	用語調べ
	28	臨床心理学3：産業・組織との関連	用語調べ
	29	進化心理学1	用語調べ
30	進化心理学2	用語調べ	
31	期末テスト	これまでの復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは指定しない。授業時に必要な資料を配布する。</li> <li>・参考図書</li> </ul> <p>坂口典弘・相馬花恵（2017）心理学入門 ステップアップ心理学シリーズ 講談社  鹿取広人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）（2015）心理学第〔5版〕 東京大学出版会  サトウタツヤ・渡邊芳之（2019）心理学・入門〔改訂版〕 有斐閣  重野純（編）（2012）心理学〔改訂版〕キーワードコレクション 新曜社</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修に関する大学の規則を理解しておいて下さい。講義中は周囲の迷惑にならないよう配慮して下さい。</li> <li>・心理カウンセリング専攻学生を優先します。人間福祉学科以外の学生で公民科の教科に関する科目として履修したい場合は教職用クラスを履修してください。</li> </ul> <p>学びを深めるために：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で適宜参考図書を紹介します。関心のある分野の参考図書を積極的に読みましょう。</li> <li>・心理学の専門知識についての文章（配布資料、参考図書）を理解するには、心理学の専門用語を自分でも調べてみる習慣が大事になります。</li> </ul>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期は、平常点（授業参加およびリフレクションシートの提出状況・内容で評価：45%）と学期末試験（55%）で評価。</li> <li>・後期は、平常点（30点満点）、期末テスト（70点満点）の合計点で評価。</li> <li>・前期、後期とも、課題やテストを用いて、上記の到達目標の①～④の達成度を評価する。前期と後期の点数を平均し通年の評価とする。</li> </ul>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学史、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学（生理/神経）、発達心理学、感情・人格心理学、社会・集団・家族心理学（社会・集団/家族）、臨床心理学概論、教育・学校心理学、教育心理学概論、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、福祉心理学、障害者・障害児心理学、健康・医療心理学など。次のステージ：心理学的視点で考える習慣を継続し、共通科目を幅広く学ぶ</p>

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	宮良 尚子	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	miyara45@okuu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説	実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1: 実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実験レポート作成
	5	実習1-4: 文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	6	実習2-1: 実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	7	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポート作成
	8	実習3-1: 実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	9	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポート作成
	10	実習4-1: 実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	11	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポート作成
	12	実習5-1: 実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	13	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポート作成
	14	実習6-1: 実習⑥（心理検査法）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
15	実習6-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑥実験レポート作成	
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説	実験実習・実験法の理解	
	2	実習1-1: 実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解	
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成	
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説/文献検索の解説と実習	実験レポート作成・文献検索課題	
	5	実習1-4: 実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成	
	6	実習2-1: 実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成	
	7	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポート作成	
	8	実習3-1: 実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成	
	9	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポート作成	
	10	実習4-1: 実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成	
	11	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポート作成	
	12	実習5-1: 実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成	
	13	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポート作成	
	14	実習6-1: 実習⑥（心理検査法）心理検査法の概説・心理検査手順の説明と実施/結果の整理の解説	検査の実施方法・結果の整理の復習	
	15	実習6-2: 結果の読み取り・所見のまとめ方・心理検査レポート（実習⑥）の書き方の解説	結果読み取り・実習⑥検査所見作成	
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎—金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤と検査実習⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、  
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	宮里 新之介	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：13-616 mail：miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説	実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1：実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実験レポート作成
	5	実習1-4：文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	6	実習2-1：実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	7	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポートの作成
	8	実習3-1：実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	9	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポートの作成
	10	実習4-1：実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	11	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポートの作成
	12	実習5-1：実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	13	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポートの作成
	14	実習6-1：実習⑥（心理検査法）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
15	実習6-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑥実験レポート作成	
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（チューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習A	期別 前期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 山岡 明奈	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説	実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1：実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実験レポート作成
	5	実習1-4：文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	6	実習2-1：実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	7	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポート作成
	8	実習3-1：実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	9	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポート作成
	10	実習4-1：実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	11	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポート作成
	12	実習5-1：実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	13	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポート作成
	14	実習6-1：実習⑥（心理検査法）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	15	実習6-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑥実験レポート作成
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、  
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	前期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1:実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実験手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	4	実験1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポート書き方の解説/文献検索の解説と実習	実験レポート作成・文献検索課題
	5	実習1-4: 実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	6	実習2-1: 実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	7	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポート作成
	8	実習3-1: 実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	9	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポート作成
	10	実習4-1: 実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	11	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポート作成
	12	実習5-1: 実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	13	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポート作成
	14	実習6-1: 実習⑥（心理検査法）心理検査法の概説・心理検査手順の説明と実施/結果の整理の解説	検査の実施方法・結果の整理の復習
15	実習6-2: 結果の読み取り・所見のまとめ方・心理検査レポート（実習⑥）の書き方の解説	結果読み取り・実習⑥レポート作成	
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤と検査実習⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、  
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習A	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	火 2	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説
	2	実習1-1: 実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方の解説
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	5	実習1-4: 文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説
	6	実習2-1: 実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表作成の解説
	7	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	8	実習3-1: 実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表作成の解説
	9	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	10	実習4-1: 実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表作成の解説
	11	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	12	実習5-1: 実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表作成の解説
	13	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	14	実習6-1: 実習⑥（心理検査法）検査法の実施/データの整理と図表の書き方の解説
	15	実習6-2: 結果の読み取り・所見のまとめ方・心理検査レポートの書き方の解説
16	予備日	
		時間外学習の内容
		実験実習・実験法の理解
		記憶実験と実験手続きの理解
		データ整理・図表の作成
		実験レポート作成
		実習①実験レポートの完成
		データ整理・図表の作成
		実習②実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習③実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習④実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習⑤実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習⑥検査レポートの作成
		前期の総復習・質問紙法の予習

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤と検査実習⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学実験A、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ。 次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。 心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習B	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 平山 篤史	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1：実習⑦（質問紙法）質問紙法の概説/質問紙実習の解説	質問紙実習の理解・論文の熟読
	2	実習7-2：質問紙調査計画の立て方の解説/取り上げる概念・変数の検討	論文の熟読・概念・変数の検討
	3	実習7-3：質問紙調査計画書の書き方の解説	質問紙調査計画書の作成
	4	実習7-4：質問紙の作成方法の解説	質問紙の作成
	5	実習7-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①	調査計画書と質問紙の修正①
	6	実習7-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②	調査計画書と質問紙の修正②
	7	実習7-7：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の解説	調査計画書と質問紙の完成
	8	実習7-8：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の解説と確認	質問紙と依頼状の完成・実査練習
	9	実習7-9：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計の解説と実習	質問紙調査の実施・データ集計
	10	実習7-10：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察①	図表作成・結果読み取りと考察
	11	実習7-11：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察②	図表作成・結果読み取りと考察
	12	実習7-12：質問紙実習レポート（実習⑦）の書き方の解説	⑦質問紙レポートの作成
	13	実習8-1：実習⑧（観察法）観察法の概説・観察実習の手順の説明と実施・結果の整理	観察結果の整理
	14	実習8-2：観察結果の一致率の検討・図表の書き方の解説	一致率の計算と検討・図表作成
	15	実習8-3：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑧）の書き方の解説	結果読み取り・⑧観察レポート作成
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑦の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の6本…60%</p> <p>※原則として、実習⑦⑧において調査者・調査対象者、観察者の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プロジェクト演習）での研究や実践活動に活かす。その他の心理専門科目の内容と結びつけながら履修するとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習B	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 山岡 明奈	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	実習7-1：実習⑦（行動観察）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	2	実習7-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	3	実習8-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明
	4	実習8-2：取り上げる概念・変数の検討
	5	実習8-3：質問紙調査計画書の書き方の説明
	6	実習8-4：質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説
	7	実習8-5：質問紙の作成方法の説明
	8	実習8-6：質問紙の添削指導とポイント解説
	9	実習8-7：依頼状の作成方法の説明
	10	実習8-8：依頼状の添削指導とポイント解説
	11	実習8-9：調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施
	12	コース・ゼミ選択に向けて
	13	実習8-10：データ分析と図表の作成
	14	実習8-11：図表の添削指導/結果の読み取りと考察
	15	実習8-12：質問紙実習レポートの書き方の説明
16	予備日	
		時間外学習の内容
		データ整理・図表の作成
		実習⑦実験レポート作成
		論文精読
		論文精読
		調査計画書の作成
		調査計画書の修正
		質問紙の作成
		質問紙の修正
		依頼状の作成
		依頼状の修正
		データ集計・入力
		キャリア計画を立てる
		結果の図表の作成
		結果の図表の修正
		実習⑧質問紙レポート作成
		後期の学習内容の総復習

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑧の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60%</p> <p>※原則として、全ての実習において調査者・調査対象者の役割を担い、期限内に実習レポート等を提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、  
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	心理学基礎演習B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	後期	火 2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミュラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1：実習⑦（質問紙法）質問紙法の概説/質問紙実習の解説	質問紙実習の理解・論文の熟読
	2	実習7-2：質問紙調査計画の立て方の解説/取り上げる概念・変数の検討	論文の熟読・概念・変数の検討
	3	実習7-3：質問紙調査計画書の書き方の解説	質問紙調査計画書の作成
	4	実習7-4：質問紙の作成方法の解説	質問紙の作成
	5	実習7-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①	調査計画書と質問紙の修正①
	6	実習7-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②	調査計画書と質問紙の修正②
	7	実習7-7：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の解説	調査計画書と質問紙の完成
	8	実習7-8：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の解説と確認	質問紙と依頼状の完成・実査練習
	9	実習7-9：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計の解説と実習	質問紙調査の実施・データ集計
	10	実習7-10：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察①	図表作成・結果読み取りと考察
	11	実習7-11：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察②	図表作成・結果読み取りと考察
	12	実習7-12：質問紙実習レポート（実習⑦）の書き方の解説	⑦質問紙レポートの作成
	13	実習8-1：実習⑧（観察法）観察法の概説・観察実習の手順の説明と実施・結果の整理	観察結果の整理
	14	実習8-2：観察結果の一致率の検討・図表の書き方の解説	一致率の計算と検討・図表作成
15	実習8-3：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑧）の書き方の解説	結果読み取り・⑧観察レポート作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である</li> </ul>
--------	---

評価	<p>・平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>・レポート（実習⑥、⑦、⑧の各レポート、実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60%</p> <p>※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、  
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習B	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミュラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1：実習⑦（観察法） 観察法の実施・データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	2	実習7-2：結果の読み取りと考察・観察実習レポートの書き方の解説	実習⑦観察レポートの作成
	3	実習8-1：実習⑧（質問紙法） 質問紙法の概説/質問紙実習の説明	論文精読
	4	実習8-2：取り上げる概念・変数の検討	論文精読
	5	実習8-3：質問紙調査計画書の書き方の説明	調査計画書と質問案紙の修正
	6	実習8-4：質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説	調査計画書の修正
	7	実習8-5：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	8	実習8-6：質問紙の添削指導とポイント解説	質問紙の修正
	9	実習8-7：依頼状の作成方法の説明	依頼状の作成
	10	実習8-8：依頼状の添削指導とポイント解説	依頼状の修正
	11	実習8-9：質問紙調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施	データ集計・入力
	12	コース・ゼミ選択に向けて	キャリア計画を立てる
	13	実習8-10：データ分析と図表の作成	結果の図表の作成
	14	実習8-11：図表の添削指導/結果の読み取りと考察	結果の図表の修正
	15	実習8-12：質問紙実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	実習⑧質問紙レポートの作成
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（チューター・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習⑦と⑧）と実習⑦の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60% ※原則として、調査者・調査対象者（観察法は観察者のみ）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、指示された様式で作成すること。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 関連科目：心理統計学基礎、心理学実験B、心理学研究法Ⅱ、心理統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。 次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習）での研究活動や実践活動につなげる。さらに、3年次以降に履修する心理の専門科目の学びにも関連づけていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習B	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 宮良 尚子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ miyara45@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1：実習⑦（行動観察）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	2	実習7-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑦実験レポート作成
	3	実習8-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明	論文精読
	4	実習8-2：取り上げる概念・変数の検討	論文精読
	5	実習8-3：質問紙調査計画書の書き方の説明	調査計画書の作成
	6	実習8-4：質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説	調査計画書の修正
	7	実習8-5：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	8	実習8-6：質問紙の添削指導とポイント解説	質問紙の修正
	9	実習8-7：依頼状の作成方法の説明	依頼状の作成
	10	実習8-8：依頼状の添削指導とポイント解説	依頼状の修正
	11	実習8-9：調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施	データ集計・入力
	12	コース・ゼミ選択に向けて	キャリア計画を立てる
	13	実習8-10：データ分析と図表の作成	結果の図表の作成
	14	実習8-11：図表の添削指導/結果の読み取りと考察	結果の図表の修正
	15	実習8-12：質問紙実習レポートの書き方の説明	実習⑧質問紙レポート作成
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑧の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60%</p> <p>※原則として全ての実習において調査者・調査対象者の役割を担い、期限内に実習レポート等を提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 心理学基礎演習B	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 宮里 新之介	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-616研究室 E-mail : miyazato.s@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1：実習⑦（行動観察）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	2	実習7-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑦実験レポート作成
	3	実習8-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明	論文精読
	4	実習8-2：取り上げる概念・変数の検討	論文精読
	5	実習8-3：質問紙調査計画書の書き方の説明	調査計画書の作成
	6	実習8-4：質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説	調査計画書の修正
	7	実習8-5：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	8	実習8-6：質問紙の添削指導とポイント解説	質問紙の修正
	9	実習8-7：依頼状の作成方法の説明	依頼状の作成
	10	実習8-8：依頼状の添削指導とポイント解説	依頼状の修正
	11	実習8-9：調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施	データ集計・入力
	12	コース・ゼミ選択に向けて	キャリア計画を立てる
	13	実習8-10：データ分析と図表の作成	結果の図表の作成
	14	実習8-11：図表の添削指導/結果の読み取りと考察	結果の図表の修正
	15	実習8-12：質問紙実習レポートの書き方の説明	実習⑧質問紙レポート作成
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑧の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60%</p> <p>※原則として全ての実習において調査者・調査対象者の役割を担い、期限内に実習レポート等を提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 心理学研究法 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	木 5	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。まず、基本的な研究の展開の仕方、研究論文の様式、研究倫理について理解する。次に、前・後期を通し実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。主体的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけている ③実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法によるデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけている ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけている	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/心理学研究法と研究倫理の概説	シラバスなどの理解/次回の予習
	2	実験法①実験法の概説・特徴/実験における変数の理解と扱い方	今回の復習/次回の予習
	3	実験法②実験計画の策定・実験の準備	今回の復習/次回の予習
	4	実験法③実験結果の整理とまとめ方	今回の復習/次回の予習
	5	実験法④実験研究と図表の作り方・結果の読み取り・考察のポイント	今回の復習/次回の予習
	6	文献研究①：文献検索/文献(実験研究論文)の構造の理解・文献カード、レビューの書き方	今回の復習/次回の予習
	7	実験法⑤実験研究と統計解析・実験法の留意点と倫理的配慮	今回の復習/次回の予習
	8	検査法①検査実習	今回の復習/次回の予習
	9	検査法②検査法の概要と特徴	今回の復習/次回の予習
	10	検査法③検査の実施手続き・実施準備	今回の復習/次回の予習
	11	検査法④検査結果の整理とまとめ方・検査法の留意点と倫理的配慮	今回の復習/次回の予習
	12	観察法①観察法の概要と特徴	今回の復習/次回の予習
	13	観察法②観察計画の策定・観察の準備	今回の復習/次回の予習
	14	観察法③観察実習	今回の復習/次回の予習
	15	観察法④観察結果の整理とまとめ方・留意点と倫理的配慮/実践的研究の概要と特徴	全体の復習/期末試験・課題の準備
16	期末テスト	前期の学習内容の総復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤を参考図書として参照してください。 ①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし― 有斐閣アルマ 有斐閣 ②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門―調査・実験から実践まで― 東京大学出版会 ③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版 ⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。 ・予習・復習において、参考資料の2度読みやワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワークを行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。 ・心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外の課題やワークに取り組みながら研究法を学び、心理学基礎演習A・心理学実験Aの実験・実習と結びつけて、実際にやって学ぶを心がけてください。 ・心理カウンセリング専攻学生を優先します。他学科、他専攻の学生の方は、初回の授業で必ず担当教員に相談してください。
-------	--

学びの実践	評価 ①平常点：振り返り課題(15回分)・諸課題(授業内・授業外ワーク)45%、 ②期末課題：心理学研究法比較レジュメ15%、振り返りレポート10% ③期末テスト：30% ※①～③を総合して評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A、心理学実験Aを履修すること。 次のステージ：引き続き、心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学研究法IIを履修する。心理学研究法Iで学んだことを、心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学専門演習IA・B、心理学専門演習IIA・Bにおける学習や卒業論文研究に繋げてほしい。
-------	---



科目基本情報	科目名 心理学研究法Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 木5	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。前期の心理学研究法Ⅰの学びに続き、実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。さらに、各研究法の特徴を踏まえた研究立案の視点を身につける。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方(道具)です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)、研究力の基礎を身につけている ③実験、観察、調査、検査、面接などの研究手法によるデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけている ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけている	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション/心理学研究法と研究倫理の概説
	2	文献研究②文献(質問紙研究論文)の構造の理解・文献カード、レビューの書き方
	3	調査法(質問紙法)①質問紙法の概要と特徴
	4	調査法(質問紙法)②質問紙計画の策定・質問紙の構成の理解
	5	調査法(質問紙法)③質問紙計画の策定・質問項目の検討
	6	調査法(質問紙法)④質問紙計画の策定・質問紙案の検討
	7	調査法(質問紙法)⑤質問紙の依頼状の作成/質問紙実査の準備
	8	調査法(質問紙法)⑥質問紙の結果の整理とまとめ方
	9	調査法(質問紙法)⑦質問紙法のデータ分析と図表作成/発表資料の作成
	10	調査法(質問紙法)⑧質問紙法の留意点と倫理的配慮
	11	研究の流れ：研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理
	12	面接法(調査的面接)①面接法の概要と特徴
	13	面接法(調査的面接)②面接計画の策定・面接の準備
	14	面接法(調査的面接)③面接実習
	15	面接法(調査的面接)④面接結果の整理とまとめ方・面接法の留意点と倫理的配慮
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスの理解/今回の課題と復習
		今回の課題と復習
		今回の課題と復習
		今回の課題と復習
		今回の課題と復習
		今回の課題と復習
		今回の課題と復習
		今回の課題と復習
		全体の復習/期末試験・課題の準備
		後期の学習内容の総復習

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書として参照してください。  
 ①高野陽太郎・岡隆(編)(2010)．心理学研究法一心を見つめる科学のまなざしー有斐閣アルマ 有斐閣  
 ②南風原朝和 他(編)(2006)．心理学研究法入門ー調査・実験から実践までー 東京大学出版会  
 ③宮谷真人・坂田省吾(代編)(2009)．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房  
 ④心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版  
 ⑤心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房

学びの手立て  
 ・心理学の専門的な参考文献(テキスト、配布資料や参考図書)を読んで理解するには、2度読み(下読み、分析読み)をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。  
 ・予習・復習において、参考資料の2度読みやワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワークを行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。  
 ・心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外の課題やワークに取り組みながら研究法を学び、心理学基礎演習B・心理学実験Bの実験・実習と結びつけて、実際にやって学ぶを心がけてください。  
 ・心理カウンセリング専攻学生を優先します。他学科、他専攻の学生の方は、必ず初回の授業で担当教員に相談してください。

評価  
 ①平常点：振り返り課題(15回分)・諸課題(授業内・授業外ワーク)45%、  
 ②期末課題：心理学研究法比較レジュメ15%、振り返りレポート10%  
 ③期末テスト：30%  
 ※①～③を総合して評価する。

学びの継続  
 次のステージ・関連科目  
 関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学実験Bを履修すること。次のステージ：心理学研究法Ⅰ・Ⅱで学んだことを、他の心理専門科目と結びつけて学んでほしい。卒業論文研究を目指す場合は、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理調査法を履修し、心理学専門演習ⅠA・B、心理学専門演習ⅡA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。社会や日常の諸問題を心理学研究法の視点を通して理解し考える態度を実践してほしい。

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名 心理学実験A	期別 前期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 宮良 尚子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ miyara45@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説	実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1: 実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実験レポート作成
	5	実習1-4: 文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	6	実習2-1: 実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	7	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポート作成
	8	実習3-1: 実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	9	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポート作成
	10	実習4-1: 実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	11	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポート作成
	12	実習5-1: 実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	13	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポート作成
	14	実習6-1: 実習⑥（心理検査法）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	15	実習6-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑥実験レポート作成
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名 心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者 宮里 新之介	前期	火 3	1
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：13-616 E-mail：miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説
	2	実習1-1：実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方の解説
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	5	実習1-4：文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説
	6	実習2-1：実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	7	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	8	実習3-1：実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	9	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	10	実習4-1：実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	11	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	12	実習5-1：実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	13	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	14	実習6-1：実習⑥（心理検査法）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	15	実習6-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
16	予備日	
		時間外学習の内容
		実験実習・実験法の理解
		記憶実験と実験手続きの理解
		データ整理・図表の作成
		実験レポート作成
		実習①実験レポート最終版の作成
		データ整理・図表の作成
		実習②実験レポートの作成
		データ整理・図表の作成
		実習③実験レポートの作成
		データ整理・図表の作成
		実習④実験レポートの作成
		データ整理・図表の作成
		実習⑤実験レポートの作成
		データ整理・図表の作成
		実習⑥実験レポート作成
		前期の総復習・質問紙法の予習

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名 心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者 山岡 明奈	前期	火 3	1
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説
	2	実習1-1：実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方の解説
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	5	実習1-4：文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説
	6	実習2-1：実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	7	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	8	実習3-1：実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	9	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	10	実習4-1：実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	11	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	12	実習5-1：実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	13	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
	14	実習6-1：実習⑥（心理検査法）の実施/データ整理と図表の書き方の解説
	15	実習6-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説
16	予備日	
		時間外学習の内容
		実験実習・実験法の理解
		記憶実験と実験手続きの理解
		データ整理・図表の作成
		実験レポート作成
		実習①実験レポート最終版の作成
		データ整理・図表の作成
		実習②実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習③実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習④実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習⑤実験レポート作成
		データ整理・図表の作成
		実習⑥実験レポート作成
		前期の総復習・質問紙法の予習

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理学統計法I・II</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験法・観察法などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	上田 幸彦	前期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室13号館 2 1 3 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義を踏まえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際の実験実習を体験することによって学んでください。現場での臨床心理士としての経験を踏まえ、実際の臨床場面でも応用される心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について学んでもらいます。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。</p> <p>③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方の諸説明/実験法の概説	実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1：実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2：データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説/文献検索の解説と実習	実験レポート作成・文献検索課題
	5	実習1-4：実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	6	実習2-1：実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	7	実習2-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポート作成
	8	実習3-1：実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	9	実習3-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポート作成
	10	実習4-1：実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	11	実習4-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポート作成
	12	実習5-1：実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	13	実習5-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポート作成
	14	実習6-1：実習⑥（心理検査法）心理検査法の概説・心理検査手順の説明と実施/結果の整理の解説	検査の実施方法・結果の整理の復習
15	実習6-2：結果の読み取り・所見のまとめ方・心理検査レポート（実習⑥）の書き方の解説	結果読み取り・実習⑥レポート作成	
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）認定心理士資格準拠 - 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 - 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法） Vol.2（質問紙法） Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>
----	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理を十分に注意すること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問すること。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>平常点（実験実習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の6本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法I・II、心理統計法I・II</p> <p>。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	前期	火3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、9つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。</p> <p>③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	配布資料・実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1: 実験実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きについての解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	結果の読み取り・実験レポート作成
	5	文献検索のポイント解説/文献検索実習	文献検索課題
	6	実習1-4: 実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポート最終版の作成
	7	実習2-1: 実験実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	8	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習④実験レポート作成
	9	実習3-1: 実験実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	10	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習⑤実験レポート作成
	11	実習4-1: 実験実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	12	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習②実験レポート作成
	13	実習5-1: 実験実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表の書き方のポイント解説	データ整理・図表の作成
	14	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方のポイント解説	実習③実験レポート作成
15	実習6-1: 質問紙法の概説/質問紙実習の説明	質問紙実習の理解・関連論文の熟読	
16	予備日/振り返り・アンケート協力	予備日	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎— 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（実験実習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤）の5本…60%</p> <p>※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。研究計画書は問題と目的、方法、結果の整理、引用文献を含むこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A、心理学研究法Ⅰを履修すること。次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。心理学基礎演習Aおよび心理学実験Aの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験A	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	前期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶的自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/実習の進め方についての諸説明/実験法の概説	配布資料・実験実習・実験法の理解
	2	実習1-1:実習①（記憶の自由再生実験）の実施/実験テーマと実施手続きの解説	記憶実験と実験手続きの理解
	3	実習1-2: データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	4	実習1-3: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実験レポート作成
	5	実習1-4: 文献検索実習/実験レポートの添削指導・ポイント解説	実習①実験レポートの完成
	6	実習2-1:実習②（ミューラー・リエル錯視）の実施/データ整理と図表作成の解説	データ整理・図表の作成
	7	実習2-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習②実験レポート作成
	8	実習3-1:実習③（パーソナル・スペース）の実施/データ整理と図表作成の解説	データ整理・図表の作成
	9	実習3-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習③実験レポート作成
	10	実習4-1:実習④（訓練の転移）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	11	実習4-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習④実験レポート作成
	12	実習5-1:実習⑤（視覚的短期記憶）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	13	実習5-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑤実験レポート作成
	14	実習6-1:実習⑥（心理検査法）検査法の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
15	実習6-2: 結果の読み取り・所見のまとめ方・心理検査レポートの書き方の解説	実習⑥検査レポートの作成	
16	予備日	前期の総復習・質問紙法の予習	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎— 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実験実習①～⑤と検査実習⑥）の6本…60%</p> <p>※原則として、全実習において実験者・実験参加者（検査者・被検者）の役割を担い、期限内に実験・実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実験・実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ。</p> <p>次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学実験B、心理学研究法Ⅱを履修すること。心理学基礎演習A、心理学実験Aで学んだことを、その他の心理の専門科目と関連づけて履修を進めていくとよい。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	前堂 志乃	後期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 5-431 e-mail mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶的自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Bの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	実習7-1：実習⑦（観察法） 観察法の実施・データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成	
	2	実習7-2：結果の読み取りと考察・観察実習レポートの書き方の解説	実習⑦観察レポートの作成	
	3	実習8-1：実習⑧（質問紙法） 質問紙法の概説/質問紙実習の説明	論文精読	
	4	実習8-2：取り上げる概念・変数の検討	論文精読	
	5	実習8-3：質問紙調査計画書の書き方の説明	調査計画書の作成	
	6	実習8-4：質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説	調査計画書の修正	
	7	実習8-5：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成	
	8	実習8-6：質問紙の添削指導とポイント解説	質問紙の修正	
	9	実習8-7：依頼状の作成方法の説明	依頼状の作成	
	10	実習8-8：依頼状の添削指導とポイント解説	依頼状の修正	
	11	実習8-9：質問紙調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施	データ集計・入力	
	12	コース・ゼミ選択に向けて	キャリア計画を立てる	
	13	実習8-10：データ分析と図表の作成	結果の図表の作成	
	14	実習8-11：図表の添削指導/結果の読み取りと考察	結果の図表の修正	
	15	実習8-12：質問紙実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	実習⑧質問紙レポートの作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田吾吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎— 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑦の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60%</p> <p>※原則として、調査者・調査対象者（観察法は観察者のみ）の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。実習レポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、指示された様式で作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学実験B、心理学研究法Ⅱ、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。</p> <p>次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習）での研究活動や実践活動につなげる。さらに、3年次以降に履修する心理の専門科目の学びにも関連づけていくとよい。</p>
-------	---



※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名 心理学実験B	期別 後期	曜日・時限 火3	単位 2
	担当者 宮良 尚子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ miyara45@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミュラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1：実習⑦（行動観察）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	2	実習7-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑦実験レポート作成
	3	実習8-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明	論文精読
	4	実習8-2：取り上げる概念・変数の検討	論文精読
	5	実習8-3：質問紙調査計画書の書き方の説明	調査計画書の作成
	6	実習8-4：質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説	調査計画書の修正
	7	実習8-5：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	8	実習8-6：質問紙の添削指導とポイント解説	質問紙の修正
	9	実習8-7：依頼状の作成方法の説明	依頼状の作成
	10	実習8-8：依頼状の添削指導とポイント解説	依頼状の修正
	11	実習8-9：調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施	データ集計・入力
	12	コース・ゼミ選択に向けて	キャリア計画を立てる
	13	実習8-10：データ分析と図表の作成	結果の図表の作成
	14	実習8-11：図表の添削指導/結果の読み取りと考察	結果の図表の修正
	15	実習8-12：質問紙実習レポートの書き方の説明	実習⑧質問紙レポート作成
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Bの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑧の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60%</p> <p>※原則として全ての実習において調査者・調査対象者の役割を担い、期限内に実習レポート等を提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名 心理学実験B	期別 後期	曜日・時限 火3	単位 1
	担当者 宮里 新之介	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-616研究室 E-mail: miyazato.s@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。 ③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1: 実習⑦（行動観察）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	2	実習7-2: 結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑦実験レポート作成
	3	実習8-1: 質問紙法の概説/質問紙実習の説明	論文精読
	4	実習8-2: 取り上げる概念・変数の検討	論文精読
	5	実習8-3: 質問紙調査計画書の書き方の説明	調査計画書の作成
	6	実習8-4: 質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説	調査計画書の修正
	7	実習8-5: 質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	8	実習8-6: 質問紙の添削指導とポイント解説	質問紙の修正
	9	実習8-7: 依頼状の作成方法の説明	依頼状の作成
	10	実習8-8: 依頼状の添削指導とポイント解説	依頼状の修正
	11	実習8-9: 調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施	データ集計・入力
	12	コース・ゼミ選択に向けて	キャリア計画を立てる
	13	実習8-10: データ分析と図表の作成	結果の図表の作成
	14	実習8-11: 図表の添削指導/結果の読み取りと考察	結果の図表の修正
	15	実習8-12: 質問紙実習レポートの書き方の説明	実習⑧質問紙レポート作成
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書に常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成等）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努める。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント：教育支援者）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切である。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑧の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60%</p> <p>※原則として全ての実習において調査者・調査対象者の役割を担い、期限内に実習レポート等を提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。

[ /実験実習]

科目基本情報	科目名	心理学実験B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	山岡 明奈	後期	火3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室：5-534研究室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（自由再生、ミュラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、心理検査法、質問紙法、行動観察）を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけていく。	メッセージ	心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標	<p>①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。</p> <p>②実験法、検査法、質問紙法、観察法の実証的手法に関する8つの実習を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。</p> <p>③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。</p> <p>④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。</p>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	実習7-1：実習⑦（行動観察）の実施/データ整理と図表の書き方の解説	データ整理・図表の作成
	2	実習7-2：結果の読み取りと考察/実験レポートの書き方の解説	実習⑦実験レポート作成
	3	実習8-1：質問紙法の概説/質問紙実習の説明	論文精読
	4	実習8-2：取り上げる概念・変数の検討	論文精読
	5	実習8-3：質問紙調査計画書の書き方の説明	調査計画書の作成
	6	実習8-4：質問紙調査計画書の添削指導とポイント解説	調査計画書の修正
	7	実習8-5：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成
	8	実習8-6：質問紙の添削指導とポイント解説	質問紙の修正
	9	実習8-7：依頼状の作成方法の説明	依頼状の作成
	10	実習8-8：依頼状の添削指導とポイント解説	依頼状の修正
	11	実習8-9：調査の実施準備と実施方法の確認/質問紙調査の実施	データ集計・入力
	12	コース・ゼミ選択に向けて	キャリア計画を立てる
	13	実習8-10：データ分析と図表の作成	結果の図表の作成
	14	実習8-11：図表の添削指導/結果の読み取りと考察	結果の図表の修正
15	実習8-12：質問紙実習レポートの書き方の説明	実習⑧質問紙レポート作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。</p> <p>①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル 北大路書房</p> <p>②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）．認定心理士資格準拠 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 金子書房</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版</p> <p>④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Bの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>

学びの実践	評価
	<p>平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</p> <p>レポート（実習⑦と⑧）と実習⑧の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の5本…60%</p> <p>※原則として全ての実習において調査者・調査対象者の役割を担い、期限内に実習レポート等を提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。</p>

科目基本情報	科目名 心理学実験B	期別 後期	曜日・時限 火3	単位 1
	担当者 上田 幸彦	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：13号館213 y.ueda@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナル・スペース、質問紙法）について実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究方法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ 心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究方法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないところを心理学的研究方法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に取り組むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。 ③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。”	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	実習7-1：実習⑦（質問紙法）質問紙法の概説/質問紙実習の解説
	2	実習7-2：質問紙調査計画の立て方の解説/取り上げる概念・変数の検討
	3	実習7-3：質問紙調査計画書の書き方の解説
	4	実習7-4：質問紙の作成方法の解説
	5	実習7-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①
	6	実習7-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②
	7	実習7-7：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の解説
	8	実習7-8：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の解説と確認
	9	実習7-9：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計の解説と実習
	10	実習7-10：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察①
	11	実習7-11：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察②
	12	実習7-12：質問紙実習レポート（実習⑦）の書き方の解説
	13	実習8-1：実習⑧（観察法）観察法の概説・観察実習の手順の説明と実施・結果の整理
	14	実習8-2：観察結果の一致率の検討・図表の書き方の解説
	15	実習8-3：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑧）の書き方の解説
16	予備日	
		時間外学習の内容
		質問紙実習の理解・論文の熟読
		論文の熟読・概念・変数の検討
		質問紙調査計画書の作成
		質問紙の作成
		調査計画書と質問紙の修正①
		調査計画書と質問紙の修正②
		調査計画書と質問紙の完成
		質問紙と依頼状の完成・実査練習
		質問紙調査の実施・データ集計
		図表作成・結果読み取りと考察
		図表作成・結果読み取りと考察
		⑦質問紙レポートの作成
		観察結果の整理
		一致率の計算と検討・図表作成
		結果読み取り・⑧観察レポート作成
		後期の学習内容の総復習

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）認定心理士資格準拠 - 実験・実習で学ぶ心理学の基礎 - 金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法） Vol.2（質問紙法） Vol.3（観察・面接法） ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法） 北大路書房
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理を十分に注意すること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Aの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問すること。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。”</li> </ul>
--------	---

評価	平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40% レポート（実習⑦と⑧）と実習⑦の質問紙調査計画書完成版、質問紙完成版、依頼状（2種）の6本…60% ※原則として、実習⑦⑧において調査者・調査対象者、観察者の役割を担い、期限内に実習レポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習のレポートは、原則として、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすこと。質問紙調査計画書、質問紙、依頼状は、適切な様式で作成すること。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習A・B、心理学実験A・B、心理学研究法Ⅱ、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理調査法。次へのステージ：心理学基礎演習A・B、心理学実験A・Bでの学びを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習・プログラムの演習）での研究活動や実践活動に活かす。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。
-------	---

科目基本情報	科目名	心理学実験B	期別	曜日・時限	単位
	担当者	平山 篤史	後期	火 3	1
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	研究室 : 13-211 E-mail : atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	基本的な心理学研究方法を用いた8つの実習（心理検査法、行動観察、記憶の自由再生、ミューラー・リエル錯視、視覚的短期記憶、訓練の転移、パーソナルスペース、質問紙法）について実験者・参加者の立場で実習を行う。各実習テーマについて、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成し、実証科学の研究法の基礎を体験的に身につけてもらう。	メッセージ	心理学基礎演習Aの講義をふまえ、目には見えない心を測定する心理学的研究法について、実際に実験実習を体験することによって学んでください。心の科学的な測定方法と客観的なデータ解析法について、主体的・積極的な姿勢で教員、SA、ゼミ仲間と協働しながら学ぶことで、体験的に研究の基礎力を身につけましょう。
	到達目標	①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。 ②実験法、観察法、検査法などの実証的研究手法について、8つの実験実習を通して体験的に理解し、身につけることができる。 ③研究目的・仮説の設定、方法の立案、データ収集・分析・考察の仕方など、科学論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。 ④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	実習6-2：質問紙調査計画の立て方／質問紙調査計画書の書き方の説明	質問紙調査計画書の作成	
	2	実習6-3：質問紙の作成方法の説明	質問紙の作成	
	3	実習6-4：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説①	質問紙調査計画書と質問紙の修正①	
	4	実習6-5：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説②	質問紙調査計画書と質問紙の修正②	
	5	実習6-6：質問紙調査計画書と質問紙の添削指導とポイント解説③/依頼状の作成方法の説明	質問紙調査計画書と質問紙の完成	
	6	実習6-7：依頼状の検討/調査の実施準備と実施方法の確認	質問紙と依頼状の完成/実査練習	
	7	実習6-8：質問紙調査の実施/回収票のチェックとデータ集計	質問紙調査の実施・データ集計	
	8	実習6-9：データ分析と図表の作成/結果の読み取りと考察	図表作成・結果の読み取りと考察	
	9	実習6-10：質問紙実習レポート（実習⑥）の書き方/発表用資料の作成方法の説明	発表資料作成・発表練習	
	10	実習6-11：質問紙実習発表会	実習⑥質問紙レポートの作成	
	11	実習6-12：質問紙実習および発表会の振り返り	実習⑥質問紙レポートの作成	
	12	実習7-1：観察法の概説・観察法実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成	
	13	実習7-2：観察法の結果の読み取りと考察・観察実習レポート（実習⑦）の書き方の説明	結果読み取り・⑦観察レポート作成	
	14	実習8-1：心理検査法の概説・心理検査実習の手順・実施方法・データ整理・図表作成の説明	データ整理・図表作成	
	15	実習8-2：結果の読み取りと考察・心理検査レポート（実習⑧）の書き方の説明	結果読み取り・⑧検査レポート作成	
16	予備日	後期の学習内容の総復習		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。 ①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）. 心理学基礎実習マニュアル 北大路書房 ②日本心理学会 認定心理士資格認定協会（編）（2015）. 認定心理士資格準拠一実験・実習で学ぶ心理学の基礎—金子書房 ③心理学基礎演習シリーズVol.1(実験法)、Vol.2(質問紙法)、Vol.3(観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④心理学マニュアルシリーズ(研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法) 北大路書房

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。</li> <li>・この授業では、心理学基礎演習Bの講義内容を踏まえて実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）を行う必要がある。2つの授業を欠かさず受講するよう心がけてもらいたい。</li> <li>・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。</li> <li>・困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。</li> </ul>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点（実験への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%</li> <li>・レポート（実習⑥⑦⑧の各レポート、質問紙実習⑥の質問紙調査計画書完成版と質問紙完成版の5本）…60%</li> </ul> ※原則、全課題において実施者・参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものとする。質問紙調査計画書と質問紙は、教員に指示された適切な様式で作成すること。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。 次のステージ：3年次の心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修すると共に、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、卒業研究へと展開させていくことや実践活動に役立てることができるだろう。心理学基礎演習Bおよび心理学実験Bの学びを、その他の心理専門科目の内容と結びつけて履修を進めると良い。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文研究・活動実践報告に必要な力を身に着ける。具体的には、卒業論文・活動実践報告書の書き方を学び、文献・情報収集、研究・活動計画立案を行う。	2年次までに積み上げてきた心理学での学びを踏まえて、卒業研究・活動実践に必要な力を身に着けていきましょう。自分が何を知りたいのか、何をやりたいのかを自覚し、ゼミの仲間と協力して取り組みましょう。

学びの準備	到達目標
	①人間の心や行動に関する疑問や関心を心理学的な理論や専門用語を用いて理解し、説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に実験・質問紙等）を用いて、心理学的現象について調べ、研究するために必要な力を身に着ける。 ③現代社会における諸問題について、心理学的な視点から分析し、考察するために必要な力を身に着け、卒業論文研究や実践活動へと展開させることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミメンバーの顔合わせ・オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	対人交流グループ・ワーク	授業内容の振り返り
	3	人を対象とする研究の倫理について	授業の復習
	4	研究記録の書き方/活動記録の書き方	授業の復習
	5	文献検索の仕方、文献/情報のまとめ方	文献を検索してみる
	6	研究計画/活動計画の立て方	授業の復習
	7	研究方法の検討/活動方法の検討	授業の復習
	8	分析方法の検討/活動結果の評価方法の検討	情報収集をする
	9	論文/活動報告書の書き方1	授業の復習
	10	論文/活動報告書の書き方2	授業の復習
	11	文献レビュー1/情報収集2	文献レビュー/情報収集
	12	文献レビュー2/活動計画の作成1	文献レビュー/情報収集
	13	文献レビュー3/活動計画の作成2	文献レビュー/情報収集
	14	研究テーマの決定/活動計画の発表	活動計画書の作成
15	今後の研究/活動の計画の修正	授業の復習	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する
-------	-------------------------------

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①ゼミ活動は、正課内・外で自主的に動くことが不可欠であることを常に自覚し、行動しましょう。 ②発表担当の回は、責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うようにしましょう。 ③ゼミメンバーと協力し合い、互いを思いやりながら活動を楽しみましょう。 ④疑問や質問は、まず自分たちで調べて考えるようにしましょう。その上で分からないことは教員や先輩に相談するようにしましょう。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>・研究・活動への関与度（50%）と、研究・実践活動への理解（50%）で評価します。関与度は授業の出席率、遅刻の有無、ゼミ内での発表・質問・コメントなど発言の積極性、コメントシートの内容も評価対象になります。理解は、進捗報告の内容、研究・活動の成果等が評価対象となります。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱなど。 次のステージとして心理学専門演習ⅠB、心理プロジェクト演習ⅠBの履修につなげましょう。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒論作戦の前段階として、実際の心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的アプローチが可能であることを知ることによって、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	【実務経験】これまでの臨床心理士・公認心理師としての経験とともに、日常生活の中での困ったこと、何げない疑問や不思議に思うことを、いかに心理学の研究として明らかにしていくかを伝えていきます。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）研究基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	論文①中途障害関連 輪読	論文の読み込み
	2	論文① 輪読	論文の読み込み
	3	論文① 輪読	論文の読み込み
	4	論文②高次脳機能障害関連 輪読	論文の読み込み
	5	論文② 輪読	論文の読み込み
	6	論文② 輪読	論文の読み込み
	7	論文③ 高次脳機能障害リハビリテーション関連 輪読	論文の読み込み
	8	論文③ 輪読	論文の読み込み
	9	論文③ 輪読	論文の読み込み
	10	論文④糖尿病と心理学関連 輪読	論文の読み込み
	11	論文④ 輪読	論文の読み込み
	12	論文④ 輪読	論文の読み込み
	13	論文⑤糖尿病へのグループアプローチ関連 輪読	論文の読み込み
	14	論文⑤ 輪読	論文の読み込み
15	論文⑤ 輪読 夏休み課題の説明	論文の読み込み 課題の選択	
16			

テキスト・参考文献・資料など	参考文献：「心理社会的リハビリテーションのキーワード」イーゼンバーグ編 岩崎学術出版社 「病気のひとのこころ」日本心理学会監修 誠心書房 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 風間書房
----------------	--

学びの手立て	①ゼミは学生が自ら積極的に関与することが不可欠であることを強く意識して参加すること。 ②論文を読んで生じた疑問や質問などは、まず自分で調べ、考え、その上でどうしても分からない場合は、ゼミ中に積極的に教員に尋ねること。
--------	---

評価	ゼミにおける質問や発表の積極性（50%）、他のゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度（50%）により評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A, B 心理学研究法 I, II 心理統計学基礎、心理統計学 I、II 次のステージ心理学専門演習 I B 卒業研究
-------	---

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅠA	期別	曜日・時限	単位
	担当者 平山 篤史	前期	月 3	2
		対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 平山ゼミは、心理学専門コースおよびキャリア実践心理コース向けのゼミです。卒業論文制作または、活動実践報告書をまとめます。卒論グループは所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論（文献精読、研究計画、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）の習得を目指します。実践活動グループは、活動についての計画・経過報告・報告書作成についての検討を行います。	メッセージ チームで課題を乗り越えていきます。そのプロセスで、科学的な視点、多角的視点で考える力、追求していく力、継続する力、協働する力、コミュニケーション能力など就職活動や社会に出て役立つ様々な力を伸ばすことができます。また大きな課題に向き合うことは、自分自身にも向き合うこととなります。ゼミの活動を通して皆さんが、さらに成長するお手伝いをします。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究や実践活動を通して、論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、科学的視点、共感的視点を身につける。 ③これまで学んだことを活用して社会貢献する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ゼミメンバーの顔合わせ
	2	活動および研究グループ編成とテーマ選択
	3	活動および研究グループ編成とテーマ決定
	4	グループワークの理論と技法①
	5	グループワークの理論と技法②
	6	グループワークの理論と技法③
	7	グループワークの臨床・教育・福祉領域への活用
	8	動作を通した心身へのアプローチ（動作法を中心として）の理論と技法①
	9	動作を通した心身へのアプローチ（動作法を中心として）の理論と技法②
	10	動作を通した心身へのアプローチ（動作法を中心として）の理論と技法③
	11	動作法の臨床・教育・福祉領域への活用
	12	対人不安の悩みに関する理論と支援①
	13	対人不安の悩みに関する理論と支援②
	14	対人不安の悩みに関する理論と支援③
	15	対人不安の悩みに対する心理教育
16	予備日	
		時間外学習の内容
		研究・活動テーマについて調べる
		研究・活動テーマについて調べる
		研究・活動テーマについて調べる
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		研究・活動テーマの検討
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		研究・活動テーマの検討
		リフレクションシート
		リフレクションシート
		研究・活動テーマの検討
		最終レポート作成

実践	テキスト・参考文献・資料など 推奨図書（テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。） 松井 豊（2010）改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 丹野義彦・坂本真士（2001）自分のこころからよむ臨床心理学入門 東京大学出版会 坂本真士・佐藤健二（2004）はじめての臨床社会心理学入門 有斐閣 鶴光代（2007）臨床動作法への招待 金剛出版 高良聖（2013）サイコドラマの技法 岩崎学術出版社
----	--

学びの手立て	①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。 ②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。 ③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。 ④実践活動・研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上で報告・連絡・相談を怠らないことが大事です。
--------	---

評価	・活動への関与度(50%)、研究報告・活動報告(50%)により評価します。関与度は、文献調査、ディスカッション、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。 ・研究報告・活動報告は、研究・活動計画書の内容、活動の取り組み等によって評価します。 ・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理プロジェクト演習ⅠA・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理学専門演習ⅠB」「心理学専門演習ⅡA/B」「心理プロジェクト演習ⅡA・B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義の目的は卒業論文研究・活動実践報告の基礎力を獲得することである。卒業論文研究・活動実践を行い、卒業論文・実践報告をまとめるまでのプロセスの習得を目指す。前半は、卒業論文研究・活動実践の進め方と卒業論文・実践報告の書き方を学ぶ。後半は、文献研究・情報収集、研究計画案・活動計画案の策定に取り組む。	2年次までに積み上げてきた心理学の学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力または実践活動へとつなげる社会人基礎力を身につけていこう。日常生活の中で感じる疑問や不思議に思うことを心理学研究方法を用いて実証的に明らかにすること、誰かの社会の役に立ちたい気持ちと心理学の知と技を結びつけ実践することを目指す。真摯に、楽しみながら、みんなでゼミ活動に取り組もう。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、質問紙、観察など）を用いて、心理学的現象を調べ論理的に考え説明できる研究基礎力を身につけることができる。心理学の知識や技法を社会生活に応用する実践基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための研究基礎力を身につけ、卒業研究へと展開させることができる。心理学の知識や技法を応用して社会貢献できる実践基礎力（社会人基礎力）を身につけ、実践活動へと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/授業計画の確認/ゼミメンバーの確認	授業計画の理解/次回に向けた予習
	2	4年次の卒論構想発表資料の理解	振り返り・振り返りシート作成
	3	人を対象とする研究・実践活動に関する倫理について	授業内容の復習
	4	心理学研究の流れ・問題意識とリサーチクエスチョン/実践報告の流れ・活動目的	日常の問題意識・社会貢献の検討
	5	文献検索と文献レビュー・情報収集について	文献検索をやってみる
	6	研究計画の策定/活動計画の策定	研究計画/活動計画を立ててみる
	7	研究方法の検討/活動方法の検討	研究方法/活動方法を考えてみる
	8	データの測定・整理/活動記録（日誌）の取り方と整理	授業の復習/関連文献を見てみる
	9	データ分析/活動内容・効果の評価①	授業の復習/関連文献を見てみる
	10	データ分析/活動内容・効果の評価②	授業の復習/関連文献を見てみる
	11	結果の読み取りとまとめ・図表の作成/活動内容・効果の評価の理解とまとめ・図表の作成	授業の復習/関連文献を見てみる
	12	研究結果の考察/活動内容の振り返りと修正点・改善点の抽出	授業の復習/関連文献を見てみる
	13	論文の書き方/活動実践報告書の書き方①	授業の復習/関連文献を見てみる
	14	論文の書き方/活動実践報告書の書き方②	授業の復習/関連文献を見てみる
	15	研究の成果発表の仕方/活動実践報告の発表の仕方	授業の復習/関連文献を見てみる
16	予備日	夏休みの課題/文献検索・精読	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。</li> <li>・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。</li> </ul> <p>松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社          白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房          都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ          山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房</p>

学びの手立て	<p>①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。</p> <p>②発表担当の回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。</p> <p>③ゼミ活動（研究・実践活動）には楽しみと成長する苦しみがあります。楽しみつつ目標をクリアし成長する苦しみを乗り越えるには、お互いの思いやりと協力する気持ちが必要です。体調やスケジュール管理をし、お互いこまめに連絡を取り合い情報を共有しながら協働していこう。</p> <p>④疑問や質問などはまずは自分たちで調べ、語り合い、考える。その上で分からない点については、教員や院生や先輩に確認する。ゼミの縦横斜めでザッソウ（雑談と相談）をやってみよう。</p>
--------	---

評価	ゼミ活動への関与度(60%)、研究と実践活動の過程についての理解度(40%)により評価します。関与度は、ゼミ内での発表・質問の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、対話への参加度、振り返りシートの提出などにより評価します。ゼミの発表・対話の機会における、感想・意見を述べる態度、聴く態度も評価の対象になります。研究・実践活動の過程についての理解度は、研究活動および実践活動の過程に関するまとめレポート、卒論および実践報告書の書き方に関するレジュメなどの提出により評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理プロジェクト演習ⅠA、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次のステージ：心理学専門演習ⅠB、心理プロジェクト演習ⅠBの履修につなげ、卒業研究/実践活動へと展開しましょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I A	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	3年	研究室13-616 E-Mail : miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業の目的は、卒業論文研究・活動実践報告に必要な力を身につけることである。卒業論文研究・活動実践を行い、卒業論文・実践報告の書き方を学ぶ。	大学で何を学んだのか、その経験がどうこの後に活かせるのかを自分の言葉で表現できるようになってほしい。そのために、自分の関心事について自主的に調べ、他者に説明したりディスカッションしたりする中で研究／実践活動のテーマを決め、それをどう実現化していくかをしっかり考えることを望む。
到達目標	①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（実験、質問紙、観察など）を用いて、心理学的現象を調べ論理的に考え説明できる研究基礎力を身につけることができる。心理学の知識や技法を社会生活に応用する実践基礎力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（ゼミメンバーの顔合わせ・関心のあるテーマの確認など）	授業内容の復習
	2	人を対象とする研究・実践活動の倫理	授業内容の復習
	3	文献検索の仕方／文献のまとめ方	文献を1つ以上精読
	4	心理学研究の展開／実践活動の展開	授業内容の復習
	5	研究計画／実践活動計画の立て方	授業内容の復習
	6	研究方法／実践活動方法の検討	授業内容の復習
	7	分析方法／実践活動結果の評価の仕方	授業内容の復習
8	論文／実践活動報告書の書き方①	授業内容の復習	
9	論文／実践活動報告書の書き方②	文献検索・レジュメ作成	
10	文献読み合わせ①	文献検索・レジュメ作成	
11	文献読み合わせ②	文献検索・レジュメ作成	
12	文献読み合わせ③	文献検索・レジュメ作成	
13	文献読み合わせ④	研究テーマの絞り込み	
14	研究テーマの選定	研究テーマの絞り込み	
15	研究テーマの決定	研究計画書の作成	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	授業内で適宜紹介する		
学びの手立て	①発表担当の回は責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うこと。 ②他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。 ③疑問や質問についてはまず自分で調べる。その上で十分理解が得られない場合には教員に相談すること。		
評価	ゼミでの質問や発表の積極性（50%）、他のゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度（50%）により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ 次のステージ：心理学専門演習ⅠB、心理プロジェクト演習ⅠB
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I B	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学専門演習 I Aで学んだことを踏まえて、卒業論文研究・活動実践報告に向けた活動を行っていく。具体的には、研究テーマに関連する文献のレビュー、研究材料の作成、活動実践の実行を行う。	2年次までに積み上げてきた心理学での学びを踏まえて、卒業研究・活動実践に必要な情報集め・材料作成・実行準備を行いましょ
到達目標	①人間の心や行動に関する疑問や関心を心理学的な理論や専門用語を用いて理解し、説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に実験・質問紙等）を用いて、心理学的現象について研究するために必要な準備を行うことができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的な視点から分析し、考察するために必要な準備を行い、卒業論文研究や実践活動へと展開させることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	研究テーマに関する文献レビュー1/実践活動のための準備・材料づくり1	文献レビュー/準備を進める
	3	研究テーマに関する文献レビュー2/実践活動のための準備・材料づくり2	文献レビュー/準備を進める
	4	研究テーマに関する文献レビュー3/実践活動のための準備・材料づくり3	文献レビュー/準備を進める
	5	研究デザインの精査1/実践活動計画の発表1	研究デザインの検討/発表準備
	6	研究デザインの精査2/実践活動計画の発表2	研究デザインの検討/発表準備
	7	研究デザインの精査3/実践活動計画の発表3	研究デザインの検討/発表準備
	8	研究デザイン発表1/実践活動のための準備・材料づくり4	発表準備/準備を進める
	9	研究デザイン発表2/実践活動のための準備・材料づくり5	発表準備/準備を進める
	10	研究デザイン発表3/実践活動のための準備・材料づくり6	発表準備/準備を進める
	11	研究デザインの精査4/実践活動の実行1	研究デザインの検討/実践
	12	研究デザインの精査5 /実践活動の実行2	研究デザインの検討/実践
	13	卒論構想発表会のプレ発表1/実践活動の途中経過報告1	発表準備
14	卒論構想発表会のプレ発表2/実践活動の途中経過報告2	発表準備	
15	卒論構想発表会のプレ発表3/実践活動の途中経過報告3	発表準備	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する		
	学びの手立て		
	①ゼミ活動は、正課内・外で自主的に動くことが不可欠であることを常に自覚し、行動しましょう。 ②発表担当の回は、責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うようにしましょう。 ③ゼミメンバーと協力し合い、互いを思いやりながら活動を楽しみましょう。 ④疑問や質問は、まず自分たちで調べて考えるようにしましょう。その上で分からないことは教員や先輩に相談するようにしましょう。		
	評価		
	・研究・活動への関与度（50％）と、研究・実践活動への理解（50％）で評価します。関与度は授業の出席率、遅刻の有無、ゼミ内での発表・質問・コメントなど発言の積極性、コメントシートの内容も評価対象になります。理解は、研究計画書の内容、研究・活動の成果等が評価対象となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II、心理学専門演習 I A・IB、心理プロジェクト演習 I A・IB。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅠB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	3年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒論作成の前段階として、実際の心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的支援が可能であることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士・公認心理師としての経験にもとづき、実際心理臨床の現場にはどのような課題があるのかを伝えていきます。
	到達目標 現代社会にはどのような障害、難病があり、それに人間心理がどのように関連するのかを理解する。そこに心理学がどのように寄与できるのかを学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏休み読書課題 発表①	発表の準備
	2	〃 発表②	発表の準備
	3	〃 発表③	発表の準備
	4	〃 発表④	発表の準備 レポート作成
	5	論文⑥ 偏見関連 輪読	論文の読み込み
	6	論文⑥ 輪読	論文の読み込み
	7	論文⑥ 輪読	論文の読み込み
	8	論文⑦ 認知行動療法関連 輪読	論文の読み込み
9	論文⑦ 輪読	論文の読み込み	
10	論文⑦ 輪読	論文の読み込み	
11	選択した論文紹介①	論文紹介の準備	
12	選択した論文紹介②	論文紹介の準備	
13	選択した論文紹介③	レポート作成	
14	卒論構想発表	卒論構想を考える	
15	卒論構想発表	卒論構想の再検討	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など 参考文献：「心理社会的リハビリテーションのキーワード」イーゼンバーグ編 岩崎学術出版社 「病気のひとのこころ」日本心理学会編 誠信書房 「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著 風間書房			
学びの手立て 学術論文を読みこなす力を高めることが重要である。まず一読し、さらに重要な箇所をマークし、わからない用語があれば自分で調べ、引用文献に興味を引くものがあればその文献を入手して読む、などを積極的に行うこと。			
評価 平常点（輪読時の積極性、質問・コメント）・・・70%、選択論文のレポート・・・30% によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージは心理学専門演習Ⅱ 関連科目としてストレスマネジメント
-------	--

科目基本情報	科目名 心理学専門演習 I B	期別 後期	曜日・時限 月 3	単位 2
	担当者 前堂 志乃	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学専門演習 I Aで学んだ研究基礎力（文献研究、研究計画策定、データ収集・解析、結果の読み取りと考察、卒論作成）や実践基礎力（情報収集、活動計画策定、実践活動と記録、振り返り・評価、活動報告書作成）を用い、卒業論文研究計画/実践活動計画を策定する。具体的には、文献検索・レビュー、研究・活動計画の策定、卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告を行う。	メッセージ 3年前期までの心理学の学びを踏まえ卒論研究・実践活動に取り組む準備をしよう。ゼミの共通テーマと自分の疑問や関心を結びつけるよう意識し、日常体験、授業での学び、芸術・文化、社会の出来事など様々なことにアンテナを張り、卒論研究・実践活動の計画を策定しよう。研究と活動の基本は自発性とゼミ仲間と教員との協働です。真摯に、楽しみながら、みなでゼミ活動に取り組もう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に、質問紙調査法）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。心理学の知識や技法を社会生活に応用する力を身につけることができる。 ③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究テーマへと展開させることができる。心理学の知識や技法とをもって社会貢献できる活動実践力と社会人基礎力を身につけ、それを実践活動へと展開させ実践報告としてまとめることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/夏休みの課題の報告	授業計画の理解/課題の振り返り
	2	研究スケジュールの検討/実践活動スケジュールの検討	研究・活動スケジュールの検討
	3	文献検索・情報収集とレビューについて	文献・資料の検索と読み込み
	4	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定①文献の読み込みと文献レビュー発表-1	文献の読み込み・発表の振り返り
	5	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定②文献の読み込みと文献レビュー発表-2	文献の読み込み・発表の振り返り
	6	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定③テーマの設定・計画の検討・プレ発表-1	研究・活動計画書の検討・作成
	7	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定④テーマの設定・計画の検討・プレ発表-2	研究・活動計画書の検討・作成
	8	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑤テーマの設定・計画の検討・プレ発表-3	研究・活動計画書の検討・作成
	9	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑥研究・活動計画案発表-1（レジュメ形式）	研究・活動計画書の完成・振り返り
	10	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑦研究・活動計画案発表-2（レジュメ形式）	研究・活動計画書の完成・振り返り
	11	卒業論文研究計画策定/実践活動計画策定⑧研究・活動計画案発表-3（レジュメ形式）	研究・活動計画書の完成・振り返り
	12	卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告①（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
	13	卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告②（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
	14	卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告③（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
	15	卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告④（構想発表会/実践報告会形式）	発表・報告会パワポ作成・振り返り
16	予備日	プレ発表・報告会振り返り	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。 ・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。 松井 豊 2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房 都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 山田剛史・林創 2011 大学生のためのリサーチリテラシー入門 ミネルヴァ書房
----	--

学びの手立て	・ゼミは、毎時の発表（文献紹介、研究・活動テーマ紹介、研究・活動計画発表、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究・活動に関する質疑応答・対話・個別指導・助言を組み合わせる。 ・卒論研究と実践活動の計画検討はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な取り組みが重要になる。 ・卒論と実践活動を進めるにはゼミ仲間との協働（積極的に意見交換・交流を持ち互いの意見や考え方を共有する、各自が役割や責任を果たし、自発的に協力し合って研究・活動をする）が重要になる。 ・研究・活動に関する疑問や課題は、ゼミ仲間、先輩、教員、院生とのザッソウと対話を通して、整理し明確にしていくとよい。
--------	--

評価	到達目標①と②：文献紹介、研究・活動テーマ紹介、各自の卒論構想発表・実践活動報告（研究・活動計画書および発表内容）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、各自の研究・活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの協働などを評価（30%）
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理学統計法 I・II、心理学基礎演習 A・B、心理学専門演習 I A、心理プロジェクト演習 I A、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）。次のステージ：心理学専門演習 II A・B、心理プロジェクト演習 II A・Bを履修する。3年ゼミを通して身につけた心理学的視点と研究・実践基礎力をもとに、卒業研究・実践活動へと展開しよう。
-------	---

科目基本情報	科目名 心理学専門演習 I B	期別 後期	曜日・時限 月 3	単位 2
	担当者 平山 篤史	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 平山ゼミは、心理学専門コースおよびキャリア実践心理コース向けのゼミです。卒業論文制作または、活動実践報告書をまとめます。卒論グループは所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論（文献精読、研究計画、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）の習得を目指します。実践活動グループは、活動についての計画・経過報告・報告書作成についての検討を行います。	メッセージ チームで課題を乗り越えていきます。そのプロセスで、科学的な視点、多角的視点で考える力、追求していく力、継続する力、協働する力、コミュニケーション能力など就職活動や社会に出ても役立つ様々な力を伸ばすことができます。また大きな課題に向き合うことは、自分自身にも向き合うこととなります。ゼミの活動を通して皆さんが、さらに成長するお手伝いをします。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。 ②心理学の実証的研究や実践活動を通して、論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、科学的視点、共感的視点を身につける。 ③これまで学んだことを活用して社会貢献する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>心理学専門演習 I Aでの体験を踏まえて下記のテーマから研究テーマおよび活動テーマを選択する</p> <p>(1) 研究テーマ</p> <p>①大学生の友人関係および適応に関する研究 特に切り口として、対人不安、シャイネス、自己呈示、対人交流（親密化過程）、役割、公的自己意識や客体的自覚状態といった自己注目の理論からの検討</p> <p>②グループワークを用いた基礎研究・実践的研究 大学生に対する対人交流、シャイネスの低減をねらいとしたグループアプローチ、ロールプレイングを用いたグループ活動プログラム開発と基礎研究。</p> <p>③動作法・こころとからだのつながりについての研究</p> <p>&lt;講義計画&gt;</p> <p>1、(2週) 研究テーマ決定と文献・資料の検索、収集</p> <p>2、(5週) 文献・論文の精読・要約報告とディスカッション</p> <p>3、(5週) 研究計画の作成途中経過の報告と検討</p> <p>4、(2週) 研究方法についての検討</p> <p>(2) 活動プロジェクトテーマ</p> <p>①グループアプローチによる教育・臨床活動 大学生に対する対人交流、シャイネスの低減をねらいとしたグループアプローチのプログラム開発と効果研究。オープンキャンパス、合格者事前オリエンテーション、新入生1日研修会でのプログラム開発。小中高校での対人交流プログラム開発。</p> <p>②動作法を用いた実践研究：障がい児者に対する動作法を用いた支援。動作法を用いたストレスマネジメント。</p> <p>③貧困家庭児童生徒に対するスポーツ活動支援</p> <p>④大学生の適応に関する心理教育プログラム</p> <p>&lt;講義計画&gt;</p> <p>1、(2週) 活動テーマ決定と文献・資料の検索、収集</p> <p>2、(2週) 文献・論文の精読・要約報告とディスカッション</p> <p>3、(5週) 研究計画の作成途中経過の報告と検討</p> <p>4、(6週) 活動方法についての検討</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>推奨図書（テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。）</p> <p>松井 豊 (2010) 改訂新版：心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社</p> <p>丹野義彦・坂本真士 (2001) 自分のこころからよむ臨床心理学入門 東京大学出版会</p> <p>坂本真士・佐藤健二 (2004) はじめての臨床社会心理学入門 有斐閣</p> <p>鶴光代 (2007) 臨床動作法への招待 金剛出版</p> <p>高良聖 (2013) サイコドラマの技法 岩崎学術出版社</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。</p> <p>②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。</p> <p>③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。</p> <p>④実践活動・研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上で報告・連絡・相談を怠らないことが大事です。</p>
<p>評価</p> <p>・活動への関与度(50%)、研究報告・活動報告(50%)により評価します。関与度は、文献調査、ディスカッション、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価しす。</p> <p>・研究報告・活動報告は、研究・活動計画書の内容、活動の取り組み等によって評価します。</p> <p>・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理プロジェクト演習 I B」と連動して活動を進めていきます。</p> <p>次のステージ：「心理学専門演習 II A/B」「心理プロジェクト演習 II A/B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習 I B	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	3年	研究室13-616 E-Mail : miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学専門演習 I Aで学んだことを踏まえ、卒業論文の作成や実践活動報告に向けた活動を行う。具体的には、研究テーマに関連する文献のレビューや実践活動を行う。	自分の研究/実践活動のテーマについて、それをどう実現化していくのか科学的・論理的に考える力を伸ばしてほしい。そのために、文献のレビューや他者とのディスカッションなどに積極的に取り組むことを望む。

到達目標
①自分の疑問や関心事について、心理学の用語や理論を用いて他者に説明することができる。
②心理学の研究法を用いて、心理学的現象を論理的に考え、他者に説明することができる。
③現代社会における諸問題について心理学的な視点から分析し考察する態度を身につけ、自分の関心事を卒業論文研究や実践活動へと展開させることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と読み込み・レジュメ作成
	2	研究テーマに関する文献レビュー/実践活動のための準備①	文献検索と読み込み・レジュメ作成
	3	研究テーマに関する文献レビュー/実践活動のための準備②	文献検索と読み込み・レジュメ作成
	4	研究テーマに関する文献レビュー/実践活動のための準備③	研究/活動計画書の作成
	5	卒業論文研究デザイン/活動実践計画の策定①	研究/活動計画書の作成
	6	卒業論文研究デザイン/活動実践計画の策定②	研究/活動計画書の作成
	7	卒業論文研究デザイン/活動実践計画の策定③	発表資料の作成
	8	卒業論文研究デザイン/実践活動計画の発表①	発表資料の作成・振り返り
	9	卒業論文研究デザイン/実践活動計画の発表②	発表資料の作成・振り返り
	10	卒業論文研究デザイン/実践活動計画の発表③	振り返り
	11	卒業論文研究デザイン/実践活動計画の精査①	発表/報告会の資料作成
	12	卒業論文研究デザイン/実践活動計画の精査②	発表/報告会の資料作成
	13	卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告①	発表/報告会の資料作成・振り返り
	14	卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告②	発表/報告会の資料作成・振り返り
15	卒業論文プレ構想発表/実践活動プレ報告③	発表/報告会の資料作成・振り返り	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業内で適宜紹介する
-------	------------------------------

学びの手立て	①発表担当の回は責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うこと。 ②他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。 ③疑問や質問についてはまず自分で調べる。その上で十分理解が得られない場合には教員に相談すること。
--------	---

評価	ゼミでの質問や発表の積極性（50%）、他のゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度（50%）により評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法 I・II、心理統計学基礎、心理統計学 I・II、心理学専門演習 I A・IB、心理プロジェクト演習 I A・IB 次のステージ：心理学専門演習 II A、心理学専門演習 II B
-------	--

※ポリシーとの関連性

実験、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できることを示す。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験から、現場ではいかに研究課題を見出し、そしてどのように取り組んでいくかが求められます。心理士の研究者としての側面を高めることを目指します。
	到達目標 夏休み中にデータ収集を行えるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論構想発表①	ゼミ発表準備
	2	卒論構想発表②	ゼミ発表準備
	3	卒論構想発表③	ゼミ発表準備
	4	卒論構想発表④	ゼミ発表準備
	5	卒論進捗状況（方法）発表 ①	ゼミ発表準備
	6	卒論進捗状況（方法）発表 ②	ゼミ発表準備
	7	卒論進捗状況（方法）発表 ③	ゼミ発表準備
	8	卒論進捗状況（方法）発表 ④	ゼミ発表準備
	9	卒論進捗状況（方法）発表 ⑤	ゼミ発表準備
	10	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ①	ゼミ発表準備
	11	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ②	ゼミ発表準備
	12	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ③	ゼミ発表準備
	13	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表 ④	ゼミ発表準備
	14	卒論進捗状況（データ収集状況）発表 ①	ゼミ発表準備
	15	卒論進捗状況（データ収集状況）発表 ②	ゼミ発表準備
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版		
	学びの手立て 卒論の進め方、データ分析の仕方などわからない場合は、大学院生、担当教員に積極的に聞くこと。		
	評価 平常点（毎回の授業での発言・質問状況）・・・50%、論文作成過程での取り組み方・・・50% によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学専門演習ⅡB
-------	--------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文・活動報告としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文・活動報告をまとめることとなります。自分の研究テーマ、活動テーマを設定し、これまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成、活動プロジェクトの実践のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>

学びの準備	到達目標
	<p>1、自分の卒業論文・活動プロジェクトについて、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成・活動プロジェクトを通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成・活動プロジェクトを通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況・活動プロジェクトの経過報告書をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告し、ゼミメンバーで検討会を行う。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>4月～5月中旬 先行研究・文献の精読と研究デザインの検討 6月末 問題と目的・方法の検討 7月～11月上旬 予備調査とデータ収集 11月中旬 中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討） 11月下旬～12月上旬 まとめの作業 12月中旬 卒業論文・活動プロジェクトの報告書提出 1月 発表準備（ポスター資料制作、発表練習） 2月中旬 卒業論文・活動プロジェクトの報告書提出発表会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社 適宜紹介する。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>卒論・活動プロジェクト報告書はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論・活動プロジェクト報告書は、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
	<p>評価</p> <p>構想発表、デザイン発表、研究計画書などの卒業論文・活動プロジェクト報告書の途中経過を評価する（60%） ゼミへの参加態度・研究への取り組み態度・ゼミへの貢献度（他ゼミメンバーの研究報告に対する質問、意見、助言、協力姿勢）（40%）</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>

科目基本情報	科目名 心理学専門演習ⅡA	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	月 3	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講は、卒業研究/活動実践を行い、卒業論文/報告書にまとめることを目的とする。卒論研究は構想発表を踏まえ卒業論文のテーマを設定、関連文献のレビュー、研究デザインの策定、研究デザインに沿った適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。活動実践は活動計画に沿った活動実践を継続し、報告書にまとめ発表を行う。	メッセージ 4年間心理学を専門的に学んできた集大成としての卒論研究/実践活動です。卒論研究を行うことで人々に役立つ新しい知識を発見・発信することができ、実践活動で心理学の知識や技法を応用することで社会貢献ができます。卒論研究/実践活動の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。共に研究/実践を楽しみ、研究力/実践力を高め、成長していきましょう。
	到達目標 ①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる ②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力が身につけている。心理学の知識や技法を社会生活に応用する実践力が身につけている。 ③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度が身につけている。心理学の知識や技法を応用して社会貢献できる実践力（社会人基礎力）と態度が身につけている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/授業計画の確認	年間計画・振り返り報告の準備
	2	卒論構想発表会/実践報告/振り返り	研究デザイン検討・実践内容検討
	3	卒業論文の研究デザインと研究計画についての検討/これまでの実践内容の確認・検討	研究デザイン修正・実践計画検討
	4	卒業論文の研究デザインと研究計画の策定/実践活動計画の策定	研究デザイン・実践計画の策定
	5	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）/実践活動と経過報告	研究デザイン修正・実践と振り返り
	6	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）/実践活動と経過報告	研究デザイン修正・実践と振り返り
	7	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）/実践活動と経過報告	研究デザイン修正・実践と振り返り
	8	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	9	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	10	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	11	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備/予備実験・予備調査）/実践活動と経過報告	研究計画の具体化/実践と振り返り
	12	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動
	13	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動
	14	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動
15	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）/実践活動と経過報告	卒論研究の諸活動/実践活動	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい ①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方—おいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣 ②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社 ③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版 ④小宮あすか・布井雅人(2018). Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社 ⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する		
	学びの手立て ・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究活動の進捗状況報告、実践活動の経過報告、履修・進路状況報告、年間計画のリ・スケジュールなど）と活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせて進める。 ・卒論研究や実践活動はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な活動が重要になる。 ・研究や実践を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。		
	評価 到達目標①と②：発表や計画書などの内容（研究/実践活動の成果）を評価する（70%） 到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒論研究または実践活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学研究法ⅠⅡ、心理統計学基礎、心理学統計法ⅠⅡ、心理学基礎演習AB、心理学実験AB、心理学専門演習ⅠAB、心理プロジェクト演習ⅠAB、その他、心理専門科目と共通科目。次のステージ：卒論研究を通して身につけた心理学的視点と研究力、実践活動を通して身につけた心理学の知識と技法の応用力と実践力を、社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	4年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文研究・活動実践報告書を実行し、卒業論文・報告書にまとめる。具体的には、卒業論文研究・活動実践のために必要な材料の作成。実行、データ・活動結果の分析、まとめを行い、卒業論文・活動実践報告書をまとめる。	3年次までに積み上げてきた心理学での学びを踏まえて、卒業研究・活動実践に必要な力を身に付けていきましょう。自分が何を知りたいのか、何をやりたいのかを自覚し、ゼミの仲間と協力して取り組みましょう。

到達目標
①人間の心や行動に関する疑問や関心を心理学的な理論や専門用語を用いて理解し、説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に実験・質問紙等）を用いて、心理学的現象について調べ、研究するために必要な力を身に付ける。 ③現代社会における諸問題について、心理学的な視点から分析し、考察するために必要な力を身に付け、卒業論文研究や実践活動を実行し、その成果をまとめることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・授業計画の確認	各班での活動
	2	卒論・実践活動の構想発表会	各班での活動
	3	卒論・実践活動の構想発表会の振り返りと修正	各班での活動
	4	卒論・実践活動の材料作成	各班での活動
	5	卒論・実践活動の材料作成	各班での活動
	6	卒論・実践活動の材料作成	各班での活動
	7	卒論・実践活動の材料作成	各班での活動
	8	卒論・実践活動の実行	各班での活動
	9	卒論・実践活動の実行	各班での活動
	10	卒論・実践活動の実行	各班での活動
	11	卒論・実践活動の実行	各班での活動
	12	卒論・実践活動の実行	各班での活動
	13	卒論・実践活動のデータ分析	各班での活動
	14	卒論・実践活動のデータ分析	各班での活動
15	今後の計画の確認	各班での活動	
16	予備日		

学びの手立て
①ゼミ活動は、正課内・外で自主的に動くことが不可欠であることを常に自覚し、行動しましょう。 ②発表担当の回は、責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うようにしましょう。 ③ゼミメンバーと協力し合い、互いを思いやりながら活動をしましょう。 ④疑問や質問は、まず自分たちで調べて考えるようにしましょう。その上で分からないことは教員や先輩に相談するようにしましょう。

評価
・研究・活動への関与度（50％）と、研究・実践活動への理解（50％）で評価します。関与度は授業の出席率、遅刻の有無、ゼミ内での発表・質問・コメントなど発言の積極性、コメントシートの内容も評価対象になります。理解は、構想発表会の内容、進捗報告の内容、研究・活動の成果等が評価対象となります。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBなど。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡA	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	4年	研究室13-616 E-Mail: miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学専門演習ⅠA・ⅠBで学んだことを踏まえ、卒業論文の作成や実践活動報告に向けた活動を行う。	これまでの学びを活かし、自分の研究／実践活動のテーマについて科学的・論理的に考える力を伸ばし、卒業論文作成や実践活動報告につなげて欲しい。

到達目標
①現代社会における諸問題について心理学的な視点から分析し考察する態度を身につけ、自分の関心事を卒業論文研究や実践活動へと展開させることができる。
②心理学の研究法を用いて研究するために必要な力を身につける。
③卒業論文研究や実践活動を実行し、成果をまとめることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	各個人・各班での活動
	2	卒論構想発表会及び実践報告	各個人・各班での活動
	3	卒論構想発表会・実践報告の振り返りと修正	各個人・各班での活動
	4	卒論の研究計画の検討・実践内容の検討①	各個人・各班での活動
	5	卒論の研究計画の検討・実践内容の検討②	各個人・各班での活動
	6	卒論の研究計画の検討・実践内容の検討③	各個人・各班での活動
	7	研究デザイン発表・実践活動経過報告	各個人・各班での活動
	8	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ①	各個人・各班での活動
	9	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ②	各個人・各班での活動
	10	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ③	各個人・各班での活動
	11	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ④	各個人・各班での活動
	12	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ⑤	各個人・各班での活動
	13	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ⑥	各個人・各班での活動
	14	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ⑦	各個人・各班での活動
15	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）・実践活動経過まとめ⑧	各個人・各班での活動	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業内で適宜紹介する
-------	------------------------------

学びの手立て	①発表担当の回は責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うこと。 ②他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。 ③疑問や質問についてはまず自分で調べる。その上で十分理解が得られない場合には教員に相談すること。
--------	---

評価	活動の進捗状況（50%）、及び他のゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度（50%）により評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠB 次のステージ：心理学専門演習ⅡB
-------	--

※ポリシーとの関連性

実験、調査などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を示す。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦	4年	上田幸彦まで	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。	メッセージ 【実務経験】これまでの臨床心理士としての経験をもとに、データから臨床的に意義のある（実際に役立つ）解釈ができるように指導します。12月初旬にはデータ分析を終わり、後半には考察に取り組めるように進めること。
	到達目標 卒論を完成させ、卒論発表会で発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論進捗状況（データ分析）発表①	データの整理
	2	卒論進捗状況（データ分析）発表②	データの整理
	3	卒論進捗状況（データ分析）発表③	データの整理
	4	卒論進捗状況（データ分析）発表④	データの整理
	5	卒論進捗状況（データ分析）発表⑤	データ分析
	6	卒論進捗状況（データ分析）発表⑥	データ分析
	7	卒論進捗状況（データ分析）発表⑦	データ分析
	8	卒論進捗状況（データ分析）発表⑧	データ分析
	9	卒論進捗状況（考察）発表①	研究の記述
	10	卒論進捗状況（考察）発表②	研究の記述
	11	卒論進捗状況（考察）発表③	研究の記述
	12	卒論進捗状況（考察）発表⑤	研究の記述
	13	卒論進捗状況（考察）発表⑥	卒論提出
	14	卒論発表会 予演 ①	発表準備
15	卒論発表会 予演 ②	発表準備	
16			
テキスト・参考文献・資料など 日本心理学会編 『心理学研究』執筆・投稿の手引き 改訂版			
学びの手立て 各種の統計分析方法に慣れること。考察のためにさらに文献にあたる必要がある。			
評価 論文作成過程での取り組み・・・50%、提出された論文の内容・・・50% から評価する。。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文発表会での発表、卒論抄録集の作成
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者 前堂 志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講は、卒業研究/活動実践を行い、卒業論文/報告書にまとめることを目的とする。卒論研究は構想発表を踏まえ卒業論文のテーマを設定、関連文献のレビュー、研究デザインの策定、研究デザインに沿った適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。活動実践は活動計画に沿った活動実践を継続・発展させ、報告書にまとめ発表を行う。</p> <p>到達目標</p> <p>①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる</p> <p>②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力が身につけている。心理学の知識や技法を社会生活に応用する実践力が身につけている。</p> <p>③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度が身につけている。心理学の知識や技法を応用して社会貢献できる実践力（社会人基礎力）と態度が身につけている。</p>	<p>4年間心理学を専門的に学んできた集大成としての卒論研究/実践活動です。卒論研究を行うことで人々に役立つ新しい知識を発見・発信することができ、実践活動で心理学の知識や技法を応用することで社会貢献ができます。卒論研究/実践活動の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。共に研究/実践を楽しみ、研究力/実践力を高め、成長していきましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/前期の活動の振り返り	後期の研究活動の計画を立てる
	2	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論アウトライン作成）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	3	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論アウトライン作成）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	4	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	5	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・整理/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	6	卒論研究の実施（データ整理・データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	7	卒論研究の実施（データ整理・データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動	卒論研究諸活動/実践活動
	8	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	9	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	10	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	11	卒論研究の実施（データ解析/解析結果の表現/卒論の執筆）/実践活動（報告書まとめ準備）	卒論研究諸活動/実践活動
	12	卒論研究の実施（結果の読み取り・考察/引用文献/卒論執筆）/実践活動・報告書まとめ	卒論研究諸活動/実践活動
	13	卒論研究の実施（結果の読み取り・考察/引用文献/卒論執筆）/実践活動・報告書まとめ	卒論研究諸活動/実践活動
	14	卒論研究の実施（結果の読み取り・考察/引用文献/卒論完成・提出）/実践活動報告書まとめ	発表会のための準備
15	卒論研究の実施（発表会の準備・予演/卒論の加筆・修正）/報告書提出・発表準備・予演	発表会のための準備	
16	予備日（発表会（2月）/抄録集原稿提出）	卒業論文/報告書最終提出準備	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい</p> <p>①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ 有斐閣アルマ 有斐閣</p> <p>②松井 豊(2010). 改訂新版 心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くために 河出書房新社</p> <p>③心理学基礎演習シリーズVol.1 (実験法)、Vol.2 (質問紙法)、Vol.3 (観察・面接法) ナカニシヤ出版</p> <p>④小宮あすか・布井雅人(2018).Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社</p> <p>⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミは、毎時の発表（研究活動の進捗状況報告、実践活動の経過報告、履修・進路状況の報告、年間計画のリ・スケジュールなど）と活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせる。</li> <li>・卒論研究や実践活動はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な活動が重要になる。</li> <li>・研究や実践を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>到達目標①と②：卒業論文発表、卒業論文（ゼミ論）、実践活動報告書、抄録などの内容（研究/実践の成果）を評価する（70%）</p> <p>到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒論研究/実践活動の活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学研究法ⅠⅡ、心理統計学基礎、心理学統計法ⅠⅡ、心理学基礎演習AB、心理学実験AB、心理学専門演習ⅠAB・ⅡA、心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡA、その他、心理専門科目と共通科目。次のステージ：卒論研究を通して身につけた心理学的視点と研究力、実践活動を通して身につけた心理学の知識と技法の応用力と実践力を、社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。</p>	<p>いよいよ卒業論文をまとめることになります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。</p>
到達目標	<p>1、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。 2、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。 3、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる 4、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。 授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。 報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。 授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>2020年度後期は基本的に全て対面授業で行う。 *ただし、大学の講義開講形式の方針によって特例授業に切り替えることもある。</p> <p>4月～5月中旬 先行研究・文献の精読と研究デザインの検討 6月末 問題と目的・方法の検討 7月～11月上旬 予備調査とデータ収集 11月中旬 中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討） 11月下旬～12月上旬 まとめの作業 12月中旬 卒業論文提出 1月 発表準備（ポスター資料制作、発表練習） 2月中旬 卒業論文発表会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版 松井豊 心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために― 河出書房新社 適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までは、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。 ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。</p>
評価	<p>研究計画書などの卒業論文の途中経過を評価する（60%） ゼミへの参加態度・研究への取り組み態度・ゼミへの貢献度（他ゼミメンバーの研究報告に対する質問、意見、助言、協力姿勢）（40%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	4年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文研究・活動実践報告を執行し、卒業論文・報告書にまとめる。具体的には、卒業論文研究・活動実践のために必要な材料の作成。実行、データ・活動結果の分析、まとめを行い、卒業論文・活動実践報告書をまとめる。	3年次までに積み上げてきた心理学での学びを踏まえて、卒業研究・活動実践に必要な力を身に付けていきましょう。自分が何を知りたいのか、何をやりたいのかを自覚し、ゼミの仲間と協力して取り組みましょう。

到達目標
①人間の心や行動に関する疑問や関心を心理学的な理論や専門用語を用いて理解し、説明することができる。 ②心理学の実証的研究法（特に実験・質問紙等）を用いて、心理学的現象について調べ、研究するために必要な力を身に着ける。 ③現代社会における諸問題について、心理学的な視点から分析し、考察するために必要な力を身に着け、卒業論文研究や実践活動を執行し、その成果をまとめることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーションと授業計画の確認	各班での活動
	2	卒論・実践活動のデータ分析	各班での活動
	3	卒論・実践活動のデータ分析	各班での活動
	4	卒論・実践活動のデータ分析	各班での活動
	5	卒論・実践活動のデータ分析	各班での活動
	6	卒業論文・実践活動報告書の作成	各班での活動
	7	卒業論文・実践活動報告書の作成	各班での活動
	8	卒業論文・実践活動報告書の作成	各班での活動
	9	卒業論文・実践活動報告書の作成	各班での活動
	10	卒業論文・実践活動報告書の作成	各班での活動
	11	卒業論文・実践活動報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	12	卒業論文・実践活動報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	13	卒業論文・実践活動報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	14	卒業論文・実践活動報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
15	卒業論文・実践活動の発表会	各班での活動	
16	予備日	各班での活動	

テキスト・参考文献・資料など	・授業内で適宜紹介する
----------------	-------------

学びの手立て
①ゼミ活動は、正課内・外で自主的に動くことが不可欠であることを常に自覚し、行動しましょう。 ②発表担当の回は、責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うようにしましょう。 ③ゼミメンバーと協力し合い、互いを思いやりながら活動をしましょう。 ④疑問や質問は、まず自分たちで調べて考えるようにしましょう。その上で分からないことは教員や先輩に相談するようにしましょう。

評価
・研究・活動への関与度（50％）と、研究・実践活動への理解（50％）で評価します。関与度は授業の出席率、遅刻の有無、ゼミ内での発表・質問・コメントなど発言の積極性、コメントシートの内容も評価対象になります。理解は、進捗報告の内容、研究・活動の成果等が評価対象となります。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBなど。



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学専門演習ⅡB	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	4年	研究室13-616 E-Mail: miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学専門演習ⅠA・ⅠB・ⅡAで学んだことを踏まえ、卒業論文の作成や実践活動報告に向けた活動を行う。	これまでの学びを活かし、自分の研究／実践活動のテーマについて科学的・論理的に考える力を伸ばし、卒業論文の完成や実践活動報告につなげて欲しい。

到達目標
①現代社会における諸問題について心理学的な視点から分析し考察する態度を身につけ、自分の関心事を卒業論文研究や実践活動へと展開させることができる。
②心理学の研究法を用いて研究するために必要な力を身につける。
③卒業論文研究や実践活動を実行し、成果をまとめ、発表することができる。

学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	各個人・各班での活動
	2	卒論・実践活動の進捗報告①(データ分析)	各個人・各班での活動
	3	卒論・実践活動の進捗報告②(データ分析)	各個人・各班での活動
	4	卒論・実践活動の進捗報告③(データ分析)	各個人・各班での活動
	5	卒論・実践活動の進捗報告④(データ分析)	各個人・各班での活動
	6	卒論・実践活動の進捗報告⑤(データ分析)	各個人・各班での活動
	7	卒論・実践活動の進捗報告⑥(考察)	各個人・各班での活動
	8	卒論・実践活動の進捗報告⑦(考察)	各個人・各班での活動
学びの実践	9	卒論・実践活動の進捗報告⑧(考察)	各個人・各班での活動
	10	卒論・実践活動の進捗報告⑨(考察)	各個人・各班での活動
	11	卒論・実践活動の進捗報告⑩(考察)	各個人・各班での活動
	12	卒業論文・実践活動報告のプレゼンテーション資料作成①	各個人・各班での活動
	13	卒業論文・実践活動報告のプレゼンテーション資料作成②	各個人・各班での活動
	14	卒業論文・実践活動報告のプレゼンテーション資料作成③	各個人・各班での活動
	15	卒業論文・実践活動の発表会	各個人・各班での活動
	16	予備日	
テキスト・参考文献・資料など 授業内で適宜紹介する			
学びの手立て			
①発表担当の回は責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うこと。 ②他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。 ③疑問や質問についてはまず自分で調べる。その上で十分理解が得られない場合には教員に相談すること。			
評価			
論文作成過程での取り組み(50%)及び提出された論文の内容(50%)で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠB、心理プロジェクト演習ⅠA・ⅠB、心理学専門演習ⅡA、心理プロジェクト演習ⅡA
	次のステージ：卒業論文発表会での発表、卒論抄録集の作成

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学的支援法	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 遼太郎	3年	大学用のメールアドレスへ連絡、必要があればメール以外の連絡手段を検討します。	

学びの準備	ねらい 公認心理師に必要な心理学的支援法について体系的な知識を身につけることを目的とします。 体系的な知識を持っていることが専門的活動の前提条件と考えて下さい。	メッセージ 臨床心理学も心理学全般も（あるいはすべての学問や実践は）日進月歩で発展しています。支援の原理原則を理解しながら、新しい視点や既知の別の視点を取り入れる柔軟性とバランス感覚を、私も皆さんと一緒に研鑽していきたいと思っています。各階の講義テーマは予告なく変更される場合があります。この科目は心理カウンセリング専攻公認心理師コース限定の科目です。
	到達目標 心理学的支援法について知識を身に付け、他者に説明できることが目標で、評価の対象になります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読むこと
	2	心理学的支援とは	課題
	3	代表的心理療法1 心理力動論	課題
	4	代表的心理療法2 行動論	課題
	5	代表的心理療法2 システム論	課題
	6	心理学的支援における価値と倫理	課題
	7	援助的コミュニケーション	課題
	8	支援の技術1	課題
9	支援の技術2	課題	
10	支援の技術3	課題	
11	遊戯療法	課題	
12	集団療法	課題	
13	心理コンサルテーション	課題	
14	コミュニティ支援	課題	
15	心の健康教育	課題	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 杉原保史ら（2019）公認心理師標準テキスト 心理学的支援法 北大路書房（2970円） 斎藤清二（2018）総合臨床心理学原論：サイエンスとアートの融合のために 北大路書房（2420円）  基本的には上記の2冊を参考図書として内容を構成します。その他の資料は適宜紹介します。		
	学びの手立て 基本的に大学の規則に従って対応しますので、各自大学の規則を把握しておいて下さい。 内容の変更などあれば適宜連絡します。 受講者がシラバスに事前に目を通して、予習復習をしている前提で講義を進めます。ご協力お願いします。 効率的に学習を進めるためにICTを活用できる場所は取り入れていきたいと思っておりますが、受講者と相談しながら工夫したいと思います。ただし、大学が提供している基本的なICTツール（Moodleや学内メールなど）は受講者みなさんが使える前提で考えています。		
	評価 講義の内容に関して、体系的な知識を身に付けたかどうか期末のテストで評価します。テストには論述を含みます。 評価配点 期末テスト100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 臨床心理学系専門科目
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学統計法 I	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の論文を読むために必要な統計の知識を学ぶことと、卒業研究で統計的な分析を行うために必要な技術を身に付けることを目的とした授業です。	メッセージ 卒業論文執筆に必要な技術を一緒に身に付けていきましょう！
	到達目標 ①心理学の論文を読むために必要な統計の知識を理解する ②収集したデータの下処理、分析方法の選択、分析の実行ができるようになる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/データセットの下処理	データセットの下処理
	2	HADの基本操作と記述統計量の算出	記述統計量の表の作成
	3	散布図と相関係数	相関係数の結果の作成
	4	t検定	t検定の結果の作成
	5	一要因参加者間分散分析	分散分析の結果の作成
	6	一要因参加者内分散分析	分散分析の結果の作成
	7	二要因分散分析（解説）	二要因分散分析の理解
	8	二要因分散分析（演習）	二要因分散分析の結果の作成
9	回帰分析（解説）	回帰分析の理解	
10	回帰分析（演習）	回帰分析の結果の作成	
11	因子分析（解説）	因子分析の理解	
12	因子分析（演習）	因子分析の結果の作成	
13	パス解析、共分散構造分析	パス解析の結果の作成	
14	その他の分析（媒介分析、 $\alpha$ 係数、 $\chi^2$ 検定）	講義の復習	
15	まとめと復習	講義の復習	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 配布される資料に基づいて授業を進めます 【参考資料】 小宮 あすか・布井 雅人（2018）Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける 講談社		
	学びの手立て ・一度授業を休んでしまうとついていくのが難しくなりますので、原則毎回出席するようにしてください。 ・HADという統計ソフトを用いて授業を進めていきます。データの保存のためにUSBがあると便利です。		
	評価 ・平常点（30%）と課題（70%）で評価します。平常点には出席率や遅刻回数も含まれます。課題は毎回の授業で課します。課題の提出率と内容も評価対象となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・心理統計学基礎を履修してから受講するようにしてください ・この講義で学んだ内容を、心理学専門演習ⅡA・ⅡBに生かしましょう
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学と心理的支援	後期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	1年	ptt861@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ニーズが多様化する現代社会において、心理学的援助技術を取り入れた対人援助を求める機運が高まっている。心理療法やカウンセリング技法をふまえた心理学の理論や基礎を理解し、実際の心理的支援について学ぶことを目的とする。	メッセージ 技法の演習やグループディスカッションなど、体験的学習も取り入れる予定です。受講生同士の感想や意見交換もありますので積極的な参加を期待します。
	到達目標 この科目を履修することによって、人の心のはたらきを理解し、成長や回復を期待しつつ働きかけることの意義について理解ができる。また、学んだことを活かして自己を見つめ、多様なニーズに応じた対人援助方法を考える力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	心理学とは	履修登録を確実に済ませる
	2	障害者差別解消法と合理的配慮	振り返りシート記入・提出
	3	学童期までの発達理論	振り返りシート記入・提出
	4	青年期から老年期までの発達理論	振り返りシート記入・提出
	5	さまざまな学習理論	振り返りシート記入・提出
	6	知能理論と知能検査	振り返りシート記入・提出
	7	記憶と忘却	振り返りシート記入・提出
	8	欲求と動機づけ	振り返りシート記入・提出
9	適応とストレス	振り返りシート記入・提出	
10	心理アセスメント・心理検査	振り返りシート記入・提出	
11	心理療法①精神分析	振り返りシート記入・提出	
12	心理療法②行動療法・認知行動療法	振り返りシート記入・提出	
13	心理療法③来談者中心療法	振り返りシート記入・提出	
14	心理療法④さまざまな心理療法	振り返りシート記入・提出	
15	まとめ	振り返りシート記入・提出	
16	期末考査	なし	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書：特に指定せず。講義前に資料を送信します。 参考書：必要に応じて講義内で紹介する。 ：新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援—心理学 第3版 社会福祉士養成講座編集委員会編集 2015		
	学びの手立て ①履修の心構え 意見・感想の発表や、グループディスカッションでは積極的な参加を望む。 ②学びを深めるために 講義内での体験を振り返り、自身が感じたことや疑問に思ったことなどを振り返りシートに記入し、毎回提出することで、自己をみつめる。		
	評価 各成績評価について、評価の割合（全体を100%）を示す。 ①授業への参加度・毎回の振り返りシート内容（70%）②期末考査（30%） 評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 心理学理論が実際に応用されている対人援助場面に関心を持ち、ニーズに応じた対人援助方法を考える機会を積極的に持つ。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講A	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 あすみ	2年	メールをください (a-takahashi@hokusei.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、危機的出来事に関連する心理と心理的支援について学びます。危機には、災害、事件事故、感染症などの社会的な危機から、犯罪被害、死別、失職、貧困、自殺などの個人の危機まで含まれます。これらの危機に遭遇した時の心理や心理的支援に関する理論や実践の学びを通して、皆さんが今後遭遇するかもしれない危機的出来事について一緒に考えていきましょう。</p>	<p>本講義は、人の生死に関する深刻なテーマを扱います。回によっては少人数での話し合いやワークも取り入れます。こうしたテーマは概して自分自身のつらい体験と結びつきやすかったり、内容に強く共感したりして、気持ちが落ち込んだり負担に感じたりする可能性があります。講義では自分でできる心のケアなども扱いますが、心配な人はご相談ください。</p>
到達目標	<p>(1) 危機的出来事による心理的影響を理解できる。                  (2) 危機に関連する心理学理論を説明できる。                  (3) 心理的危機に対して自らに合った対処法を考えることができる。                  (4) 心理的危機に遭遇した人に行われる心理的支援を説明できる。                  (5) 社会的な危機について他者と話すことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：危機とは	配布資料の確認
	2	心理的危機と危機に関する諸理論	諸理論をまとめる
	3	自然災害と緊急支援	実際の災害と支援を調べる
	4	感染症と心理的支援	コロナ禍の心理的問題を調べる
	5	救援者・支援者支援	支援者に起きる問題を調べる
	6	事件事故の被者と被害者支援	実際の事件事故と支援を調べる
	7	学校コミュニティの危機と緊急支援	実際の危機と支援を調べる
	8	犯罪被害と心理療法	心理療法に関する図書を読む
	9	人間関係の危機と心理的支援	自分の危機を振り返っておく
	10	貧困・失職と心理的支援	貧困や失職の状況を調べておく
	11	自殺：実態と理論	自殺の状況を調べておく
	12	自殺予防のゲートキーパー（グループワークを予定）	参考資料に目を通す
	13	死別と喪失、自死遺族支援	参考資料に目を通す
	14	危機前の予防、危機後の成長	自分なりの予防法を考える
15	まとめ	学びから考えられることをまとめる	
16	試験	試験内容を受講生同士で復習する	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書：使用しません。必要に応じて資料を配布します。                  参考文献：『危機への心理的支援（心の専門家養成講座11）』（森田美弥子、松本真理子、金井篤子（監修）、ナカニシヤ出版） 『危機への心理支援学—91のキーワードでわかる緊急事態における心理社会的アプローチ』（日本心理臨床学会支援活動プロジェクト委員、遠見書房） 『こころの危機への心理学的アプローチ—個人・コミュニティ・社会の観点から』（窪田由紀、森田美弥子、氏家達夫（監修）、混合出版）</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>受講前に、関心のある危機的出来事について考え、実際に起きた社会的危機を調べたり、身の回りの危機を振り返ったりしてみるとよいでしょう。                  講義の中だけでは一つ一つのテーマを深めていくことが難しいため、講義の中で提示する参考資料に目を通しましょう。また、危機的出来事に関連した体験は、なかなか他の人と話しにくいテーマでもありますが、これを機に周囲の人と話し合い、危機について対話ができるようになりましょう。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>毎回リアクションペーパーに、簡単な問題と、感想や質問を記入してもらいます（20%）。最後に授業内で扱った知識の確認と、考えたことについて記載を求める試験を課します（80%）。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>自分の関心の強いテーマの一つ見つけて、それに関連する図書、文献をたくさん読みましょう。世の中の危機管理の課題を考えてみましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学特講C	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鮫島 智行	2年	ptt1175@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>解説と演習によってビジネスの現場で必要とされる基礎力のうち、「読み・書き・そろばん」を中心とした力を養う。これにより、専門分野の学習や就職活動を効果的に進め、社会で活躍できる基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>到達目標</p> <p>①読む力の基礎を身に付ける ②書く力の基礎を身に付ける ③数理的な思考力の基礎を身に付ける ④3つの力を総合し、専門分野の学習やキャリア形成に役立てられるようになる</p>	<p>専門書の理解やレポート作成に苦労している。就職試験対策で過去問を見たら難しく、茫然としている。そのような人は、専門性や就職試験で求められる内容の前に、基礎力不足でつまづいている可能性があります。思い当たる人は、ぜひ受講してください。</p> <p>※本講義は心理専攻の就職活動準備の科目として位置付けているため、登録優先順位を心理専攻3年次、4年次、2年次とします。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	特性と能力（勉学・就職・仕事との関係、特性・能力チェック、能力を伸ばすには？）	リフレクションシート
	2	読む力①（どうすれば読めるのか？語彙力の重要性）	演習の復習
	3	読む力②（仕事における文書の色々、言葉の意味と使い分け）	演習の復習
	4	読む力③（指示語、かかり言葉）	演習の復習
	5	読む力④（キーワードの抽出）	演習の復習
	6	読む力⑤（大意のつかみ方）	課題提出
	7	書く力①（ビジネス文書のポイント、簡潔な表現）	演習の復習
8	書く力②（正確な文章のポイント、要約文の作成法）	演習の復習	
9	書く力③（短文作成）	演習の復習	
10	書く力④（文章の構成と執筆）	課題提出	
11	数理的な思考力①（ビジネスと仕事と数字、基本的な計算法）	演習の復習	
12	数理的な思考力②（ビジネス現場の計算）	演習の復習	
13	数理的な思考力③（データの見方、結果の解釈）	演習の復習	
14	数理的な思考力④（確率と期待値、統計の基礎）	課題提出	
15	総合的な基礎力（読み・書き・そろばんの組み合わせ、活かし方）	最終レポート提出	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは特に指定しない。毎回の配布資料を保管すること。		
	※全15回を対面授業で行う予定。ただし、コロナの状況などにより、遠隔授業に変更する可能性もあります。		
	学びの手立て		
	初回に特性や能力のセルフチェックを行い、今後の勉学・就職・仕事に向けて意識して伸ばすべき要素や、カバーすべき弱点を把握します。その結果を踏まえて、第2回から読む力、書く力、数理的な思考力の順に学びます。ドリル式の小演習を交え、実感として習得に重点を置くとともに、筆記試験対策にもつなげます。毎回、書式に必要事項を入力し、受講確認をします。学期中に3回、演習問題などに取り組み、習得の状況を確認します。学期末には、学んできた「読み・書き・そろばん」のノウハウを総動員した小レポートを作成します。「受ける授業」ではなく、「やる授業」と思って臨んでください。学習内容を他の授業・研究・課外活動・プライベートで活用すればさらに理解が深まり、身につけた能力の定着が進みます。		
	評価		
	平常点（演習参加の態度、リフレクションシート）…30点 課題提出3回…30点 最終レポート…40点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目 次のステージ：身に付けた基礎力を、今後の大学での学びや活動と、就職活動につなげていく。

※ポリシーとの関連性

人間福祉学科心理カウンセリング専攻学生のみが履修できる。心理学の実践力を身につけるための専門科目である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理的アセスメントⅠ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	3年	ptt861@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理アセスメントの専門技法である心理検査について概説を行い、代表的な心理検査の理解を深める。また、心理検査実習を通して、専門技法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を中心に実習し、結果の分析、検査所見の書き方について具体的に学ぶ。	実習が中心の科目である。皆出席であることが前提。毎回の課題レポートに加え、最終レポートまで複数の課題レポートが課されるので、全て提出できる意欲のある学生のみ受講すること。この科目は心理カウンセリング専攻公認心理師コース限定の科目です。
到達目標	この科目を履修することによって、心理検査の概要及び代表的な心理検査について十分に理解ができ、臨床現場で心理検査を実施し、所見を作成できる心理学的専門的スキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理的アセスメントとは	履修登録を確実に済ませる
	2	アセスメント技法の種類と分類（面接法・観察法・検査法）	配布資料の復習
	3	パーソナリティ理解のための心理検査	配布資料の復習
	4	パーソナリティの構造とテストバッテリー	配布資料の復習
	5	心理検査と倫理問題	配布資料の復習
	6	心理検査①（質問紙法 実習・理論的背景・所見のまとめ方）	課題ワーク
	7	心理検査②-1（作業検査法 実施法と実習）	課題ワーク
	8	心理検査②-2（作業検査法 理論的背景）	課題ワーク
	9	心理検査②-3（作業検査法 所見のまとめ方）	課題ワーク
	10	心理検査③-1（投映法その1 実施法と実習）	課題ワーク
	11	心理検査③-2（投映法その1 理論的背景）	課題ワーク
	12	心理検査③-3（投映法その1 所見のまとめ方）	課題ワーク
	13	心理検査④-1（投映法その2 実施法と実習）	課題ワーク
14	心理検査④-2（投映法その2 理論的背景）	課題ワーク	
15	心理検査④-3（投映法その2 所見のまとめ方）	課題ワーク	
16	最終レポート作成・提出	最終レポート作成・提出	
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて資料を配布する。 上里一郎監修 「心理アセスメントハンドブック 第2版」 西村出版 氏原寛 他編 「心理査定実践ハンドブック」 創元社		
学びの手立て	①履修の心構え 皆出席が前提である。（体調不良などの理由があれば事前にオンライン受講の依頼をすること）授業時間内に実習を行うので、遅刻厳禁。 高度に専門的な科目なので、「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、あるいは受講中であること。 卒業後に心理職を目指す学生は必ず受講すること。 ②学びを深めるために 臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。		
評価	評価方法 出席状況、提出されたレポート等により総合的に評価する。 割合 平常点(授業の参加度・発表等) 30% 課題レポート50% 最終レポート20% 上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、または受講中であることが望ましい。 次のステージ 「臨床面接法Ⅰ」「心理検査法Ⅱ」を引き続き受講するとよい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 人間福祉学科心理カウンセリング専攻学生のみが履修できる。  
心理学の実践力を身につけるための専門科目である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理的アセスメントⅡ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田 梨沙	3年	ptt861@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理アセスメントの専門技法である代表的な心理検査の理解を深める。また、心理検査実習を通して、専門技法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。人間の認知的な特徴を把握するための知能検査を中心に実習し、結果の分析、検査所見のまとめ方について具体的に学ぶ。	実習が中心の講義である。実際に心理検査を子どもに施行できるようになるために、事前に心構え、知識、技術を学ぶ。臨床現場で心理検査がどのように用いられているか、導入からフィードバック、検査の活用についても学ぶ。この科目は心理カウンセリング専攻公認心理師コース限定の科目です。
到達目標	この科目を履修することによって、知能検査の基礎知識、倫理的心構えについて十分に理解ができ、臨床現場で知能検査を実施することができる。またそのデータを読み取り、所見作成できる心理学的専門的スキルを身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・心理的アセスメントとは	履修登録を確実に済ませる
	2	知能とは・発達段階を踏まえたアセスメント	配布資料の復習
	3	田中ビネー式検査概要・器材の取り扱い方	配布資料の復習
	4	田中ビネー式検査の実施方法	マニュアル熟読・ロールプレイ
	5	田中ビネー式検査の結果まとめ方	マニュアル熟読・ロールプレイ
	6	新版K式検査概要・器材の取り扱い方	マニュアル熟読・ロールプレイ
	7	新版K式検査の実施方法・結果のまとめ方	マニュアル熟読・ロールプレイ
	8	Wisc-IV検査概要・器材の取り扱い方	マニュアル熟読・ロールプレイ
	9	Wisc-IV検査の実施方法①	マニュアル熟読・ロールプレイ
	10	Wisc-IV検査の実施方法②	マニュアル熟読・ロールプレイ
	11	Wisc-IV検査の実施方法③	マニュアル熟読・ロールプレイ
	12	結果のまとめ方①	マニュアル熟読・ロールプレイ
	13	所見の書き方	検査実習
14	検査実習（田中ビネー）	検査実習	
15	検査実習（WISC-IV）	レポートまとめ	
16	まとめ	レポートまとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配布する。 【参考資料】 日本版WISC-IV知能検査 日本文化科学社 エッセンシャルズWISC-IVによる心理アセスメント 日本文化科学社 田中ビネー知能検査Ⅴ 田研出版		
学びの手立て	①高度に専門的な実習をする講義のため、原則遅刻・欠席は認めない。（体調不良等で欠席する場合には事前にオンライン講義依頼などしておくこと） ②実習の協力者を自分で探し、依頼し、協力を得ることが必要。 ③心理検査を行うということで、協力者やその保護者に何らかの負担を与えることがある。そのことをよく念頭に置き、その状況に即した配慮をすることが求められる。 ④検査実施には、入念な準備が必要なため、予習・復習は不可欠となる。 ⑤すべての実習を体験し、レポートを提出しなければ単位を認めることはできないものとする。 ⑦出席・レポート提出がされていても、レポートの内容が基準を満たさない場合単位を認めないものとする。		
評価	①検査所見レポート（WISC-IV） 35% ②検査所見レポート（田中ビネー） 35% ③実習前試験・課題・振り返りレポート 30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」「発達心理学」「心理検査法Ⅰ」を受講済みであることが望ましい。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理統計学基礎	後期	火5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	1年	研究室：5号館534 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学研究において必要不可欠である、心理学統計の基礎を学ぶ講義です。心理学基礎演習AB、心理学専門演習 I AB、心理学専門演習 II ABの研究活動に繋がる学習スキルの基礎を身に付ける科目でもあります。	心理統計が分かるようになれば、心理学研究の理解も進みます。実際に計算をしたり、図表にまとめたり、手を動かしながら学んでいきましょう。

到達目標
①統計学の必要性を理解できるようになる。 ②データの特徴を数値や図表にまとめたり、読みとることができる。 ③2変数間の関連性について、その特徴を数値や図表にまとめたり、読み取ることができる。 ④統計的検定の基本的な原理について理解できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/変数の種類と尺度水準	次回講義内容の予習
	2	度数分布表とヒストグラム	講義の復習となる演習課題
	3	量的データの数値要約1：代表値と散布度	講義の復習となる演習課題
	4	量的データの数値要約2：正規分布と標準分布表	講義の復習となる演習課題
	5	量的データの数値要約3：標準化	講義の復習となる演習課題
	6	2変数間の関係の分析1：散布図・共分散・相関係数	講義の復習となる演習課題
	7	2変数間の関係の分析3：クロス集計表・ $\chi^2$ 値・連関係数	講義の復習となる演習課題
	8	統計的検定の基礎1：推定	講義の復習となる演習課題
	9	統計的検定の基礎2：検定（相関係数）	講義の復習となる演習課題
	10	統計的検定の基礎2：検定（ $\chi^2$ 検定）	講義の復習となる演習課題
	11	2つの平均値の差の検定	講義の復習となる演習課題
	12	3つ以上の平均値の差の検定（一要因参加者間分散分析）	講義の復習となる演習課題
	13	3つ以上の平均値の差の検定（一要因参加者内分散分析）	講義の復習となる演習課題
	14	効果量・信頼区間・検定力	講義の復習となる演習課題
15	まとめと期末試験	講義の復習となる演習課題	
16	予備日	全講義の復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	・教科書は特に指定せず、毎回配布する資料を中心に講義を進めます。 ※この授業では√の計算ができる電卓を必ず用意して、毎回授業に持参してください。期末試験の際にも√の計算ができる電卓が必須となります。

学びの実践	学びの手立て
	・他の受講生の迷惑になる行為（私語、遅刻、途中退出等）は控えてください。

学びの実践	評価
	・成績は、授業への参加態度（50%）と学期末試験（50%）で評価します。授業への参加態度は、毎回の授業のリアクションペーパーの内容や授業で課された課題への取り組みも評価の対象となります。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	心理学研究法 I・II を学ぶと、研究法とデータ分析の関連についての理解が深まります。 心理学統計学 I・II を履修すると、本講義の内容をさらに発展させた卒業論文に生かせるデータ解析法を学ぶことができます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育・スポーツを用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広がっていくことを目指していきます。</p>	<p>一つのプロジェクトを参加メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。</p>
到達目標	プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション</li> <li>2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討</li> <li>3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討</li> <li>4、プロジェクト活動の基本的技術習得</li> <li>5、プロジェクト活動の評価方法の検討</li> <li>6、プロジェクト活動計画発表会</li> </ol> <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集</li> <li>2、文献精読、文献要約</li> <li>3、グループでの話し合い</li> <li>4、支援技法についての習得</li> <li>5、プレゼンテーションの準備</li> <li>6、報告・発表資料の作成</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。</li> <li>●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習 I A・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理プロジェクト演習 I B」「心理学専門演習 II A/B」「心理プロジェクト演習 II A・B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技法をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。仲間と協働する。	自分の興味関心のあるプロジェクトテーマを選択し、仲間と協働しながら実践活動に取り組みましょう。プロジェクトの実践を通して、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。お互いに思いやりをもって楽しみつつ取り組んでいきましょう。

到達目標
①心理学専門演習 I Aの学びを踏まえ、プロジェクトの活動計画を策定できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を身につけることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション/プロジェクトメンバーの確認	授業計画の理解/配布資料の精読
	2	前年度のプロジェクトの実践活動報告	前年度の活動内容の理解
	3	プロジェクトに関する調べ学習①	情報収集・文献を読む
	4	プロジェクトに関する調べ学習②	情報収集・文献を読む
	5	プロジェクトに関する調べ学習③	情報収集・文献を読む
	6	プロジェクトのグループ編成・活動スケジュールの検討	チームビルディング
	7	各プロジェクトの調べ学習・課題抽出①	プロジェクト内容の検討
	8	各プロジェクトの調べ学習・課題抽出②	プロジェクト内容の検討
	9	各プロジェクトの調べ学習・課題抽出③	プロジェクト内容の検討
	10	各プロジェクトの現場の把握（文献・インターネットによる情報収集）①	各現場についての調べ学習
	11	各プロジェクトの現場の把握（文献・インターネットによる情報収集）②	各現場についての調べ学習
	12	各プロジェクトの実践活動計画案の策定①	実践活動計画書案作成
	13	各プロジェクトの実践活動計画案の策定②	実践活動計画書案発表準備
	14	各プロジェクトの実践活動計画案の発表	発表の振り返り/計画書案の修正
15	各プロジェクトの実践活動計画案の完成	実践活動計画書案の完成	
16	予備日	計画書案の理解/前期の振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。</li> <li>プロジェクトで多様な人々と関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。</li> <li>プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。</li> </ul>
--------	---

評価	プロジェクトへの関与度：話し合い、調べ学習の発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・50% 活動期間中の調べ学習の報告書と活動計画案の提出（40%）、振り返りレポート（10%）・・・50%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I A、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレスマネジメント、ヘルスプロモーション、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習 I Bの実践活動に繋げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	3年	研究室13-616 E-Mail : miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身につける。	他者との協働を通して、主体性、計画性、課題抽出能力、論理性、コミュニケーション能力などを身につけてもらいたい。

到達目標
1. これまでの学びを踏まえてプロジェクトの計画を立てることができる。 2. 実践についての記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	関心領域に関する資料の作成
	2	関心領域の紹介	文献調査
	3	プロジェクトに関する調べ学習①	文献調査
	4	プロジェクトに関する調べ学習②	文献調査
	5	プロジェクトに関する調べ学習③	希望する活動実践案の仮作成
	6	プロジェクトのグループ編成・プロジェクトテーマの話し合い	プロジェクトテーマの検討
	7	プロジェクトテーマの話し合い・決定	チームビルディング
	8	プロジェクトに関する事前調査①	プロジェクト内容の検討
	9	プロジェクトに関する事前調査②	プロジェクト内容の検討
	10	プロジェクトに関する事前調査③	プロジェクト内容の検討
	11	各プロジェクトの実践活動計画の立案①（問題と目的）	プロジェクト内容の検討
	12	各プロジェクトの実践活動計画の立案②（具体的方法）	実践活動計画書案の作成
	13	各プロジェクトの実践活動計画の立案③（活動の評価方法）	実践活動計画案発表の準備
14	各プロジェクトの実践計画案の発表	振り返りと修正	
15	各プロジェクトの実践活動計画案の修正	実践活動計画案の完成	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・グループでの話し合いには積極的に参加すること。 ・プロジェクトで関わる他者に対しては最大限の配慮をし、謙虚で真摯な態度で関わること。 ・プロジェクトに関する疑問等については担当教員へ確認・相談すること。		
	評価 ・プロジェクト活動への関与度（活動における話し合い、参加態度、役割分担、コメントシート等）・・・50% ・活動計画発表の内容・・・50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I A 次のステージ：心理プロジェクト演習 I B
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I A	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身に着ける。	自分の興味・関心があるプロジェクトテーマについて、仲間と共同しながら実践活動に取り組みましょう。

到達目標
①心理学専門演習 I Aの学びをふまえて、プロジェクトの計画を立てられる。 ②プロジェクト活動の計画、準備、実行、見直しを行い、次の実践に生かすことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	プロジェクトに関する調べ学習1	プロジェクトに関する文献調査
	3	プロジェクトに関する調べ学習2	プロジェクトに関する文献調査
	4	プロジェクトに関する調べ学習3	プロジェクトに関する文献調査
	5	プロジェクトのグループ編成とテーマ決定	チームビルディング
	6	各プロジェクトの事前調査1	プロジェクト内容の検討
	7	各プロジェクトの事前調査2	プロジェクト内容の検討
	8	各プロジェクトの事前調査3	プロジェクト内容の検討
	9	各プロジェクトの事前調査結果の分析1	プロジェクト内容の検討
	10	各プロジェクトの事前調査結果の分析2	プロジェクト内容の検討
	11	各プロジェクトの事前調査結果の分析3	プロジェクト内容の検討
	12	各プロジェクトの活動計画の立案1	プロジェクト計画の作成
	13	各プロジェクトの活動計画の立案2	プロジェクト計画の作成
	14	各プロジェクトの活動計画の発表と振り返り	プロジェクト計画の作成
15	各プロジェクトの活動計画書の修正	プロジェクト計画の修正	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する
-------	-------------------------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトを成功させるために、自主的に調べ活動を行い、グループ内での話し合いには積極的に参加してください。</li> <li>プロジェクトで関わる相手への配慮、柔軟な対応が求められます。</li> <li>プロジェクトに関する疑問点は、活動開始前にあらかじめ確認・相談するようにしてください。</li> </ul>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト活動への関与度（70%）と、活動計画発表の内容（30%）で評価します。関与度には、授業の出席率、遅刻の有無、プロジェクト活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートへの内容も評価対象に含まれます。</li> </ul>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：心理学専門演習 I A 次のステージとして、心理プロジェクト演習 I Bの履修につなげていきましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	3年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育、スポーツ活動を用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広げていくことを目指していきます。</p>	<p>一つのプロジェクトを参加メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。</p>
到達目標	<p>プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。</p> <p>グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション</li> <li>2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討</li> <li>3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討</li> <li>4、プロジェクト活動の基本的技術習得</li> <li>5、プロジェクト活動の評価方法の検討</li> <li>6、プロジェクト活動計画発表会</li> <li>7、プロジェクト活動についてのカンファレンス</li> <li>8、プロジェクト活動中間報告</li> </ol> <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集</li> <li>2、文献精読、文献要約</li> <li>3、グループでの話し合い</li> <li>4、支援技法についての習得</li> <li>5、プレゼンテーションの準備</li> <li>6、報告・発表資料の作成</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。</li> <li>●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。</li> </ul>
<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習 I A・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理学専門演習 II A/B」「心理プロジェクト演習 II A・B」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	3年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技法をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。仲間と協働する。	メッセージ 心理プロジェクト演習 I Aで計画を検討してきたプロジェクトの実践を通して、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。そのような体験を通し人間理解を深めましょう。実践と振り返りの中での気づきをふまえ、より良いプロジェクトになるよう見直し実践していきましょう。
	到達目標 ①心理学専門演習 I AB、心理プロジェクト演習 I Aの学びを踏まえ、プロジェクトの活動計画を策定できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる。 ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を身につけることができる。	

学びの準備	到達目標 ①心理学専門演習 I AB、心理プロジェクト演習 I Aの学びを踏まえ、プロジェクトの活動計画を策定できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる。 ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を身につけることができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション／前期の活動の振り返り	授業計画の理解/配布資料の精読
	2	プロジェクト実践に向けて①	日誌・振り返りシートの作成
	3	プロジェクト実践に向けて②	日誌・振り返りシートの作成
	4	プロジェクト実践に向けて③	実践準備
	5	プロジェクト実践①	活動日誌の記録・振り返り
	6	プロジェクト実践と活動の振り返り②	活動日誌の記録・振り返り
	7	プロジェクト実践と活動の振り返り③	活動日誌の記録・振り返り
	8	プロジェクト実践と活動の振り返り④	活動日誌の記録・振り返り
	9	プロジェクト実践と活動の振り返り⑤	活動日誌の記録・振り返り
	10	プロジェクト実践と活動の振り返り⑥	活動日誌の記録・振り返り
	11	プロジェクト実践と活動の振り返り⑦	活動日誌の記録・振り返り
	12	プロジェクト実践と活動の振り返り⑧	日誌記録・振り返り・報告会準備
	13	プロジェクト実践と活動の振り返り⑨	日誌記録・振り返り・報告会準備
	14	各プロジェクトの実践活動報告書の作成（中間報告）	日誌記録・振り返り・報告書作成
	15	各プロジェクトの実践活動報告会	報告書作成・報告会の準備
16	予備日	報告書作成・全体の振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。</li> <li>プロジェクトで多様な人々と関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。</li> <li>プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	評価 プロジェクト実践活動への参加と活動日誌の内容・・・30% プロジェクトのへの関与度：話し合い、振り返り、発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・20% 期末課題：プロジェクトの活動報告の発表と報告書の内容・・・50%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I AB、心理プロジェクト演習 I A、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレス・マネジメント、心理学特講C、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習 II ABの実践活動に繋げる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	3年	研究室13-616 E-Mail: miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身につける。	メッセージ 他者との協働を通して、主体性、計画性、課題抽出能力、論理性、コミュニケーション能力などを身につけてもらいたい。
	到達目標 1. これまでの学びを踏まえて、プロジェクトの準備および実践ができる。 2. プロジェクト活動の実践を振り返り、修正等を行い、次の実践に活かすことができる。 3. 心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる力を身につける。	

学びの準備	到達目標 1. これまでの学びを踏まえて、プロジェクトの準備および実践ができる。 2. プロジェクト活動の実践を振り返り、修正等を行い、次の実践に活かすことができる。 3. 心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる力を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	各班での活動
	2	プロジェクト実践に向けて①	各班での活動
	3	プロジェクト実践に向けて②	各班での活動
	4	プロジェクト実践に向けて③	各班での活動
	5	プロジェクト実践①	各班での活動
	6	プロジェクト実践①の振り返り	各班での活動
	7	プロジェクト実践②	各班での活動
	8	プロジェクト実践②の振り返り	各班での活動
	9	プロジェクト実践③	各班での活動
	10	プロジェクト実践③の振り返り	各班での活動
	11	プロジェクト実践④	各班での活動
	12	プロジェクト実践④の振り返り	各班での活動
	13	プロジェクト実践⑤	各班での活動
	14	プロジェクト実践⑤の振り返り	各班での活動
	15	今後の活動に向けての検討	各班での活動
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いには積極的に参加すること。</li> <li>・プロジェクトで関わる他者に対しては最大限の配慮をし、謙虚で真摯な態度で関わること。</li> <li>・プロジェクトに関する疑問等については担当教員へ確認・相談すること。</li> </ul>
-------	--

学びの実践	評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト活動への関与度（活動における話し合い、参加態度、役割分担、コメントシート等）・・・50%</li> <li>・プロジェクトの活動報告の発表と報告書の内容・・・50%</li> </ul>
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I A・I B、心理プロジェクト演習 I A 次のステージ：心理プロジェクト演習 II A・II B
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習 I B	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	3年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身に着ける。	自分の興味・関心があるプロジェクトテーマについて、仲間と共同しながら実践活動に取り組みましょう。

到達目標
①心理学専門演習 I A・I B, 心理プロジェクト演習 I Aの学びをふまえて、プロジェクトの準備及び実行を行うことができる。 ②プロジェクト活動の計画, 準備, 実行, 見直しを行い, 次の実践に生かすことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーションの理解
	2	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり1	準備・材料づくり
	3	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり2	準備・材料づくり
	4	プロジェクト実践活動計画の発表準備1	発表準備
	5	プロジェクト実践活動計画の発表準備2	発表準備
	6	プロジェクト実践活動計画の発表準備3	発表準備
	7	プロジェクト実践活動計画の振り返り	準備・材料づくり
	8	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり3	準備・材料づくり
	9	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり4	準備・材料づくり
	10	プロジェクト実践活動のための準備・材料づくり5	準備・材料づくり
	11	プロジェクト実践活動の実行と振り返り	実行
	12	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の準備1	発表準備
	13	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の準備2	発表準備
	14	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の準備3	発表準備
15	プロジェクト実践活動の途中経過報告会の振り返り	発表の振り返り	
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する
-------	-------------------------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトを成功させるために、自主的に調べ活動を行い、グループ内での話し合いには積極的に参加してください。</li> <li>プロジェクトで関わる相手への配慮、柔軟な対応が求められます。</li> <li>プロジェクトに関する疑問点は、活動開始前にあらかじめ確認・相談するようにしてください。</li> </ul>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト活動への関与度 (50%) と、進捗報告の内容 (50%) で評価します。関与度には、出席率や遅刻の有無、プロジェクト活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートへの内容も評価対象に含まれます。</li> </ul>
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習 I A・I B, 心理プロジェクト演習 I A
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育・スポーツ活動を用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広げていくことを目指していきます。</p>	<p>メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。</p>
到達目標	<p>プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション</li> <li>2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討</li> <li>3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討</li> <li>4、プロジェクト活動の基本的技術習得</li> <li>5、プロジェクト活動の評価方法の検討</li> <li>6、プロジェクト活動計画発表会</li> </ol> <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集</li> <li>2、文献精読、文献要約</li> <li>3、グループでの話し合い</li> <li>4、支援技法についての習得</li> <li>5、プレゼンテーションの準備</li> <li>6、報告・発表資料の作成</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>

学びの継続	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。</li> <li>●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習ⅡA・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：「心理学専門演習ⅡA/B」「心理プロジェクト演習ⅡB」の履修につなげて大学での学びの集大成としてまとめていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	4年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技法をもって、仲間と協働し、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。	メッセージ 心理プロジェクト演習ⅠABで計画実践してきたプロジェクトを継続し、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。そのような体験を通し人間理解を深めましょう。実践と振り返りの中での気づきをふまえ、より良いプロジェクトになるよう見直し実践していきましょう。
	到達目標 ①心理学専門演習ⅠAB、心理プロジェクト演習ⅠABの学びを踏まえ、プロジェクトの活動を継続できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる。 ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション／プロジェクトメンバーの確認	授業計画の理解/配布資料の精読
	2	プロジェクト実践に向けて①	日誌・振り返りシートの作成
	3	プロジェクト実践に向けて②	日誌・振り返りシートの作成
	4	プロジェクト実践に向けて③	実践準備
	5	プロジェクト実践①	活動日誌の記録・振り返り
	6	プロジェクト実践と活動の振り返り②	活動日誌の記録・振り返り
	7	プロジェクト実践と活動の振り返り③	活動日誌の記録・振り返り
	8	プロジェクト実践と活動の振り返り④	活動日誌の記録・振り返り
	9	プロジェクト実践と活動の振り返り⑤	活動日誌の記録・振り返り
	10	プロジェクト実践と活動の振り返り⑥	活動日誌の記録・振り返り
	11	プロジェクト実践と活動の振り返り⑦	活動日誌の記録・振り返り
	12	プロジェクト実践と活動の振り返り⑧	活動日誌の記録・振り返り
	13	プロジェクト実践と活動の振り返り⑨	日誌記録・振り返り・報告会準備
	14	各プロジェクトの実践活動報告会（中間）	日誌記録・振り返り・報告書作成
	15	プロジェクト実践活動報告会の振り返りと後期の計画の検討	後期の実践活動に向けた準備
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。</li> <li>プロジェクトで多様な人々と関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。</li> <li>プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	評価 プロジェクト実践活動への参加と活動日誌の内容・・・40% プロジェクトのへの関与度：話し合い、振り返り、発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・30% 期末課題：プロジェクトの活動報告（中間）の発表と報告資料の内容・・・30%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習ⅠAB、心理プロジェクト演習ⅠAB、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレス・マネジメント、ヘルスプロモーション、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習ⅡBの実践活動と進路選択・就活に繋げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡA	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	4年	研究室13-616 E-Mail: miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身につける。	他者との協働を通して、主体性、計画性、課題抽出能力、論理性、コミュニケーション能力などを身につけてもらいたい。

到達目標
1. これまでの学びを踏まえて、プロジェクトの準備および実践ができる。 2. プロジェクト活動の実践を振り返り、修正等を行い、次の実践に活かすことができる。 3. 心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる力を身につける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	プロジェクト実践に向けての準備①	各班での活動
	2	プロジェクト実践に向けての準備②	各班での活動
	3	プロジェクト実践に向けての準備③	各班での活動
	4	プロジェクト実践①	各班での活動
	5	プロジェクト実践の振り返り①	各班での活動
	6	プロジェクト実践②	各班での活動
	7	プロジェクト実践の振り返り②	各班での活動
	8	プロジェクト実践③	各班での活動
	9	プロジェクト実践の振り返り③	各班での活動
	10	プロジェクト実践④	各班での活動
	11	プロジェクト実践の振り返り④	各班での活動
	12	プロジェクト実践⑤	各班での活動
	13	プロジェクト実践の振り返り⑤	各班での活動
14	各プロジェクト実践の中間報告会	各班での活動	
15	プロジェクト実践活動報告会の振り返りと後期の計画の検討	各班での活動	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いには積極的に参加すること。</li> <li>・プロジェクトで関わる他者に対しては最大限の配慮をし、謙虚で真摯な態度で関わること。</li> <li>・プロジェクトに関する疑問等については担当教員へ確認・相談すること。</li> </ul>	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト活動への関与度（活動における話し合い、参加態度、役割分担、コメントシート等）・・・50%</li> <li>・プロジェクトの活動報告の発表と報告書の内容・・・50%</li> </ul>	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習ⅠA・ⅠB、心理プロジェクト演習ⅠA・ⅠB 次のステージ：心理プロジェクト演習ⅡB
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡA	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	4年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身に着ける。	自分の興味・関心があるプロジェクトテーマについて、仲間と共同しながら実践活動に取り組みましょう。

到達目標
①心理学専門演習ⅠA・ⅠBの学びをふまえて、プロジェクトを実行することができる。 ②プロジェクト活動の計画、準備、実行、見直しを行い、次の実践に生かすことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーションと授業計画の確認	各班での活動
	2	プロジェクト活動に必要な準備と材料作成	各班での活動
	3	プロジェクト活動に必要な準備と材料作成	各班での活動
	4	プロジェクト活動に必要な準備と材料作成	各班での活動
	5	プロジェクト活動に必要な準備と材料作成	各班での活動
	6	プロジェクト活動に必要な準備と材料作成	各班での活動
	7	プロジェクト活動の実行	各班での活動
	8	プロジェクト活動の実行	各班での活動
	9	プロジェクト活動の実行	各班での活動
	10	プロジェクト活動の実行	各班での活動
	11	プロジェクト活動の実行	各班での活動
	12	プロジェクト活動の評価	各班での活動
	13	プロジェクト活動の評価	各班での活動
	14	プロジェクト活動の評価	各班での活動
15	今後の計画の確認	各班での活動	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など
・授業内で適宜紹介する

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトを成功させるために、自主的に調べ活動を行い、グループ内での話し合いには積極的に参加してください。</li> <li>・プロジェクトで関わる相手への配慮、柔軟な対応が求められます。</li> <li>・プロジェクトに関する疑問点は、活動開始前にあらかじめ確認・相談するようにしてください。</li> </ul>

評価
・プロジェクト活動への関与度（50％）と、進捗状況の報告内容（50％）で評価します。関与度には、授業の出席率、遅刻の有無、プロジェクト活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートへの内容も評価対象に含まれます。

学びの継続
次のステージ・関連科目
関連科目：心理学専門演習ⅠA・ⅠB, ⅡA・ⅡB, 心理プロジェクト演習ⅠA

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	4年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これまでの心理学の学びを活かした実践的な活動を通して、社会貢献、大学内での貢献、自己実現を目指します。具体的にはグループアプローチ、心理劇、動作法、心理教育・スポーツ活動を用いた支援プログラムの開発や研究、実践を行います。対象者は大学生を対象としてスタートしますが、地域社会の児童・生徒や高齢者にも広げていくことを目指していきます。	メッセージ 一つのプロジェクトを参加メンバーみんなで協力して成し遂げる体験は、社会のあらゆる場面で活かせる力を高めることにつながります。受講生には、活動を通して、主体性、協働性、コミュニケーション能力、論理性、課題発見能力、行動力、計画性、自信など社会で役立つ力を身につけてもらいたい。
	到達目標 プロジェクト活動を立案し、実現のための具体的な計画を立てることができる。 対象者のニーズに合わせた活動が実行できる。 活動に対する客観性のある評価ができる。 社会人基礎力を高める。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>以下の内容で授業を展開する。 グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション</li> <li>2、プロジェクト活動計画の立案の報告と検討</li> <li>3、プロジェクト活動の具体的方法論の報告と検討</li> <li>4、プロジェクト活動の基本的技術習得</li> <li>5、プロジェクト活動の評価方法の検討</li> <li>6、プロジェクト活動計画発表会</li> </ol> <p>時間外学習の内容としては以下のような内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、心理プロジェクト活動を進めるための文献・資料の検索、収集</li> <li>2、文献精読、文献要約</li> <li>3、グループでの話し合い</li> <li>4、支援技法についての習得</li> <li>5、プレゼンテーションの準備</li> <li>6、報告・発表資料の作成</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>参考文献 黒木保博・横山穰・水野良也・岩間伸之（2001）「グループワークの専門技術 対人援助のための77の方法」中央法規 福山清蔵（2011）「対人援助のためのグループワーク」誠信書房 中島健一（2012）「高齢者動作法」誠信書房 富永良喜・山中寛（2000）「動作とイメージによるストレスマネジメント教育」北大路書房</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●履修の心構え チームで協力して活動を進めていきます。主体的にチームへの活動に参加することが求められます。講義時間外に活動とその準備をする必要があります。活動では対象となる相手への理解と配慮が大事になります。謙虚で真摯な態度が求められます。</li> <li>●学びを深めるために 「動作法」「グループアプローチ」の講義を事前に履修または同時履修するのが望ましい。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>演習への参加態度（報告、コメントなど）（30%） 毎週提出する活動日誌（40%） 心理プロジェクト計画書（30%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：「動作法」「グループアプローチ」「コミュニケーションスキル」で技法を学び、実践活動につなげることができます。「心理学専門演習ⅠA・B」と連動して活動を進めていきます。 次のステージ：大学での学びの集大成として活動し、そこで養った社会人基礎力を今後の人生に活かしていきます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂 志乃	4年	研究室：5-431 e-mail：mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技法をもって、仲間と協働し、多様な他者と関わりながら社会貢献できる力を身につけていく。	メッセージ 心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡAで計画実践してきたプロジェクトを継続し、自分や仲間や対象者の成長や変化を感じましょう。成長や変化には迷いや苦しみもあります。そのような体験を通し人間理解を深めましょう。実践と振り返りの中での気づきをふまえ、より良いプロジェクトになるよう見直し実践していきましょう。
	到達目標 ①心理学専門演習ⅠAB・ⅡA、心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡAの学びを踏まえ、プロジェクトの活動を継続できる。 ②プロジェクトの活動計画に基づき実践活動を展開できる。 ③実践活動、記録、振り返り、見直しを行い、次の実践に活かすことができる。 ④心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる実践基礎力（社会人基礎力）を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	初回オリエンテーション／前期の実践活動の振り返り	
	2	プロジェクト実践に向けて①	
		時間外学習の内容	
	3	プロジェクト実践に向けて②	授業計画の理解/配布資料の精読
	4	プロジェクト実践①	活動実践の準備
	5	プロジェクト実践と活動の振り返り②	活動実践の準備
	6	プロジェクト実践と活動の振り返り③	活動日誌の記録・振り返り
	7	プロジェクト実践と活動の振り返り④	活動日誌の記録・振り返り
	8	プロジェクト実践と活動の振り返り⑤	活動日誌の記録・振り返り
	9	プロジェクト実践と活動の振り返り⑥	活動日誌の記録・振り返り
	10	プロジェクト実践と活動の振り返り⑦	活動日誌の記録・振り返り
	11	プロジェクト実践と活動の振り返り⑧	活動日誌の記録・振り返り
	12	プロジェクト実践と活動の振り返り⑨	活動日誌の記録・振り返り
	13	プロジェクト実践と活動の振り返り⑩	日誌の記録・振り返り・報告会準備
	14	各プロジェクトの実践活動報告書の作成	日誌記録・振り返り・報告書作成
	15	各プロジェクトの実践活動報告会（最終）	最終報告書の作成・最終報告の準備
	16	予備日	報告書作成・全体の振り返り
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て ・心理学のこれまでの学び（知識と技法）を活かし実践活動するためには、プロジェクトについての事前・事後学習とプロジェクトに関する話し合いが重要になります。特に、プロジェクトに関する話し合いには積極的に参加し、自分の考えや意見を出し、メンバーの意見をよく聴いて下さい。 ・プロジェクトで多様な人々と関わる場合には、相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 ・プロジェクト内容、実践活動について、わからないことや疑問点は活動開始前に確認・相談し、解消するように努めて下さい。日頃からプロジェクトメンバーとのザッソウ（雑談と相談）を大事にしてください。		
	評価 プロジェクト実践活動への参加と活動日誌の内容・・・40% プロジェクトのへの関与度：話し合い、振り返り、発表などの諸活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートの内容などを総合する・・・20% 期末課題：プロジェクトの活動報告の発表と報告書の内容・・・40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習ⅠAB・ⅡAB、心理プロジェクト演習ⅠAB・ⅡA、発達心理学、障害者・障害児心理学、教育心理学概論、教育・学校心理学、傾聴トレーニング、コミュニケーションスキル、ライフステージの心理学、ストレス・マネジメント、心理学特講C、知覚・認知心理学、神経・生理心理学（神経/生理）など。次へのステージ：心理プロジェクト演習ⅡABの実践活動を卒業後の社会生活に繋げる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	4年	研究室13-616 E-Mail: miyazato.s+okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身につける。	メッセージ 他者との協働を通して、主体性、計画性、課題抽出能力、論理性、コミュニケーション能力などを身につけてもらいたい。
	到達目標 1. これまでの学びを踏まえて、プロジェクトの準備および実践ができる。 2. プロジェクト活動の実践を振り返り、修正等を行い、次の実践に活かすことができる。 3. 心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる力を身につける。	

学びの準備	到達目標 1. これまでの学びを踏まえて、プロジェクトの準備および実践ができる。 2. プロジェクト活動の実践を振り返り、修正等を行い、次の実践に活かすことができる。 3. 心理学の知識と技法を応用して社会貢献ができる力を身につける。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	プロジェクト実践に向けて①	各班での活動
	2	プロジェクト実践に向けて②	各班での活動
	3	プロジェクト実践①	各班での活動
	4	プロジェクト実践の振り返り①	各班での活動
	5	プロジェクト実践②	各班での活動
	6	プロジェクト実践の振り返り②	各班での活動
	7	プロジェクト実践③	各班での活動
	8	プロジェクト実践の振り返り③	各班での活動
	9	プロジェクト実践④	各班での活動
	10	プロジェクト実践の振り返り④	各班での活動
	11	プロジェクト実践⑤	各班での活動
	12	プロジェクト実践の振り返り⑤	各班での活動
	13	プロジェクト実践のまとめ	各班での活動
	14	各プロジェクト実践報告会の準備	各班での活動
	15	各プロジェクト実践報告会（最終）	各班での活動
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの話し合いには積極的に参加すること。</li> <li>プロジェクトで関わる他者に対しては最大限の配慮をし、謙虚で真摯な態度で関わること。</li> <li>プロジェクトに関する疑問等については担当教員へ確認・相談すること。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト活動への関与度（活動における話し合い、参加態度、役割分担、コメントシート等）・・・50%</li> <li>プロジェクトの活動報告の発表と報告書の内容・・・50%</li> </ul>
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理プロジェクト演習ⅠA・ⅠB・ⅡA
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理プロジェクト演習ⅡB	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山岡 明奈	4年	研究室5号館534号室 akina@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の知識と技術をもって、多様な他者と関わりながら社会貢献できる知識と技術を身に着ける。	メッセージ 自分の興味・関心があるプロジェクトテーマについて、仲間と共同しながら実践活動に取り組みましょう。
	到達目標 ①心理学専門演習ⅡAの学びをふまえて、プロジェクト活動の評価やまとめができる。 ②プロジェクト活動のまとめを踏まえて、今後の日常生活に生かす視点を養うことができる。	

学びの準備	到達目標 ①心理学専門演習ⅡAの学びをふまえて、プロジェクト活動の評価やまとめができる。 ②プロジェクト活動のまとめを踏まえて、今後の日常生活に生かす視点を養うことができる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーションと授業計画の確認	各班での活動
	2	プロジェクト活動の評価の分析	各班での活動
	3	プロジェクト活動の評価の分析	各班での活動
	4	プロジェクト活動の評価の分析	各班での活動
	5	プロジェクト活動の評価の分析	各班での活動
	6	プロジェクト活動実践報告書の作成	各班での活動
	7	プロジェクト活動実践報告書の作成	各班での活動
	8	プロジェクト活動実践報告書の作成	各班での活動
	9	プロジェクト活動実践報告書の作成	各班での活動
	10	プロジェクト活動実践報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	11	プロジェクト活動実践報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	12	プロジェクト活動実践報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	13	プロジェクト活動実践報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	14	プロジェクト活動実践報告のプレゼンテーション資料作成	各班での活動
	15	プロジェクト活動実践報告発表会	各班での活動
16	予備日		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・授業内で適宜紹介する
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て ・プロジェクトを成功させるために、自主的に調べ活動を行い、グループ内での話し合いには積極的に参加してください。 ・プロジェクトで関わる相手への配慮、柔軟な対応が求められます。 ・プロジェクトに関する疑問点は、活動開始前にあらかじめ確認・相談するようにしてください。
-------	--

学びの実践	評価 ・プロジェクト活動への関与度（70%）と、最終報告書（30%）で評価します。関与度には、授業の出席率、遅刻の有無、プロジェクト活動における、発言、参加態度、役割分担、コメントシートへの内容も評価対象に含まれます。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学専門演習ⅠA・ⅠB, ⅡA・ⅡB, 心理プロジェクト演習ⅠA・ⅠB, ⅡA
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理ボランティア演習			2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山篤史・他	1年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>(1) 社会を知り、自分を知る。                  (2) 心理学を学ぶ意義を考え、心理学と社会とのつながりを考える。                  (3) 支援の現場に必要な基本的コミュニケーション能力を身につける。                  (4) 人を支援する(寄り添うこと、共感すること、傾聴すること)</p>	<p>学外の支援を必要としている方々と直接かかわりをもつこととなります。そのことをしっかり自覚し、明確な目標をもって登録をする必要があります。支援の対象となる相手やその関係者に対して真摯に、誠実に向き合うことが求められます。大学や当該施設(団体)からの注意事項をよく守り、求められる役割を遂行し、謙虚な態度で上記の目的を達成して下さい。</p>
到達目標	<p>(1) 支援の現場に必要な基本的コミュニケーション能力を身につける                  (2) 自分なりの心理学を学ぶ意義や、心理学と社会とのつながりを説明できる。                  (3) 人を支援する上で大切なことを体験を通じた理解として説明できる。                  (4) 対人支援をしていく上で活かすことができる自身の資質と改善すべき課題について説明できる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	学内オリエンテーション1回目	配布資料を読む・希望実習先選択
	2	学内オリエンテーション2回目	希望実習先の調べ学習
	3	学外施設オリエンテーション・研修会	希望実習先の調べ学習
	4	ボランティア活動①	実習報告書作成
	5	ボランティア活動②	実習報告書作成
	6	ボランティア活動③	実習報告書作成
	7	ボランティア活動④	実習報告書作成
8	ボランティア活動⑤	実習報告書作成	
9	中間報告会(複数回開催予定)	振り返りシート	
10	ボランティア活動⑥	実習報告書作成	
11	ボランティア活動⑦	実習報告書作成	
12	ボランティア活動⑧	実習報告書作成	
13	ボランティア活動⑨	実習報告書作成	
14	ボランティア活動⑩	実習報告書作成	
15	最終報告会1回目(複数回開催予定)	振り返りシート	
16	最終報告会2回目(複数回開催予定)	振り返りシート	
テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。その都度配布する資料を参考にすること。		
学びの手立て	<p>●履修の心構え                  単位認定科目。時間割りに講義時間は設定されていない。初回のオリエンテーション(4月下旬予定:ポータル掲示板を確認すること)に参加し、エントリーシートを提出することで受講がスタートする。オリエンテーションで説明する要件を満たした上で、所定の申請を行うと単位が取得(2単位)できる。前期・後期・長期休暇のいずれの時期、あるいは年間を通して講義外の時間でボランティア活動に従事する。学内オリエンテーション及び報告会は学内で開催する。</p>		
評価	<p>所定のオリエンテーション・研修会への参加、報告会への参加、事前学習(合計20時間)、ボランティア活動への従事、日誌・振り返りレポートの作成(合計40時間)、エントリーシート、報告会での報告、日誌・振り返りレポートの提出を全て満たすことが要件となる。要件を満たしたうえで学期末に単位申請(2単位)ができる。実習日誌(60%)、最終レポート及び報告会での報告(40%)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目                  関連科目:心理専攻が設定する各臨床心理学領域の専門科目                  次のステージ:「心理プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」「心理学専門演習Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジェンダー論	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎濱 佳代	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>〈性別〉によって分割された社会——〈女である/男である〉ことはどのような社会的意味をもち、日本や世界で〈女性〉はどのような社会状況を生きているのでしょうか。皆さんが暮らす社会の〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、家族、人口、国家・国際社会、移動・グローバル化など、ジェンダーの視点から</p>	<p>女だから/男だから?——家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護、遊びや流行の音楽・ドラマなど身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。                  ②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。                  ③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。                  ④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	授業時に指示する
	2	ジェンダーとは何か——性別の構築性と多様性	授業時に指示する
	3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
	4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
	5	労働とジェンダー①雇用のジェンダー構造	授業時に指示する
	6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
	7	労働とジェンダー③有償/無償労働とジェンダー平等	授業時に指示する
	8	家族とジェンダー①近代家族と多様化する家族	授業時に指示する
	9	家族とジェンダー②少子高齢社会とジェンダー平等政策	授業時に指示する
	10	家族とジェンダー③福祉レジームと生活保障システム	授業時に指示する
	11	家族とジェンダー④世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ	授業時に指示する
	12	国際社会・国家とジェンダー	授業時に指示する
	13	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する
14	移動・グローバル化とジェンダー②ポスト新国際分業と家族のグローバル化	授業時に指示する	
15	全体のまとめ——フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する	
16	学期末テスト	授業時に指示する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。全体を通じた参考文献は以下のとおりです。                  ・伊藤公雄・牟田和恵編, 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社。                  ・千田有紀・中西裕子・青山薫, 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣。                  【資料】毎回の授業で必要に応じて配布します。</p>		
学びの手立て	<p>①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。                  ②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。                  ③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。</p>		
評価	<p>学期末テスト（あるいは学期末レポート）(80%)、平常点(20%)の結果にもとづいて評価します。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目                  （関連科目）社会学理論、国際社会学、都市社会学、南島社会学、家族社会学、マスコミ論、アジア社会論</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 本科目は、本専攻ポリシーである「社会福祉専門職を養成する教育」であり、子ども支援分野における専門職養成の基礎となる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童・家庭福祉	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲宗根 政貴	2年	授業終了後に教室で受け付け。またはppt910@okiu.ac.jpまで。	

学びの準備	ねらい 本科目では、子ども支援にかかる基礎的・専門的な知識、技術について触れる。ゆえに、子ども福祉にかかる歴史、法体系、サービスへの理解はもちろんのこと、ソーシャルワーク専門職として、子ども支援にどうかかわっていくかを理解する。	メッセージ 子どもに現れる諸課題は、子どもを取り巻く社会環境とのかかわりが大きい。ゆえに、子どもを取り巻く社会環境について常日頃から意識し、ソーシャルワークの専門性と関連して、本科目を受講して欲しい。
	到達目標 本科目を受講することで、子ども支援にかかる基礎的・専門的な知識、技術を体系的にとらえ、かつ、子ども理解、子どもを取り巻く社会環境についての理解を深める。さらには、これらの理解をソーシャルワークの専門性と関連づけ、ソーシャルワーク専門職としての素地の涵養につなげる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	オリエンテーション
	2	子ども家庭福祉とは何か	テキスト：第1章 子ども家庭福祉に対する理解
3	子ども家庭福祉の歴史	テキスト：第2章 子ども家庭福祉の歴史の変遷	
4	子ども家庭福祉を取り巻く現代社会	テキスト：第3章 子ども家庭福祉を取り巻く社会	
5	子ども家庭福祉の支援の基盤①	テキスト：第4章 子ども家庭福祉の法体系の理解	
6	子ども家庭福祉の支援の基盤②	テキスト：第4章 子ども家庭福祉にかかる関係機関	
7	子ども家庭福祉の支援の基盤③	テキスト：第4章 子ども家庭福祉の専門職の理解	
8	子どもの福祉課題と支援①	テキスト：第5章 子ども支援：母子保健、保育	
9	子どもの福祉課題と支援②	テキスト：第5章 子ども支援：児童虐待	
10	子どもの福祉課題と支援③	テキスト：第5章 子ども支援：SSW	
11	子どもの福祉課題と支援④	テキスト：第5章 子ども支援：若者支援	
12	子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践①	テキスト：第6章 子ども支援とSW：アセスメント	
13	子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践②	テキスト：第6章 子ども支援とSW：連携・協働	
14	子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践③	テキスト：第6章 子ども支援とSW：児童虐待	
15	子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践④	テキスト：第6章 子ども支援とSW：教育との協働	
16	まとめ	本講義のまとめ	
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2022）：『児童・家庭福祉』、中央法規、2500円（税抜き）※その他、必要に応じて受講時に示すこととする。		
	学びの手立て 本科目は、講義形式ではあるが、より主体的に講義に取り組めるよう、演習（ペアワーク等）も取り入れ講義を展開する。ゆえに、受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてもしっかりと取り組み、提出期限を守ること。		
	評価 演習（ペアワーク等）への参加状況及び期間中に与える小課題等も含め、総合的に評価する。 総合的な評価方法は「演習参加態度30%、小課題70%」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目（児童・家庭福祉）と関連する科目「スクールソーシャルワーク論」に対する学びとともに、ソーシャルワーク実践を意識した他の共通科目、専門科目を意識し、学びに取り組んでほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人体の構造と機能及び疾病	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-富盛 宏[心理カウンセリング専攻対象]	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい 公認心理師として知っておくべき人体の構造と機能、心理支援対象となる疾病について学び、保健医療領域の実践に活かせることがねらいです。	メッセージ ヒトのこころと身体は分けて考えることはできません。心身機能、身体構造に関する基礎知識を得て、心理支援に役立ててもらいたいと考えます。医療現場の実践を踏まえ、臨床例を紹介しながら講義を進める予定です。 この科目は心理カウンセリング専攻公認心理師コース限定の科目です。
	到達目標 ①心身機能、身体構造及びさまざまな疾病と障害を理解することができる ②心理支援が必要な主な疾病を理解することができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の確認
	2	解剖学、生理学	配布資料・参考資料の精読
	3	加齢による身体、心理、精神機能の変化	配布資料・参考資料の精読
	4	めまい、倦怠感、呼吸困難等の主要な症候	配布資料・参考資料の精読
	5	心理的支援が必要な疾病①がん、難病	配布資料・参考資料の精読
	6	心理的支援が必要な疾病②遺伝性疾患	配布資料・参考資料の精読
	7	心理的支援が必要な疾病③後天性免疫不全症候群（AIDS）	配布資料・参考資料の精読
	8	心理的支援が必要な疾病④脳血管疾患	配布資料・参考資料の精読
	9	心理的支援が必要な疾病⑤脳卒中後遺症、循環器疾患、内分泌代謝疾患	配布資料・参考資料の精読
	10	心理的支援が必要な疾病⑥依存症	配布資料・参考資料の精読
	11	心理的支援が必要な疾病⑦移植医療、再生医療	配布資料・参考資料の精読
	12	心理的支援が必要な疾病⑧サイコオンコロジー	配布資料・参考資料の精読
	13	心理的支援が必要な疾病⑨緩和ケア、終末期ケア	配布資料・参考資料の精読
	14	まとめ①	配布資料・参考資料の精読
15	まとめ②	配布資料・参考資料の精読	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。 参考文献『人体の構造と機能及び疾病 武田克彦他編 医歯薬出版会社』		
	学びの手立て ・「障害者・障害児の心理学」、「健康・医療に関する心理学」を学んでおくこと。 ・授業中の私語や携帯（スマホ）などの使用は認めない。授業途中からの参加は講義内容を理解できないと考えられることから、遅刻は原則認めない。		
	評価 期末試験80%、平常点20%（毎回授業終了後にその回のテーマに関する問題1つ提示）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の学びを踏まえ、臨床演習、臨床実習に臨んでいただきたい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 スクールソーシャルワークの理論と実践を学ぶことにより、子どもに現れてくる諸現象に効果的に対応できる能力を培う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	スクールソーシャルワーク論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、今日の学校現場になぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか、またその歴史・動向について理解を深める。そして、学校教育の特徴や教育(学校)が連携する機関とその機能について学ぶとともにスクールソーシャルワーク(以下、SSW)の基礎理論等に関し理解する。さらに、SSWの展開過程や実践について考える。それらを通して、SSWの課題と展望について理解する。</p>	<p>現在の学校現場で何か起こっているのか関心をもちながら、受講してほしい。現代社会における子どもの貧困や児童虐待等が子どもの心身に与える影響について学ぶこと。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。</p>
到達目標	<p>学校現場で生じる子どもに現れてくる諸現象を把握する。また、子どもやその保護者(家庭)への支援について理解する。その際、教育委員会、児童相談所、福祉事務所等関係機関との連携のあり方も身につける。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：授業の目的、沖縄県内のSSWr配置状況等	受講の心構え等
	2	SSWの概要 ①	復習
	3	SSWの概要 ②	復習
	4	教育との協働	復習
	5	若者の自立支援	復習
	6	SSWとは？ ① DVD「SSWrの仕事」	(DVD視聴①) レポート提出
	7	SSWとは？ ②	復習
8	SSWの歴史と動向	復習	
9	現場の実践 ゲストスピーカー(SSWr等)	レポート提出	
10	SSWの基礎理論	復習	
11	SSWの展開過程 ① DVD「SSWrによるケース会議」	(DVD視聴②) レポート提出	
12	SSWの展開過程 ②	復習	
13	SSW実践 ①いじめ	復習	
14	SSW実践 ②保護者対応	復習	
15	これまでの振り返り・まとめ	レポート課題	
16	学期末テスト	総まとめ	
テキスト・参考文献・資料など	<p>◎山野・野田・半羽編著(2016)；『よくわかる スクールソーシャルワーク』、ミネルヴァ書房。          金澤・奥村・郭・野尻編著(2016)；『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版。          米川編著(2015)；『スクールソーシャルワーク実習・演習テキスト』、北大路書房。          門田・奥村監修(2014)；『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規。          キャロル・リップペイ・マサット他編著、山野則子監修(2020)；『スクールソーシャルワークハンドブック』、明石書店。</p>		
学びの手立て	<p>授業に対して、予習・復習を含め積極的に取り組むのはもちろんのこと、授業後には質問をすること。また、自らの関心事(例えば、子どもの貧困、児童虐待、不登校、障がい等)で構わないので、常日頃から「新聞」に目を通しスクラップして下さい。</p>		
評価	<p>出席は平常点とし、授業態度(10%)、小レポート(20%)及び学期末テスト(もしくは、レポート)(70%)を総合して評価を行う。スクラップレポート(記事の内容、感想・考察等)の提出は任意だが加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「スクールソーシャルワーカー認定課程」資格の指定科目である「スクールソーシャルワーク演習」「スクールソーシャルワーク実習指導」につながる。ただし、同課程に進むには、各種課題に取り組むなどして選抜されなければならない。詳しくは、『履修ガイド』参照のこと。</p> <p>関連科目：上記スクールソーシャルワーク関連科目の他、社会福祉士関連科目。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 現代社会における諸問題に関心を持ち、課題解決に役立つ対人援助力を身につける、実践的な専門科目である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ストレス・マネジメント	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田 幸彦、平山 篤史、他	2年	上田まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えると、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスの基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的支援技法について学ぶ。	【実務経験】実際に臨床の現場で働いている現役公認心理師が、オムニバス形式で講義を担当します。臨床の現場に即したストレス理論、対処法を伝えます。
到達目標	受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対処し、自らの心身の健康の維持増進に学んだことを活用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション/ストレスとは何か	配布資料の復習
	2	ストレスモデル・心理教育	配布資料の復習
	3	ストレスモデル・心理教育	配布資料の復習
	4	ストレスの測定・ストレスチェック	ストレスチェックの確認
	5	日々のコーピングのコツ	コーピングの実践
	6	漸進的筋弛緩法	対処法の実践
	7	自律訓練法	対処法の実践
8	呼吸法	対処法の実践	
9	マインドフルネス瞑想	対処法の実践	
10	動作法	対処法の実践	
11	アンガーマネジメント	対処法の実践	
12	認知行動療法	対処法の実践	
13	認知行動療法	対処法の実践	
14	問題解決法	対処法の実践	
15	ストレス測定・ストレスチェック	ストレスチェックの振り返り	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など			
参考文献： 図解雑学ストレス ナツメ社 中野敬子著 ストレスマネジメント入門 金剛出版 日本ストレス学会編 ストレス科学事典 実務教育出版			
学びの手立て			
講義に出てくるストレス対処技法は実際に自分でやってみること。			
評価			
平常点（講義への積極的参加、質問、授業中に行うミニレポート）・・・20%、最終試験・・・80%によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 神経・生理心理学 臨床心理学
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神医学	前期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝、他	2年	知名孝 (takashic@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい この講義では、いわゆる「精神医学」と言われる学問分野の基礎編を中心に講義します。福祉や心理実践において必要最低限の知識を提供していきます。	メッセージ この講義は精神科医師によるオムニバス講義で、各講師が精神医学の実践者としての経験を生かした講義内容となっています。
	到達目標 ①精神医学総論の習得 ②精神医学各論・疾病論の習得 ③精神医療・保健・福祉に関する歴史や制度に関する知識の習得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	精神医学総論（新垣）	教科書第1章・第2章を要約
	2	精神医学総論（新垣）	教科書第1章・第2章を要約
	3	症状性を含む器質性精神障害（新垣）	教科書第2章1節を要約
	4	精神作用物質使用による精神及び行動の障害（福治）	教科書第2章を要約
	5	精神作用物質使用による精神及び行動の障害（福治）	教科書第2章を要約
	6	統合失調症（道下）	教科書第2章を要約
	7	統合失調症・精神疾患の治療（道下）	教科書第3節を要約
	8	統合失調症・精神疾患の治療（道下）	教科書第3章を要約
	9	精神科医療機関における治療（渡嘉敷）	教科書第4章第1節を要約
	10	地域精神医療 精神科医療機関の治療構造および専門病棟（渡嘉敷）	教科書第4章第2節を要約
	11	地域精神医療 精神科医療機関の治療構造および専門病棟（渡嘉敷）	教科書第4章第3節を要約
	12	気分（感情）障害（伊室）	教科書第2章第4節を要約
	13	神経症性障害、ストレス関連障害（伊室）	教科書第2章第5節を要約
	14	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群・パーソナリティ障害と行動の障害（伊室）	教科書第2章第6・7節を要約
	15	学期末試験	試験の準備
	16	試験の解答および解説	
	テキスト・参考文献・資料など 『最新精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規		
	学びの手立て 精神医学の基本を学ぶ講義であるため教科書熟読を推奨する。		
	評価 ①講義への参加・出席（4/5を評価の前提） ②各課題の提出（70%） ③期末テスト・期末課題（30%） *感染状況によってはテストや課題の提出をOnlineで行います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程履修者にとっては精神保健福祉士受験資格科目が次のステージとなる科目となる。心理カウンセリング専攻および社会福祉士養成課程の学生にとっては、それぞれの関連科目が次のステージの科目となる。
-------	--



※ポリシーとの関連性

傾聴力、共感性、対人援助力を身につけるための実践的な知識と技法を学ぶ専門科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神疾患とその治療	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-尾野 勤子	3年	メールにて受け付ける	

学びの準備	ねらい 公認心理師の実習において医療領域は必須であり、現場に入る前に精神疾患とその治療について理解を深めることは不可欠です。正しい知識を得て、現場に入ることが望まれます。	メッセージ 精神疾患をもつ患者やその家族について理解を深めて下さい。精神科の現場実践を踏まえ、臨床例を紹介しながら講義を進める予定です。この科目は心理カウンセリング専攻公認心理師コース限定の科目です。
	到達目標 ①代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を理解する ②向精神病薬をはじめとする薬剤による心身の変化を理解する ③医療機関へ紹介すべき症状や紹介の仕方について知る	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料の確認
	2	精神疾患の診断分類・診断基準 (ICD-10、DSM-5)	配布資料・参考資料の精読
	3	器質性精神障害	配布資料・参考資料の精読
	4	精神作用物質使用による精神および行動の障害	配布資料・参考資料の精読
	5	統合失調症、統合失笑型障害および妄想性障害	配布資料・参考資料の精読
	6	気分（感情）障害	配布資料・参考資料の精読
	7	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	配布資料・参考資料の精読
	8	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	配布資料・参考資料の精読
	9	成人のパーソナリティおよび行動の障害	配布資料・参考資料の精読
	10	精神遅滞(知的障害)	配布資料・参考資料の精読
	11	心理的発達の障害	配布資料・参考資料の精読
	12	各種検査について	配布資料・参考資料の精読
	13	向精神薬の薬理作用、薬物動態、有害事象、副作用について	配布資料・参考資料の精読
	14	精神疾患の治療法（薬物療法、作業療法、心理療法）	配布資料・参考資料の精読
	15	地域移行について・まとめ	配布資料・参考資料の精読
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜資料を配布し、参考文献を紹介する。		
	学びの手立て ・「障害者障害児心理学」、「健康・医療心理学」を学んでおくこと。 ・対面式授業形式。講義時間内に参加すること。授業途中からの参加は講義内容を理解できないと考えられることから、遅刻は原則認めない。		
	評価 期末試験80%、平常点20%（毎回授業終了後に提出してもらいリフレクションシートによって評価する）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の学びを踏まえ、臨床演習、臨床実習に臨んでいただきたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神疾患とその治療	後期	水6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝、他	2年	知名孝 (takashic@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい この講義では、いわゆる「精神医学」と領域に関わる制度に関する講義です。福祉や心理実践において必要最低限の知識を提供していきます。	メッセージ この講義は精神科医師によるオムニバス講義で、各講師が精神医学の実践者としての経験を生かした講義内容となっています。
	到達目標 ①精神医学総論の習得 ②精神医学各論・疾病論の習得 ③精神医療・保健・福祉に関する歴史や制度に関する知識の習得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期講義の説明(知名) 心理発達の障害(伊室)	教科書第2章8・9節を読む
	2	小児期および青年期に発症する精神疾患(伊室)	教科書第2章10節を読む
	3	高齢者と精神疾患(松隈)	教科書第2章第1節を読む
	4	高齢者と精神疾患(松隈)	教科書第2章第1節を読む
	5	ジェンダーの問題と精神疾患(佐村)	配付資料確認
	6	ジェンダーの問題と精神疾患(佐村)	配付資料確認
	7	心理臨床実践と精神医学(平安)	配付資料確認
	8	心理臨床実践と精神医学(平安)	配付資料確認
9	精神科医療機関における治療の実際・精神科医療の動向(吉浜)	教科書第4章・第6章を読む	
10	精神科医療機関における治療の実際・精神科医療の動向(吉浜)	教科書第4章・第6章を読む	
11	精神科医療機関における治療の実際・精神科医療の動向(宮城)	配付資料確認	
12	精神科医療機関における治療の実際・精神科医療の動向(宮城)	配付資料確認	
13	精神科医療機関における治療の実際・精神科医療の動向(宮城)	配付資料確認	
14	講義のまとめ(知名)	教科書復習	
15	学期末試験(知名)	試験の準備	
16	試験の解答および解説(知名)		
	テキスト・参考文献・資料など 『最新精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療』 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 中央法規		
	学びの手立て 精神医学の基本を学ぶ講義であるため教科書熟読を推奨する。		
	評価 ①講義への参加・出席(4/5を評価の前提) ②各課題の提出(70%) ③期末テスト・期末課題(30%) *感染状況によってはテストや課題の提出をOnlineで行います。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程履修者にとっては精神保健福祉士受験資格科目が次のステージとなる科目となる。心理カウンセリング専攻および社会福祉士養成課程の学生にとっては、それぞれの関連科目が次のステージの科目となる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神障害リハビリテーション論	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝、川満 将伸、長嶺 将大	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害（者）とどのように向き合うべきかを考えていく講義である。具体的なケース検討などを交えながら講義を進めて行く。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 ①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。 ②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。 ③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入・基礎知識の確認	精神疾患についての調べ学習
	2	基礎知識の確認	精神疾患についての調べ学習
	3	基礎知識の確認	教科書1第1章事前に読む
	4	精神保健医療福祉の歴史と動向	教科書1第1章事前に読む
	5	精神保健医療福祉の歴史と動向	教科書1第2章事前に読む
	6	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章事前に読む
	7	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章事前に読む
	8	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第3章事前に読む
9	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章事前に読む	
10	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章事前に読む	
11	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第4章事前に読む	
12	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章事前に読む	
13	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章事前に読む	
14	精神科リハビリテーションのプロセス	配布の事例資料を事前に読む	
15	事例検討・まとめ	試験に備える	
16	試験	試験の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『最新 精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論』		
	学びの手立て 講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。		
	評価 ①講義への出席は2/3以上を評価の条件とする。 ②課題の提出・定期テストの結果 (60%) ③講義中のディスカッション等への参加状況 (10%) ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 (30%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の関連科目があります。 次のステージ・関連科目
-------	--

※ポリシーとの関連性 精神障害者の歩んできた歴史を知り、地域で「当たり前前」の生活を支援するソーシャルワーカーとしての視点を得る。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉制度論	前期	月6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-比嘉 俊江	2年		

学びの準備	ねらい 精神障害者が歩んできた歴史を知り、さらにはメンタルヘルズ課題を抱えた方々の法体系について理解し、その制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。	メッセージ 精神障害者、メンタルヘルズに課題を抱える方々を、「生活者」として捉え、それぞれの望む生活の実現に向けて支援できるソーシャルワーカーとしての視点を得る。
	到達目標 メンタルヘルズの課題を持つ方々を、多職種と連携しながら支援していく際の精神保健福祉士としての役割を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1章 精神障害者に関する制度・施策の理解 および オリエンテーション (第1節)	該当する教科書部分を読む
	2	精神障害者に関する制度・施策の理解 (第1節)	該当する教科書部分を読む
	3	精神障害者に関する制度・施策の理解 (第2節)	該当する教科書部分を読む
	4	精神障害者に関する制度・施策の理解 (第3節)	該当する教科書部分を読む
	5	第2章 精神障害者の医療に関する制度 (第1節) (第2節)	該当する教科書部分を読む
	6	精神障害者の医療に関する制度 (第3節)	該当する教科書部分を読む
	7	精神障害者の医療に関する制度 (第3節)	該当する教科書部分を読む
	8	精神障害者の医療に関する制度 (第4節)	該当する教科書部分を読む
	9	第3章 精神障害者の生活支援に関する制度 (第1節) (第2節)	該当する教科書部分を読む
	10	精神障害者の生活支援に関する制度 (第3節) (第4節)	該当する教科書部分を読む
	11	第4章 精神障害者の経済的支援 (第1節)	該当する教科書部分を読む
	12	精神障害者の経済的支援 (第2節)	該当する教科書部分を読む
	13	精神障害者の経済的支援 (第3節)	該当する教科書部分を読む
	14	第5章 精神障害者と生活困窮 (第1節)	該当する教科書部分を読む
15	精神障害者と生活困窮 (第2節) (第3節)	該当する教科書部分を読む	
16	全体のまとめ・振り返り		
テキスト・参考文献・資料など 最新 精神保健福祉士要請講座 4 精神保健福祉制度論			
学びの手立て テキストの脚注について調べること。 新聞記事(時事問題)について関心を持ち、考えること。自分自身の内に生じた疑問を大切に、ゼミにおいて積極的に発言し、ゼミで行うケース検討等にも主体的に参加することを望みます。			
評価 授業の出席(3分の2以上)、授業の出席レポート(20%)、期末に提出の課題レポート(40%)として評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉援助演習に繋げる。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名 精神保健福祉の原理 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -兼浜 克弥	前期	水 6	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	ptt960@okiu.ac.jp にて受け付けします。	

学びの準備	ねらい 精神保健医療福祉に関する法的変遷を含めて理解したうえで、精神障害と精神障害者の概念について学ぶ。また、日本の精神障害に関する現状や課題、精神科医療の特異性を学習する。さらに精神保健福祉士が有すべき原理や価値、理解しておくべき根拠法や倫理綱領および職域と業務内容について理解する。	メッセージ 「精神障害者」というワードにどんなイメージをもっていますか？障害者権利条約を批准している日本における『精神保健医療福祉』の課題を国連からの勧告内容を検証しながら、精神疾患から精神障害者へと変貌していく状況は何を意味するのか？「より良く生きること」についてのデュスカッションからの「気づき」を気軽にアウトプットして下さい。
	到達目標 ①精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ②精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ③精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ④現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義を学ぶ意義について整理する
	2	①精神障害者と精神障害者の概念 制度における「精神障害者」の定義	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	3	②精神障害者と精神障害者の概念 国際生活機能分類（ICF）と精神障害者	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	4	③精神障害者と精神障害者の概念 精神障害者の障害特性	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	5	④精神障害者と精神障害者の概念 精神障害者の理解と支援にかかわる新たな潮流	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	6	①精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造 諸外国における排除の歴史とその後の展開①	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	7	②精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造 諸外国における排除の歴史とその後の展開②	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	8	③精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造 日本における排除の歴史と構造	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	9	④精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取組	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	10	①精神保健福祉の原理と理念 精神保健福祉の原理が培われた足跡・過程	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	11	②精神保健福祉の原理と理念 精神保健福祉士による実践の価値・原理	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	12	③精神保健福祉の原理と理念 精神保健福祉士による実践の視野や視点	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	13	④精神保健福祉の原理と理念 援助における関係性	教科書の授業のテーマ部分を熟読
	14	精神障害当事者との語り①	精神障害当事者への質問を準備
	15	精神障害当事者との語り②	当事者と対話して感じたことを整理
16	まとめ 試験またはレポート提出	学んだ事、気づいた事を整理する	

実践	テキスト・参考文献・資料など 最新・精神保健福祉士養成講座5「精神保健福祉の原理」一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中央法規出版
----	---

学びの手立て	講義参加者が感じたことを発言しやすい席の配置を工夫します。  講義内で把握した専門用語について、インターネット検索などを活用しながら再確認して頂く。 精神障害者の現状の課題などを動画を通してさらに理解を深める。 精神障害者の生活における課題とは何か？その課題解決のために何が必要なのか？ 講義を通して感じた「？：疑問」を大事にしてもらいたい。
--------	--

評価	講義中の参加態度（50%）、試験またはレポート（50%）によって評価する。 4/5以上の出席を単位認定の条件とする。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義後半もしくは講義終了後に予定される現場実習にて感じる「？：疑問」と講義内容で感じた疑問「？：疑問」はどのように違うのか？その違いはなぜ起こったのか？を検証するために、『精神保健福祉の原理Ⅱ』とともに『精神保健福祉論』を履修することを勧めます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉の原理Ⅱ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-熊谷 晋	2年	メールもしくは講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 精神疾患や障害を抱えることの影響について理解を深め、そのうえで、今後の精神保健福祉のありかたや、支援者として制度等をどのように活かせるのか考察する。	メッセージ 近年、風刺制度はより良い制度を目指しながら法改正を繰り返している。その制度を扱う支援者の関わり方が支援へ大きく影響を与えることから、制度及び支援のありかたを検討する。  講義開始時刻が18：30開始に変更になる場合があります。
	到達目標 どのような制度が利用できる、該当するという判断力だけでなく、支援を提供することで得られるものや失うものといった包括的な視点を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	精神保健福祉の原理とは何か―障害をどのように捉えるか―	教科書の授業内容部分を事前に読む
	2	障害者福祉の理念と歴史的展開―障害の捉え方と障害者福祉の理念―	教科書の授業内容部分を事前に読む
	3	障害者福祉の理念と歴史的展開―精神障害者福祉の歴史的展開―	教科書の授業内容部分を事前に読む
	4	精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造―諸外国における歴史と構造	教科書の授業内容部分を事前に読む
	5	精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造―日本における排除の歴史と構造	教科書の授業内容部分を事前に読む
	6	精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造―日本の社会的障壁をめぐる課題と克服への取り組み	教科書の授業内容部分を事前に読む
	7	精神障害者の生活特性―精神科医療による生活への影響	教科書の授業内容部分を事前に読む
	8	精神障害者の生活特性―精神障害者の家族が置かれている状況	教科書の授業内容部分を事前に読む
	9	精神障害者の生活特性―精神障害者の社会生活の実態	教科書の授業内容部分を事前に読む
	10	精神障害者の生活特性―メンタルヘルスをめぐる新たな課題	教科書の授業内容部分を事前に読む
	11	精神保健福祉士の役割と機能―精神保健福祉士法の理解	教科書の授業内容部分を事前に読む
	12	精神保健福祉士の役割と機能―精神保健福祉士の職業倫理	教科書の授業内容部分を事前に読む
	13	精神保健福祉士の役割と機能―精神保健福祉士の業務特性と業務指針	教科書の授業内容部分を事前に読む
	14	精神保健福祉士の役割と機能―精神保健福祉士の職場・職域	教科書の授業内容部分を事前に読む
15	精神保健福祉士の役割と機能―精神保健福祉士の業務内容とその特性	教科書の授業内容部分を事前に読む	
16	精神保健福祉領域のまとめ	これまでの講義を事前に振り返る	
実践	テキスト・参考文献・資料など 最新 精神保健福祉士養成講座「5・精神保健福祉の原理」 中央法規出版 3,000円（税別）		
	学びの手立て 講義形式とグループディスカッションを併用してカリキュラムを進めていきます。そのため、歴史や制度等の原理概要だけでなく、学生同士での意見交換を求め、相談援助として必要なコミュニケーションを意識してください。		
	評価 授業時間内の課題（50％）、および授業時間外の課題・レポート（50％）、および2/3以上の出席を前提とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連項目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 浩樹	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 今後社会福祉実践を行って行く上で、メンタルヘルスは避けて通れないテーマとなっている。この講義では、メンタルヘルスの現状とともに、それをどのように見ていくのかを受講する学生のみなさんに考えていただくような講義となる。	メッセージ この講義は精神科医としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 1 精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解が進む。 2 精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解が進む。 3 地域における精神保健実践について考えることか出来るようになる。	

学びの準備	到達目標 1 精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解が進む。 2 精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解が進む。 3 地域における精神保健実践について考えることか出来るようになる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の導入およびオリエンテーション	
	2	今年度はケアを中心にみなさんと考えていきたいと思ひます。	テキストの読み込みと考察
	3	テキストを使用します。	
	4	ケアとは何か	
	5	看護・福祉で大事なこと	
	6	村上靖彦 著 中公新書	
	7	この講義はケアに関する基本的な考え方・実践を学ぶ総論になります。	
	8	同時に精神保健に関わる様々なトピックを映像資料でご覧いただき、	
	9	主にケアの視点で議論・討論したいと思ひます。	
	10	講義の進め方についての詳細はオリエンテーションの中でお伝えします。	
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16	まとめ・試験	試験・課題の準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ケアとは何か 村上康彦著 中公新書 映像資料は用意します。 みなさんは世の中の動き、精神保健に関わるニュースに注目してください。
-------	--

学びの実践	学びの手立て テキストや映像に登場する方々の事情や想いを、様々な角度から想像して、自分はどう向き合うのか考えてみてください。
-------	---

学びの実践	評価 1 2/3以上の出席を単位認定の条件とする 2 課題の提出 (30%) 3 講義中のディスカッション等への参加状況 (20%) 4 期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 (50%)
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の科目が関連科目となる 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および 精神保健福祉援助実習など 精神保健福祉士養成課程以外の学生は、「精神医学」(通年)の履修も参考となる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健Ⅱ	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 浩樹	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 今後社会福祉実践を行って行く上で、メンタルヘルスは避けて通れないテーマとなっている。この講義では、メンタルヘルスの現状とともに、それをどのように見ていくのかを受講する学生のみなさんに考えていただくような講義となる。	メッセージ この講義は精神科医としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 1 精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解が進む。 2 精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解が進む。 3 地域における精神保健実践について考えることか 出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	講義の導入およびオリエンテーション
	2	
3	前期の精神保健学Ⅰに引き続きケアがテーマです。	
4	精神保健学Ⅰが総論とするなら、Ⅱは各論になります。	
5	具体的にはヤングケアラーに注目しようと思います。	
6	Ⅰ同様、テキストを使用します。	
7	「ヤングケアラー」とは誰か	
8	村上靖彦 著 朝日新聞出版	
9	講義の進め方はⅠと変わりません。そちらも参照してください。	
10	Ⅰの 総論を受講していなくても差し支えありません。十分に学んでいただけます。	
11		
12		
13		
14		
15		
16	まとめ・試験	
		時間外学習の内容
		テキストの読み込みと考察
		試験・課題の準備
	テキスト・参考文献・資料など 「ヤングケアラー」とは誰か 村上靖彦 著 朝日新聞出版 映像資料はこちらで用意します。	
	学びの手立て テキストや映像に登場する方々の事情や想いを想像し、自分の向き合い方を考えてみてください。	
	評価 1 2/3以上の出席を単位認定の条件とする 2 課題の提出 (30%) 3 講義中のディスカッション等への参加状況 (20%) 4 期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 (50%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の科目が関連科目となる 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および 精神保健福祉援助実習など 精神保健福祉士養成課程以外の学生は、「精神医学」（通年）の履修も参考となる。
-------	---



※ポリシーとの関連性

今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	演習終了後に受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉ニーズの多様化・複雑化に伴い、新たなサービス提供システム構築、具体的には社会から排除された人々が包括され人権が保障され安心して暮らすことができるインクルーシブな社会構築が課題となっている。演習では市民社会、協働、インクルージョン、社会資源の発掘等をキーワードにして理論と実践を学ぶ。また、実際にアクションを起こしている人々を訪問して話を伺う。	本科目では、まず、今日の社会問題を丁寧に掘り下げて現状と課題を理解します。その上で、地域包括支援、異分野異業種との連携、協働によるまちづくり等の手法をゼミメンバーと共に学んでいきましょう。また、すでに社会変革のアクションを起こしている方々との交流やゼミ合宿を通して互いの知的探求心を刺激していきましょう。
到達目標	多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション① ゼミの概要説明、ゼミ生自己紹介	配布資料を読む
	2	オリエンテーション② ゼミの体制づくり、スケジュール確認	配布資料を読む
	3	講義①：現代社会をキーワードで理解する	講義時に示す課題をまとめる
	4	講義②：協働によるまちづくりについて理解する	講義時に示す課題をまとめる
	5	協働によるまちづくりの個別研究の目的と、作成に向けた準備方法を理解する	個別面談に向けて研究計画作成
	6	個別面談①	個別面談に向けて研究計画作成
	7	特別支援学校に関する事前学習、個別面談②	個別面談に向けて研究計画作成
8	特別支援学校との交流	交流で得たことをまとめる	
9	個別研究発表①	ディスカッションを深める	
10	個別研究発表②	ディスカッションを深める	
11	個別研究発表③	ディスカッションを深める	
12	個別研究発表④	ディスカッションを深める	
13	個別研究発表⑤	ディスカッションを深める	
14	個別研究発表⑥、次週の訪問に向けて事前学習	演習テーマについてレポート作成	
15	協働によるまちづくりの実践者を訪問	訪問の感想をまとめる	
16	まとめ	演習をふりかえる	
	テキスト・参考文献・資料など	ゼミの時間に随時紹介します。	
	学びの手立て	①本演習は学生の主体的参加が不可欠です。誰かの指示を待つのではなく自ら考え行動しましょう。 ②協働によるまちづくりや障害児者に関連する講演会やシンポジウム、また、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。 ③図書館を活用し、国内外の理論や実践を広く学びましょう。	
	評価	研究成果発表（40%）、レポート（30%）、ゼミ活動への主体的参加（30%）、	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習aで培った知識と経験を専門演習bにつなげていきましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	2年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>□理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/研究のための方法論を学び先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を作成□実践的なテーマの例: アート=ケア/オープンキャンパス等活用のワークショップ/ケアとしての農園芸/自由論/公衆論/ケアツールの開発/動物とケア</p>	<p>私自身は、障害学や自己決定などにかかわる理論的な研究のほか、ケアとしてのアートや園芸福祉などに関心をもっています。「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあうつもりです。</p>
到達目標	<p>①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ③(卒業論文につながる)自身固有の問題意識を簡単に説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>□2年次では、まず、それぞれの問題関心をふりかえるとともに、研究の基本的な作法を学ぶ。また、キャンパス・ライフのwell beingや将来の設計に係わる支援やケアの紹介も行う。実践的には、アートによるケアを紹介するワークショップをオープンキャンパスで実施する。社会人特別講師を3回招聘の予定</p> <p>□授業方法は、オンラインによる特例授業が大学によって認められている場合以外は第1回から第15回まで対面授業。ただし、資料・レジュメ・コメント・レポートなどの配布・提出・共有は原則としてteamsを活用。</p> <p>□各回のテーマ ( [ ] 内が時間外学習の内容 ) 第1回 オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、これまでの学習と問題関心の確認 [これまでを振り返り、自身の問題関心を整理する] 第2回 これまでの学習と問題関心の確認(続き)、リテラシー自己評価シートの作成について [これまでの問題関心の整理]、ワークショップのスケジュールの確認 第3回 リテラシー自己評価シートによる自己紹介と他の受講者・科目担当者によるコメント [リテラシー自己評価シートの作成] 第4回-第15回は以下の通り (順不同、スケジュールに応じて取捨選択、社会人特別講師を3回招聘の予定)</p> <p>a. 基本的なアカデミックスキル習得のためのテキストの講読=担当者による発表と全員による質問・コメント [方法論等に関する文献について受講生が分担してレジュメを作成、その他の受講者はコメントを整理] b. 参考文献・先行研究の探索 [参考文献・先行研究の見通しを立てる] c. 芸術教育とケアの関わり [芸術教育とケアの関わりについての下調べ/整理]</p> <p>d. アートによるケアの可能性について [アートによるケアについての下調べ/整理] e. アートによるケアのワークショップ [オープンキャンパスでの実施に向けて準備を行う] f. キャンパス・ライフのwell beingについて=ケアすることとケアされること [自身や他者に必要とされるケアを振り返る] g. 将来の設計①「はたらく」ことの意味・意義 [「はたらく」ことについてのイメージを振り返る] h. 将来の設計②「異文化を学ぶ」「異文化で学ぶ」ことの意味・意義 [異文化交流・留学のイメージを振り返る] i. 教育と福祉の関わり [教育と福祉の関わりについての下調べ] j. 「自由」とは何か [「自由」についてのイメージを振り返る] k. 「公衆」「公共性」とは何か [「公衆」「公共性」についてのイメージを振り返る] 1. 国際福祉の現状・課題・展開 [現状・課題・展開の検討・整理] *その他、スケジュールに応じて、ケアとしての農園芸/ケアツールの開発/動物とケア/障害者法制に係る理論的・実践的な学習 [当該事項に係るイメージの整理や下調べ]</p> <p>□この科目は、(受講生が授業に主体的に参加し「ともに考える」こと)を基本に、「福祉」と人間の関わりを倫理も含めて理論的に検討するとともに、芸術療育・園芸福祉・特別支援教育等に実践的にとりくむことなどを目指すものである。こうした趣旨を踏まえ、この科目では、SAが学修者の視点を活かしつつ授業の運営を補助・支援するとともに、先進的な学修者として理論的検討や実践的学習に参与する。</p>
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>オリエンテーションで紹介/指示するほか、授業中の進行に合わせて紹介/指示する。</p>
学びの手立て	<p>「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。</p> <p>・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。</p> <p>・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。</p>
評価	<p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50%</p> <p>①②③の合計で100点</p> <p>*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 b</p>
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」の養成に寄与します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	2年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、司法福祉領域における対人援助の専門職として、基礎的な知識を理解し、さらに自らのキャリアに対する意識を明確にしていくことを目的とします。なお、適宜、現場で活躍する専門職をゲストスピーカーとして招きます。	メッセージ 司法福祉学は、社会福祉学の中では新たな領域ですが、社会の問題をもっとも反映した分野と言えます。この演習をきっかけに、司法福祉の視点から日本の社会について、ともに考えていくことにしましょう。
	到達目標 司法福祉領域における対人援助の専門職として、基礎的な知識を理解できる。 司法福祉に関連する文献を読み、内容を理解することができる。 自らの福祉専門職としてのキャリアについてイメージすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ゼミの概要 自己紹介	配布資料を読む
	2	新聞をもとに刑事司法について理解する	配布資料を読む
	3	新聞をもとに刑事司法と福祉のかかわりについて理解する	配布資料を読む
	4	日本の犯罪と非行状況について理解する	配布資料を読む
	5	沖縄の犯罪状況について理解する	配布資料を読む
	6	沖縄の非行状況について理解する	配布資料を読む
	7	沖縄の司法福祉にかかわる諸機関について理解する	配布資料を読む
	8	ゲストスピーカーによる講義（予定）	感想をまとめる
	9	施設訪問の事前学習（予定）	配布資料を読む
	10	施設見学（予定）	感想をまとめる
	11	施設訪問の事後学習（予定）	報告資料の作成
	12	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	13	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	14	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	15	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	16	まとめ	ふりかえりをする
	テキスト・参考文献・資料など ケーキの切れない非行少年たち、宮口 幸治（著）（新潮新書）新書 2019/7/12 792円		
	学びの手立て ①「履修の心構え」 積極的な取り組みを期待します。 ②「学びを深めるために」 ぜひ司法福祉に関連する施設においてボランティア活動を行ってみてください。司法福祉や対象者への理解が深まります。		
	評価 発表（50%）その他の課題（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 専門演習b (2) 次のステージ 本演習で学んだ内容を基に、次への学びへと結び付けていきましょう
-------	---

※ポリシーとの関連性

理論的な学習はもとより、実践的な活動を重視し、学内外においてボランティア活動等に積極的に参加すること。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>広くは「子ども家庭福祉」をテーマとする。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や学校等の教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、授業のねらいとしてソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立を掲げる。</p>	<p>本科目は「子ども家庭福祉」を学ぶ第一歩となるゼミである。自らの関心事に焦点を当てつつ、幅広く学んでください。受け身ではなく、ゼミ生からの積極的な提案を期待する。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。</p>
到達目標	<p>子どもに現れてくる諸現象について講義・ゼミ等で学ぶと同時に、自ら現場に足を運ぶことで現場の実態を肌で感じとる。それらにより、支援者として専門性を身につける重要性を認識する。最終的に、子どもの支援者として必要な基礎知識・技術を身につける。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもに現れてくる諸現象の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援する際には家庭で起こる問題を避けて通ることはできない。そのため、子どもを取り巻く環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。</p> <p>本科目では特に「スクールソーシャルワーク」と「子どもたちに現れてくる諸現象」に焦点を当て展開する。</p> <p>1. 「スクールソーシャルワーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その現状及び課題</li> <li>・諸外国の現状(英書講読含む)</li> <li>・学校等関係機関の理解</li> </ul> <p>など</p> <p>2. 「子どもたちに現れてくる諸現象」その1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの貧困</li> <li>・児童虐待</li> <li>・いじめ</li> </ul> <p>など</p> <p>なお、現場理解のためボランティア活動及びゼミ単位での機関/施設への訪問も計画する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて、授業時に提示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表してもらおう。そのために、図書館を大いに活用すること。</p>
	<p>評価</p> <p>出席は平常点とし、授業態度;積極的な参加(20%)、レポート(80%)等を総合して判断する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>引き続き「専門演習 b」で子ども家庭福祉について学ぶ。</p> <p>関連科目：「児童・家庭福祉」「スクールソーシャルワーク論」等。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。	この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師としての実践を生かし、実践を前提とした講義内容となっている。

到達目標	発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。
------	---------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>以下のテーマについて学生の学びのペースに合わせて進行してく。</p> <p>1. 発達障害児への支援について：</p> <p>(1) 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。</p> <p>(2) 地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。</p> <p>2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び：</p> <p>(1) 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。</p> <p>(2) インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。</p> <p>コロナウイルス感染状況に応じてOnlineによる特例授業になることもあります。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ゼミのなかで指定していく</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>実習・演習と座学とを比較しながら学びを深めていく。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミで行われる発表（50％）その他の課題（50％）2/3以上の出席を単位認定の条件とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 b が次のステージ・関連科目となる。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

「障害児の分離教育中止要請・精神科強制入院の廃止」について考え、社会福祉の現場のありかたを問いなおす力を養成。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田中 美也子	2年	musik0809@icloud.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ドイツ：マリアベルクこども病院の音楽療法、オランダ：リーフェグット・クリニックの共同体における精神医療の実践を学び、昨年日本が国連から警告を受けた「障害児の分離教育中止要請・精神科強制入院の廃止」について考えたい。	夏休みにオランダ在住の精神科医タナカケン（アムステルダム自由大学医学部卒・オランダ司法精神医療施設における依存症治療・2013年～リーフェグット・クリニック勤務）さんが、来沖します。講演会を開催しますので、ご参加ください。
到達目標	昨年8月、スイス・ジュネーブの国連本部で、日本は「障害者の権利に関する条約」に関する初めての審査を受けた。審査の結果、日本は権利条約の24条教育について6項目について「強く要請する」として警告が示された。前期の到達目標は、以下の①～③ ①6項目についての要点をコンパクトに説明できる。 ②6項目についての自分自身の考えを文章で述べるができる。 ③卒業論文に繋がる自分自身の問題意識を持ち、語るができる。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	○ 権利条約の24条教育について国連から「強く要請する」として勧告された示された6項目について対話を深める中で、各自の問題意識を高めるとともに、研究の基礎的な用法を学ぶ。 ○ 授業の方法は、オンラインによる特例授業が大学側から認められている場合以外は、全16回対面授業。尚、課題の提出はteamsを活用。 ○ 8月にオランダからの精神科医タナカケンさんが来沖、「オランダの精神医療」についての講座開催。 ○ 第1回「オリエンテーション」 第2回「これまでのこれまでの学びと問題意識の確認」 第3回「障害者権利条約第24条について学ぶ」 第4回「日本が国連から「強く要請する事項」として示された6項目について解説」 第5回「日本が国連から「強く要請する事項」として示された6項目について対話」 第6回「レポート≪「強く要請する事項6項目」≫提出・発表」 第7回「レポート≪「強く要請する事項6項目」≫対話」 第8回「インクルーシブ教育の実現に向けた国家行動計画について解説」 第9回「インクルーシブ教育の実現に向けた国家行動計画について対話」 第10回「インクルーシブ教育の実現に向けて私たちができる事について対話」 第11回「レポート≪「インクルーシブ教育について」≫提出・発表」 第12回「レポート≪「インクルーシブ教育について」≫対話」 第13回「日本が国連から求められた精神科強制入院・廃止について解説」 第14回「日本が国連から求められた精神科強制入院・廃止について対話」 第15回「精神障害のある人の尊厳の確立を求める決議について解説」 第16回「オランダの精神医療」オランダ在住精神科医タナカケン講座開催
テキスト・参考文献・資料など 授業の内容に沿って、teamsに提示。	
学びの手立て	「解説→対話→レポート→対話」を繰り返し、学びを深めることによって、自分自身の問題意識を高める。
評価	「解説→対話→レポート→対話」の合計で100点

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 b
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 a	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、3年次で実施する社会学の実証研究（社会調査）のための基礎的な視点、方法、概念・理論を学び、社会調査の準備を行う。とくに、社会学的な問題発見、テーマ設定、そして社会調査に向けた学問の応用方法などを習得するための演習となる。</p>	<p>当演習ゼミは、3年次で社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習をします。社会学と社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会学の学習と社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>
到達目標	<p>社会学の基本、とくに基本的な視点と概念、そして理論を習得すること。また、社会調査のテーマ設定の基本、調査技法の基本を習得すること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習aでは、社会学の基本的な視点や概念、そして理論の学習を行なう。ただし、文献を読んで発表するだけでなく、グループでのディスカッションや学習活動・発表などを通して、実践的に社会学の基礎を理解する。つまり、学問の抽象的な用語（概念）を身近な社会現象や私たちの行いや発言を通して理解していこうというものである。</p> <p>また、3年次の社会調査の実践に向けて、その予備訓練も随時行う。例えば、ショッピングモールを観察法の現場としたり、那覇、コザ、名護などの商店街でも聞き取り調査のための探索を行う。そして、沖縄の現代的な社会問題が生起している現場、あるいはそれが歴史的に継続している現場に赴き、その背景に蓄積された人々の生活、運動、思いも感受できるような訓練も行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会学の基礎、予備的調査に関する資料、社会調査の技法に関する参考書等を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に視かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身に付けること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、みることはできない。</p>
	<p>評価</p> <p>演習プログラムへの取り組み姿勢（平常点）が50点、個人やグループに与えられた課題の内容と精度が50点。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習b、専門演習c、専門演習d</p> <p>次のステージ： 専門演習aで身につけた社会学の基礎知識と視点を活かして、社会調査のテーマを具体化する。また、3年次の専門演習で行われる社会調査の実践につなげていくこと。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	2年	演習終了後に受付ます。	

学びの準備	ねらい 専門演習aで学んだことを踏まえてさらに社会課題について学びます。また、ディベート、自主企画を通して地域包括支援、多職種連携、協働によるまちづくり等の事例を具体的に学びます。	メッセージ 演習では、たくさんディスカッションをしましょう。また、地域でアクションを起こしている方々と交流していきましょう。既存の価値観にとらわれず、新たな価値を創造していきましょう。
	到達目標 多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か議論を深めます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 前期のふりかえり	配布資料を読む
	2	グループ企画①学生企画プロジェクトの概要説明	ディベートのテーマを考える
	3	グループ企画②テーマ設定、グループ決め	グループごとに調べ学習
	4	グループ企画③グループで話し合い	グループごとに調べ学習
	5	グループ企画④グループで話し合い	グループごとに調べ学習
	6	グループ企画⑤グループ1のプロジェクト	レポートをまとめる
	7	グループ企画⑥グループ2のプロジェクト	レポートを作成する
	8	グループ企画⑦グループ3のプロジェクト	訪問報告をまとめる
9	グループ企画のふりかえり、ディベートの目的確認	企画運営のテーマについて考える	
10	ディベート大会①テーマおよびグループ決定	企画運営のテーマについて考える	
11	ディベート大会②準備	グループごとに調べ学習	
12	ディベート大会③準備	グループごとに調べ学習	
13	ディベート体会④実施	グループごとに調べ学習	
14	ディベート大会⑤実施	レポートを作成する	
15	ディベート大会⑥実施	レポートを作成する	
16	演習ふりかえり	演習のふりかえり	
	テキスト・参考文献・資料など 演習の時間に随時紹介します。		
	学びの手立て ①積極的にボランティア活動に参加し、多くの方と出会い、学生時代だからこそ得られる経験を自ら獲得しましょう。 ②図書館を活用し、国内外の理論や実践を学びましょう。 ③ゼミ生間で互いを高め合う関係を構築していきましょう。		
	評価 グループ企画の積極的参画（40%）、ディベート大会への積極的参画（40%）、ゼミ活動全体への参画（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習c, dの学びにつなげましょう。
-------	-------------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	2年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>□理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/研究のための方法論を学び先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を作成□実践的なテーマの例: アート=ケア/オープンキャンパス等活用のワークショップ/ケアとしての農園芸/自由論/公衆論/ケアツールの開発/動物とケア</p>	<p>「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあっています。</p>
到達目標	<p>①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ③先行研究も参照しながら(卒業論文につながる)自身固有の問題意識を簡単に説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>□2年次では、まず、それぞれの問題関心をふりかえるとともに、研究の基本的な作法を学ぶ。また、キャンパス・ライフのwell beingや将来の設計に係わる支援やケアの紹介も行う。実践的には、アートによるケアを紹介するワークショップをオープンキャンパスで実施する。社会人特別講師を3回招聘の予定</p> <p>□授業方法は、オンラインによる特例授業が大学によって認められている場合以外は第1回から第15回まで対面授業。ただし、資料・レジュメ・コメント・レポートなどの配布・提出・共有は原則としてteamsを活用。</p> <p>□各回のテーマ ( [ ] 内が時間外学習の内容 ) 第1回 オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、これまでの学習と問題関心の確認 [これまでを振り返り、自身の問題関心を整理する] 第2回 これまでの学習と問題関心の確認(続き)、リテラシー自己評価シートの作成について [これまでの問題関心の整理]、ワークショップのスケジュールの確認 第3回 リテラシー自己評価シートによる自己評価と他の受講者・科目担当者によるコメント [リテラシー自己評価シートの作成] 第4回-第15回は以下の通り (順不同、スケジュールに応じて取捨選択、社会人特別講師を3回招聘の予定)</p> <p>a. 基本的なアカデミックスキル習得のためのテキストの講読=担当者による発表と全員による質問・コメント [方法論等に関する文献について受講生が分担してレジュメを作成、その他の受講者はコメントを整理] b. 参考文献・先行研究の探索 [参考文献・先行研究の見通しを立てる] c. 芸術教育とケアの関わり [芸術教育とケアの関わりについての下調べ/整理]</p> <p>d. アートによるケアの可能性について [アートによるケアについての下調べ/整理] e. アートによるケアのワークショップ [オープンキャンパスでの実施に向けて準備を行う] f. キャンパス・ライフのwell beingについて=ケアすることとケアされること [自身や他者に必要とされるケアを振り返る] g. 将来の設計①「はたらく」ことの意味・意義 [「はたらく」ことについてのイメージを振り返る] h. 将来の設計②「異文化を学ぶ」[異文化で学ぶ]ことの意味・意義 [異文化交流・留学のイメージを振り返る] i. 教育と福祉の関わり [教育と福祉の関わりについての下調べ] j. 「自由」とは何か [「自由」についてのイメージを振り返る] k. 「公衆」「公共性」とは何か [「公衆」「公共性」についてのイメージを振り返る] l. 国際福祉の現状・課題・展開 [現状・課題・展開の検討・整理] *その他、スケジュールに応じて、ケアとしての農園芸/ケアツールの開発/動物とケア/障害者法制に係る 理論的・実践的な学習 [当該事項に係るイメージの整理や下調べ]</p> <p>□この科目は、(受講生が授業に主体的に参加し「ともに考える」こと)を基本に、「福祉」と人間の関わりを倫理も含めて理論的に検討するとともに、芸術療育・園芸福祉・特別支援教育等に実践的にとりくむことなどを目指すものである。こうした趣旨を踏まえ、この科目では、SAが学修者の視点を活かしつつ授業の運営を補助・支援するとともに、先進的な学修者として理論的検討や実践的学習に参与する。</p>
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>オリエンテーションで紹介/指示するほか、授業中の進行に合わせて紹介/指示する。</p>
学びの手立て	<p>「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。</p> <p>・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。</p> <p>・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。</p>
評価	<p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50%</p> <p>①②③の合計で100点</p> <p>*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 c</p>
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

ドイツ：マリアベルクこども病院の音楽療法、オランダ：リーフ  
 エグット・クリニックの共同体における精神医療の実践を学ぶ。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田中 美也子	2年	musik0809@icloud.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ドイツ：マリアベルクこども病院の音楽療法、オランダ：リーフエグット・クリニックの共同体における精神医療の実践を学ぶ、昨年日本が国連から警告を受けた「障害児の分離教育中止要請・精神科強制入院の廃止」について考えたい。	夏休み後半、ドイツ・オランダ・オーストリア・スイスに行きます。に行きます。専門演習 b では、ヨーロッパの福祉の現場の報告をする形で進めていきたいと考えております。

到達目標
ヨーロッパの福祉の現場の報告を踏まえ、日本の福祉の課題について対話し自己の問題意識を述べることができる。
①日本の福祉の課題について要点をコンパクトに説明できる。
②日本の福祉の課題について自分自身の考えを文章で述べるができる。
③卒業論文に繋がる自分自身の問題意識を持ち、語るができる。

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
評価	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな  
 個性と能力を兼ね備えた人材」の養成に寄与します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	2年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、司法福祉領域における対人援助の専門職として、必要な知識を確認するとともに、司法福祉に関連する学術論文講読を通して学びながら、自らのキャリアに対する意識を深めていくことを目的とします。なお、適宜、現場で活躍する専門職をゲストスピーカーとして招きます。	メッセージ 専門演習aでの学びを、より進めて、社会と福祉への理解を深化させていきましょう。
	到達目標 司法福祉領域における対人援助の専門職として、必要な知識を理解できる。 司法福祉に関連する専門的文献を読み、内容を理解することができる。 自らの福祉専門職としてのキャリアについてイメージを深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ゼミの概要 各自の問題意識の共有	配布資料を読む
	2	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	3	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	4	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	5	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	6	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	7	司法福祉に関する文献の輪読	報告資料の作成
	8	ゲストスピーカーによる講義（予定）	感想をまとめる
	9	施設訪問の事前学習（予定）	配布資料を読む
	10	施設見学（予定）	感想をまとめる
	11	施設訪問の事後学習（予定）	報告資料の作成
	12	各自関心のある分野の学術論文の選定	図書館のデータベースの利用
	13	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成
	14	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成
15	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成	
16	まとめ	ふりかえりをする	
実践	テキスト・参考文献・資料など 不安解消！出所者支援 わたしたちにできること 掛川 直之 旬報社 2018/10/6 1980円		
	学びの手立て ①「履修の心構え」 積極的な取り組みを期待します。 ②「学びを深めるために」 ぜひ司法福祉に関連する施設においてボランティア活動を行ってみてください。司法福祉や対象者への理解が深まります。		
	評価 発表（50%）その他の課題（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目 専門演習c、専門演習d （2）次のステージ 本演習で学んだ内容を基に、卒業論文の作成に結び付けていきましょう
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 b	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	2年	比嘉研究室：5-418 mahiga@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	<p>広くは「子ども家庭福祉」をテーマとする。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等の福祉現場や学校等の教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、授業のねらいとしてソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立を掲げる。</p>	<p>本科目は「専門演習a」に引き続き、「子ども家庭福祉」を学ぶ第一歩となるゼミである。自らの関心事に焦点を当てつつ、幅広く学んで下さい。受け身ではなく、ゼミ生からの積極的な提案を期待する。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。</p>		
学びの実践	到達目標	子どもに現れてくる諸現象について講義・ゼミ等で学ぶと同時に、自ら現場に足を運ぶことで現場の実態を肌で感じとる。それらにより、支援者として専門性を身につける重要性を認識する。最終的に、子どもの支援者として必要な基礎知識・技術を身につける。		
	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもたちに現れてくる諸現象の背景には、保護者を含む家庭の問題がある。つまり、子どもを支援するには家庭で起こる問題を避けて通ることはできない。そのため、子どもを取り巻く環境(家庭・地域等)を理解しなければならない。</p> <p>本科目では特に「ソーシャルワークスキル」「子どもたちに現れてくる諸現象」に焦点を当て展開する。</p> <p>1. 「ソーシャルワークスキル」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーカー(社会福祉士)として現場で求められるスキル(対個人・グループ)の修得</li> <li>・各機関/施設の社会福祉士等から学ぶなど</li> </ul> <p>2. 「子どもたちに現れてくる諸現象」その2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校</li> <li>・非行</li> <li>・発達障がい</li> <li>など</li> </ul> <p>なお、現場理解のためボランティア活動及びゼミ単位での機関/施設への訪問も計画する。学期末には、各自が行ったボランティア活動について報告し、ゼミでディスカッションを行う。</p> <p>さらに、図書館の活用方法(レポートの書き方等)についても学ぶ。</p>			
学びの継続	テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて、授業時に提示する。		
	<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式で受け身で受講するものではない。他ゼミ生とともに積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表してもらおう。そのために、図書館を大いに活用すること。</p>			
	評価	出席は平常点とし、授業態度;積極的な参加(20%)、レポート(80%)等を総合して判断する。		
学びの継続	次のステージ・関連科目	<p>次年度の「専門演習 c・d」ではより深く子ども家庭福祉について学ぶ。特に「専門演習 d」では、卒論につながる「課題研究」に取り組む。</p> <p>関連科目：「児童・家庭福祉」「スクールソーシャルワーク論」等。</p>		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 1) 発達障害児への支援、2) インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師としての実践を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>以下のテーマについて学生の学びのペースに合わせて進行してく。</p> <p>1. 発達障害児への支援について：</p> <p>(1) 基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。</p> <p>(2) 地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。</p> <p>2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び：</p> <p>(1) 基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。</p> <p>(2) インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。</p> <p>コロナウイルス感染の状況に応じてはOnlineによる特例授業になる可能性があります。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ゼミのなかで指定していく</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>実習・演習と座学とを比較しながら学びを深めていく。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミで行われる発表（50％）その他の課題（50％）2/3以上の出席を単位認定の条件とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次年度の専門演習c・dおよび4年次の卒業演習が次のステージ・関連科目となる。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習b	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	2年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、3年次で実施する社会学の実証研究（社会調査）のための基礎的な視点、方法、概念・理論を学び、社会調査の準備を行う。とくに、社会学的な問題発見、テーマ設定、そして社会調査に向けた学問の応用方法などを習得するための演習となる。</p>	<p>当演習ゼミは、3年次で社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習をします。社会学と社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会学の学習と社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>
到達目標	<p>社会学の基本、とくに基本的な視点と概念、そして理論を習得すること。また、社会調査のテーマ設定の基本、調査技法の基本を習得すること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>専門演習bでは、社会学の基本的な視点や概念、そして理論の学習を行なう。ただし、文献を読んで発表するだけでなく、グループでのディスカッションや学習活動・発表などを通して、実践的に社会学の基礎を理解する。つまり、学問の抽象的な用語（概念）を身近な社会現象や私たちの行いや発言を通して理解していこうというものである。</p> <p>また、3年次の社会調査の実践に向けて、その予備訓練も随時行う。例えば、ショッピングモールを観察法の現場としたり、那覇、コザ、名護などの商店街でも聞き取り調査のための探索を行う。そして、沖縄の現代的な社会問題が生起している現場、あるいはそれが歴史的に継続している現場に赴き、その背景に蓄積された人々の生活、運動、思いも感受できるような訓練も行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会学の基礎、予備的調査に関する資料、社会調査の技法に関する参考書等を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に視かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身に付けること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、思いを汲み取ることはできない。</p>
	<p>評価</p> <p>演習プログラムへの取り組み姿勢（平常点）が50点、個人やグループに与えられた課題の内容と精度が50点。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習c、専門演習d</p> <p>次のステージ： 専門演習bで身につけた社会学と社会調査の基礎に基づいて、社会調査のテーマ設定と社会調査の実践へとつなげていく。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる演習です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 c	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	演習終了時に受付ます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>課題研究の事前学習として、地域包括支援、協働によるまちづくりをしている施設や機関を訪問し、聞き取り調査を実施します。そして、各自が調査結果を報告して取組を共有すると共に、聞き取り調査を行う際に気を付けることを学び合いたいと思います。</p>	<p>演習では、生活課題に対して先行研究を分析し、問いを立て、調査し、考察するプロセスを具体的に学びます。積極的にチャレンジしましょう。</p>
到達目標	研究とは何か、研究はどのようなプロセスで行うのか理解できる。課題研究につなげる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	社会福祉政策の動向①現代社会の特徴を理解する（少子高齢化、人口減少等）	配布資料を読む
	3	社会福祉政策の動向②地域共生社会の実現に向けて	関心テーマを調べる
	4	聞き取り調査テーマを設定する	先行研究一覧を作成する
	5	先行研究を分析する	先行研究の動向をまとめる
	6	個人面談①	個人面談の準備をする
	7	個人面談②	配布資料を読む
	8	個人面談③	調査対象にアポイントをとる
	9	聞き取り調査の分析方法を理解する	調査を実施する
	10	聞き取り調査発表準備	調査をまとめる
	11	個別発表①	個別発表の準備をする
	12	個別発表②	個別発表の準備をする
	13	個別発表③	個別発表の準備をする
14	個別発表④	最終レポートを作成する	
15	個別発表⑤	最終レポートを作成する	
16	まとめ	演習をふりかえる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	演習時に随時紹介します。指定のテキストはありません。	
学びの手立て	<p>関心分野の実践に直接触れる時間をつくりましょう。 調査に関する文献、関心分野に関する文献など図書館の文献を積極的に読みましょう。 当たり前を「問う」ことに積極的になりましょう。</p>		
評価	先行研究分析レポート35%、個人発表40%、ゼミの主体的参加25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 d につなげる。
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 c	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	3年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>□理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/研究のための方法論を学び先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を作成□実践的なテーマの例: アート=ケア/オープンキャンパス等活用のワークショップ/ケアとしての農園芸/自由論/公衆論/ケアツールの開発/動物とケア</p>	<p>私自身は、障害学や自己決定などにかかわる理論的な研究のほか、ケアとしてのアートや園芸福祉などに関心をもっています。「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあっています。これまでの学習を振り返るとともに、自身の問題意識を整理して、卒業論文の作成に備えてください。</p>
到達目標	<p>①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ③関連する諸問題や先行研究の検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身固有の問題意識を簡単に説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>□3年次(前期)では、それぞれの問題関心の整理を踏まえ、卒業論文作成計画の具体化を図る。また、キャンパス・ライフのwell beingや将来の設計に係わる支援やケアの紹介も行う。実践的には、アートによるケアを紹介するワークショップをオープンキャンパスで実施する。社会人特別講師を3回招聘の予定</p> <p>□授業方法は、オンラインによる特例授業が大学によって認められている場合以外は第1回から第15回まで対面授業。ただし、資料・レジュメ・コメント・レポートなどの配布・提出・共有は原則としてteamsを活用。</p> <p>□各回のテーマ ( [ ] 内が時間外学習の内容 ) 第1回 オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、これまでの学習と問題関心の確認 [これまでを振り返り、自身の問題関心を整理する] 第2回 これまでの学習と問題関心の確認(続き)、リテラシー自己評価シートの作成について [これまでの問題関心の整理、ワークショップのスケジュールの確認] 第3回 リテラシー自己評価シートによる自己紹介と他の受講者・科目担当者によるコメント [リテラシー自己評価シートの作成] 第4回-第15回は以下の通り(順不同、スケジュールに応じて取捨選択、社会人特別講師を3回招聘の予定)</p> <p>a. 基本的なアカデミックスキル習得のためのテキストの講読=担当者による発表と全員による質問・コメント [方法論等に関する文献について受講生が分担してレジュメを作成、その他の受講者はコメントを整理] b. 参考文献・先行研究の探索 [参考文献・先行研究の見通しを立てる] c. 芸術教育とケアの関わり [芸術教育とケアの関わりについての下調べ/整理]</p> <p>d. アートによるケアの可能性について [アートによるケアについての下調べ/整理] e. アートによるケアのワークショップ [オープンキャンパスでの実施に向けて準備を行う] f. キャンパス・ライフのwell beingについて=ケアすることとケアされること [自身や他者に必要とされるケアを振り返る] g. 将来の設計①「はたらく」ことの意味・意義 [「はたらく」ことについてのイメージを振り返る] h. 将来の設計②「異文化を学ぶ」「異文化で学ぶ」ことの意味・意義 [異文化交流・留学のイメージを振り返る] i. 教育と福祉の関わり [教育と福祉の関わりについての下調べ] j. 「自由」とは何か [「自由」についてのイメージを振り返る] k. 「公衆」「公共性」とは何か [「公衆」「公共性」についてのイメージを振り返る] l. 国際福祉の現状・課題・展開 [現状・課題・展開の検討・整理] *その他、スケジュールに応じて、ケアとしての農園芸/ケアツールの開発/動物とケア/障害者法制に係る理論的・実践的な学習 [当該事項に係るイメージの整理や下調べ]</p> <p>□この科目は、(受講生が授業に主体的に参加し「ともに考える」こと)を基本に、「福祉」と人間の関わりを倫理も含めて理論的に検討するとともに、芸術療育・園芸福祉・特別支援教育等に実践的にとりくむことなどを目指すものである。こうした趣旨を踏まえ、この科目では、SAが学修者の視点を活かしつつ授業の運営を補助・支援するとともに、先進的な学修者として理論的検討や実践的学習に参加する。</p>
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>オリエンテーションで紹介/指示するほか、授業中の進行に合わせて紹介/指示する。</p>
学びの手立て	<p>「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。</p> <p>・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。</p> <p>・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。</p>
評価	<p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50%</p> <p>①②③の合計で100点</p> <p>*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習 d</p>
-------	----------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習c	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	3年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、現代社会を社会学的な視点で解説する技法として社会調査を実践し、調査報告書を作成する。その際、沖縄社会をめぐる諸側面として沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。</p>	<p>当演習ゼミは社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習を行います。社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>

到達目標	社会調査の基礎知識と技法を身につけ、資料収集と調査テーマの設定、方法の検討、データ収集、データ整理と分析・考察を行い、調査報告書を執筆、作成すること。
------	---

学びのヒント	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>当演習ゼミは、2年次の専門演習a・bで身につけた社会学と社会調査の基礎に基づいて、社会調査のテーマ設定を行い、社会調査の実践と調査報告書の執筆・作成を行う。その際、現代の沖縄社会をめぐる諸側面を共通テーマとして、沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。よって、現代社会への洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場となる。</p> <p>前者の県外調査班については、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的なテーマとして調査研究を行う。そのテーマ設定においては加山弾『地域におけるソーシャル・エクスクルージョン ―沖縄からの移住者コミュニティをめぐる地域福祉の課題』（有斐閣、2014年）から多くの示唆を得ている。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。具体的な調査対象地域としては兵庫県尼崎市を設定しており、同市の沖縄出身者を調査の対象としていきたい。</p> <p>以上をテーマとして設定し、今日の地域福祉の観点において見落とされているマイノリティに対する排除とコミュニティの互助のありようについて「ディアスポラ」や「ポストコロニアリズム」の観点および日本社会と沖縄社会との政治的な緊張や権力関係からデータを収集し分析していきたい。その上で、先行的な研究の文献・資料等の収集を行い、調査テーマの具体的な絞り込みを行う。そして調査項目設定および調査に関する企画設計を行い社会調査実習に備える。調査方法は聞き取り方式によるライフヒストリーを採用し、沖縄での暮らしぶり、故郷を離村した理由、県外大都市に定住した理由、日本社会との関係性（とくに差別や排除の側面）、沖縄出身者コミュニティの互助のありよう、県人会・郷友会等との関わり、故郷との関係および今日の基地問題や沖縄社会の問題等に対する意識について聞き取りを行っていく。</p> <p>後者の県内調査班においては、沖縄社会の現代的な問題をテーマとして設定し、社会調査の実践を行なっていく。その際は、テーマ内容によって方法論と調査対象を検討する。沖縄社会を「県外」と「県内」に分けることにはなるが、先ほどの「ディアスポラ」や「ポストコロニアリズム」をキーワードとして、沖縄社会の「構造」的な連続性に着目する。</p> <p>両社会調査の実施は、どちらも9月～11月を予定し、後期（専門演習d）のデータ整理、分析・考察、報告書の執筆・作成に向けた準備とする。</p>
--------	---

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会調査のテーマ設定に関する先行研究、基礎的資料等の文献など参考書を適宜紹介する。</p>
----	--

学びの手立て	<p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に覗かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身に付けること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、思いを汲み取ることはできない。</p>
--------	--

評価	<p>テーマ設定における社会学の視点導入と概念設定については25点、テーマに関する基礎文献や資料収集への取り組み姿勢が50点、調査票作成や質問項目の設定および対象者へのアプローチ時における取り組み姿勢が25点となる。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習a、専門演習b、専門演習d</p> <p>次のステージ： 専門演習dで行われる社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーの1 社会福祉専門職を養成する教育、2 実践的活動を重視した教育、3 国際性を育てる教育に対応します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習c	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この演習では、専門演習bでの学びを踏まえ、司法福祉に関連する学術論文の講読やデータ分析を通して、卒業論文作成に向けたテーマの選定、その他の準備を進めます。なお、適宜、現場で活躍する専門職をゲストスピーカーとして招きます。	メッセージ 専門演習bでの学びを、より進めて、社会と福祉への理解を深化させていきましょう。
	到達目標 司法福祉領域におけるデータを分析することができる。 司法福祉に関連する専門的文献を読み、内容を理解することができる。 自らの卒業論文のテーマを選定し、イメージを深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ゼミの概要 各自の問題意識の共有	配布資料を読む
	2	各自問題意識と卒業論文のテーマの共有	報告資料の作成
	3	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成
	4	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成
	5	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成
	6	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成
	7	各自選定した学術論文についてプレゼンテーション	報告資料の作成
	8	ゲストスピーカーによる講義（予定）	感想をまとめる
	9	施設訪問の事前学習（予定）	感想をまとめる
	10	施設見学（予定）	配布資料を読む
	11	施設訪問の事後学習（予定）	報告資料の作成
	12	ゲストスピーカーによる講義（予定）	感想をまとめる
	13	卒業論文、卒業研究についてプレゼンテーション	報告資料の作成
	14	卒業論文、卒業研究についてプレゼンテーション	報告資料の作成
15	卒業論文、卒業研究についてプレゼンテーション	報告資料の作成	
16	まとめ	ふりかえりをする	
	テキスト・参考文献・資料など 不安解消！出所者支援 わたしたちにできること 掛川 直之 旬報社 2018/10/6 1980円		
	学びの手立て ①「履修の心構え」 積極的な取り組みを期待します。 ②「学びを深めるために」 ぜひ司法福祉に関連する施設においてボランティア活動を行ってみてください。司法福祉や対象者への理解が深まります。		
	評価 発表（50%）その他の課題（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 専門演習d (2) 次のステージ 本演習で学んだ内容を基に、卒業論文の作成に結び付けていきましょう
-------	--

※ポリシーとの関連性

あらゆる社会福祉問題に対し、必要に応じ福祉・医療・保健・教育等の専門職と協働し効果的に対応できる能力を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習c	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。フィールドワークとしては、児童福祉施設等を中心に福祉・教育現場に足を運び、自ら見聞し、学びを深める。また、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・倫理観の確立も掲げる。	本科目は「専門演習a・b」での学びを踏まえ「卒論演習a・b」につなげる重要な位置づけである。自らの関心に焦点化し学びを深めてください。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。

到達目標	調べ学習、ディスカッション等を通して自ら発信できるプレゼン能力を培う。また、レポート作成能力を向上させ、最終的には「課題研究」を仕上げることができる。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>子どもを取り巻く環境を総合的に理解する。特に子どもの貧困や児童虐待、社会的養護などに焦点をあてその背景等を理解する。併せて、学校現場における支援方法の一つであるスクールソーシャルワークについて理解を深めていく。</p> <p>以下、「子どもの貧困」「児童虐待」「社会的養護(施設養護・家庭養護)」および「スクールソーシャルワーク」に関する学びの柱を示す。</p> <p>①「子どもの貧困」 ・その現状と課題 ・諸外国の現状 等</p> <p>②「児童虐待」 ・その現状と課題 ・諸外国の現状 等</p> <p>③「社会的養護」 ・施設養護(本体施設・グループホーム)及び家庭養護(里親・ファミリーホーム)それぞれの現状と課題 ・諸外国の現状 等</p> <p>④「スクールソーシャルワーク」 ・その役割機能 ・その現状と課題 ・学校等関係機関の訪問 等</p> <p>※学生それぞれの関心をもとに個人・グループ単位での調べ学習・プレゼンも行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じ、授業時に提示する。</p>

学びの手立て	本科目は、講義形式で受身で受講するものではない。他のゼミ生とともに自ら積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表する。そのために図書館を大いに活用すること。
--------	---

評価	出席は平常点とし、本科目の主旨を鑑み、授業態度；積極的な参加等(20%)、レポート(80%)等を総合して行う。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文作成に向けて意識して取り組むこと。 関連科目：「卒業演習a・b」、「卒業研究発表」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習c	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 2年生で行った実践→インタビューの経験をもとに、この学年の専門演習では、4年次に執筆する卒論の準備を行っていきます。具体的には、(1)卒論・論文についての理解、(2)調査(質的調査)の理解と演習、(3)自分の卒論テーマと研究デザインの決定を目標としていきます。	メッセージ 3年生では、次年度の卒業論文とそのための調査に比重をうつしてゼミ活動を展開していきます。そのため個別の指導や春休み中の卒論指導を行っていきます。この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師としての実践を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 インタビュー調査方法への理解。卒論テーマの設定、卒論調査のデザインの設定、先行研究調査を行う。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>3年次専門演習では、次年度の卒論に向けてインタビュー調査・分析方法の習得とともに、自分の卒論テーマの設定、そのテーマに沿った調査のデザインの検討、先行研究の調査と執筆を行っていきます。学生の学びのペースにあわせて以下のことを行っていきます。以下の学習内容に合わせた事前学習を課題として課していきます。</p> <p>インタビュー調査の学習、インタビュー調査にもとづく論文の購読、インタビュー調査演習、卒論テーマの設定、読書ノート(アノテーション・ビブリオグラフィ)の作成、先行研究の執筆</p> <p>コロナウィルスの影響で状況に応じてOnlineによる特例授業になります。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>授業の中で提示していきます。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業共有ファイルに過去の卒論や資料をアップしておくので、それらを参照しながらゼミでの学習を進めていく。</p>
	<p>評価</p> <p>2/3以上の出席を単位認定の条件とする。ゼミで出されるそれぞれの課題、発表、個別指導で課される卒論に向けての課題が60%、学期末提出の先行研究が40%。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この年度の専門演習の成果は、そのまま次年度の卒論の一部になっていきます。この年度から次年度の間の春休みには継続して卒論指導を行っていきます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	3年	人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい 2年生で行った実践→インタビューの経験をもとに、この学年の専門演習では、4年次に執筆する卒論の準備を行っていきます。具体的には、(1)卒論・論文についての理解、(2)調査(質的調査)の理解と演習、(3)自分の卒論テーマと研究デザインの決定を目標としていきます。	メッセージ 3年生では、次年度の卒業論文とそのため調査に比重をうつしてゼミ活動を展開していきます。そのため個別の指導や春休み中の卒論指導を行っていきます。
	到達目標 インタビュー調査方法への理解。卒論テーマの設定、卒論調査のデザインの設定、先行研究調査を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)  3年次専門演習では、次年度の卒論に向けてインタビュー調査・分析方法の習得とともに、自分の卒論テーマの設定、そのテーマに沿った調査のデザインの検討、先行研究の調査と執筆を行っていきます。学生の学びのペースにあわせて以下のことを行っていきます。以下の学習内容に合わせた事前学習を課題として課していきます。  インタビュー調査の学習、インタビュー調査にもとづく論文の購読、インタビュー調査演習、卒論テーマの設定、読書ノート(アノテーティド・ビブリオグラフィー)の作成、先行研究の執筆
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で提示していきます。
	学びの手立て 授業共有ファイルに過去の卒論や資料をアップしておくので、それらを参照しながらゼミでの学習を進めていく。
	評価 2/3以上の出席を単位認定の条件とする。ゼミで出されるそれぞれの課題、発表、個別指導で課される卒論に向けての課題が60%、学期末提出の先行研究が40%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 この年度の専門演習の成果は、そのまま次年度の卒論の一部になっていきます。この年度から次年度の間の春休みには継続して卒論指導を行っていきます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	3年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>□理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/研究のための方法論を学び先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を作成□実践的なテーマの例: アート=ケア/オープンキャンパス等活用のワークショップ/ケアとしての農園芸/自由論/公衆論/ケアツールの開発/動物とケア</p>	<p>「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあっています。 関連する諸問題や先行研究の検討をすすめながら、自身の問題意識を整理して、卒業論文の作成に備えてください。</p>
到達目標	<p>①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ③関連する諸問題や先行研究の検討をふまえ、(卒業論文につながる)自身固有の問題意識を方法論の想定も含めて簡単に説明できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>□3年次(後期)では、それぞれの問題関心の整理を踏まえ、方法論の想定も含め卒業論文作成計画の具体化を図る。また、キャンパス・ライフのwell beingや将来の設計に係わる支援やケアの紹介も行う。実践的には、アートによるケアを紹介するワークショップをオープンキャンパスで実施する。社会人特別講師を3回招聘の予定</p> <p>□授業方法は、オンラインによる特例授業が大学によって認められている場合以外は第1回から第15回まで対面授業。ただし、資料・レジュメ・コメント・レポートなどの配布・提出・共有は原則としてteamsを活用。</p> <p>□各回のテーマ ( [ ] 内が時間外学習の内容 ) 第1回 オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、これまでの学習と問題関心の確認 [これまでを振り返り、自身の問題関心を整理する] 第2回 これまでの学習と問題関心の確認(続き)、リテラシー自己評価シートの作成について [これまでの問題関心の整理、ワークショップのスケジュールの確認] 第3回 リテラシー自己評価シートによる自己評価と他の受講者・科目担当者によるコメント [リテラシー自己評価シートの作成] 第4回-第15回は以下の通り(順不同、スケジュールに応じて取捨選択、社会人特別講師を3回招聘の予定)</p> <p>a. 基本的なアカデミックスキル習得のためのテキストの講読=担当者による発表と全員による質問・コメント [方法論等に関する文献について受講生が分担してレジュメを作成、その他の受講者はコメントを整理] b. 参考文献・先行研究の探索 [参考文献・先行研究の見通しを立てる] c. 芸術教育とケアの関わり [芸術教育とケアの関わりについての下調べ/整理]</p> <p>d. アートによるケアの可能性について [アートによるケアについての下調べ/整理] e. アートによるケアのワークショップ [オープンキャンパスでの実施に向けて準備を行う] f. キャンパス・ライフのwell beingについて=ケアすることとケアされること [自身や他者に必要とされるケアを振り返る] g. 将来の設計①「はたらく」ことの意味・意義 [「はたらく」ことについてのイメージを振り返る] h. 将来の設計②「異文化を学ぶ」「異文化で学ぶ」ことの意味・意義 [異文化交流・留学のイメージを振り返る] i. 教育と福祉の関わり [教育と福祉の関わりについての下調べ] j. 「自由」とは何か [「自由」についてのイメージを振り返る] k. 「公衆」「公共性」とは何か [「公衆」「公共性」についてのイメージを振り返る] l. 国際福祉の現状・課題・展開 [現状・課題・展開の検討・整理] *その他、スケジュールに応じて、ケアとしての農園芸/ケアツールの開発/動物とケア/障害者法制に係る理論的・実践的な学習 [当該事項に係るイメージの整理や下調べ]</p> <p>□この科目は、(受講生が授業に主体的に参加し「ともに考える」こと)を基本に、「福祉」と人間の関わりを倫理も含めて理論的に検討するとともに、芸術療育・園芸福祉・特別支援教育等に実践的にとりくむことなどを目指すものである。こうした趣旨を踏まえ、この科目では、SAが学修者の視点を活かしつつ授業の運営を補助・支援するとともに、先進的な学修者として理論的検討や実践的学習に参加する。</p>
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>オリエンテーションで紹介/指示するほか、授業中の進行に合わせて紹介/指示する。</p>
学びの手立て	<p>「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。</p> <p>・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。</p> <p>・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。</p>
評価	<p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50%</p> <p>①②③の合計で100点</p> <p>*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業演習a</p>
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	3年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当演習ゼミは、現代社会を社会学的な視点で解説する技法として社会調査を実践し、調査報告書を作成する。その際、沖縄社会をめぐる諸側面として沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。</p>	<p>当演習ゼミは社会調査を実践し、報告書を作成するための基礎的な学習を行います。社会調査の素材は皆さんの身近にたくさんあります。社会調査の実践は大変な作業を伴いますが、他者の声に耳を傾ける姿勢を身につけ、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら研究成果をまとめていきましょう。</p>
到達目標	<p>社会調査の基礎知識と技法を身につけ、資料収集と調査テーマの設定、方法の検討、データ収集、データ整理と分析・考察を行い、調査報告書を執筆、作成すること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>当演習ゼミは、専門演習cで企画した社会調査の実践と調査報告書の執筆・作成を行う。その際、現代の沖縄社会をめぐる諸側面を共通テーマとして、沖縄県外調査班と県内調査班に分かれ、社会調査を実践する。よって、現代社会への洞察力をより深めていくための共同研究・相互学習の場となる。</p> <p>前者の県外調査班については、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的なテーマとして調査研究を行う。そのテーマ設定においては加山弾『地域におけるソーシャル・エクスクルージョン —沖縄からの移住者コミュニティをめぐる地域福祉の課題』（有斐閣、2014年）から多くの示唆を得ている。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。具体的な調査対象地域としては兵庫県尼崎市を設定しており、同市の沖縄出身者を調査の対象としていきたい。</p> <p>以上をテーマとして設定し、今日の地域福祉の観点において見落とされているマイノリティに対する排除とコミュニティの互助のありようについて「ディアスポラ」や「ポストコロナリズム」の観点および日本社会と沖縄社会との政治的な緊張や権力関係からデータを収集し分析していきたい。その上で、調査項目設定および調査に関する企画設計を行い社会調査実習を実践する。調査方法は聞き取り方式によるライフストーリーを採用し、沖縄での暮らしぶり、故郷を離村した理由、県外大都市に定住した理由、日本社会との関係性（とくに差別や排除の側面）、沖縄出身者コミュニティの互助のありよう、県人会・郷友会等との関わり、故郷との関係および今日の基地問題や沖縄社会の問題等に対する意識について聞き取りを行っていく。</p> <p>後者の県内調査班においては、沖縄社会の現代的な問題をテーマについて、社会調査の実践を行っていく。その際は、テーマ内容によって方法論と調査対象を検討する。沖縄社会を「県外」と「県内」に分けることにはなるが、先ほどの「ディアスポラ」や「ポストコロナリズム」をキーワードとして、沖縄社会の「構造」的な連続性に着目する。</p> <p>両社会調査の実施は、どちらも9月～11月を予定し、12月ごろからデータ整理、分析・考察、報告書の執筆・作成を行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>とくにテキストは指定しない。社会調査のデータの分析・考察および原稿執筆に関する参考文献等を適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>最低限、社会学に関心をもつこと。そのためには、現代社会および沖縄社会に関心をもつこと。それがなければ社会調査自体に取り組むことは絶対にできない。よって、日頃からニュースをよく見聞きすること。とくに新聞は社会の時事情報の「宝庫」なので、可能なかぎり目を通すこと。</p> <p>また、社会調査では、他者は一方的に視かれ、聞き取られる存在。よって、社会調査上の倫理は必ず身につけること。その心構えとして、他者を尊重し敬うこと。他者を決めつけないこと。それがなければ、真摯に他者の声を聞き取り、思いを汲み取ることはできない。そして、その他者の声や想いを編集し、分析・考察を行い、報告書を執筆・作成する社会的責任と研究者倫理の自覚を持つこと。</p>
	<p>評価</p> <p>社会調査への取り組み姿勢が50点、データ整理への取り組み姿勢が20点、データの分析・考察および報告書の執筆・作成への取り組み姿勢が30点となる。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：専門演習a、専門演習b、専門演習c</p> <p>次のステージ： 専門演習で身につけた社会学の基礎知識と社会調査の技法を活かして、卒業研究のテーマを確立する。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	3年	演習終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 課題研究を作成することが専門演習 d の主たる内容です。研究デザインを作成し、研究プロセスを丁寧に学びます。	メッセージ 課題研究を作成する上でひとりひとりが自発的に論文を作成することが求められます。それぞれ計画を立ててしっかり取り組み、研究を充実させていきましょう。
	到達目標 研究のプロセスを理解することができる。自身の研究を発表する経験することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	研究デザインの作成方法	配布資料を読む
	3	研究倫理について	個人面談の準備をする
	4	個人面談①	個人面談の準備をする
	5	個人面談②	課題研究を作成する
	6	個人面談③	課題研究を作成する
	7	個人面談④	課題研究を作成する
	8	課題研究中間報告会①	課題研究を作成する
	9	課題研究中間報告会②	課題研究を作成する
	10	課題研究中間報告会③	課題研究を作成する
	11	課題研究中間報告会④	課題研究を作成する
	12	課題研究中間報告会⑤	研究を提出する準備をする
	13	課題研究中間報告会⑥	レジュメを準備する
	14	卒業論文発表会において配布するレジュメの作成	レジュメをまとめる
15	卒業論文発表会企画運営のための準備	企画運営の準備をする	
16	まとめ	演習をふりかえる	
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。随時資料を配布します。		
	学びの手立て 研究するとはどういうことなのか多角的に考えましょう。 積極的に先行研究や先輩の論文を読みましょう。 仲間と議論を重ねましょう。		
	評価 課題研究中間報告の内容30%、課題研究の内容60%、課題研究の積極的な取り組み10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業演習abにつなげていきましょう。
-------	-----------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	3年	Email:ogino@okiu.ac.jp 9号館400号室	

学びの準備	ねらい 前期で行った内容を踏まえ、社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成することを目的とする。	メッセージ 「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行う。社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。
	到達目標 課題研究を作成し、報告書集を完成させるのがこの演習の大きな目標となる。積極的に情報の収集・中間報告・論文作成に関して相談をすることが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 各自面談を行う	課題研究作成について計画を練る
	2	課題研究の説明 1 テーマの確認	課題研究について計画を練る
	3	課題研究の説明 2 調査の方法について	調査の方法について調べる
	4	課題研究の説明 3 調査の方法について	各調査法の長所短所を調べる
	5	課題研究の説明 4 論文作成についての諸注意	論文の作法について調べる
	6	課題研究の説明 5 論文作成についての諸注意	論文の作法を資料を使い確認
	7	論文指導	論文の執筆を行う
	8	課題研究 経過発表会 1	他発表への感想をまとめる
	9	課題研究 経過発表会 2	他発表への感想をまとめる
	10	課題研究 経過発表会 3	他発表への感想をまとめる
	11	課題研究 経過発表会 4	他発表への感想をまとめる
	12	課題研究 経過発表会 5	他発表への感想をまとめる
	13	課題研究 修正期間 1	論文の執筆を行う
	14	課題研究 修正期間 2	論文の執筆を行う
15	課題研究報告書作成について	課題研究報告書をゼミ全体で作成	
16	1年のまとめ	課題研究報告書の作成	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：出所者支援ハンドブック：刑事司法ソーシャルワークを実践する 掛川直之、飯田智子 2022 旬報社		
	学びの手立て 課題研究の作成を目的とした演習となる。各学生は研究の方法、文献の探し方、調査の仕方など多岐にわたる知識・技術を身につけることが必要とされる。必要に応じて、論文内容については担当教員との相談も必要に応じて行う点も注意すること。研究の方法、文献の引用の方法など課題研究から4年次に引き継げる内容も多くあるため、しっかりと課題研究作成で知識等を深めることをすすめる。		
	評価 授業参加度（40%）、発表や質疑応答等のディスカッション内容（30%）、課題研究の内容（30%）など総合的に判断する。 ゼミ内での発表・課題研究作成が行わなければ評価ができないので必ず行うこと。 課題研究執筆時における個人面談も評価へ影響します。 必ず個人面談を行いながら課題研究に取り組んでください。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 課題研究の内容を踏まえ、引き続きその内容を発展させるか、または新しくテーマを設定し、「卒業演習」にて卒業論文または課題研究の作成を行う。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 d	後期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	3年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	各学生の関心のある児童家庭福祉をテーマに深めていく。全体を通してグループディスカッションや論文購読を行い、プレゼン能力やレポート・論文作成能力を培う。最終的には「課題研究」を仕上げるため、その基礎(文献収集・論文の精読等)について学ぶ。	「専門演習c」に引き続き、自らの関心を意識し卒業論文につなげるように主体的に学んでください。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。

到達目標	調べ学習、ディスカッション等を通して自ら発信できるプレゼン能力を培う。また、レポート・論文作成能力を向上させ、最終的には「課題研究」を仕上げる事ができる。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>前期科目「専門演習 c」での学びを活かし、学生個々人の関心に合わせて「課題研究」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ選定</li> <li>・文献/資料収集</li> <li>・執筆(中間報告あり)</li> <li>・完成</li> </ul> <p>後期の早い段階で図書館の活用方法について学ぶ。具体的には、論文検索や卒業論文の書き方等について学びを深め、課題研究に取り掛かる。</p> <p>各自の課題研究について、それぞれの進捗状況をゼミにて中間報告(全体ゼミ)を行う。併行して、個別指導を受け進めていく。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じ、授業時に提示する。</p>

学びの手立て	<p>本科目は、講義形式で受身で受講するものではない。他のゼミ生とともに自ら積極的に取り組み、学問を探究し、その成果等を発表する。そのために図書館を大いに活用すること。</p>
--------	--

評価	<p>出席は平常点とし、本科目の主旨を鑑み、授業態度;積極的な参加等(20%)、レポート(80%)等を総合して行う。</p>
----	--

次のステージ・関連科目	<p>卒業論文作成に向けて意識すること。</p> <p>関連科目：「卒業演習a・b」「卒業研究発表」</p>
-------------	--

学びの継続	<p>卒業論文作成に向けて意識すること。</p> <p>関連科目：「卒業演習a・b」「卒業研究発表」</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	4年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>□理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/研究のための方法論を学び先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を遂行□実践的なテーマの例: アート=ケア/オープンキャンパス等活用のワークショップ/ケアとしての農園芸/自由論/公衆論/ケアツールの開発/動物とケア</p>	<p>「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあっています。卒業論文は大学での学びの総決算です。これまでの蓄積を踏まえ卒業論文の完成をめざしてください。</p>

学びの準備	到達目標
	<p>①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。 ③関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身固有の問題意識を方法論も含めて、簡単に、また質問に応じて詳細に、説明できるようになる。</p>

学びの実践	<p>学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>□4年次(前期)は、これまでの問題意識や学修成果を整理するとともに、卒業論文作成計画を点検し、計画の着実な遂行を図る。並行して、倫理も含めた福祉その他の諸問題に係わる理論的・実践的な学修も行う(アートによるケアを紹介するワークショップをオープンキャンパスで実施)。キャンパス・ライフのwell beingや将来の設計に係わる支援やケアの紹介も行う。</p> <p>□授業方法は、オンラインによる特例授業が大学によって認められている場合以外は第1回から第15回まで対面授業。ただし、資料・レジュメ・コメント・レポートなどの配布・提出・共有は原則としてteamsを活用。</p> <p>□各回のテーマ( [ ] 内が時間外学習の内容 )</p> <p>第1回 オリエンテーション、これまでの学習と問題関心の確認 [これまでを振り返り、自身の問題関心を整理する] 第2回 これまでの学習と問題関心の確認(続き) [これまでの問題関心の整理]、ワークショップのスケジュールの確認 第3回 リテラシー自己評価シート [リテラシー自己評価シートの作成]</p> <p>第4回-第5回 これまでの成果を踏まえ、研究のテーマ、方法論、先行研究・参考文献を整理したものを作成し研究計画の進行状況を発表 [レジュメを作成]</p> <p>第6回-第15回は以下の通り(順不同、スケジュールに応じて取捨選択、社会人特別講師を3回招聘の予定)</p> <p>a. 各自の研究の先行研究・参考文献の概要と自身の研究との関係についての発表と全員による質問・コメント [各自が選択した文献についてレジュメを作成、その他の受講者はコメントを整理]</p> <p>b. 各自の研究のキーワード5つについて自身のテーマとの関連も含めた要点の発表と全員によるコメント [各自が選択したキーワードについてレジュメを作成、その他の受講者はコメントを整理]</p> <p>c. 芸術教育とケアの関わり [芸術教育とケアの関わりについての下調べ/整理] d. アートによるケアの可能性について [アートによるケアについての下調べ/整理] e. アートによるケアのワークショップ [オープンキャンパスでの実施に向けて準備を行う] f. キャンパス・ライフのwell beingについて=ケアすることとケアされること [自身や他者に必要とされるケアを振り返る] g. 将来の設計①「はたらく」ことの意味・意義 [「はたらく」ことについてのイメージを振り返る] h. 将来の設計②「異文化を学ぶ」「異文化で学ぶ」ことの意味・意義 [異文化交流・留学のイメージを振り返る] i. 教育と福祉の関わり [教育と福祉の関わりについての下調べ] j. 「自由」とは何か [「自由」についてのイメージを振り返る] k. 「公衆」「公共性」とは何か [「公衆」「公共性」についてのイメージを振り返る] l. 国際福祉の現状・課題・展開 [現状・課題・展開の検討・整理]</p> <p>*その他、スケジュールに応じて、ケアとしての農園芸/ケアツールの開発/動物とケア/障害者法制に係る理論的・実践的な学習 [当該事項に係るイメージの整理や下調べ]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>オリエンテーションで紹介/指示するほか、授業中の進行に合わせて紹介/指示する。</p>

学びの手立て	<p>「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。</p> <p>・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。</p> <p>・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。</p>
	<p>評価</p> <p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50%</p> <p>①②③の合計で100点</p> <p>*遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業演習 b</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	4年	授業終了後に受け付けます。問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①大学4年間の学びの集大成として、自分で「問い」を立て解決する研究過程を卒業論文としてまとめること。②自分の頭で批判的に考えること、論理的・合理的に考えること、学んだ理論や知識を活かし問題解決の方法を考えること。卒業論文の作成を通して、自分のライフワークに繋がる何かを見つけることができることをねらいとする。</p> <p>到達目標</p> <p>①研究上必要な知識・技能（聞く・課題を発見する・情報を収集する・情報を整理する・読む・書く・分析する・発表する）が身についている。</p> <p>②卒業論文を作成することができる。</p> <p>③卒業論文研究を発表することができる。</p>	<p>社会情勢や保健・医療・介護・福祉領域の課題に関心を持ち、自分の「問い」をあたためること。卒業論文は本人が主体的に取り組まなければ作成できない。そのためには、同級生や先輩との交流、指導教員とのディスカッションが力になる。セルフマネジメントも重要である。お世話になる関係者も含め、周りの力を借りながら取り組もう。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	専門演習 c・d を振り返る
	2	卒業論文とは何か、研究仮説について	研究仮説を立てる
	3	研究の倫理について、研究計画書とは、	先行研究論文を検索する
	4	卒業論文計画書作成①	卒業論文の構成を考える
	5	卒業論文計画書作成②	卒業論文計画書を作成する
	6	卒業論文計画書の提出	参考文献リストを作成する
	7	卒業論文作成のための個人面談①	テーマと論文概要を執筆する
	8	卒業論文作成のための個人面談②	テーマと論文概要を執筆する
9	卒業論文作成のための個人面談③	テーマと論文概要を執筆する	
10	卒業論文作成のための個人面談④	テーマと論文概要を執筆する	
11	卒業論文作成のための個人面談⑤	テーマと論文概要を執筆する	
12	卒業論文計画書、要約の提出	卒業論文計画書・要約を作成する	
13	卒業論文中間報告①	卒業論文中間報告の準備	
14	卒業論文中間報告②	卒業論文中間報告の準備	
15	卒業論文中間報告③	卒業論文中間報告の準備	
16	まとめと振り返り	卒業論文計画書の見直し	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：『よくわかる卒論の書き方 第2版』、白井利明・高橋一郎著、ミネルヴァ書房、2019年</p> <p>参考文献：『よくわかる学びの技法 第3版』、田中共子編、ミネルヴァ書房、2020年</p> <p>『社会福祉の研究入門—計画立案から論文執筆まで—』、久田則夫編、中央法規、2003年</p> <p>資料：必要に応じて配布する資料は、ファイリングし持参することが望ましい。</p>	
	学びの手立て	<p>①自分の知りたいことや「問い」を深めたり広げたりして、「研究仮説」をたてること。</p> <p>②資料収集が論文執筆のカギである。専門演習から始めた資料（本・雑誌論文・新聞記事・統計資料・インターネット上の情報等）の整理を行うこと。</p> <p>③特に、先行研究論文の知見を表にまとめておくこと。</p> <p>④卒業論文作成は、教員と二人三脚で進む。積極的に個人面談や執筆指導に臨むこと。</p>	
	評価	<p>①平常点：授業参加度20%、課題提出状況・到達度20%、中間報告20%</p> <p>②卒業演習論文提出40%とし、総合的に評価する。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「卒業演習 b」において、論文作成を続ける。基本的な論文の書き進め方に沿って執筆すること。関連する科目や集中講義を履修することも考察を深めることに繋がる。また夏期休暇を有効に活用し、学内外の講演会や研修会に参加することも推奨する。

※ポリシーとの関連性

専攻では、最終的に社会福祉学理論の基礎をもとに、現場を重視した人間性と能力を兼ね備えた人材を養成することを掲げている。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	4年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	4年間の集大成として、卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて文献検索・資料収集・調査等を行い、夏季の中間報告につなげる。	これまでの学びに加えて最新の情報が得られるように常にアンテナを張ること。2月初旬には国家試験が控えているため、なるべく早めに取り組むこと。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。
到達目標	これまでの学び(講義・演習・実習等)の集大成として、「卒業論文」を仕上げることができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1. オリエンテーション；年間スケジュールの確認 (※後期開講「卒業演習b」含む)</p> <p>(a;前期)</p> <p>①「卒論の書き方」・各自のテーマ決定(～5月中旬)</p> <p>②個別指導(6月～)</p> <p>③中間報告会(7月～)</p> <p>(b;後期)</p> <p>④仮提出[ゼミ](10月下旬)</p> <p>⑤本提出[社会福祉専攻](12月中旬)</p> <p>⑥卒業論文報告会(2月初旬)</p> <p>2. 各自のテーマの決定・報告</p> <p>3. 各自のテーマに関する先行研究等の文献・資料収集</p> <p>4. 個別指導；各自の進捗状況を報告</p> <p>5. 中間報告会</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>白井・高橋(2008)；『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。 その他は必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文を作成するため、これまでの先行研究を踏まえて早めに自らのテーマに関する資料を集めること。その際図書館の利用は欠かせない。また「卒業論文」として仕上げるためには、コンスタントに先生と連絡を取り、指導を受けること。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミへの出席は当たり前であり、受講態度(20%)、中間報告(20%)と論文作成への取り組み(そのプロセス)、論文(60%)を総合的に判断して評価する。一方最終的に与える「卒業研究発表」(4単位)は、ゼミ担当教員が主査、他専攻教員が副査となって論文審査を行い、最終評価が出る。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士国家試験、就職。 関連科目：卒業研究発表。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 卒業演習 a	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	金 1	2
	担当者 知名 孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4 年	人間福祉学科 知名孝	
学びの準備	ねらい 大学4年間で学んだことを卒業論文（ゼミ論文）執筆や卒業制作を通して形にしていくことをねらいとする。	メッセージ このゼミを通じて、学生生活の集大成として形に残すものを執筆・作成し、これからの人生で振り返ることのできるものをつくって欲しい。		
	到達目標 (1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させる			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 到達目標にある、(1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させるを、ゼミ単位での指導（講義含め）と各学生単位での個人指導で進めていく。学生の執筆・作成に合わせて指導を進めていく。また同じく学生の執筆・作成の内容や進行に合わせた課題を、個人指導の中で（各学生）に課していく。 *対面を基本としますがコロナウイルス感染の状況に応じてOnline授業となる可能性もあります。			
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で指定していく。ポータルサイト上の「授業共有ファイル」にも必要な資料などをアップしておくので活用するようにすること。			
	学びの手立て 自分一人で悩まずに、指導教員と相談しながら自分の執筆・作成プロジェクトを進めていくように。			
	評価 指導で課された課題（卒論執筆原稿ドラフトの提出）（40%）、中間発表など執筆・作成に関する発表（15%）、執筆・作成の最終成果（45%）で評価を行う。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業演習 b（後期）はこのゼミで行ったものを引き継ぐ形で執筆・作成作業を行っていく。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	4年	講義終了後またはメール等で受け付ける。	

学びの準備	ねらい 現代社会を讀解するため、社会学の基礎と社会調査の技法を身につけ、4年間の集大成としての研究成果物として作成し、発表する。	メッセージ 大学生活および大学での学びの集大成です。これに取り組みず、何を大学生の証しにすると出来るのだろうか。大学で学んでいたことを、今の自分、将来の自分に目に見える形で残しておこう。
	到達目標 各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理、分析・考察、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	年間のスケジュールと諸注意	仮テーマについて考える
	2	各自卒業研究テーマ候補の報告	仮テーマに関する資料収集
	3	各自卒業研究テーマの確定と発表①	資料の読み込みとテーマの具体化①
	4	各自卒業研究テーマの確定と発表②	資料の読み込みとテーマの具体化②
	5	各自卒業研究テーマの確定と発表③	資料の読み込みとテーマの具体化③
	6	各自卒業研究テーマの確定と発表④	資料の読み込みとテーマの具体化④
	7	卒業研究の企画・設計に関する指導	研究方法を検討する
	8	先行研究に関する文献・資料等の収集に関する指導	文献・資料等の探索と精読
	9	研究の方法論に関する指導	研究方法の検討と確定
	10	論文構成に関する指導	目次構成の作成
	11	データおよび素材の収集に関する指導①	研究方法の詳細な手順確認①
	12	データおよび素材の収集に関する指導②	研究方法の詳細な手順確認②
	13	個別の進捗確認と指導①	研究作業の進捗状況をまとめる①
	14	個別の進捗確認と指導②	研究作業の進捗状況をまとめる②
15	個別の進捗確認と指導③	研究作業の進捗状況をまとめる③	
16	予備日	予備的な作業	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにない。各自の研究テーマに応じて、適宜参考文献を紹介していく。		
	学びの手立て 必ず卒業研究の成果物を提出しなければならない。ただし、平常点（受講態度など）も重視するので、怠けずに課題に取り組むこと。		
	評価 卒業研究のテーマ設定への取り組みが25点、テーマに関する文献・資料等の収集への取り組みが50点、研究方法のや対象の設定等に関する具体化などが25点となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：卒業演習b、卒業研究発表 次のステージ：卒業研究のテーマに関する研究の取り組みと原稿執筆および論集の作成
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	4年	講義終了後に受付けます。また、メールでも受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業演習abは卒業論文を作成することを目標としています。課題研究作成の経験を活かしながら研究を進めていきます。卒業演習aでは主体的に、そして計画に沿って論文を作成します。また、卒業論文の中間報告を行います。	卒業論文作成は個々の孤独な作業のように思えますが、実際は作成過程をゼミ仲間と励ましあいながら歩んでいきます。学生どおし互いの研究を紹介し、議論を重ねたり情報を交換したりして視野を広げていきます。楽しく議論を重ねていきましょう。
到達目標	①論文作成手法を学ぶことができる。      ②発表と議論のスキルを高めることができる。      ③他の学生の研究から学び視野を広げることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、ゼミ体制づくり	卒論テーマを考える
	2	卒業論文中間報告の方法	卒論テーマを考える
	3	個別面談①	個別面談の準備をする
	4	個別面談②	個別面談の準備をする
	5	個別面談③	個別面談の準備をする
	6	個別面談④	個別面談の準備をする
	7	個別面談⑤	中間報告会の準備をする
	8	中間報告会①	中間報告会の準備をする
	9	中間報告会②	中間報告会の準備をする
	10	中間報告会③	中間報告会の準備をする
	11	ゲストスピーカー講演会	講演会の感想をまとめる
	12	中間報告会④	中間報告会の準備をする
	13	中間報告会⑤	中間報告会の準備をする
	14	中間報告会⑥	国家試験対策に関する資料を読む
15	国家試験勉強法について	国家試験勉強会の体制をつくる	
16	まとめ	演習をふりかえる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	特定のテキストはありません。演習時に随時紹介していきます。	
学びの手立て	まずは研究を楽しみましょう。また、余裕をもって計画を立てることで国試の勉強や就職活動などの両立を図っていきましょう。卒業演習aの取り組みが卒業演習bに大きく影響しますので計画的に学びを進めましょう。		
評価	卒業論文の中間報告の内容50%、ゼミメンバーの研究発表に対する積極的議論30%、授業への主体的参加20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業演習 b につなげる。
-------	------------------------------



※ポリシーとの関連性

「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」の育成に寄与します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 a	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	4 年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の完成に向けて、各自の研究を進める。論文の作成方法(作法)、発表の方法、梗概の作成方法などについて習得する。	メッセージ
	到達目標 卒業論文の作成、研究発表会、梗概集作成に必要な技術を習得する。	

学びの準備	ねらい 卒業論文の完成に向けて、各自の研究を進める。論文の作成方法(作法)、発表の方法、梗概の作成方法などについて習得する。	メッセージ
	到達目標 卒業論文の作成、研究発表会、梗概集作成に必要な技術を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回：春休みの進捗状況の報告 〔準備〕各自報告書を作成しておくこと。(120分) 第2回から12回：論文の作成 〔準備〕個人指導も受けながら、必要な作業の実施。(120分) 第13回・第14回・第15回：進捗状況についてのプレゼンテーション 〔準備〕各自プレゼンテーション資料を作成 第16回：まとめ 〔準備〕自己評価の作成。(120分)
	テキスト・参考文献・資料など なし
	学びの手立て
	評価 提出物70% 授業への取り組み30%

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業演習 b
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」の育成に寄与します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習b	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	荻野 太司	4年	ogino@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の完成に向けて、各自の研究を進める。論文の作成方法(作法)、発表の方法、梗概の作成方法などについて習得する。	メッセージ
	到達目標 前期をふまえ、卒業論文の作成、研究発表会、梗概集作成に必要な技術を習得する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回：夏休みの合宿後の進捗状況の報告 〔準備〕各自報告書を作成しておくこと。(120分)</p> <p>第2回から7回：論文の作成 〔準備〕個人指導も受けながら、必要な作業の実施。(120分)</p> <p>第8回・第9回・第10回：卒業論文の完成に向けての作業 〔準備〕提出前チェック項目にしたがい、自己点検・ゼミ生同士が点検を行い、論文を印刷。(120分)</p> <p>第11回・第12回：卒業審査への出席 〔準備〕梗概原稿および発表原稿の準備。(120分)</p> <p>第13回・14回・15回：卒業論文の修正と製本原稿の作成 〔準備〕指導教員及び副査の先生の助言をもとに、論文の完成度を高める。</p> <p>第16回：まとめ(振り返りと後輩へのアドバイスの作成)及び卒業論文発表会への出席(120分) 〔準備〕レポート及び自己評価の作成。梗概集原稿確定版の作成。(120分)</p>
	テキスト・参考文献・資料など なし
	学びの手立て
	<p>評価</p> <p>卒業論文(80%)および授業への取り組み(20%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業演習aの履修を前提とする。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 b	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小柳 正弘	4 年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>□理論的には、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討/研究のための方法論を学び先行研究を整理し調査を実施して卒業論文にむけて研究計画を作成□実践的なテーマの例: アート=ケア/オープンキャンパス等活用のワークショップ/ケアとしての農園芸/自由論/公衆論/ケアツールの開発/動物とケア</p>	<p>「頭を働かせて身体を動かす」ことをいとわないのであれば、どんなテーマに取り組む学生にもつきあっています。卒業論文は大学での学びの総決算です。これまでの蓄積を踏まえ卒業論文を完成してください。</p>
到達目標	<p>①他者が書いたり話したりしたことの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。                  ②自身が考えていることの要点を口頭や文章でコンパクトに説明できるようになる。                  ③自身固有の問題意識にもとづく課題について、関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、適切な方法論にもとづいて分析/考察した卒業論文を完成する。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>□4年次(後期)は、卒業論文の完成に向けて、計画の着実な遂行を図る。並行して、倫理も含めた福祉その他の諸問題に係わる理論的・実践的な学修も行う。キャンパス・ライブのwell beingや将来の設計に係わる支援やケアの紹介も行う。</p> <p>□授業方法は、オンラインによる特例授業が大学によって認められている場合以外は第1回から第15回まで対面授業。ただし、資料・レジュメ・コメント・レポートなどの配布・提出・共有は原則としてteamsを活用。</p> <p>□各回のテーマ ( [ ] 内が時間外学習の内容 )</p> <p>第1回 オリエンテーション [これまでを振り返り自身の状況を整理する]                  第2回 卒業論文作成の進行状況の確認 [進行状況説明資料の作成]                  第3回-第5回 卒業論文アブストラクト(仮)の発表と全員によるコメント [レジュメを作成]                  第6回-第15回は以下の通り(順不同、スケジュールに応じて取捨選択、社会人特別講師を3回招聘の予定)</p> <p>a. 各自の研究の方法論についての発表と全員による質問・コメント [レジュメを作成、その他の受講者はコメント整理]                  b. 各自の研究の背景についての発表と全員によるコメント [レジュメを作成、その他の受講者はコメント整理]                  c. 芸術教育とケアの関わり [芸術教育とケアの関わりについての下調べ/整理] d. アートによるケアの可能性について [アートによるケアについての下調べ/整理] e. アートによるケアのワークショップ [オープンキャンパスでの実施に向けて準備を行う]                  f. キャンパス・ライブのwell beingについて=ケアすることとケアされること [自身や他者に必要とされるケアを振り返る] g. 将来の設計①「はたらく」ことの意味・意義 [「はたらく」ことについてのイメージを振り返る] h. 将来の設計②「異文化を学ぶ」「異文化で学ぶ」ことの意味・意義 [異文化交流・留学のイメージを振り返る]                  i. 教育と福祉の関わり [教育と福祉の関わりについての下調べ] j. 「自由」とは何か [「自由」についてのイメージを振り返る] k. 「公衆」「公共性」とは何か [「公衆」「公共性」についてのイメージを振り返る]                  l. 国際福祉の現状・課題・展開 [現状・課題・展開の検討・整理]                  *その他、スケジュールに応じて、ケアとしての農園芸/ケアツールの開発/動物とケア/障害者法制に係る理論的・実践的な学習 [当該事項に係るイメージの整理や下調べ]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>オリエンテーションで紹介/指示するほか、授業中の進行に合わせて紹介/指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「ともに学ぶことに主体性をもってとりくむ」というスタンスで、対話を通して、自分以外のゼミ生がどんなことにどんな関心をもっているのかも含め、さまざまな問題を多面的に(ときに根底的に)検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論的学習においても実践的学習においても、何が必要とされるかを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫で理論的な準備を試みる。</li> <li>・学んだことは、その都度、文字にして、他者との対話のなかで、その意義を検証してみる。</li> </ul>
評価	<p>①授業中の発表/報告/議論/質疑/コメントを内容と形式(積極性も含む)から評価30%、②授業(時間外の学習も含む)の準備・成果を主体性・協働性の観点から評価20%、③時間外に作成した卒業論文の研究計画等・レジュメ・レポート等(特定質問、コメント、レジュメの修正版も含む)など提出物を形式と内容から評価50%</p> <p>①②③の合計で100点                  *遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文発表</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 b	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	4年	授業終了後に受け付けます。問い合わせは教員のE-mailにしてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①大学4年間の学びの集大成として、自分で「問い」を立て解決する研究過程を卒業論文としてまとめること。②自分の頭で批判的に考えること、論理的・合理的に考えること、学んだ理論や知識を活かし問題解決の方法を考えること。卒業論文の作成を通して、自分のライフワークに繋がる何かを見つけることができることをねらいとする。</p>	<p>社会情勢や保健・医療・介護・福祉領域の課題に関心を持ち、自分の「問い」をあたためること。卒業論文は本人が主体的に取り組まなければ作成できない。そのためには、同級生や先輩との交流、指導教員とのディスカッションが力になる。セルフマネジメントも重要である。お世話になる関係者も含め、周りの力を借りながら取り組もう。</p>
到達目標	<p>①研究上必要な知識・技能（聞く・課題を発見する・情報を収集する・情報を整理する・読む・書く・分析する・発表する）が身についている。</p> <p>②卒業論文を作成することができる。</p> <p>③卒業論文研究を発表することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・卒業論文の進捗確認	研究計画書の確認・見直し
	2	論文執筆指導・個人面談①	論文執筆・進捗報告・相談
	3	論文執筆指導・個人面談②	論文執筆・進捗報告・相談
	4	論文執筆指導・個人面談③	論文執筆・進捗報告・相談
	5	論文執筆指導・個人面談④	論文執筆・進捗報告・相談
	6	論文執筆指導・個人面談⑤	論文執筆・進捗報告・相談
	7	卒業論文作成要領について	発表要旨をまとめる
	8	卒業論文発表会①	発表用パワーポイントの作成
	9	卒業論文発表会②	口頭発表原稿の作成
	10	卒業論文発表会③	質疑応答文案の作成
	11	卒業論文の提出	指摘箇所の加除修正
	12	論文の点検と推敲①	論文の点検と推敲
	13	論文の点検と推敲②	論文の点検と推敲
	14	卒業論文集の制作①	お礼状の作成
	15	卒業論文集の制作②	送付の準備
16	まとめと振り返り	専門演習・卒業演習の振り返り	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『よくわかる卒論の書き方 第2版』、白井利明・高橋一郎著、ミネルヴァ書房、2019年</p> <p>参考文献：『よくわかる学びの技法 第3版』、田中共子編、ミネルヴァ書房、2020年</p> <p>『社会福祉の研究入門—計画立案から論文執筆まで—』、久田則夫編、中央法規、2003年</p> <p>資料：必要に応じて配布する資料は、ファイリングし持参することが望ましい。</p>
----	---

学びの手立て	<p>①自分の知りたいことや「問い」を深めたり広げたりして、「研究仮説」をたてること。</p> <p>②資料収集が論文執筆のカギである。専門演習から始めた資料（本・雑誌論文・新聞記事・統計資料・インターネット上の情報等）の整理を行うこと。</p> <p>③特に、先行研究論文の知見を表にまとめておくこと。</p> <p>④卒業論文作成は、教員と二人三脚で進む。積極的に個人面談や執筆指導に臨むこと。</p>
--------	---

評価	<p>①平常点：授業参加度20%、課題提出状況・到達度20%、中間報告20%</p> <p>②卒業演習論文提出40%とし、総合的に評価する。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「専門演習」や「卒業演習」を通して、自ら「問い」を立て研究した学びを卒業後も活かそう。広く社会の課題に関心を持ち、いろいろな人々と共に、ライフワークに取り組むことを期待する。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

専攻では、最終的に社会福祉学理論の基礎をもとに、現場を重視した人間性と能力を兼ね備えた人材を養成することを掲げている。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習 b	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 昌哉	4年	比嘉研究室；5-418 mahiga@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	4年間の集大成として、卒業論文に取り組む。これまでの講義・演習・実習等で得た知識・経験に基づいて各自のテーマを設定する。それぞれのテーマに基づいて文献検索・資料収集・調査等を行い、夏季の中間報告を経て、最終的に卒業論文にまとめる。	これまでの学びに加えて最新の情報が得られるように常にアンテナを張ること。2月初旬には国家試験が控えているため、なるべく早めに取り組むこと。ポータル等大学からの連絡をこまめに確認して下さい。
到達目標	これまでの学び(講義・演習・実習等)の集大成として、「卒業論文」を仕上げることができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>前期「卒業演習a」での学び、中間報告を踏まえて、卒業論文を完成させる。</p> <p>本科目では、個別指導を中心に進めていく。</p> <p>スケジュール</p> <p>↓</p> <p>〈b:後期〉</p> <p>仮提出[ゼミ](10月下旬)</p> <p>本提出[社会福祉専攻](12月中旬)</p> <p>卒業論文報告会(2月初旬、国試終了後)</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>白井・高橋(2008)；『よくわかる 卒論の書き方』、ミネルヴァ書房。</p> <p>その他は必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文を作成するため、これまでの先行研究を踏まえて早めに自らのテーマに関する資料を集めること。その際図書館の利用は欠かせない。また「卒業論文」として仕上げるためには、コンスタントに先生と連絡を取り、指導を受けること。</p>
	<p>評価</p> <p>ゼミへの出席は当たり前であり、受講態度(20%)、最終的に提出される論文と論文作成への取り組み(そのプロセス)(80%)を総合的に判断して評価する。一方最終的に与える「卒業研究発表」(4単位)は、ゼミ担当教員が主査、他専攻教員が副査となって論文審査を行い、最終評価が出る。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会福祉士国家試験、就職。</p> <p>関連科目：卒業研究発表。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 卒業演習 b	期 別 後期	曜日・時限 金 1	単 位 2	
	担当者 知名 孝	対象年次 4 年	授業に関する問い合わせ 人間福祉学科 知名孝		
	ねらい 大学4年間で学んだことを卒業論文（ゼミ論文）執筆や卒業制作を通して形にしていくことをねらいとする。		メッセージ このゼミを通じて、学生生活の集大成として形に残すものを執筆・作成し、これからの人生で振り返ることのできるものをつくって欲しい。		
	到達目標 (1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させる 対面授業を基本としますが、コロナウイルス感染の状況に応じてOnline授業となる可能性もあります。				
学びの準備	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 到達目標にある、(1) 卒業論文（制作）のテーマを決める、(2) 論文執筆に必要な知識（執筆方法や調査方法）の取得、(3) 調査を行い論文の執筆を行う、(4) 論文や制作を完成させる を、ゼミ単位での指導（講義含め）と各学生単位での個人指導で進めていく。学生の執筆・作成に合わせて指導を進めていく。また同じく学生の執筆・作成の内容や進行に合わせた課題を、個人指導の中で（各学生）に課していく。				
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で指定していく。ポータルサイト上の「授業共有ファイル」にも必要な資料などをアップしておくので活用するようにすること。				
	学びの手立て 自分一人で悩まずに、指導教員と相談しながら自分の執筆・作成プロジェクトを進めていくように。				
	評価 指導で課された課題（卒論執筆原稿ドラフトの提出）（40%）、中間発表など執筆・作成に関する発表（15%）、執筆・作成の最終成果（45%）で評価を行う。				
学びの継続	次のステージ・関連科目 最終成果物には卒業論文として単位を認定する。				

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習b	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	4年	講義終了後またはメール等で受け付ける。	

学びの準備	ねらい 現代社会を讀解するため、社会学の基礎と社会調査の技法を身につけ、4年間の集大成としての研究成果物として作成し、発表する。	メッセージ 大学生活および大学での学びの集大成です。これに取り組みず、何を大学生の証しにすると出来るのだろうか。大学で学んでいたことを、今の自分、将来の自分に目に見える形で残しておこう。
	到達目標 各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理、分析・考察、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期のスケジュール確認と諸注意	前期のふりかえりを行う
	2	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）①	データ収集の実践①
	3	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）②	データ収集の実践②
	4	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）③	データ収集の実践③
	5	卒業論文の進捗状況報告	進捗状況報告のレジュメ作成
	6	補足的な資料収集に関する指導（適宜個別指導）	資料収集の実践
	7	データおよび素材の整理方法の指導（適宜個別指導）	データ整理の実践
	8	論文または成果物の内容構成の再検討（適宜個別指導）	内容構成の最終的な確定作業
	9	個別の進捗報告と指導①	研究成果をまとめる①
	10	個別の進捗報告と指導②	研究成果をまとめる②
	11	個別の進捗報告と指導③	研究成果をまとめる③
	12	卒業研究成果の発表	発表資料の作成
	13	卒論および成果物の仮提出と修正指導	論文の執筆と修正作業
	14	卒論および成果物の本提出	論文集の編集作業
15	卒業論文および卒業研究集の作成	論文集の印刷、製本作業	
16	予備日	予備的な作業	
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにない。各自の研究テーマに応じて、適宜参考文献を紹介していく。		
	学びの手立て 必ず卒業研究成果物を提出しなければならない。ただし、平常点（受講態度など）も重視するので、怠けずに課題に取り組むこと。		
	評価 卒業研究のテーマに関する資料収集への取り組みが25点、「卒業研究発表」（卒業論文執筆／提出完了）の研究成果の提出で65点、卒業研究論集の編集・作成作業への取り組み姿勢で10点とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：卒業演習a、卒業研究発表 次のステージ：卒業研究成果の作成と発表およびそこで身につけたジェネリックスキル（特にリサーチリテラシー）を卒業後に活かすこと。
-------	---

※ポリシーとの関連性

福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業演習b	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子	4年	講義の後およびメールにて受付けます。	

学びの準備	ねらい 卒業論文をまとめることを目的としています。個々の取り組みを深めると共に、他のゼミ生の研究成果から様々なことを学ぶことを大切にしていきたいと思いをします。	メッセージ 互いに研究成果を披露し、議論を深め、社会福祉学の充実発展につなげていきましょう。
	到達目標 ①研究をまとめることができる。 ②議論を深めることができる。 ③研究発表の手法について学ぶことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論進捗状況をまとめる
	2	卒論進捗状況を発表する	個別面談の準備をする
	3	個別面談①	個別面談の準備をする
	4	個別面談②	個別面談の準備をする
	5	個別面談③	個別面談の準備をする
	6	個別面談④	中間報告会の準備をする
	7	中間報告会①	中間報告会の準備をする
	8	中間報告会②	中間報告会の準備をする
	9	中間報告会③	卒論を完成させる
	10	中間報告会④	卒論を完成させる
	11	卒業論文集の作成	卒論とレジュメを編集する
	12	卒業論文集の作成	卒論を印刷する
	13	レジュメ集の作成	レジュメを印刷する
	14	卒業論文発表会①準備	発表会の準備をする
15	卒業論文発表会②発表会	発表会をふりかえる	
16	まとめ	演習をふりかえる	
テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストはありません。演習時に随時紹介します。			
学びの手立て 論文作成のプロセスを丁寧に進めていきましょう。			
評価 卒業論文の内容70%、他の学生の研究に対する積極的議論20%、ゼミ活動への積極的関わり10%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学生生活の集大成として卒業論文に取り組み、卒業後の人生に活かしていきましょう。
-------	---



※ポリシーとの関連性 社会福祉専門職として必要なソーシャルワークの基礎的なことを学びソーシャルワーカーとして活躍するための知識を身につける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワークの基盤と専門職	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	Gmailまたは授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。	多職種によるチームアプローチが求められている現在、各々の専門領域を理解し共通言語を持つことは重要である。ソーシャルワーク実践の場における各々の役割についても触れながら説明する。

学びの準備	到達目標
	①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解し説明することが出来る。 ②ソーシャルワークの概念について理解し説明することが出来る。 ③ソーシャルワークの基盤となる考え方について理解し説明することが出来る。 ④ソーシャルワークの形成過程について理解し説明することが出来る。 ⑤ソーシャルワークの倫理について理解し説明することが出来る。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(履修上の注意事項・評価方法について説明)	①次回の予習(教科書を熟読)
	2	社会福祉士及び介護福祉士法及び精神保健福祉士法	①、②講義感想と考察を提出
	3	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性	①、②講義感想と考察を提出
	4	ソーシャルワークの定義(1)	①、②講義感想と考察を提出
	5	ソーシャルワークの定義(2)	①、②講義感想と考察を提出
	6	ソーシャルワークの原理(1)	①、②講義感想と考察を提出
	7	ソーシャルワークの原理(2)	①、②講義感想と考察を提出
	8	ソーシャルワークの理念(1)	①、②講義感想と考察を提出
	9	ソーシャルワークの理念(2)	①、②講義感想と考察を提出
	10	ソーシャルワークの形成過程(1)	①、②講義感想と考察を提出
	11	ソーシャルワークの形成過程(2)	①、②講義感想と考察を提出
	12	専門職の倫理の概念	①、②講義感想と考察を提出
	13	倫理綱領	①、②講義感想と考察を提出
	14	倫理的ジレンマ	①、②講義感想と考察を提出
15	まとめ	②講義感想と考察を提出	
16	学期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規(学内の朝野書房で購入してください)
	参考書 授業の中で随時紹介する
	資料 随時配布する

学びの実践	学びの手立て
	テキストに沿って講義を展開していきます。従って、テキストを熟読し理解してください。わからない用語については辞書などを使って調べる習慣をつけてください。また、身近な出来事に目を向けること、更に新聞やマスコミの報道に関心を持つことは講義で学習した内容を深めることに繋がります。

学びの実践	評価
	期末テスト60%、受講への積極的な姿勢20%、提出物20%等を元に総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	受験資格取得に必要な科目ですが、国家試験のためだけの学習にとどまらず「人間の福利」を追求する学問であることを念頭において学んでください。

※ポリシーとの関連性 社会福祉専門職として必要なソーシャルワークの基礎的なことを学びソーシャルワーカーとして活躍するための知識を身につける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 美智子	2年	Gmailまたは対面授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。                  ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。                  ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。                  ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p>	<p>多職種によるチームアプローチが求められている現在、各々の専門領域を理解し共通言語を持つことは重要である。ソーシャルワーク実践の場における各々の役割についても触れながら説明する。</p>
到達目標	<p>①社会福祉士の職域と求められる役割について理解し説明することが出来る。                  ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解し説明することが出来る。                  ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解し説明することが出来る。                  ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解し説明することが出来る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(履修上の注意事項・評価方法について説明)	①次回の予習(教科書を熟読)
	2	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	①②講義の感想と考察を提出
	3	社会福祉士の職域	①②講義の感想と考察を提出
	4	福祉行政における専門職 民間の施設・組織における専門職	①②講義の感想と考察を提出
	5	諸外国の動向	①②講義の感想と考察を提出
	6	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象(1)	①②講義の感想と考察を提出
	7	ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象(2)	①②講義の感想と考察を提出
	8	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(1)	①②講義の感想と考察を提出
	9	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(2)	①②講義の感想と考察を提出
	10	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(1)	①②講義の感想と考察を提出
	11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容(2)	①②講義の感想と考察を提出
	12	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチ(1)	①②講義の感想と考察を提出
	13	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチ(2)	①②講義の感想と考察を提出
	14	ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチ(3)	①②講義の感想と考察を提出
15	まとめ	②講義の感想と考察を提出	
16	学期末テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 『ソーシャルワークの基盤と専門職』中央法規 注)テキストに沿って授業します。必ず各自で購入してください 参考書 授業の中で随時紹介する 資料 随時配布する

学びの手立て	テキストに沿って講義を展開していきます。従って、テキストを熟読し理解してください。わからない用語については辞書などを使って調べる習慣をつけてください。 また、身近な出来事に目を向けること、新聞、マスコミの報道に関心を持つことは講義で学習した内容を深めることに繋がります。
--------	--

評価	学期末テスト60%、受講への積極的な姿勢20%、提出物20%等を基に総合的に評価する。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 受験資格取得に必要な科目ですが、国家試験のためだけの学習にとどまらず「人間の福利」を追求する学問であることを念頭において学んでください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワークの理論と方法（専門） I	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-山城 涼子	2年	人間福祉学科 知名孝 (takashic@okiu.ac.jp) ・山城涼子 (ryonari3@yahoo.co.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>近年、精神保健福祉にかかるソーシャルワークでは、対象となる人々、地域の保健医療福祉課題およびニーズの多様化、複雑化が進んでいる。人々の生活環境への影響、先行きの見えない不安や困窮等が深刻である。それは精神障害の有無を問わず広く国民のメンタルヘルスの課題である。現場の実践事例を示しながら、その点に留意したソーシャルワークの展開を学ぶ講義となります。</p>	<p>この講義は精神保健福祉士としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害および精神保健福祉の課題に対するソーシャルワークの過程を理解する</li> <li>2. 精神障害および精神保健福祉の課題をもつ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する</li> <li>3. 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークについて理解する</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入	
	2	ソーシャルワークの構成要素と展開過程	教科書第1章第1～2節を読む
	3	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点とミクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開	教科書第2章第3～4節を読む
	4	精神保健福祉分野における援助関係の形成	教科書第2章第1節を読む
	5	インテークとアセスメント	教科書第2章第2～3節を読む
	6	面談技術とその応用及びグループワーク（集団援助技術）	教科書第2章第4～5節を読む
	7	アウトリーチ	教科書第2章第6節を読む
8	支援の展開（人・環境へのアプローチ）事例分析	教科書第2章第7節を読む	
9	支援の展開（ケアマネジメント）	教科書第2章第8節を読む	
10	精神障害者の家族の課題	教科書第3章第1節を読む	
11	家族理解の変遷と実践的な支援理論	教科書第3章第2節を読む	
12	家族のリカバリーと家族支援の代表的な方法の理解	教科書第3章第3節を読む	
13	精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義	教科書第4章第1節を読む	
14	地域における精神保健福祉の向上	教科書第4章第2節を読む	
15	まとめ	配布資料を読む	
16	試験	試験・課題の準備	
テキスト・参考文献・資料など	<p>詳細は講義の際に明記する。以下のテキストの使用を検討している。                  「最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]」                  一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集                  中央法規出版</p>		
学びの手立て	<p>講義中に提供するトピックや事例について積極的なディスカッションは評価の対象としており、講義中の対話の中から積極的に学んでもらいたい。</p>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>①4/5以上の出席を単位認定の条件とする</li> <li>②課題の提出（40%）</li> <li>③講義中のディスカッション等への参加状況（20%）</li> <li>④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容（40%）</li> </ol>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>精神保健福祉援助演習・実習指導につなげていくこと</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ	後期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-諸留 将人・-安村 勤	2年	人間福祉学科：諸留 将人・安村 勤	

学びの準備	ねらい 精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害（者）とどのように向き合うべきかを考えていく講義である。具体的なケース検討などを交えながら講義を進めて行く。	メッセージ この講義は精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師として勤務歴のある実践者としての経験を生かした、実践を前提とした講義内容となっている。
	到達目標 ①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②ソーシャルアクションとは何か。ソーシャルワーカーとしての視点に関する理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的な他職種連携・他機関連携についての理解がすすむ。	

学びの準備	到達目標 ①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関する理解がすすむ。 ②ソーシャルアクションとは何か。ソーシャルワーカーとしての視点に関する理解がすすむ。 ③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。 ④具体的な他職種連携・他機関連携についての理解がすすむ。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入・基礎知識の確認	教科書第5章を事前に読む
	2	ソーシャルアクションへの展開①	教科書第5章を事前に読む
	3	ソーシャルアクションへの展開②	教科書第5章を事前に読む
	4	ソーシャルアクションへの展開③	教科書第5章を事前に読む
	5	他職種連携と他機関連携①	教科書第6章を事前に読む
	6	他職種連携と他機関連携②	教科書第6章を事前に読む
	7	他職種連携と他機関連携③	教科書第6章を事前に読む
	8	他職種連携と他機関連携④	教科書第6章を事前に読む
	9	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義①	教科書第7章を事前に読む
	10	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義②	教科書第7章を事前に読む
	11	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義③	教科書第7章を事前に読む
	12	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義④	教科書第7章を事前に読む
	13	関連分野における精神保健福祉士の実践展開①	教科書第8章を事前に読む
	14	関連分野における精神保健福祉士の実践展開②	教科書第8章を事前に読む
	15	関連分野における精神保健福祉士の実践展開③	教科書第8章を事前に読む
16	関連分野における精神保健福祉士の実践展開④	教科書第8章を事前に読む	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集 中法規出版
-------	--

学びの実践	学びの手立て 講義中行うケース検討やその発表などへの参加は評価の対象としており、事例のなかから積極的に学んでもらいたい。基本的にグループワーク・対話形式を中心とする。
-------	--

学びの実践	評価 ①講義への出席は3/4（12回）以上を評価の条件とする（60%） ②講義中のディスカッション等への参加状況（20%） ③講義終了後のレポート提出（20%）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 精神保健福祉士養成課程の学生は以下の関連科目があります。 次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワークの理論と方法 I	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲宗根 政貴	2年	授業終了後に教室で受け付け。またはppt910@okiu.ac.jpまで。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目では、ソーシャルワークを実践し展開するため、ソーシャルワークの理論とその理論を土台とした実践がどう結びついているのかを学び、ソーシャルワークの専門性や専門職性についての学びを深める。</p> <p>到達目標</p> <p>本科目を受講することで、ソーシャルワークの専門性や専門職性について理解し、ソーシャルワーク実践における根拠や拠りどころとなるソーシャルワークの理論（価値や倫理、知識、技術）が、ソーシャルワーク実践とどう結びついているかを理解し、説明できる。</p>	<p>将来、ソーシャルワーク専門職をめざすみなさんにとって、本科目はその基幹となる価値や倫理、知識、技術について学ぶ。ソーシャルワーク専門職としての自分自身をイメージしながら本科目を受講して欲しい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	SW専門職性の理解
	2	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク①	テキスト：第1章 システム理論、生態学理論の理解
	3	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク②	テキスト：第1章 BPSモデルの理解
	4	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク③	テキスト：第1章 SWの目標と展開過程の理解
	5	ソーシャルワークの過程～ケースの発見とエンゲージメント①	テキスト：第2章 ケース発見方法の理解
	6	ソーシャルワークの過程～ケースの発見とエンゲージメント②	テキスト：第2章 エンゲージメントの理解
	7	ソーシャルワークの過程～アセスメント①	テキスト：第3章 アセスメントの意義と目的の理解
	8	ソーシャルワークの過程～アセスメント②	テキスト：第3章 アセスメントの方法の理解
	9	ソーシャルワークの過程～プランニング	テキスト：第4章 プランニングの意義と目的の理解
	10	ソーシャルワークの過程～支援の実施とモニタリング①	テキスト：第5章 支援の実施の理解
	11	ソーシャルワークの過程～支援の実施とモニタリング②	テキスト：第5章 モニタリングの理解
	12	ソーシャルワークの過程～支援の終結とアフターケア	テキスト：第6章 支援の終結の理解
	13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①	テキスト：第7章 SW実践モデルの理解
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②	テキスト：第7章 SW実践モデルの理解	
15	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③	テキスト：第7章 SW実践モデルの理解	
16	まとめ	本講義のまとめ	
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)：『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』、中央法規、2900円(税抜) ※その他、必要に応じて受講時に示すこととする。</li> </ul> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本ソーシャルワーク教育学校連盟(2021)：『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』『ソーシャルワークの理論と方法[精神専門]』中央法規</li> </ul>			
<p>学びの手立て</p> <p>本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてもしっかりと取り組み、提出期限は守ること。また、本科目以外のソーシャルワーク関連科目(基礎科目)との関連性も意識しながら受講すること。</p> <p>本科目は、社会福祉士・精神保健保健福祉士養成の共通科目となっている。</p>			
<p>評価</p> <p>演習への参加状況及び期間中に与える小課題等も含め、総合的に評価する。</p> <p>総合的な評価方法は「演習参加態度30%、小課題70%」とする。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目の発展的科目には「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ～Ⅳ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。その他併行して「ソーシャルワークの理論と方法[社会専門・精神専門]」「ソーシャルワーク演習[社会専門・精神専門]」等を受講し学びの継続を行うこと。本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってもらいたい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。  
本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝、砂川 亜紀美、島袋 恭子	2年	知名孝 (takashic@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げている。本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけている。	メッセージ 将来、社会福祉専門職を目指す皆さんにとって、基幹となる科目である。社会福祉士・精神保健福祉士・臨床心理士・公認心理師としての実践経験のある講師が担当している。
	到達目標 本科目を受講することで、社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。本科目では、相談援助における人と環境の相互作用に関する理論や相談援助(ソーシャルワーク)の対象、そのプロセス及びさまざまな実践モデルとそのアプローチについて理解できる。具体的には、ケースマネジメント、アウトリーチ、記録及び事例研究の技術等を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の導入・社会福祉の現場について	配付資料の確認
	2	ソーシャルワークの面接 ①	教科書第8章を読む
	3	ソーシャルワークの面接 ②	教科書第8章を読む
	4	ソーシャルワークの記録 ①	教科書第9章を読む
	5	ソーシャルワークの記録 ②	教科書第9章を読む
	6	ケアマネジメント・ケースマネジメント ①	教科書第10章を読む
	7	ケアマネジメント・ケースマネジメント ②	教科書第10章を読む
	8	グループを活用した支援 ①	教科書第11章を読む
9	グループを活用した支援 ②	教科書第11章を読む	
10	コミュニティワーク	教科書第12章を読む	
11	ソーシャルアドミニストレーション	教科書第13章を読む	
12	ソーシャルアクション	教科書第14章を読む	
13	スーパービジョン・コンサルテーション	教科書第15章を読む	
14	事例検討 ①	事例課題を行う	
15	事例検討 ② 講義のまとめ	事例課題を行う	
16	学期末テスト	テスト準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など 『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)』中央法規		
	学びの手立て 本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業展開が多いため、授業は受け身ではなく、積極的に参加すること。また、課題についてしっかりと取り組み、提出期限はちゃんと守ること。一方、社会福祉士の関連科目(基礎科目)については関連することが多いので、科目間の関連性も意識しながら受講すること。		
	評価 1) 出席時間数が2/3満たないものは「不可」、2) 講義初日に配布する資料に授業外課題の内容と提出日時が提示されるのでその提出(80%)、3) 講義の中で行う課題・ワークなどの提出(20%)。4) 学期末テスト・課題で評価する。学期末テスト・課題は課されないこともある。※ 2)と3)に関しては、課題ごとのポイントを設定し、4)と合わせての合計が100点となるように設定する。60点以下を不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本科目の発展的科目には「相談援助の理論と方法Ⅱ～Ⅳ」が存在する。授業間の関連性を意識し受講すること。その他、併行して「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」等を受講し、さらに本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行うこと。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってもらいたい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラムポリシーとして実践活動を意識した教育を行います。  
本科目にて理論と実践を結び付けられるような視点を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク（専門）Ⅰ	後期	金4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-當間 学	2年	yasuragi119@at.au-hikari.ne.jp	

学びの準備	ねらい 家族支援・地域支援・災害時支援の三つの実践のあり方を学び、総合的支援展開についてのイメージを描いたうえで、実践を支える理論と方法について理解できるようにします。	メッセージ ソーシャルワーカーの役割ともいえる、課題を抱えた方々からの相談に応じて、適切なサービス利用の調整や関係機関及び専門職、ボランティアや地域の方々等との連携について、カンファレンスのもち方や事例の分析・検討・研究の違いについて理解し、ネットワークの形成等を学習していきましょう。
	到達目標 1. ソーシャルワークにおける家族支援・地域支援・災害時支援の三つの実践を理解し、総合的支援展開の実践を支える理論と方法について理解する。 2. ソーシャルワークにおけるクライアントとの援助関係の形成について理解する。 3. ソーシャルワークにおけるネットワーキングやコーディネーション、カンファレンスについて理解する。 4. ソーシャルワークにおける事例分析・事例検討・事例研究について理解する。	

学びの準備	到達目標 1. ソーシャルワークにおける家族支援・地域支援・災害時支援の三つの実践を理解し、総合的支援展開の実践を支える理論と方法について理解する。 2. ソーシャルワークにおけるクライアントとの援助関係の形成について理解する。 3. ソーシャルワークにおけるネットワーキングやコーディネーション、カンファレンスについて理解する。 4. ソーシャルワークにおける事例分析・事例検討・事例研究について理解する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業の目的・ねらい・概要・到達目標等、オリエンテーション、演習	予習、課題レポート等
	2	総合的かつ包括的な支援の考え方	予習及び復習、課題レポート等
	3	家族支援の実践	予習及び復習、課題レポート等
	4	地域支援の実践	予習及び復習、課題レポート等
	5	非常時や災害時支援の実践	予習及び復習、課題レポート等
	6	ソーシャルワークにおける援助関係形成の意義と概念	予習及び復習、課題レポート等
	7	ソーシャルワークにおける援助関係の形成方法と留意点	予習及び復習、課題レポート等
	8	ソーシャルワークにおける援助関係（演習）	予習及び復習、課題レポート等
	9	ネットワーキング	予習及び復習、課題レポート等
	10	コーディネーション	予習及び復習、課題レポート等
	11	カンファレンス（会議の種類と方法）	予習及び復習、課題レポート等
	12	カンファレンス（演習）	予習及び復習、課題レポート等
	13	マイクロ・メゾ・マクロの会議	予習及び復習、課題レポート等
	14	事例分析と事例検討	予習及び復習、課題レポート等
	15	事例研究	予習及び復習、課題レポート等
16	後期試験	テストへ向けて予習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など <テキスト>日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集：最新社会福祉士養成講座『ソーシャルワークの理論と方法〔社会専門〕』、中央法規、2、900円（税別） <参考文献・資料など>1. 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集：最新社会福祉士養成講座『ソーシャルワークの理論と方法〔共通科目〕』、中央法規、2、900円（税別） 2. その他、必要に応じて授業の際に提示します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 講義での知識の習得と演習を取り入れてのより一層の理解の促進を図りたいと思います。そのためにも、積極的に授業に参加するとともに疑問点については調べたり質問することで理解を深めましょう。関連科目として、「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習」がありますので理解することを進めます。
-------	---

学びの実践	評価 授業参加度、課題に対する確認テストやレポート、後期評価試験による総合的な評価を行います。「演習への参加状況と課題に対するレポート及び確認テスト30%、後期評価試験70%」
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、社会福祉士国家試験に必要な科目（ソーシャルワークの基盤と専門職、ソーシャルワーク演習等）があげられます。本科目を修得後、「ソーシャルワーク実習」等で実践を行う場がありますので中核的な活躍ができるような人間性と能力を兼ね備えた人材」の社会福祉士としてご活躍できることを期待します
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャルワーク（専門）Ⅱ	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子、他	2年	講義の後に受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	複合化・複雑化した課題に向き合い、地域共生社会を実現するため、多機関の協働による包括的支援体制の構築が求められています。保健・医療・福祉の連携はもちろんのこと、他セクター（NPO, 教育機関、企業、地域住民等）との連携・協働活動をいかに展開していくか、実践の最前線で活躍しているワーカーから学びます。	地域社会の多様なセクターをつなぎそれぞれの強みを生かして包括的支援体制を構築したり社会資源を開発したりする方法を学びます。主に、カンファレンス、ネゴシエーション、コンフリクトレゾリューション、ファシリテーション、プレゼンテーションなどを学びます。講師は現役のソーシャルワーカーですので、自身の将来像をイメージしながら受講するとよいでしょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワークの理論と実践をつなげて考えることができるようになる。</li> <li>・ソーシャルワーカーの役割を理解できるようになる。</li> <li>・多職種連携、協働の方法を理解することができるようになる。</li> <li>・社会資源の開発の方法を理解することができるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	SW理論に関する資料を読む
	2	ソーシャルワーク理論の変遷と地域共生社会の構築	教科書の指定の章をまとめる
	3	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法①社会福祉協議会	課題に取り組む
	4	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法②社会福祉協議会	ミニレポートを作成する
	5	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法③社会福祉協議会	教科書の指定の章をまとめる
	6	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法④地域包括支援センター	課題に取り組む
	7	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑤地域包括支援センター	ミニレポートを作成する
	8	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑥地域包括支援センター	教科書の指定の章をまとめる
	9	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑦地域活動支援センター	課題に取り組む
	10	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑧地域活動支援センター	ミニレポートを作成する
	11	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑨地域活動支援センター	配布資料を読む
	12	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑩ソーシャルビジネス	ミニレポートを作成する
	13	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑪ソーシャルビジネス	教科書の指定の章をまとめる
	14	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑫市民活動	教科書の指定の章をまとめる
15	社会資源の活用・調整・開発 および 多様なセクターとの連携方法⑬市民活動	最終レポートを作成する	
16	まとめ	最終レポートを作成する	

実践	テキスト・参考文献・資料など 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワークの理論と方法[社会専門]』中央法規出版
----	---

学びの手立て	本科目は、講義形式と演習形式を組み合わせながら進めます。事例検討の発表やテーマにもとづくディスカッションを行いますので積極的に参加しましょう。また、各講師が課す課題についてももしっかり取り組みましょう。課題提出期限は守りましょう。社会福祉士資格科目との関連性を意識しながら受講しましょう。
--------	--

評価	各講師がそれぞれ評価した成績を総合して最終評価を算出します。各講師は、最終レポート50%、毎回のリアクションペーパー30%、グルーワークの発表内容20%を目安に評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉士受験資格に必要な諸科目につなげる。また、ソーシャルワーク実習につなげる。
-------	--



※ポリシーとの関連性

専門職として必要な知識を習得する。地域における個人支援や地域支援、社会資源の活用・開発に求められる知識を習得する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域福祉と包括的支援体制 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田 直子、-竹藤 登、社会人特別講師	2年	講義の後、もしくは、コーディネーターの岩田のメールアドレスにて受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、地域福祉の基本的な考え方や地域を基盤としたソーシャルワークの展開など、地域福祉論の基本を学びます。また、多様化・複雑化した地域課題についてその社会背景を理解すると共に、包括的な支援について多角的に学びます。本科目は社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験の受験科目ですが、広く地域を基盤とした福祉実践に関心を持つ学生も歓迎します。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉論の基本理論を理解できるようになる。</li> <li>・地域福祉の歴史を理解できるようになる。</li> <li>・地域を基盤としたソーシャルワークの展開が理解できるようになる。</li> <li>・地域共生社会の実現に向けた一連の施策を理解できるようになる。</li> <li>・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解できるようになる。</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>*教科書をしっかりと読んで講義に臨むこと</p> <p>*地域福祉に関する文献を積極的に読むこと</p> <p>*積極的にボランティアに参加すること</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、地域共生社会構築の担い手	課題に取り組む
	2	現代社会を分析する① 少子高齢化社会、人口減少社会	課題に取り組む
	3	現代社会を分析する② 協働によるまちづくり	配布資料を読む
	4	当事者の視点から地域課題を問う～自立生活運動と地域での暮らし	配布資料を読む
	5	災害時における総合的包括的支援体制①非常時や災害時における法制度	配布資料を読む
	6	災害時における総合的包括的支援体制②非常時や災害時における総合的包括的支援	課題に取り組む
	7	災害時における総合的包括的支援体制③福祉避難所	中間試験の準備
	8	前半ふりかえり、中間試験	配布資料を読む
	9	福祉計画の意義と種類、策定と運用① 福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開	配布資料を読む
	10	福祉計画の意義と種類、策定と運用② 市町村地域福祉計画、都道府県地域福祉支援計画	課題に取り組む
	11	福祉計画の意義と種類、策定と運用③ 福祉計画策定過程、方法、評価、その他	配布資料を読む
	12	福祉行財政システム① 国および都道府県の役割	配布資料を読む
	13	福祉行財政システム② 市町村の役割および国と地方の関係	課題に取り組む
	14	福祉行財政システム③ 福祉行政の組織および専門職の役割	配布資料を読む
15	福祉行財政システム④ 福祉財源	期末試験の準備	
16	後半ふりかえり、期末試験	講義をふりかえる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>教科書：「最新社会福祉士養成講座/精神保健福祉士養成講座（6）地域福祉と包括的支援体制」 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規出版社、2021年</p> <p>参考資料：講義時に随時配布します。</p>

学びの実践	学びの手立て
	<p>①「履修の心構え」 国家試験科目であるので、受講時は専門職としての態度で学んでほしい。</p> <p>②「学びを深めるために」 講義の理解を深めるため毎回のリアクションペーパーを丁寧に書いてほしい。また、講義時に文献を紹介するので積極的に読んでほしい。また、</p>

学びの実践	評価
	中間試験35%、期末試験35%、毎回のリアクションペーパー30%

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>(1) 関連科目：この科目は社会福祉国家試験の科目であるので国家試験に関する他の科目もしっかり履修してほしい。</p> <p>(2) 次のステージ：日本の少子高齢人口減少化社会であるので教室における理論的な学習はもとより、学生自身の地域におけるボランティア活動にも積極的に参加してほしい。</p>

※ポリシーとの関連性 社会福祉専門職の養成につながる科目。特に、福祉、保健、医療など多様な分野の専門職と協働による連携を推進することを学ぶ。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上地 武昭	2年	講義の記録用紙で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地域福祉の基本的な考え方や地域を基盤としたソーシャルワークの展開など、地域福祉論の基本を学ぶ。また、多様化・複雑化した地域課題についてその社会背景を理解すると共に包括的な支援方法について学ぶ、本科目は社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の受験科目だが、広く地域を基盤にした福祉実践に関心を持つ学生も歓迎する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*地域福祉論の基本理論を理解できるようになる。</li> <li>*地域福祉の歴史を理解できるようになる。</li> <li>*地域を基盤としたソーシャルワークの展開が理解できるようになる。</li> <li>*地域共生社会実現に向けた一連の施策を理解できるようになる。</li> <li>*地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解できるようになる。</li> <li>*その他</li> </ul>	<p>*教科書をしっかり読んで講義に臨むこと</p> <p>*地域福祉に関する文献を積極的に読むこと</p> <p>*積極的にボランティアに参加すること</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、地域福祉の推進方法（導入）	配布資料、教科書第1章を読む
	2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域課題① 社会構造、社会機能の変化	第1章を読む
	3	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域課題② 地域生活課題の現状とニーズ	第4章を読む
	4	地域福祉の基本的な考え方① 地域福祉の概念と理論の変遷	第4章を読む
	5	地域福祉の基本的な考え方② 地域福祉の歴史	第4章、配布資料を読む
	6	地域福祉の基本的な考え方③ 地域福祉の推進主体	第2章、配布資料を読む
	7	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ～ 地域包括ケアシステムの考え方 ～	第2章、配布資料を読む
	8	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 ～ 多機関協働による～	第3章、配布資料を読む
	9	地域福祉ガバナンスと多機関協働①地域福祉ガバナンス、協働マネジメント	第3章、配布資料を読む
	10	地域福祉ガバナンスと多機関協働②多機関協働による実践を促進する仕組み	第3章、配布資料を読む
	11	地域福祉ガバナンスと多機関協働③異分野異業種との協働による実践	第5章、配布資料を読む
	12	地域における福祉ニーズの把握方法と実際①質的な福祉ニーズの把握	第5章、配布資料を読む
	13	地域における福祉ニーズの把握方法と実際②量的な福祉ニーズの把握	第5章、配布資料を読む
	14	地域における福祉サービスの評価方法①福祉サービスを評価する意義および評価方法	第5章、配布資料を読む
15	地域における福祉サービスの評価方法②第三者評価、ISO、運営的適正化委員会	期末試験に向けて準備	
16	ふりかえり、期末試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）社会福祉士養成講座/精神保健福祉士養成講座6『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版</p> <p>その他：毎回資料を配布する。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>①履修の心構え：受講時は、専門職としての意識と態度をもって学んでほしい。</p> <p>②学びを深めるために：講義内容の理解を促進し到達目標に達するために予習課題を提示する。各自しっかり取り組み組んでほしい。</p>
--------	---

評価	<p>期末試験70%、レポート20%、平常点10%。</p> <p>期末試験では到達目標に達しているか試験をする。レポートは毎回の提出内容で評価する。受講態度は毎回の提出記録で確認して評価する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：国家試験に関連する科目をしっかりと履修する。</p> <p>次のステージ：地域でのボランティア活動に積極的に参加してほしい</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 知覚・認知心理学	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前堂 志乃	前期	月 1	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ 研究室：5-431 e-mail:mshinoあつとまあくokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 知覚・認知心理学の主要なテーマ（感覚、知覚、記憶、知識と表象、思考、言語、注意と意識の各メカニズム、知覚・認知の障害）に関する基礎知識を学ぶ。授業の学びを踏まえ自分の日常の行動や思考を観察し振り返る。知覚・認知心理学の知識と日常生活を結びつけ、知覚・認知過程を具体的に理解し、知覚・認知心理学的観点から物事を捉え考える視点を持つことを目指す。	メッセージ 授業内・外で、「ものごとを知覚し認識すること、理解すること、考えること」というこころの働き（知覚・認知過程）について、文献を読み、対話し、考える機会・経験を増やそう。日頃から自分や人々のこころの動きや、認識と感情と行動の関係を意識的に観察してみよう。知覚・認知という視点からこころの理解をしていこう。
	到達目標 ①知覚・認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、知覚・認知心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。 ②知覚・認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。 ③知覚・認知心理学の立場からの心理学的視点（人、社会の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を持つことができる。 ④日常の身近な課題や問題について、知覚・認知心理学の基礎知識をもちいて考え、対応することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	初回オリエンテーション、知覚心理学、認知心理学とは
	2	感覚①：感覚の種類と構造
	3	感覚②：感覚の一般的特性・感覚から知覚へ一聴、触、味、嗅の知覚
	4	知覚①：パターン認知と物体認知
	5	知覚②：大きさ・奥行の知覚・錯視
	6	知覚③：運動の知覚・感性知覚
	7	知覚④：顔認知と表情認知
	8	注意①：選択的注意、注意の抑制と制御
	9	注意②：注意のメカニズム
	10	記憶①：記憶のしくみ、二重貯蔵モデル、ワーキングメモリ
	11	記憶②：長期記憶と日常の記憶
	12	知識：知識の表象と構造、スキーマとスクリプト、カテゴリー化と概念
	13	思考①：思考、問題解決
	14	思考②：推論、意思決定
	15	知覚・認知の障害：感覚の障害、知覚の障害、注意の障害、記憶の障害、思考・判断の障害
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバス理解と授業の予・復習
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		授業内容の予・復習と日常観察
		全体の復習と振り返り/期末課題
		学習内容の総復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。以下の①～④の参考図書を参照するとよい。 ①大山正 (2000) . 新心理学ライブラリ18視覚心理学への招待一見の世界へのアプローチ サイエンス社 ②松田隆夫 (2000) . 知覚心理学の基礎 培風館 ③大山 正他 (編) (1994) . 新編 感覚・知覚ハンドブック 誠信書房 ④日本認知心理学会 (編) (2013) . 認知心理学ハンドブック 有斐閣
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・心理学の専門書（テキストや参考文献）理解するには、2度読み（下読み、分析読み）と、心理学の専門用語について自分で調べることで、重要です。興味や関心が芽生えたら自分で調べ発展的に学びましょう。 ・授業内容に関連する予習・復習と日常観察を課します。ひとの「知覚と認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組みましょう。 ・心理カウンセリング専攻の学生を優先します。他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。
-------	--

学びの実践	評価 1) 平常点：授業についての振り返り課題、授業内・外でのワーク課題など50% 2) 課題レポート10% 3) 振り返りレポート10% 4) 期末テスト30% ※1)～4)において到達目標の①～④の達成度を評価する
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：心理学概論、神経・生理心理学（生理）、神経・生理心理学（神経）、学習・言語心理学。 次へのステージ：知覚心理学と認知心理学の観点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、知覚・認知心理学で学んだ知識と結びつけながらその他の心理学の専門科目を幅広く履修しよう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	適応の心理	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	1年	平山篤史 研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 青年期の心理的・対人関係の特徴、陥りやすい様々なリスク、心理学・臨床心理学の知識や技法を学ぶことによって、大学生活へのスムーズな導入と適応を図る。(本講義は心理カウンセリング専攻用の講義です)	メッセージ 青年期は、子どもと大人の境界の時期であると言われていいます。自分の住む世界が広がり、多様な価値観に触れ、自分の進む道を主体的に決める時期でもあります。この時期には悩むことや行き詰ることもありますが、それは成長のプロセスの中にある証拠ともいえま す。講義を通して、心理学の視点から青年期の特徴やこの時期の悩みについて学び、自分の悩みと向き合い、成長に活かしてほしい。
	到達目標 ①大学生活へのスムーズな導入・適応ができる②青年期の特徴と悩みについて理解できる③悩みやトラブルに対して対応を考えることができる④心理学の学びを実生活に活かす視点を養う	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、適応とは	配布資料を読む
	2	青年期の特徴と友人関係	リフレクションシート
	3	青年期の悩み①(対人不安・人見知り・対人緊張)	リフレクションシート
	4	キャンパス相談室ガイダンス・ハラスメント(キャンパス相談室スタッフ)	リフレクションシート
	5	青年期の悩み②(対人不安・人見知り・対人緊張)	リフレクションシート
	6	青年期の悩み③(ストレスとコロナ禍におけるメンタルヘルス)	リフレクションシート
	7	コミュニケーションスキルグループワーク①	リフレクションシート
	8	青年期の悩み④(アイデンティティ・自分らしさ)	リフレクションシート
9	コミュニケーションスキルグループワーク②	リフレクションシート	
10	青年期の悩み⑤(こころの病)	リフレクションシート	
11	青年期の悩み⑥(発達障害)	リフレクションシート	
12	青年期の悩み⑦(睡眠・生活習慣・犯罪・事故対策・ブラックバイト・SNS)	リフレクションシート	
13	メンタルヘルスの知識と技法①カウンセリング	リフレクションシート	
14	メンタルヘルスの知識と技法②ストレスマネジメント・リラクゼーション	リフレクションシート	
15	メンタルヘルスの知識と技法③認知行動療法	リフレクションシート	
16	予備日	最終レポート	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考図書は適宜紹介する。		
	学びの手立て 講義で取り上げる各テーマに対して、自分の日常生活・実体験と照らし合わせて考えてほしい。 また、他の講義で学んでいる(あるいはこれから学ぶ)心理学やその他の学問の理論や効果とどのように関連しているのか考えるとよい。		
	評価 平常点(講義参加の態度、リフレクションシートの提出状況・内容)…75点 最終レポート内容…25点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学んだことを各共通科目・専門科目、大学内外の課外活動で活かす 「臨床心理学概論」「ストレスマネジメント」「コミュニケーションスキル」「グループアプローチ」など臨床心理学系科目
-------	---

※ポリシーとの関連性

人間についての専門職者となるための、人間についての広い視野と深みのある教養とが得られることを目指します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 哲学的人間論	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -大城 信哉	前期	金4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい 本講座は福祉専門職を志す人を対象に、福祉の対象である「人間」とはどのようなものであるかを考えてもらうことを目的とします。人間について考えることは自然科学でも社会科学でもなされていますが、大きな成果を挙げていますが、本講座ではそれを哲学の立場からおこないます。哲学とは考えることを考える学問で、抽象的になりがちですが、それこそが諸君が一から考える助けとなるでしょう。	メッセージ 人間福祉学科の専門科目です。人間について考えることは諸君の関心に即したものと思います。問題は「哲学的」というところです。科学のような事実即した学問とはやや異なるアプローチをしますが、科学に敵対するものではありません。自然科学や社会科学に学びつつ、それとは別種の人間理解を目指します。ものごとを最初から考える心構えが諸君のなすべきさしあたりの準備になりましょう。
	到達目標 学びの準備：到達目標 ・社会福祉の対象である「人間」について、多角的な見方ができるようになる。 ・福祉の意味について、ヒトという生物の特性からも考えられるようになる。 ・人間を相対化する議論についても、自分自身の考えを持てるようになる。 ・人間同士、あるいは他人同士が触れ合うことの意味を、深く考えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	ヒト、人間、など類似の諸語の意味を考える。	事典類にあたってみるように。
	3	人間は何だと思われてきたか①：対自然で。	講義後の復習をするように。
	4	人間は何だと思われてきたか②：対神で。	講義後の復習をするように。
	5	生物としてのヒト①：サルとの異同	講義後の復習をするように。
	6	生物としてのヒト②：環境とのかかわり。	講義後の復習をするように。
	7	文化人類学の知見と哲学。	講義後の復習をするように。
	8	哲学的人間学と人格。	講義後の復習をするように。
	9	心の分析と言語：人は主体でいられるか。	学生同士での議論を勧めたい。
	10	あらためて「人間」であることについて。	学生同士での議論を勧めたい。
	11	社会的動物であること①：個と社会。	学生同士での議論を勧めたい。
	12	社会的動物であること②：向き合う他者と。	学生同士での議論を勧めたい。
	13	社会的動物であること③：個が個であること。	学生同士での議論を勧めたい。
	14	「人間」という考えへの批判：どう答えるか。	学生同士での議論を勧めたい。
	15	あらためて「人間」と福祉。	自分の理解を見直してみる。
16	期末考査。	自分の理解を確認する。	

テキスト・参考文献・資料など  
教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。直接教室で使用する以上の参考文献は必要に応じて教室で指示しますが、まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。なお、毎回感想を書いてもらう（いわゆるリアクションペーパー）ことを考えていますが（これについての詳細は講義第1回目に受講生諸君と話し合って決めることにします）、ここに受講者諸君の資料の理解も反映されることとなります。

学びの手立て  
受講者の人数にもよりますが、こちらからも皆さんに質問して皆さんの考えを聞きたいと思っています。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるよう努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するようにと望みます。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとからの確認で十分です。

評価  
最終回にテストをし、同時に小レポートも提出してもらって、その両方によって評価します。配点はテスト85点、小レポート15点の予定です。平常点をどう評価するかは受講者の人数によります（大人数だと全員の様子を把握できないため）が、積極的に参加してほしいと思います。なお、受講者が出席することは最低限の条件です。出席それ自体を特別に評価することはありません。

学びの継続  
次にステージ・関連科目  
一般に物事について思想的背景を学ぶことは、すぐに役立ちはしませんが、その物事を深く考えるためにはぜひとも必要ことです。人間や福祉について漠然とした興味をもっていた人が、この科目を学ぶことでその興味にしたがって自分自身で探求できるようになってくれたら幸いです。そのような探求のできるのであれば、あとは諸君ひとりひとりが自分の問題を見つけて進んでいけば良いのですから。

科目基本情報	科目名	都市社会学	期別	曜日・時限	単位
	担当者	桃原 一彦	前期	火 4	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	講義終了後またはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	都市社会学は「都市(化)」という現象を社会的に解説する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。	メッセージ	社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間や都市社会に応用して、現代社会を解説してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する素材として、映画作品や音楽作品も取り入れます。※この科目は対面で講義を行います。
	到達目標	古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間や「ジェントリフィケーション」を捉える視点等の習得。		

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	都市社会学への招待 ～近代都市と近代国家の関係性	近代都市誕生の歴史を調べる
		2	アメリカ合衆国における資本主義の展開と人種化された都市の様相	身近なグローバル資本の探索
		3	シカゴ学派都市社会学理論 ～形式社会学と人間生態学	ジンメルの基本概念的復習
		4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	身近な都市的生活様式の探索
		5	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の構造的な関係の探索
		6	Black Sociologyの可能性と今日的課題	マイノリティの文化論的実践の探索
		7	都市社会を解説するミニ課題について ～古典的都市社会またはBlack Sociologyに関する課題	資料収集への取り組み
		8	日本における都市化の歴史的展開	日本の近代都市誕生の歴史を調べる
	9	日本における都市社会学の展開① ～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	古典的概念を応用した課題の探索	
	10	日本における都市社会学の展開② ～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	身近な「グローバル化」の探索	
	11	日本における都市社会学の展開③ ～新都市社会学と「ジェントリフィケーション」の視点	身近な格差と社会的孤立の探索	
	12	テーマ化された都市① ～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える	
	13	テーマ化された都市② ～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる	
	14	テーマ化された都市③ ～「気散じ」「身散じ」、アフオーダンス	テーマ化された空間の心身を考える	
	15	都市社会学のまとめと期末課題について	講義プリントのふりかえり	
	16	予備日	期末課題の作成	
	実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。		
		学びの手立て リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。		
	評価	講義への取り組みやリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「都市社会を解説するミニ課題」が30点、期末レポート課題の内容評価が50点という構成で総合し評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：専門演習、卒業演習 都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	動作法	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史	2年	研究室 13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>動作法は、自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、本人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させる心理療法である。姿勢や動作の改善、ストレスマネジメントなど様々な対象者の心身の支援に有効である。講義では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法を身につけることをねらいとする。</p>	<p>実技の実習の多い講義です。体を通してここに働きかける心理療法ですので、受講者がベアになり、援助者役-被援助者役に分かれて実技の実習を進めていきます。学びながら自身の心身のメンテナンスを行えることがこの講義の魅力です。感染防止対策を徹底し、動作法で実技を行います。初回の講義に出席しない学生は登録から外しますので、注意してください。</p>
到達目標	<p>①対人援助の基本的姿勢が身につく。 ②動作法の基礎的な知識・技術を使って支援のかかわりができる。 ③動作法を利用した自身のストレスマネジメントができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション —こころとからだのつながりと実習に関する諸注意—	配布資料の復習
	2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～	配布資料の復習
	3	動作法の理論	リフレクションシート作成
	4	動作法の援助の考え方と基本的な支援方法	リフレクションシート作成
	5	躯幹部位の動きとリラクゼーション1	リフレクションシート・実技復習
	6	躯幹部位の動きとリラクゼーション2	リフレクションシート・実技復習
	7	肩周りの動きとリラクゼーション	リフレクションシート・実技復習
	8	股関節を中心とした動きとリラクゼーション	リフレクションシート・実技復習
	9	前半の実習振り返り	リフレクションシート・実技復習
	10	動作法の臨床事例	配布資料の予習・復習
	11	タテ系動作課題の見立てと基本的支援方法	リフレクションシート・実技復習
	12	座位姿勢の実技1	リフレクションシート・実技復習
	13	座位姿勢の実技2	リフレクションシート・実技復習
	14	立位姿勢の実技	リフレクションシート・実技復習
15	まとめ	リフレクションシート・実技復習	
16		レポート作成	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは講義の中で適宜、資料を配布する。 参考図書 「臨床動作法への招待」鶴光代 金剛出版 「動作療法」成瀬悟策 誠信書房 「臨床動作法の実践を学ぶ」針塚進（監）、遠矢浩一（編） 新曜社</p>
----	---

学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●初回の講義で実習に関する重要なオリエンテーションを行います。初回の講義に出席しない人は取り消しとみなします。</li> <li>●本授業では、身体を通してここに働きかける心理療法を実習を通して学ぶ。相手のからだを扱うこと＝ここを扱うことである。実技では相手を思いやり、真摯な態度で実習に臨むこと。</li> <li>●実習時の講義は場所を移動（厚生会館や体育館武道場など）することもある。</li> <li>●実習の時には、激しい運動はしないが、床にあぐら姿勢、横になる姿勢を取ることもある。そのため、からだを動かしやすい格好をしてくる。スカートは不可。</li> </ul>
--------	--

評価	<p>講義・実習への参加状況、実技実習への取り組み、毎回の小レポート…75% 最終レポート…25%</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「ストレスマネジメント」も併せて受講することで理解が深まる。「心理プロジェクト演習」（平山クラス）で動作法に関する実践活動に取り組むことができる。動作法を用いた心理支援の実践に関心がある学生は、障害児者を対象とした支援活動のボランティアに参加し、実践を通しながら学びを深めることができる（受講料無料の研修あり）。興味のある学生は担当教員まで申し出て下さい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

人間、誰しもが「発達」します。人の変化を発達という視点から理解し、自己・他者理解への応用を目指します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	発達心理学	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宜保 英理	2年	講義時間以外学内不在のため、授業終了後に教室またはメールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人は生まれてから死に至るまで「発達」します。講義では心身の発達、内面の発達を体系的に学ぶ機会とします。また、発達障害や発達に影響する周辺問題についての理解を深める機会とします。	私たちは皆、生まれてから発達を遂げて今存在しています。発達を中心に自己・他者理解のきっかけになればと思います。グループあるいは全体での意見・感想のシェアを行ったり課題を通して、学生自身が積極的に参加できる講義を目指したいです。

到達目標
①心身の発達について理解する
②認知、思考、感情等、今私たちが形成している内面の発達過程を理解する
③発達をとりまく問題（他者との関係、障害など）を理解する
④成人期以降の発達について学ぶ

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 発達とは、発達心理学とは	感想シートの作成
	2	生涯発達について	人の発達とは何かについて復習
	3	認知・思考の発達	認知・思考の発達について復習
	4	言語の発達	コミュニケーションについて復習
	5	感情の発達	感情の発達について復習
	6	自己認知の発達	自己認知について復習
	7	自己と他者との関係	愛着について復習
	8	パーソナリティの発達	人格の発達について復習
	9	発達段階と発達課題	各発達段階の復習
	10	定型発達と非定型発達	定型・非定型発達について復習
	11	発達障害について	発達障害について復習
	12	発達の支援	発達を支援することの復習
	13	発達をとりまく諸問題	発達を取り巻く問題の復習
	14	大人の発達（成人期～老年期）	成人期以降の発達の復習
15	まとめ	感想シート作成	
16	テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で資料を配布します。適宜、参考文献も紹介します。
----	--

学びの手立て	講義では、発達のプロセスについて説明するため、遅れないよう気を付けて参加してください。また講義のはじめに感想シートを元にした振り返りを行いますので、理解に役立てていただけたらと思います。 欠席の取り扱いや試験受験要件は大学のガイドラインに沿って行います。
--------	--

評価	評価は、出席した際の各回の感想シート（70%）、課題レポートまたは期末試験（30%）で行います。欠席の取り扱い、試験受験要件については大学のガイドラインを基準に行いますが、評価は感想シート、課題レポートまたは期末試験の2つが揃った時に総合評価となるので、全てに取り組んでください。提出期限は厳守でお願いします。課題については講義の中で適宜お伝えします。講義の前半には前回の感想シートを元にした振り返りを行いますので、遅れないよう出席してください。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 学習・言語心理学、感情・人格心理学、神経・生理心理学等
-------	--



※ポリシーとの関連性

公的扶助の考え方、主に生活保護と低所得者支援を学び、社会福祉専門職として効果的に対応できる能力を養う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貧困に対する支援	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊志嶺 利香	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 生活保護制度や低所得者対策の概要を理解し、貧困問題や支援の実際を学ぶことにより、現業員（ワーカー）、社会福祉士専門職としての役割を認識することを目的とする。	メッセージ 生活保護制度と低所得対策を学ぶことで、我が国におけるセーフティネットがどのようなものか理解することができます。社会福祉士としてどのように支援を行っていくのかイメージできるように学んでいきましょう。
	到達目標 生活保護制度、低所得者に対する支援の概要を学び、支援活動の実際を理解することにより、社会福祉士として現代の貧困問題にどう対応していくのかを学び、実践していけるようにすることを目的とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・講義概要について	配布資料の確認
	2	公的扶助の概念について	公的扶助の概念の理解
	3	貧困状態にある人の生活実態	貧困状態にある人の生活実態の理解
	4	貧困状態にある人を取り巻く社会環境	貧困状態にある人の社会環境の理解
	5	公的扶助制度の歴史（海外）	海外の公的扶助制度の歴史の理解
	6	公的扶助制度の歴史（日本）	日本の公的扶助制度の歴史の理解
	7	生活保護制度の仕組み	生活保護制度の仕組みの理解
	8	生活保護制度の仕組み	生活保護制度の仕組みの理解
	9	最低生活保障水準と生活保護基準	最低生活水準と生活保護基準の理解
	10	生活保護の動向	生活保護の動向の理解
	11	低所得者対策の概要	低所得者対策の理解
	12	低所得者対策の概要	低所得者対策の理解
	13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	貧困に対するの実施体制の理解
	14	貧困に対する社会福祉士の役割	社会福祉士の相談援助活動の理解
15	貧困に対する支援の実際	社会福祉士の相談援助活動の理解	
16	まとめとテスト		
テキスト・参考文献・資料など テキスト 最新・社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援 中央法規出版株式会社 資料は毎回の講義でレジュメを配布します。			
学びの手立て レジュメや講義内容を確認しながら、講義の中で理解できるように心がけていきましょう。授業をよく聞き、不明な点は、質問するか、最後に配る小レポートに質問を書き添えていただきたいと思います。日頃から貧困や格差に関するニュースや新聞・本等に興味を持って臨んでもらいたいです。			
評価 ① 期末テスト評価 55% ② 小レポート評価（授業毎回提出）45%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の社会福祉士養成講座科目全般
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉英語 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ーピソン サイモン	2年	We will make a LINE group for the class.	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	Develop the students ability to discuss current social welfare issues in (simple) English.	This is a great fun class, with lots and lots of talking so you'll get lots of conversation practice.		
学びの準備	到達目標	By the end of this course students will be able to give a detailed self-introduction, and will be able to give their opinion on current social issues.		
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		<p>1: Self-introductions, questions and answers, interviewing. Social Issue #1: Language Learning: 2: Discussing language learning 3: How to learn to speak a language. Watch a video for homework. 4: Discussion the video, identifying good learning strategies for learning to speak 5: Listing social issues we are interested in, identifying a topic to discuss Social Issue #2: 6: Questions, group discussion. Watch a video for homework 7: Identifying our common conceptions around our topic, looking at alternative approaches. Homework: interview a friend or family member about the topic. 8: Share our interviews, identify key themes. 9: Suggest and develop concrete solutions, both individual and collective. 10: Present our solutions to the class. Social Issue #3: 11: Identify a new topic, identify our current understanding and opinions. 12: Identify some online resources we can use to learn more. Divide the resources up and each group watches/reads one for homework 13: Share what each group learned from their resource, pool our knowledge, look for common ideas and solutions 14: Prepare for the exam (giving your opinion in an interview with the teacher). Brainstorming, discussion, I suggest resources and perspectives. 15: Specific pairwork practice for the exam. 16: The exam: each student has a 5 minute interview with me, where they give their opinion and I ask questions.</p>		
	テキスト・参考文献・資料など	There will be no textbook for this course - we will be using the contents of our brains (and the internet!)		
	学びの手立て	Group and whole class discussions about our own experiences and opinions, and about the internet resources we watch/read for homework.		
学びの実践	評価	Participation in class discussions and activities: 25% Mid-term presentation: 25% Final interview exam: 50%		
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉英語Ⅱ	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-神谷 晃輔、知名 孝、荻野 太司	2年	授業終了後教室で受付けます。神谷 ptt1332@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉の現場とりわけ沖縄県では様々な国籍の方が生活しており、日常的に日本語以外でのコミュニケーションが必要なケースが福祉の現場でも起こります。本授業では、そのために必要な基本的な英語の表現やコミュニケーションの方法、専門用語を学びます。	英語を使って福祉の専門用語を覚えたり、基本的なコミュニケーションが図れることを授業の目標とします。今、英語が得意ではなくても、福祉の現場で英語の使用が必要になった場合に、適切に対応できるように授業を通して学んでいきましょう。英語でコミュニケーションを取る上で大切なのは、伝えようとする意欲です。英語を使用することに前向きな気持ちで授業に臨むようにしてください。
到達目標	①福祉の現場で必要とされる基本的英語表現・専門用語を中心に学習し、現場で活用することができる。 ②英語を使って簡単なコミュニケーションを取ることができるようになる。 ③医療福祉英語検定3級に合格できる英語力を身に付けることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと
	2	実践コミュニケーション① 利用者との面会	授業内で指示した課題に取り組むこと
	3	実践コミュニケーション② 食事介助	授業内で指示した課題に取り組むこと
	4	実践コミュニケーション③ 保育施設にて	授業内で指示した課題に取り組むこと
	5	実践コミュニケーション④ 体温と脈拍の測定、血圧の測定、自力で起き上がる手順を説明する	授業内で指示した課題に取り組むこと
	6	実践コミュニケーション⑤ ベッドから車椅子への移動、利用者からの要求に応える	授業内で指示した課題に取り組むこと
	7	実践コミュニケーション⑥ 足浴とマッサージ、利用者についての会議、確認テスト	授業内で指示した課題に取り組むこと
8	障害者施設における英語表現・用語理解①	授業内で指示した課題に取り組むこと	
9	障害者施設における英語表現・用語理解②	授業内で指示した課題に取り組むこと	
10	障害者施設における英語表現・用語理解③	授業内で指示した課題に取り組むこと	
11	高齢者施設における英語表現・用語理解①	授業内で指示した課題に取り組むこと	
12	高齢者施設における英語表現・用語理解②	授業内で指示した課題に取り組むこと	
13	児童施設における英語表現・用語理解①	授業内で指示した課題に取り組むこと	
14	児童施設における英語表現・用語理解②	授業内で指示した課題に取り組むこと	
15	児童施設における英語表現・用語理解③	授業内で指示した課題に取り組むこと	
16	テスト	授業の振り返りに取り組むこと	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	医療・福祉英語検定協会教材委員会[執筆]、国際教育社ILC国際語学センター[編集・制作]「Let's Study Welfare in English! 英語で福祉を学ぼう-福祉英語検定試験<3級/4級>共通テキスト-」(NPO法人医療・福祉英語検定協会) 3,038円		
	学びの手立て		
	受講時はただ講義を聞くだけでなく、ペアワークに積極的に参加したり、宿題の提出を求めます。遅刻・早退は3回で1欠席としますので、極力遅刻・早退のないようにしてください(12月の医療福祉英語検定の受験を予定します)。		
	評価		
	期末試験70%、授業中の取り組みや提出物30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 海外社会福祉演習、福祉英語Ⅰ (2) 次のステージ 外国語でコミュニケーションを図ることに積極的な態度を身に付け、福祉現場で活用できるようにしましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉サービスの組織と経営	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	神谷 牧人、大城 篤志	2年	原則、授業終了語に教室で受け付けます。ただし、必要に応じて時間外での相談も可能。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>平成18年10月の障害者自立支援法の施行以降、福祉事業が保障よりサービスへと変革され、福祉サービスを提供する事業所は従来型の受け身体制ではなく、市場原理の中で利用者や地域から選ばれるサービス展開を主体的に行っていかなければならない。当科目では、マーケティングや差別化戦略等、広く経営の観点から福祉を理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>到達目標は「経営者視点」である。福祉サービス提供者として、各々の法人種別毎の意義や目的を理解し、ソーシャル・ミッションを実現するための手法を学び、実際に福祉サービスを提供している法人の経営者と同じ視点の獲得が当科目の到達目標となる。そのような経営者と同じ視点を獲得することは、単純に当科目の評価基準となるだけではなく、社会人として（福祉サービス従事者のみならず）、「何をやっているのか？」ではなく「何のためにやっているのか？」を理解した上で働くことに通ずる。到達目標に対する評価に関しては、企画立案（起業するための事業計画の作成）に「正しいゴール」はないため、講義内での課題に対して能動的に取り組むことで、広義の意味で「プレゼン力（言語化・可視化する力）」や「考える力」「実現する力」の獲得があげられる。</p>	<p>学生自身が福祉サービス事業所を開設（もしくは民間の会社として起業）するための企画書ならびに事業計画書を作成。理念や顧客定義、差別化戦略、予算書等の企画立案の手法の獲得を目指す。一方的な講義だけではなく、それぞれの手法の説明を行い、あとはグループでの企画が主な講義スタイルとなる。講義の中から実際に起業家が生まれることを期待している。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	福祉サービスにおける組織と経営/福祉サービスにかかる組織や団体	各法人の概要について
	2	福祉サービスの管理運営方法③（会計管理と財務管理の視点でみる支出とは）	資金の流れや財源について
	3	福祉サービスの管理運営方法③（会計管理と財務管理の視点でみる収入とは）	財務管理や各種コストについて
	4	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（組織と管理運営について）	管理の定義と手法について
	5	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（事業についてⅠ）	事業計画策定の意義について
	6	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（事業についてⅡ）	事業実施に向けた組織について
	7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（戦略について）	経営戦略の策定プロセスについて
	8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（集団力学とリーダーシップについて）	集団がもたらす効果について
	9	福祉サービスの管理運営方法①（サービスマネジメントⅠ）	サービス対象とその領域について
	10	福祉サービスの管理運営方法①（サービスマネジメントⅡ）	評価制度導入の背景について
	11	福祉サービスの管理運営方法②（人事管理と労務管理）	人事考課と労働体制について
	12	福祉サービスの管理運営方法②（情報管理と戦略的広報）	情報管理の必要性と活用について
	13	事業計画作成	テーマについてフィールドリサーチ
	14	事業計画作成	リサーチを踏まえた各種分析
15	プレゼンの方法とプレゼン資料の作成	事前発表練習	
16	グループ発表	事前発表練習	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	使用する教科書「新・社会福祉士養成講座 11 福祉サービスの組織と経営 第4版」中央法規 定価2,200円（税別）

学びの手立て	<p>1、履修の心構え：一方的な講義はほとんどなく、グループ毎に「考える」「議論する」内容がほとんどになります。そのため、他人まかせの受動的な姿勢では望まないように。</p> <p>2、学びを深めるために：アルバイトでも福祉実習でも、どのようなカタチでも一度、経営者と話す機会を作ると、より一層学びが深まると考える。</p>
--------	--

評価	<p>評価方法：最終プレゼン40点満点 / 事業計画書28点満点 / 授業参加（グループにおける参加態度など）32点満点</p> <p>評価基準：最終プレゼンや事業計画における評価基準は、マーケティングや市場分析などにおいて、主観ではなく実際に足を運んで可能な限り客観的なデータ（資料）を集めているのか等が評価の基準となる。資料作成における情報収集やグループワークにおける主体性等を授業参加とする。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：社会調査の基礎、福祉行財政と福祉計画</p> <p>(2) ディプロマポリシー：地域福祉の多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につける。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

福祉分野における諸問題について理解し、それらに対応するための臨床心理学的知識・援助技法について学ぶ専門科目である。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉心理学	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮里 新之介	2年	研究室 13-616研究室 E-mail : miyazato.s@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	公認心理師として必要な福祉領域における心理社会的課題や必要な支援について理解する。	福祉領域の現場でどのような問題が起こっており、その背景にどのようなことがあるのかを授業を通して他者に説明できるようになって欲しい。また、それを踏まえた上でどのような支援が必要なのかということを理解するとどまらず、自発的に考えることができるようになるよう学びを深めて欲しい。
	到達目標	
	①福祉現場における問題とその背景について説明することができる。 ②福祉現場における心理社会的課題と必要な支援方法について理解し、説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	資料の再読・リフレクションシート
	2	社会福祉の展開と心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	3	生活を支える心理支援とは	資料の再読・リフレクションシート
	4	暴力被害者への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	5	高齢者への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	6	障害・疾病のある人への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	7	生活困窮・貧困者への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	8	児童虐待への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	9	子どもと親への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	10	認知症高齢者の心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	11	ひきこもり・自殺予防の心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	12	精神障害者への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
	13	家族・職員への心理支援について	資料の再読・リフレクションシート
14	福祉・介護分野での他職種協働と心理職の位置づけについて	資料の再読・リフレクションシート	
15	まとめ	資料の再読・リフレクションシート	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：使用しない。 参考文献：『公認心理師の基礎と実践17「福祉心理学」,野島一彦・繁樹算男(監修)中島健一(編),遠見書房,2018年,2600円(税別)』		
	学びの手立て		
	「発達心理学」「障害者・障害児心理学」を履修していることが望ましい。毎回の授業において、授業の振り返りのためのリフレクションシートを作成し、次回の授業時に提出してもらうことで学習の定着を図る。		
	評価		
	「リフレクションシートの作成・提出(45%)、期末試験(55%)」		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「心理演習」でさらに公認心理師として実践的な知識や技能を学び、「心理学実習」で福祉領域の現場について学ぶ。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術Ⅰ	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年	講義修了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多彩なレクリエーション活動を体験し、修得する</li> <li>・ホスピタリティを身につける</li> <li>・アイスブレイキングの技術を修得する</li> <li>・レクリエーション活動の展開方法を修得する</li> </ul>	<p>本講義は身体的な活動が中心です。動きやすい服装で参加してください。また、レクリエーション技法に必要なとされる道具等の事前準備が必要となってきます。受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めてください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① レクリエーション支援の全体像を理解する</li> <li>② レクリエーション技法を実践できる</li> <li>③ 自らの計画に基づくレクリエーション支援が実践ができる</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション / アイスブレイキングプログラム体験	講義の趣旨の理解
	2	信頼関係づくりの方法 / ホスピタリティートレーニング	指示された課題・内容の準備
	3	レクリエーション活動支援の理解 - わかりやすい説明・アイスブレイキングの基礎技術	指示された課題・内容の準備
	4	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術の実践(気づき) - 支援演習	指示された課題・内容の準備
	5	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術の実践① - シナリオ作成	指示された課題・内容の準備
	6	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術の実践② - 支援演習	指示された課題・内容の準備
	7	やる気を引き出すレクリエーション支援技術の実践① - シナリオ作成	指示された課題・内容の準備
8	やる気を引き出すレクリエーション支援技術の実践② - 支援演習	指示された課題・内容の準備	
9	レクリエーション活動の習得①	習得した活動の練習	
10	レクリエーション活動の実践①	実践発表の準備	
11	レクリエーション活動の習得②	習得した活動の練習	
12	レクリエーション活動の実践②	実践発表の準備	
13	レクリエーション活動の習得③	習得した活動の練習	
14	レクリエーション活動の実践③	実践発表の準備	
15	レクリエーション活動の習得④	習得した活動の練習	
16	レクリエーション活動の実践④	実践発表の準備	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 必要に応じて資料を配布する。</li> <li>② 参考分件等も必要に応じて提示する。</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活場面でのレクリエーション技術の活用を考える</li> <li>②自分の特技や趣味を活かしたレクリエーション技術を身につける</li> <li>③様々な社会的場面や施設などで実践されているレクリエーションを観察し情報収集に努める</li> <li>④積極的・自主的に取り組む</li> </ul>		
評価	<p>以下の内容をなどを総合的に判断して評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自主性・主体性(40%)</li> <li>②技術の習得(60%)</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本科目では、レクリエーション支援の基礎的な技術を修得します。実際に対象者を想定した実践的技術は、レクリエーション技術Ⅱで行います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉レクリエーション技術Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション支援の基礎技術を定着させる</li> <li>対象者を想定したレクリエーション支援のプロセスを定着させる</li> <li>実際に福祉現場に出かけ、実践力につなげる</li> </ul>	<p>本講義は現場に出向きレクリエーションプログラムの実践があります。そのため、レクリエーションに限らずこれまで学んできた様々な知識を活かしてプログラミングに取り組むこととなります。また、プログラムに必要とされる道具等の事前準備も必要となります。受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めてください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①レクリエーション支援技術を福祉現場で実践できるレベルに高める</li> <li>②アセスメントに基づくレクリエーション支援プログラムを考案できる</li> <li>③考案した支援プログラムを実践するためのプロセスを修得する</li> <li>④対象者を目の前にして得られる「場」の空気感を直接感じることによって、対象者に寄り添いながら目的に向かって進行するために必要な素養に気づき、それらを修得する</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・アイスブレイキング (体験 プログラム構成 技法 )	指示された事項について事前学習
	2	信頼関係づくりの方法 (ホスピタリティ) と良好な集団作りの方法 (アイスブレイキング)	指示された事項について事前学習
	3	モデルプログラムの体験① 高齢者	指示された事項について事前学習
	4	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	5	モデルプログラムの体験② 幼児・児童	指示された事項について事前学習
	6	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	7	モデルプログラムの体験③ 地域	指示された事項について事前学習
	8	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	9	モデルプログラムの体験④ 屋外	指示された事項について事前学習
	10	プログラムロールプレイ演習	指示された事項について事前学習
	11	レクリエーション支援の実施 / アセスメント	指示された事項について事前学習
	12	プログラム立案 / プログラミング	指示された事項について事前学習
	13	プレ実施	指示された事項について事前学習
14	評価 / 改善	指示された事項について事前学習	
15	現場実践	指示された事項について事前学習	
16	成果報告	指示された事項について事前学習	
テキスト・参考文献・資料など			
<ul style="list-style-type: none"> <li>①テキスト 日本レクリエーション協会編 『楽しさをおとした心の元気づくり - レクリエーション支援の理論と方法 - 』</li> <li>②その他、必要に応じて資料を配布する</li> </ul>			
学びの手立て			
<p>講義では実践的な内容が主になってきます。福祉社会について様々な角度から考察し、ご自身の考えを持って受講してください。また、ご自身を福祉の専門従事者と想定し、あらゆる場面でのようにレクリエーション技術を活用していけるかを常に考えてください。</p>			
評価			
<p>以下の内容などを総合的に判断して評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ロールプレイ演習 (20%)</li> <li>②プログラミング (40%)</li> <li>③技術 (40%)</li> </ul>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>講義内容を基に、国内外の規則・制度・施策の状況把握に努め、公私の社会参加の在り方について考察を深める。また、特に社会福祉の対象者への対応については、専門職として対応できる知識・技量を深めることを期待する</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	1年	知名孝：takashic@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方(文化)のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。	夏期休暇中に障害児通所施設で1週間のボランティア実習に参加し、福祉現場の現状について体験的に学んでいきます。このボランティア実習は、知名が担当するフレッシュマンセミナーと後期開講の基礎演習の必修になります。
到達目標	大学教育の中で必要とされる能力向上を目標とします。具体的には、(1)レポート作成に必要な知識と技術(レポートや論文のための作文能力、ワードプロセッシングプログラムの活用能力)、(2)プレゼンテーションに必要な知識と技術(プレゼンの組み立て、PowerPointの作成能力)、(3)学習を進めて行くに当たって活用する資源(図書館など)へのオリエンテーションを行っていく。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するものとの授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。なお夏期休暇中に各学生に1週間程度の現場体験実習を行っていく。
	テキスト・参考文献・資料など それぞれの授業のなかで紹介していく。
学びの手立て	大学1年目の前期ということもあるので、大学の雰囲気慣れる、ゼミでの関係性の構築なども含めた学びの活動を展開していく。
評価	ゼミ活動への参加や受講態度 (10%)、授業内外での課題の提出状況 (90%)。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度からの自ら選択した専門演習や科目につなげていく。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	1年	授業終了後教室で、あるいは、メール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>新入学生が、大学の施設、キャンパスライフにスムーズに馴染んでいくことを主目的とする。特にゼミ生同士の共同作業を通して、大学における仲間づくりを促進する。</p>	<p>新入学生が、大学の施設、キャンパスライフにスムーズに馴染んでいくことを主目的とする。特にゼミ生同士の共同作業を通して、大学における仲間づくりを促進する。</p>
到達目標	<p>福祉レクリエーションを取り入れたメンバー間のアイスブレイキング（緊張をほぐす）。福祉、対人援助者において重要な自己覚知（自分自身のことをよく知る）を目指す。ゼミの中とゼミの枠を超えた、専攻全体での仲間づくり。コミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につける。現時点での将来の夢を描く（ドリームマップ）づくり。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容も含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大学で学ぶ」とは何か</li> <li>・講義への取り組み方、レポートの書き方（技術）</li> <li>・グループディスカッションとプレゼンテーションの技法</li> <li>・大学の各施設（図書館など）の利用方法</li> <li>・自己紹介</li> <li>・自分の将来の夢を描く（ドリームマップづくり）</li> <li>・新聞を読む</li> <li>・ジャーナリング（ノートに日々、自分の思いを書き留める、日記・日誌）</li> <li>・しまくとぅば検定（9級）受験に向けた準備</li> </ul>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストはないが、参考文献は適宜紹介し、資料も適宜配布する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の心構え</p> <p>◎学生本人の主体性が大事！！積極的に発言し、また能動的に他のゼミ生と知り合い、友人になっていこう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミは原則、学籍番号順にクラス分けがなされる。無断で変更しないこと。</li> <li>・5月中旬に行われる新入生1日合同研修には必ず参加すること（研修は出席回数3回分に相当する）</li> <li>・個別ゼミ以外の専攻全体のゼミにも必ず出席すること。</li> <li>・必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は、翌週までに欠席届を出すこと。</li> <li>・与えられた課題（個人のレポート、グループの課題等）には積極的に取り組むこと。</li> <li>・（人間関係構築・深化と後期への橋わたしを目的に）合宿を行う予定なので、参加すること。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>ゼミへの主体的参加状況（50%）、課題提出（50%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 次のステージ 基礎演習（1年次後期必修）</p> <p>(2) 関連科目 社会福祉関連科目、沖縄の歴史と現実を学ぶ沖縄関係科目、社会学関連科目。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名 フレッシュマンセミナー	期別	曜日・時限	単位
		前期	木1	2
	担当者 -知念 ウシ	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後教室で、あるいは、メール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 新入学生が、大学の施設、キャンパスライフにスムーズに馴染んでいくことを主目的とする。特にゼミ生同士の共同作業を通して、大学における仲間づくりを促進する。	メッセージ 大学初年度（一年生）は、新しい環境に慣れず、緊張気味かもしれませんが。この授業では、緊張をほぐし、新しい環境でのほっとする空間、友達をつくる場を目指します。後期の演習に向けた基礎力も養成します。つまり、楽しく友達をつくって過ごしましょう！ということです！！
	到達目標 福祉レクリエーションを取り入れたメンバー間のアイスブレイキング（緊張をほぐす）。福祉、対人援助者において重要な自己覚知（自分自身のことをよく知る）を目指す。ゼミの中とゼミの枠を超えた、専攻全体での仲間づくり。コミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につける。現時点での将来の夢を描く（ドリームマップ）づくり。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 授業計画（テーマ・時間外学習の内容も含む） ・「大学で学ぶ」とは何か ・講義への取り組み方、レポートの書き方（技術） ・グループディスカッションとプレゼンテーションの技法 ・大学の各施設（図書館など）の利用方法 ・自己紹介 ・自分の将来の夢を描く（ドリームマップづくり） ・新聞を読む ・ジャーナリング（ノートに日々、自分の思いを書き留める、日記・日誌） ・しまくとぅば検定（9級）受験に向けた準備
	テキスト・参考文献・資料など テキストはないが、参考文献は適宜紹介し、資料も適宜配布する。
	学びの手立て 履修上の心構え ◎学生本人の主体性が大事！！積極的に発言し、また能動的に他のゼミ生と知り合い、友人になっていこう！ ・ゼミは原則、学籍番号順にクラス分けがなされる。無断で変更しないこと。 ・5月中旬に行われる新入生1日合同研修には必ず参加すること（研修は出席回数3回分に相当する） ・個別ゼミ以外の専攻全体のゼミにも必ず出席すること。 ・必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は、翌週までに欠席届を出すこと。 ・与えられた課題（個人のレポート、グループの課題等）には積極的に取り組むこと。 ・（人間関係構築・深化と後期への橋わたしを目的に）合宿を行う予定なので、参加すること。
	評価 ゼミへの主体的参加状況（50%）、課題提出（50%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 次のステージ 基礎演習（1年次後期必修） (2) 関連科目 社会福祉関連科目、沖縄の歴史と現実を学ぶ沖縄関係科目、社会学関連科目。
-------	---

※ポリシーとの関連性 コミュニケーションの技能の修得と実戦的学習を重視し、豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマンセミナー	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	フレッシュマンセミナーは、初年次学生（新入学生）が大学環境やキャンパスライフにスムーズに馴染んでもらうことを主たる目的として様々なプログラムを用意している。とくにゼミ学生相互の共同学習や共同作業を通して、大学における仲間づくりがスムーズにいくように働きかける内容となっている。	大学生生活初年次は、とにかく緊張感を伴います。この講義はその緊張感を少しでもほぐし、後期のグループ学習や討論に向けた人間関係の基礎づくりを行います。大学生活をお互いに支えていく仲間づくりをしましょう。
到達目標	福祉レクリエーションを取り入れたメンバー間のアイスブレイキング（緊張をほぐす）。自己覚知と他者覚知を目指す。ゼミの枠を超えた専攻全体での仲間づくり。コミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につける。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	まず、大学での「学び」とは何かについてレクチャーする。高校と大学では学びの方法が異なるため、初年次学生には戸惑う者も多くいる。よって、手はじめに「大学での学び入門」について教員と学生相互に考える。また、講義に対する取り組み方、レポートを書く技術、グループディスカッションとプレゼンテーションの技法などに取り組んでいく。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にないが、参考文献等があれば適宜紹介する。
学びの手立て	
評価	

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習（1年次後期） 次のステージ：同ゼミではコミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につけることを目標にしており、1年次後期の「基礎演習」で目標とする社会福祉に関する基礎的な課題やグループ学習・討論へと取り組めるように準備すること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ヘルスプロモーション	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山 篤史、山岡 明奈、鮫島 智行、他	3年	平山篤史 研究室13-211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	心理学や心理学の周辺領域・関連領域の知見から心身の健康増進・維持に役に立つ知識と工夫、生活習慣について学ぶ。その上で、これらの知恵や工夫をより有効にするために心理学がどのように貢献できるのかについて、心理学との類似点・相違点から考察することを目的とする。	心身の健康増進に役に立つ心理学以外の様々な知恵や工夫についても学び、みなさんの生活に取り入れてもらいたい。そして、心理学の知恵や工夫との類似点・相違点から考察することで、心身の健康について考えを深めてほしい。社会人特別講師をお招きして行うオムニバス形式の講義です。講師の日程に応じて講義計画が変更する可能性もあります。毎回のアナウンスによく注意してください。
到達目標	①学んだことを日常生活の中に取り入れ、自身の心身の健康増進に役立てることができる。 ②学んだことを心理学の視点から考察することができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	初回オリエンテーション	配布資料を読む
	2	睡眠	講義の復習・振り返りシート作成
	3	時間管理	講義の復習・振り返りシート作成
	4	メモ・ノート術	講義の復習・振り返りシート作成
	5	読書術	講義の復習・振り返りシート作成
	6	話し方・自己表現①	講義の復習・振り返りシート作成
	7	話し方・自己表現②	講義の復習・振り返りシート作成
	8	話し方・自己表現③	講義の復習・振り返りシート作成
9	栄養学・食育①	講義の復習・振り返りシート作成	
10	栄養学・食育②	講義の復習・振り返りシート作成	
11	つば・東洋医学	講義の復習・振り返りシート作成	
12	片づけ・整理術	講義の復習・振り返りシート作成	
13	情報リテラシー①	講義の復習・振り返りシート作成	
14	情報リテラシー②	講義の復習・振り返りシート作成	
15	運動・ストレッチ・マインドフルネス	講義の復習・振り返りシート作成	
16	まとめ	最終レポートの作成	
テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。 各回の講義担当者から配布資料、参考図書の紹介をする。		
学びの手立て	講義で取り上げる心身の健康増進に関する知恵や工夫を、自身の日常生活に取り入れると、実体験を通して学ぶことができる。そのうえで、他の講義で学んでいる（あるいはこれから学ぶ）心理学やその他の学問の理論や効果とどのように関連しているのか照らし合わせながら考えるとよい。心身の健康について、心理学的視点だけでなく、様々な領域から多角的視点、科学的視点でとらえることを試みてほしい。		
評価	①毎回の講義終了後の振り返りシート（75%） ②最終レポート（25%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 その他の心理学専門科目 心理プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	保健医療と福祉	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	樋口 美智子	2年	授業の最後に受け付けます。問い合わせは教員の電子メールへ連絡してください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	保健医療の場における相談支援活動において必要となる医療保険制度や診療報酬制度、保健医療サービス（医療施設等）、専門職の役割、専門職間の連携を理解する。	社会福祉士国家試験受験資格を得る科目です。社会福祉士国家試験科目としては、専門用語と数字が多く低得点になり易い科目です。制度は図表等で全体の体系を把握し、役割が問われる専門職についてははっきり覚えましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療保険制度の概要・医療費に関する政策動向が理解でき記述できる。</li> <li>2. 診療報酬の仕組みが理解でき記述できる。</li> <li>3. 医療施設の概要・保健医療対策が理解でき記述できる。</li> <li>4. 保健医療サービスにおける専門職の役割が理解でき記述できる。</li> <li>5. 専門職間の連携・協働の必要性が理解でき記述できる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、保健医療の動向 1. 疾病構造の変化	感染症・生活習慣病
	2	保健医療の動向 2. 医療施設から在宅医療へ	社会的入院・在宅医療
	3	保健医療の動向 3. 保健医療における福祉的課題	依存症・認知症・自殺企図等
	4	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 1. 医療保険制度の概要	労災保険・特定疾患医療等
	5	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 2. 診療報酬制度の概要	高額療養費制度・無料低額診療等
	6	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 3. 医療施設の概要	病院・診療所・病床機能分化
	7	保健医療に係る政策・制度・サービスの概要 4. 保健医療対策の概要	保健所・医療計画・5疾病5事業
	8	保健医療に係る倫理 1. 自己決定権の尊重	インフォームドコンセント・ACP
	9	保健医療に係る倫理 2. 保健医療に係る倫理	医療倫理の4原則
	10	保健医療に係る倫理 3. 倫理的課題	高度生殖医療・尊厳死・身体抑制等
	11	保健医療領域における専門職の役割と連携 1. 保健医療領域における専門職	医師・歯科医師・保健師・看護師等
	12	保健医療領域における専門職の役割と連携 2. 保健医療領域における連携・協働	地域包括ケアシステム
	13	保健医療領域における支援の実際 1. 保健医療領域における社会福祉士の役割	MSWの業務指針
14	保健医療領域における支援の実際 2. 保健医療領域における支援の実際（多職種連携を含む）	入退院支援	
15	保健医療領域における支援の実際 2. 保健医療領域における支援の実際（多職種連携を含む）	終末期・認知症ケア、家族支援等	
16	まとめと振り返り	保健医療と福祉での学びをまとめる	
テキスト・参考文献・資料など	<p>※適宜資料を配布する。                  テキスト：『最新・社会福祉養成講座5 保健医療と福祉』、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規                  参考書：「国民衛生の動向」「保険と年金の動向」「国民の福祉と介護の動向」「厚生労働白書」等、官公庁（特に厚生労働省）出版物を参照すること。これらの参考書については、図書館及び厚生労働省ホームページから参照することができる。</p>		
学びの手立て	<p>日頃から新聞・マスコミなどで話題となる疾病・医療用語などに関心を持ち、知識を深めることが望ましい。保健・医療・介護に関するトピックス・事例をソーシャルワークの視点で理解するよう努めること。法制度改正や数値の更新変動等、常に新しい情報を得ること。</p>		
評価	<p>評価は、毎回の出席カード（レポート）のコメント20%、課題レポート50%、期末試験30%                  期末試験が実施できなかった場合は、出席レポート及び課題レポートによって評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>※関連科目：医療福祉論                  ※関心のある福祉の領域の保健・医療の課題について、深く学んでいきましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ライフステージの心理学	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金武 育子	2年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ライフステージ（胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期）における心身の成長・変化の特徴と、誕生、就学、反抗期、進学、恋愛、就活、結婚、出産、子育て、仕事と家庭、転職、離婚、巣立ち、定年、介護、終活などの人生のトピックスを結びつけて学ぶことで、発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思ひます。</p> <p>到達目標</p> <p>人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の理論や知見と実際のライフステージの様々なエピソードを結びつけて、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論や知見から理解を深めることができます。</p>	<p>積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思ひます。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：ライフステージとは（講義の進行、評価について説明する）	配布資料とワークシート
	2	胎児期：胎児期の発達の様子	配布資料とワークシート
	3	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子	配布資料とワークシート
	4	幼児前期：幼児期の発達の様子①	配布資料とワークシート
	5	幼児後期：幼児期の発達の様子②	配布資料とワークシート
	6	児童期：児童期の発達の様子	配布資料とワークシート
	7	青年期：青年期の発達の様子①発達課題	配布資料とワークシート
	8	青年期：青年期の発達の様子②適応	配布資料とワークシート
	9	成人前期：成人前期の発達の様子②発達課題	配布資料とワークシート
	10	成人前期：成人前期の発達の様子②適応	配布資料とワークシート
	11	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題	配布資料とワークシート
	12	成人中期：成人中期の発達の様子②適応	配布資料とワークシート
	13	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題	配布資料とワークシート
14	成人後期：成人後期の発達の様子①適応	配布資料とワークシート	
15	まとめ	配布資料とワークシート	
16	試験日	最終レポート（又は試験）の準備	
テキスト・参考文献・資料など			
<p>前原武子 編著 「発達支援のための生涯発達心理学」 ナカニシヤ出版</p> <p>その他の資料は、講義中に適宜紹介する</p>			
学びの手立て			
<p>積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思ひます。</p>			
評価			
<p>毎回、所定のワークシートを課す（50%）。</p> <p>レポート（期末考査）を1タイトル以上課し（50%）、総合的に評価する。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：発達心理学、教育心理学概論など、他の心理学の科目。</p> <p>次のステージ：人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

自分の「内なる声」を聞き取り、表現し、社会・特に沖縄社会との関連を、社会学の見地を活用して、受講生同士で話し合います。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床社会学	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	2年	授業終了後の教室、メールで受けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	自分自身の「内なる声」を聞き取り、それを伝え合う技能の習得が目標です。そのため、自分やその周囲で起こったことを通し、感じ考えることを、受講生同士でゆっくり話し合います。浮上してきたテーマと流れを大切にします。また授業進行時起こった社会にとって重要な事件を取り上げることもあり、またコロナ感染状況に応じて、授業形式の変動、授業計画の変更もあります。	自分の体験や自分の周囲で起こった出来事を通し、感じ考えていることなどを、受講生同士でゆっくり語り合うを大切にします。そのため出てきたテーマと流れを重視するので、厳密な授業計画通りではなく、柔軟に展開していくこともあります。コロナウィルスの感染状況に対応した授業形式の変動もあります。社会学関連の他の科目も並行して受講してください。
到達目標	「自分の内なる声」を開けるようになること、表現できるようになること。そして、社会、特に沖縄社会との関連を考え、自分や周りの人に起こった事柄の分析や意味づけを社会学の見地を利用しながら、あるいは、それからも自由になりながら、沖縄と自分のことを考え、表現し、受講生同士で話し合えるようになります。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間づくり icebreaking 自己紹介大会</li> <li>・マインドフルネスを学ぶ</li> <li>・ヌチグスイ（人の話から自分の滋養）を受け取る技法を身につける</li> <li>・人の話を聞く練習</li> <li>・自己表現 特に言葉で自分の思いを表現する練習</li> <li>・夢、好きな本・映画・漫画・音楽を語る</li> <li>・切り紙ワークショップ 自由と個性を考える</li> <li>・”personal is political”を意識する</li> </ul>
	テキスト・参考文献・資料など 適宜配布する
	<p>学びの手立て</p> <p>日常的に新聞を読み、社会の出来事と自分や身近な人の体験を関連させて考える癖をつけてください。授業後は、journaling（日記の執筆）をして、当日の気づきと学びの振り返りをしてください。</p>
評価	積極的主体的な授業参加態度(70%)、最終課題(30%)。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会学の授業や沖縄関連科目群の受講とリンクさせていってください。どの学問も「自分の内なる声」を聞きながら、沖縄社会にいる自分との関係を考えながら、主体的に学んでいってください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	臨床心理学概論	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮良 尚子	2年	miyara45@okiu.ac.jp 5号館424-2研究室	

学びの準備	ねらい 臨床心理学という学問を学んでいくにあたっての基礎となる科目になる。幅広い臨床心理学の知識について学び、理解する。	メッセージ これまで臨床の現場において、心理学全体の知見をどのように活用して、人の生活をよりよくしていくために介入・取り組んできたかということについて学んでいきましょう。
	到達目標 1) 臨床心理学の成り立ち、2) 臨床心理学の代表的な理論について理解し、説明ができるようになる。	

学びの準備	到達目標 1) 臨床心理学の成り立ち、2) 臨床心理学の代表的な理論について理解し、説明ができるようになる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
	2	臨床心理学とは	授業の復習・用語調べ
	3	臨床心理学の基礎理論①	授業の復習・用語調べ
	4	臨床心理学の基礎理論②	授業の復習・用語調べ
	5	臨床心理学の基礎理論③	授業の復習・用語調べ
	6	臨床心理学の基礎理論④	授業の復習・用語調べ
	7	心理アセスメント①	授業の復習・用語調べ
	8	心理アセスメント②	授業の復習・用語調べ
	9	心理療法①	授業の復習・用語調べ
	10	心理療法②	授業の復習・用語調べ
	11	心理療法③	授業の復習・用語調べ
	12	臨床心理学的諸問題①	授業の復習・用語調べ
	13	臨床心理学的諸問題②	授業の復習・用語調べ
	14	臨床心理学的諸問題③	授業の復習・用語調べ
	15	臨床心理学的諸問題④	授業の復習・用語調べ
16	期末テスト	これまでの復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。毎回の授業で資料を配布します。 参考図書：野島一彦・岡村達也（編）（2020） 公認心理師の基礎と実践③ 臨床心理学概論 遠見書房 横田正夫（編）（2016） テキストライブラリ 心理学のポテンシャル⑧ ポテンシャル臨床心理学 サイエンス社 青木紀久代（編）（2022） カラー版徹底図解 臨床心理学フロイトの理論から現代の臨床事例まで 新星出版社
-------	--

学びの実践	学びの手立て 授業中は、他の受講生の迷惑になる行為は控えてください。 授業後に、各自で資料の再読・授業内容の復習を行ってください。 授業の中で疑問に感じたこと、さらに学びを深めたいと思ったことは、参考文献などを基に自分自身で調べるなどして授業内容の理解を深めてください。
-------	--

学びの実践	評価 成績は、平常点（45%）と学期末試験（55%）で評価します。 平常点は、授業参加およびリフレクションシートの提出状況・内容で評価します。提出期限は厳守をお願いします。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 すべての専門科目の基本となる科目である。 社会・集団・家族心理学(社会・集団)、集団・家族心理学(家族)、発達心理学なども併せて履修することを勧める。 次のステージ:心理的アセスメント、傾聴トレーニング
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	レクリエーション理論	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田 奈々	2年	講義修了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクリエーション活動の楽しさを知り、レク活動がもたらす良好な心の変化に気づく</li> <li>良好な対人関係を構築するため、コミュニケーションを促進するための知識を深める</li> <li>レクリエーション活動を効果的に展開するための基本的な考え方を修得する</li> </ul>	自分をみつめ、ご自身のコミュニケーションスタイル、他者との交流の在り方、グループ活動におけるリーダーシップ等について考え、社会活動におけるレクリエーションの可能性について整理しておく
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①レクリエーションの基本的な考え方を理解する</li> <li>②人が楽しいと感じる心の仕組みを理解する</li> <li>③社会生活におけるレクリエーションの意義・有効性について理解する</li> <li>④レクリエーションの支援について理解する</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション / アイスブレイキングプログラム体験	講義の趣旨の理解
	2	レクリエーションインストラクターの役割	指示された課題・内容の準備
	3	楽しさと心の元気づくりの理論 1 楽しさについて (活動そのものが持つ楽しさ)	指示された課題・内容の準備
	4	(集団で行う楽しさ)	指示された課題・内容の準備
	5	2 心の元気づくりについて	指示された課題・内容の準備
	6	3 きづなづくりとレクリエーション事業	指示された課題・内容の準備
	7	ホスピタリティとコミュニケーションスタイルの気づき	指示された課題・内容の準備
	8	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論-レク支援におけるコミュニケーション-	指示された課題・内容の準備
	9	レクリエーション活動を通じた良好な集団づくりの理論	指示された課題・内容の準備
	10	自主的・主体的に楽しむ力を育む理論	指示された課題・内容の準備
	11	やる気を引き出すレクリエーション支援の技術	指示された課題・内容の準備
	12	気持ちを一つにするコミュニケーション技術	指示された課題・内容の準備
	13	アイスブレイキングの効果を高める基礎技術	指示された課題・内容の準備
14	対象者を想定したプログラムづくり (アセスメント プログラミング)	プレゼンテーション準備	
15	プレゼンテーション①	自己検証	
16	プレゼンテーション②	自己検証	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本レクリエーション協会編『楽しさをとおした心の元気づくり - レクリエーション支援の理論と方法 - 』</li> <li>② その他、必要に応じて資料を配付する</li> </ul>	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活場面において、レクリエーション技術の活用を考える</li> <li>②様々な社会的場面や施設などで実践されているレクリエーションを観察し情報収集に努める</li> <li>③自分の特技や趣味を活かした独自のレクリエーションを見つける</li> <li>④その他、活動には主体的に取り組み 学びにつなげる</li> </ul>	
	評価	以下の内容をなどを総合的に判断して評価します ①授業参加態度 (40%) ②レポート (30%) ③プレゼンテーション (30%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本科目は、レクリエーション技術Ⅰ・Ⅱの修得をもって完結するもので、受講生はⅠ・Ⅱも受講すること</li> <li>② 本科目においてレクリエーションの意味や意義、その概要等について理解し、技術Ⅰ及びⅡの受講に備えること</li> </ul>